

第2回神戸市市民福祉調査委員会 計画策定・検証会議ワーキンググループ

日時：令和2年3月6日（金）
午前10時00分～12時00分
場所：神戸市役所1号館
8階大会議室

議 事 次 第

1. 開 会

2. 議 題

- (1) 市民福祉に関する行動・意識調査実施結果について
- (2) 次期市民福祉総合計画について

3. 閉 会

資 料

- 資料1 市民福祉に関する行動・意識調査 結果概要
資料1添付 神戸市 市民福祉に関する行動・意識調査 報告書
資料2 “こうべ”の市民福祉総合計画2025（仮称）骨子策定スキーム（案）
参考資料1 第1回計画策定・検証会議ワーキンググループ議事要旨
参考資料2 第3回福祉政策会議
資料2 ～市民福祉のインフラストラクチャーの再構築に向けて～

委員名簿・スケジュール（裏面）⇒

委員名簿 (50音順・敬称略)

	岸田 耕二	社会福祉法人すいせい 理事長
	竹内 友章	東海大学健康学部 助教
[座長]	西垣 千春	神戸学院大学総合リハビリテーション学部 教授
	吉岡 洋子	大阪大学大学院人間科学研究科 特任准教授
	(事務局)	保健福祉局政策課

策定スケジュール (R2.3月時点)

	計画策定・ 検証会議	ワーキング グループ	内 容
2月		第1回	・WGの内容・進め方や次期計画策定に向けて意見出し
3月		第2回	・市民アンケート結果報告・分析 ・基本理念・基本方策(案)意見出し
4月			
5月	第1回		・ワーキンググループ進捗報告・意見聴取 (・市社協 活動計画 進捗報告)
		第3回	・児童福祉施策 現状・課題・今後の方針・強み ・障害福祉施策 現状・課題・今後の方針・強み ・骨子(基本理念・基本方策・検証評価方法)意見出し
6月		第4回	・生活困窮者自立支援事業 現状・課題・今後の方針・強み ・高齢福祉施策 現状・課題・今後の方針・強み ・骨子(基本理念・基本方策・検証評価方法)意見出し
7月		第5回	・認知症「神戸モデル」 事業効果等 ・参画と協働施策 現状・課題・今後の方針・強み ・骨子(基本理念・基本方策・検証評価方法)作成
8月	第2回		・ワーキンググループ進捗報告(骨子)・意見聴取 ・“こうべ”の市民福祉総合計画2020 総合評価
9月		第6回	・計画本文(素案)作成
10月	第3回		・ワーキンググループ進捗報告(計画素案)・意見聴取
11月		第7回	・最終調整
12月			・パブリックコメント
1月			・計画策定、議決
2-3月			・印刷・配布

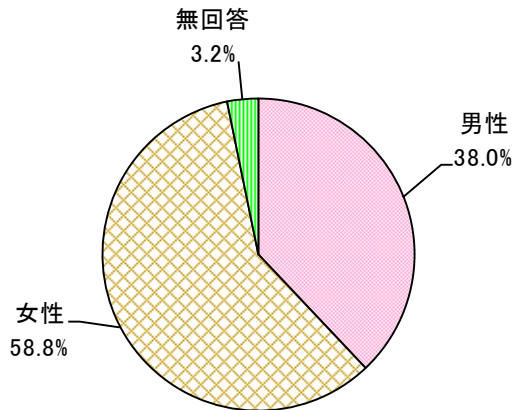
※必要に応じて市民福祉調査委員会(本会)へ報告

神戸市 市民福祉に関する行動・意識調査 結果概要

1. 回答者基礎情報（回答者数：1,828）

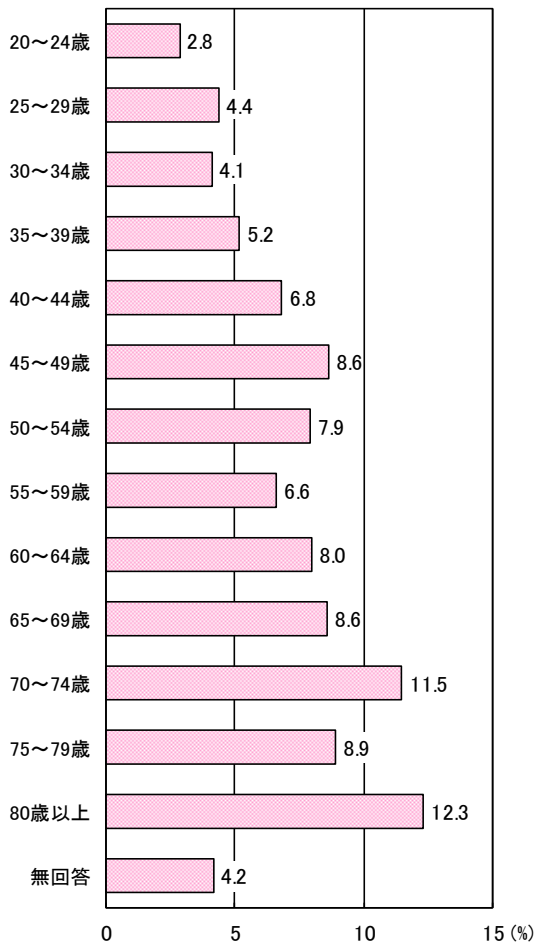
【性別】女性が6割弱を占める

人口割合（男性 47.4% 女性 52.6%）



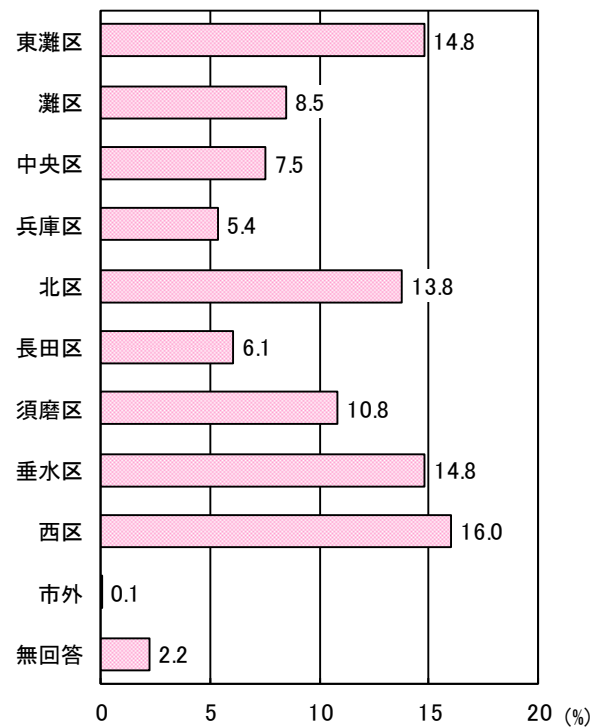
【年齢】65歳以上が4割を占める

60歳以上は人口割合より約1~3%多く、
59歳以下が人口割合より約1~4%低い。

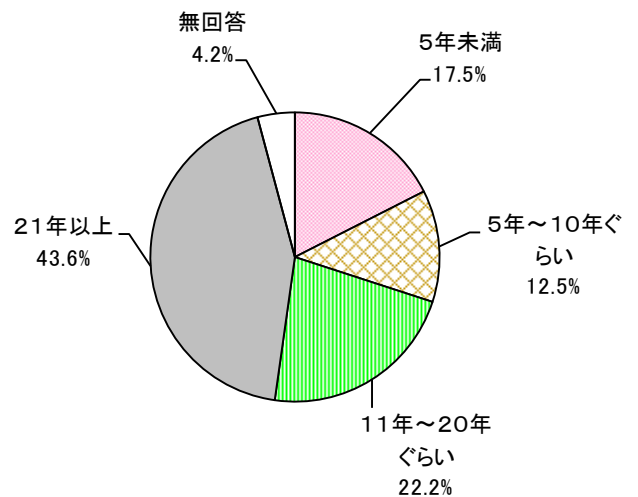


【居住区】人口割合とほぼ同率

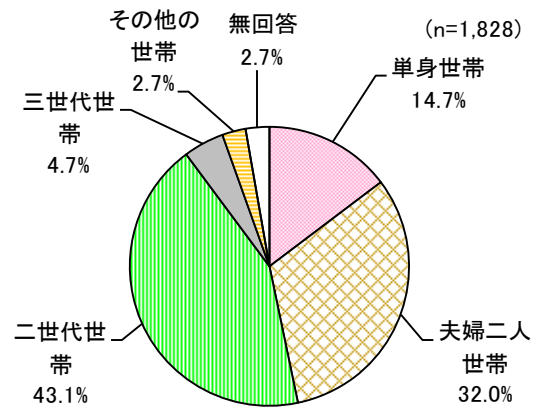
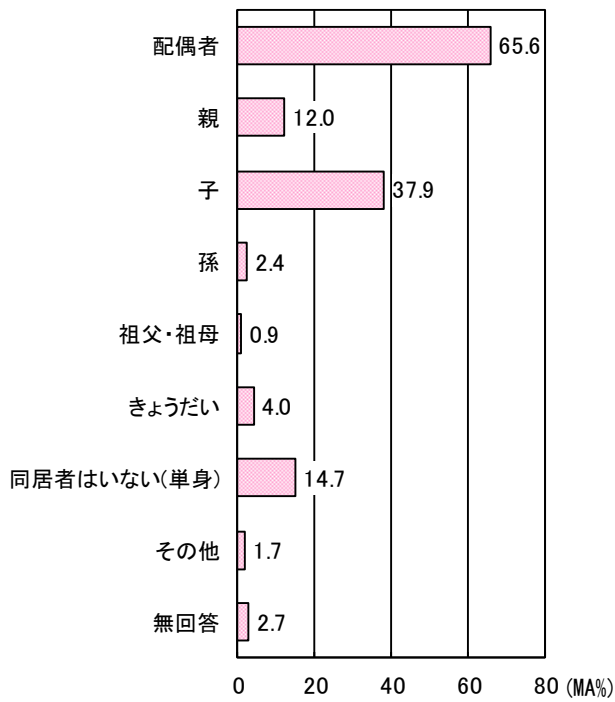
（兵庫・中央は約1%低い）



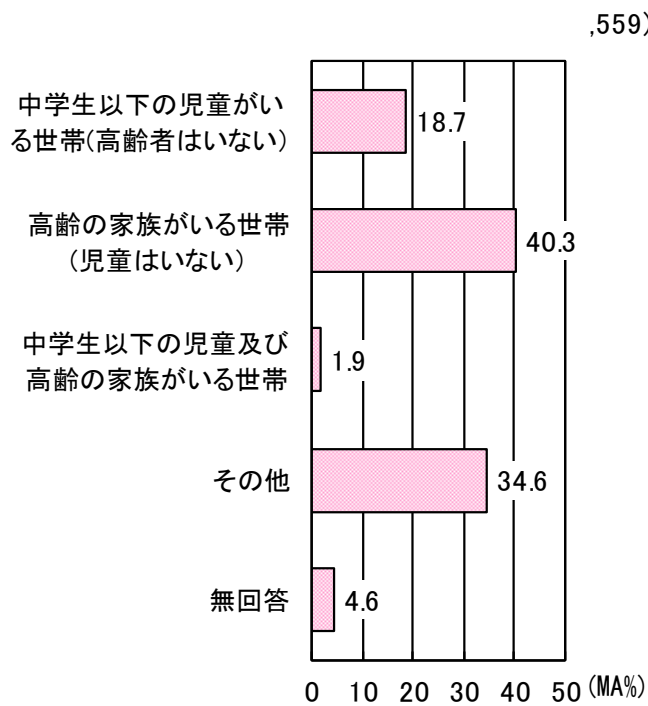
【居住年数】11年以上が6.5割を占める



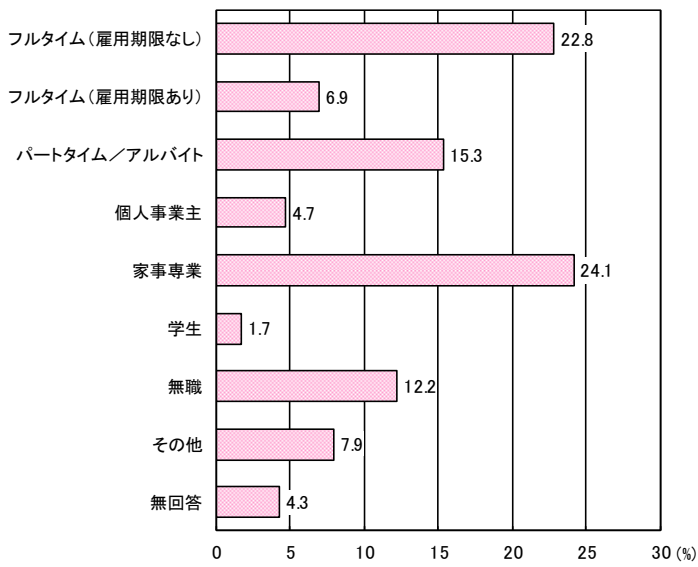
【世帯構成 1 (人数)】



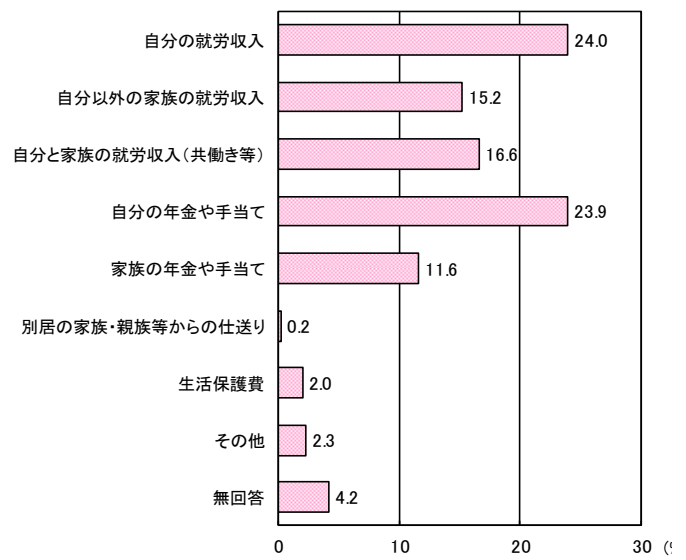
【世帯構成 2 (年齢)】



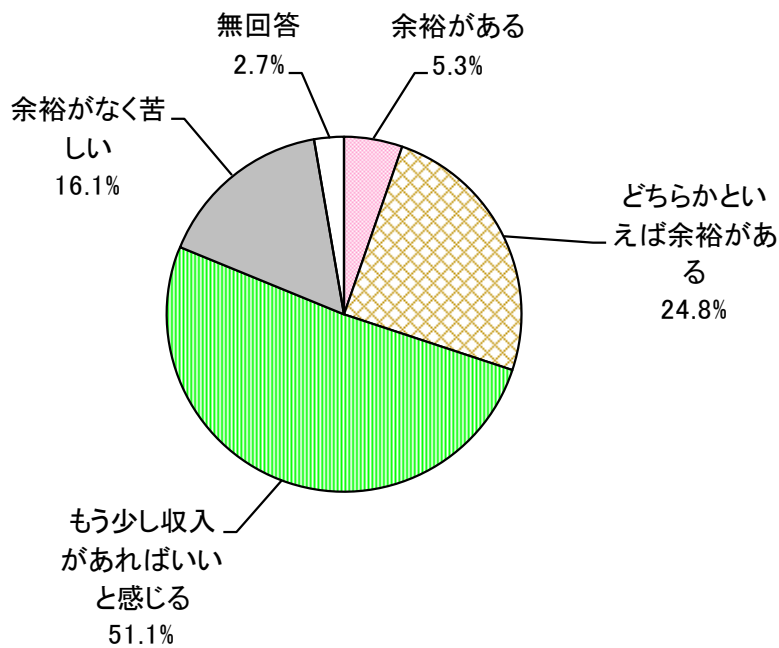
【職業】



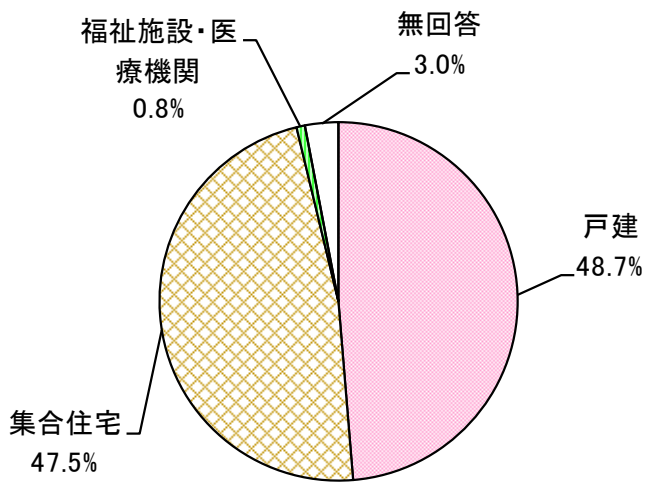
【世帯の収入源】



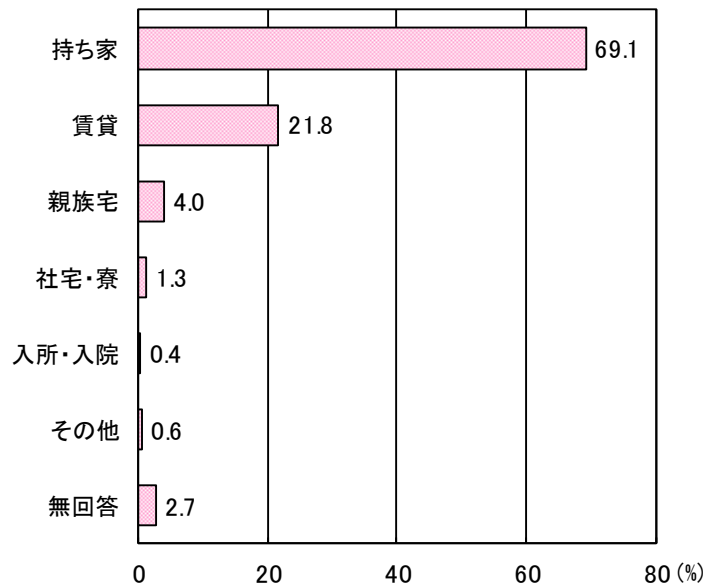
【経済状況(主観)】



【住居の形態】

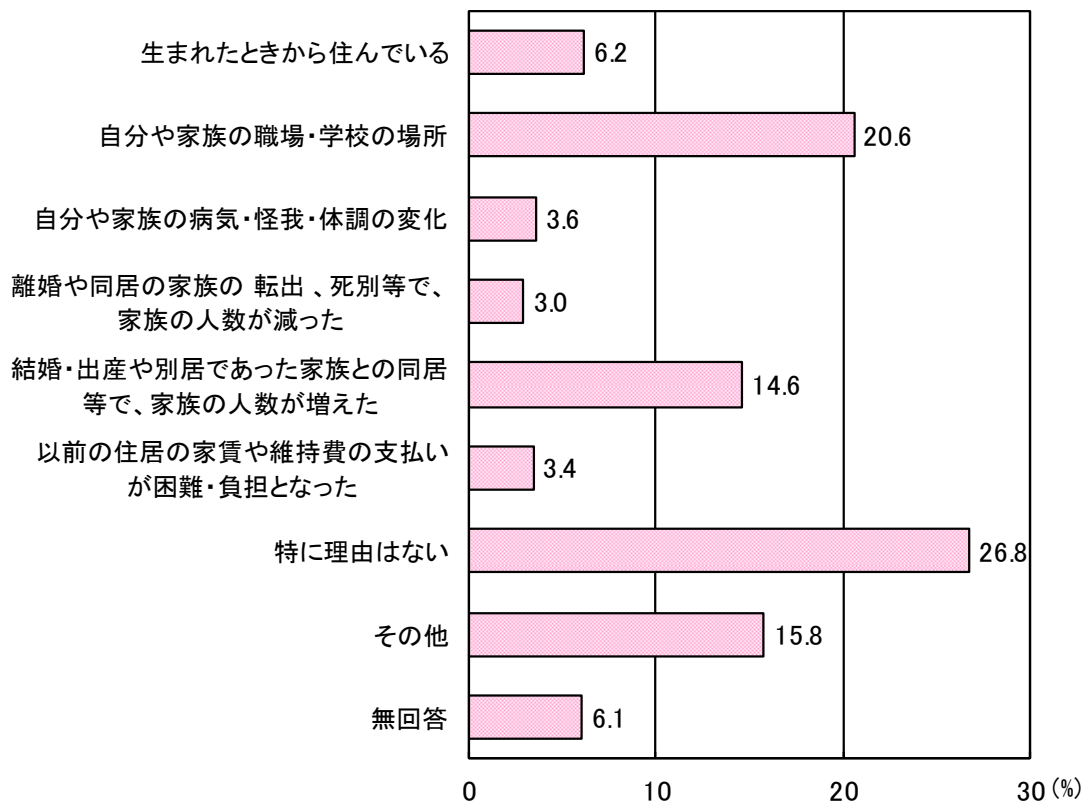


【住居の契約状況】

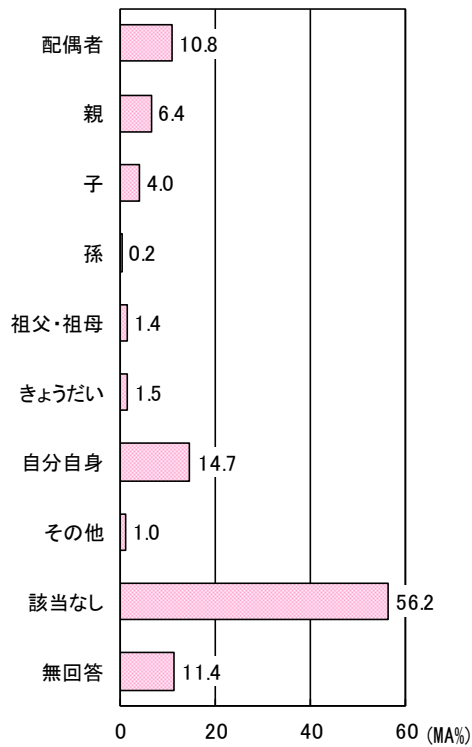


【現在の住居に転入した主なきっかけ】

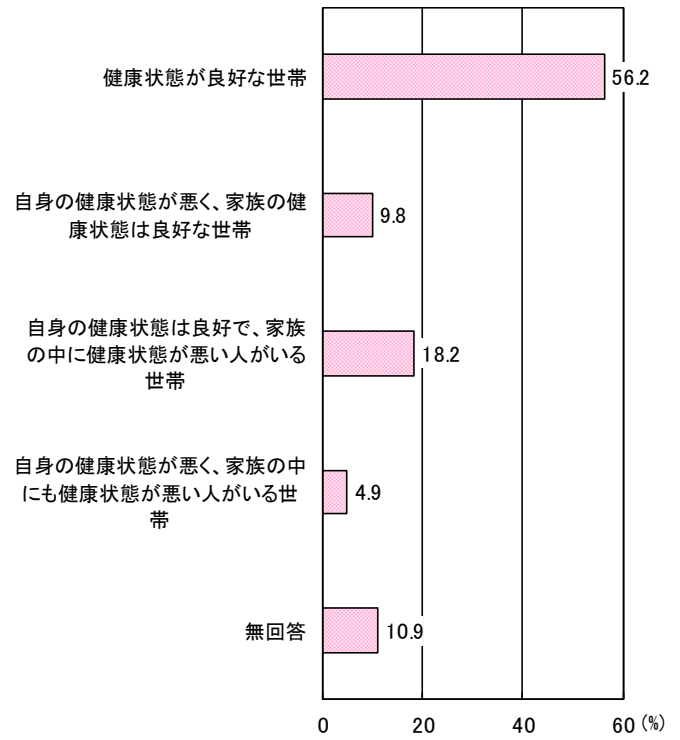
(n=1,828)



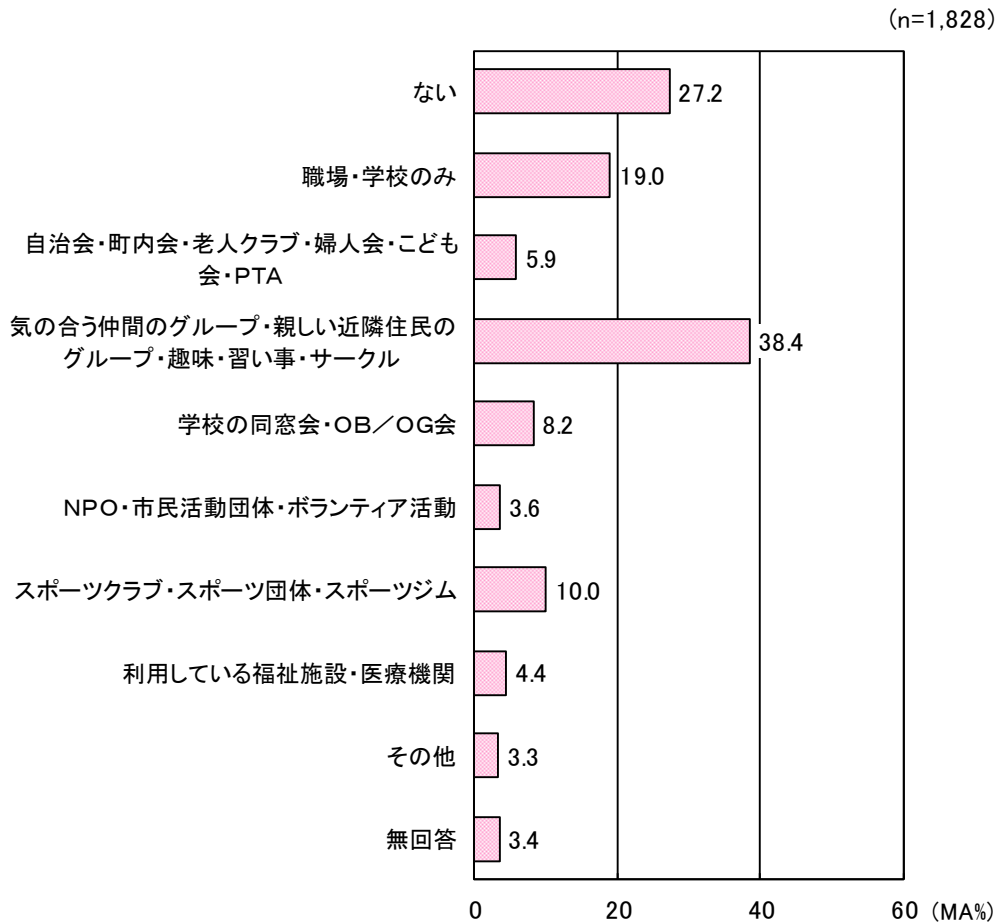
【こころや身体健康状態が悪い人】



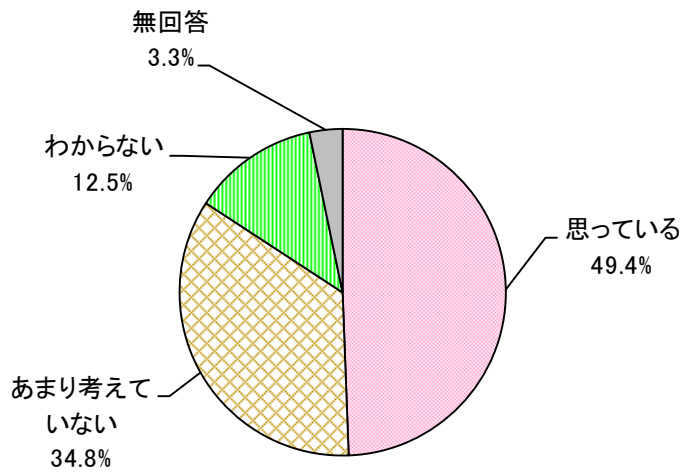
【世帯の健康状態区分】



【自宅以外の居場所】

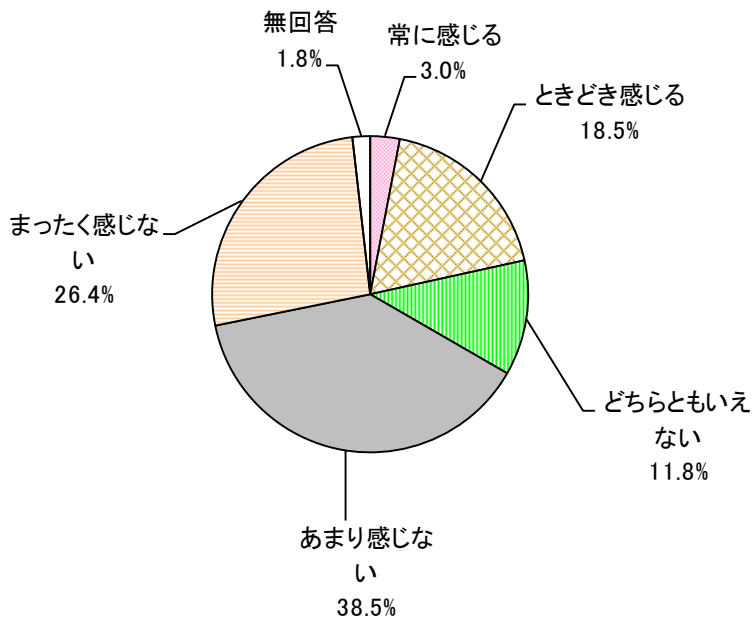


【社会のために役立ちたいと思っているか】

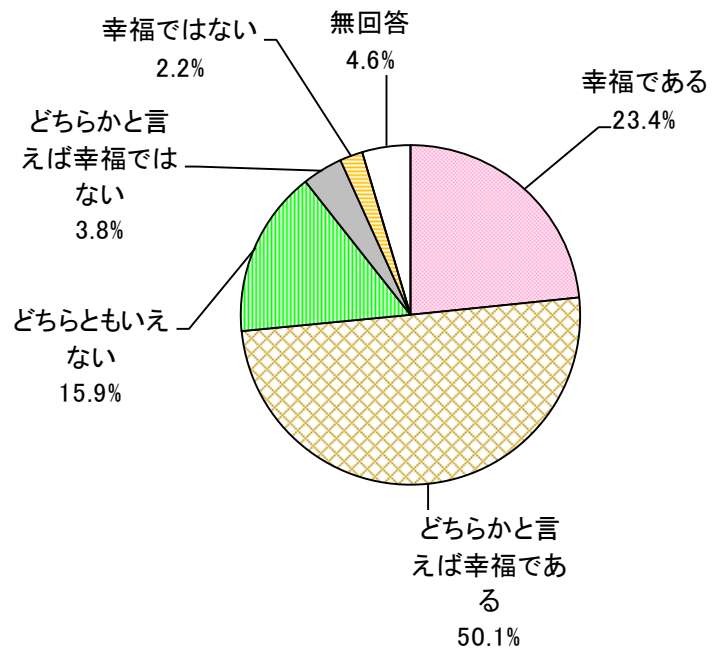


H30世論調査 (思っている63.6% あまり考えていない33.6% わからない2.8%)

【孤独感 (主観)】

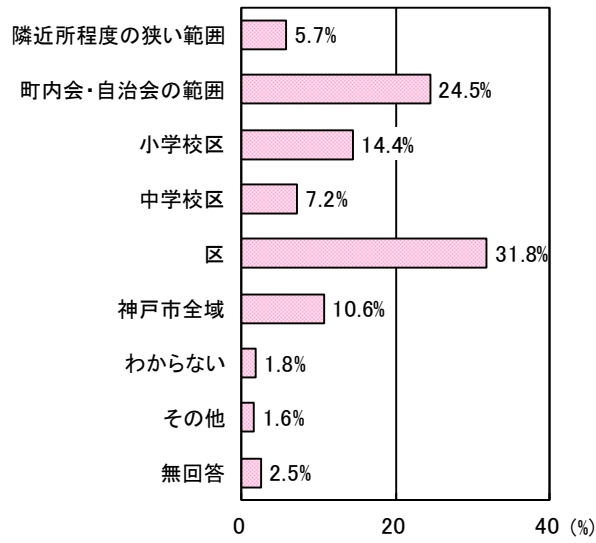


【幸福感 (主観)】



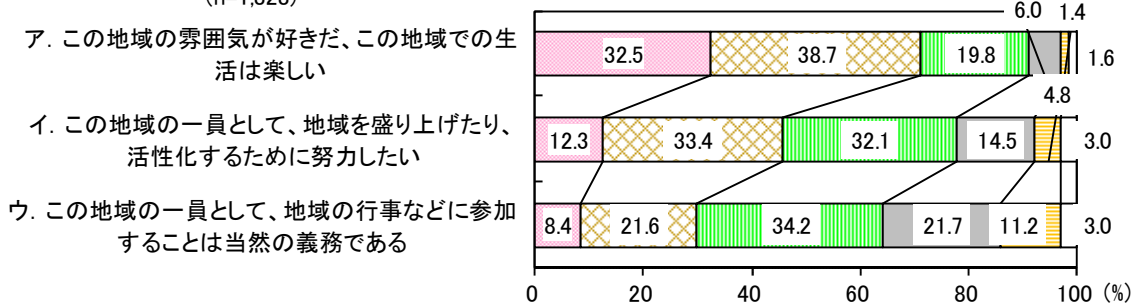
【あなたがくらす地域と言われたときに思い浮かべる範囲】

(n=1,828)



【地域についてどう思うか】

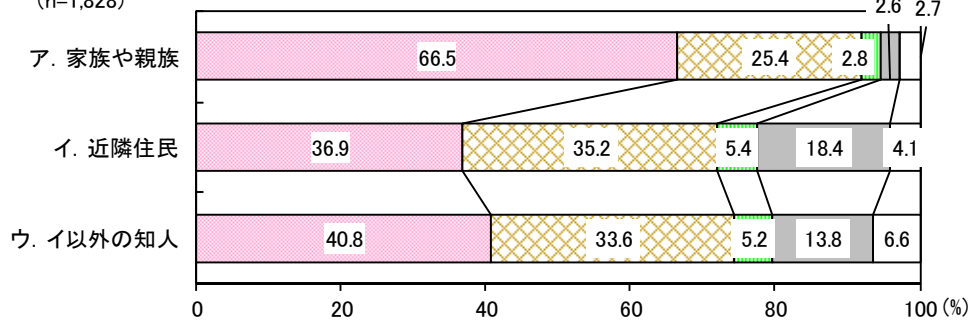
(n=1,828)



□ そう思う □ ややそう思う □ どちらともいえない □ あまり思わない □ 思わない □ 無回答

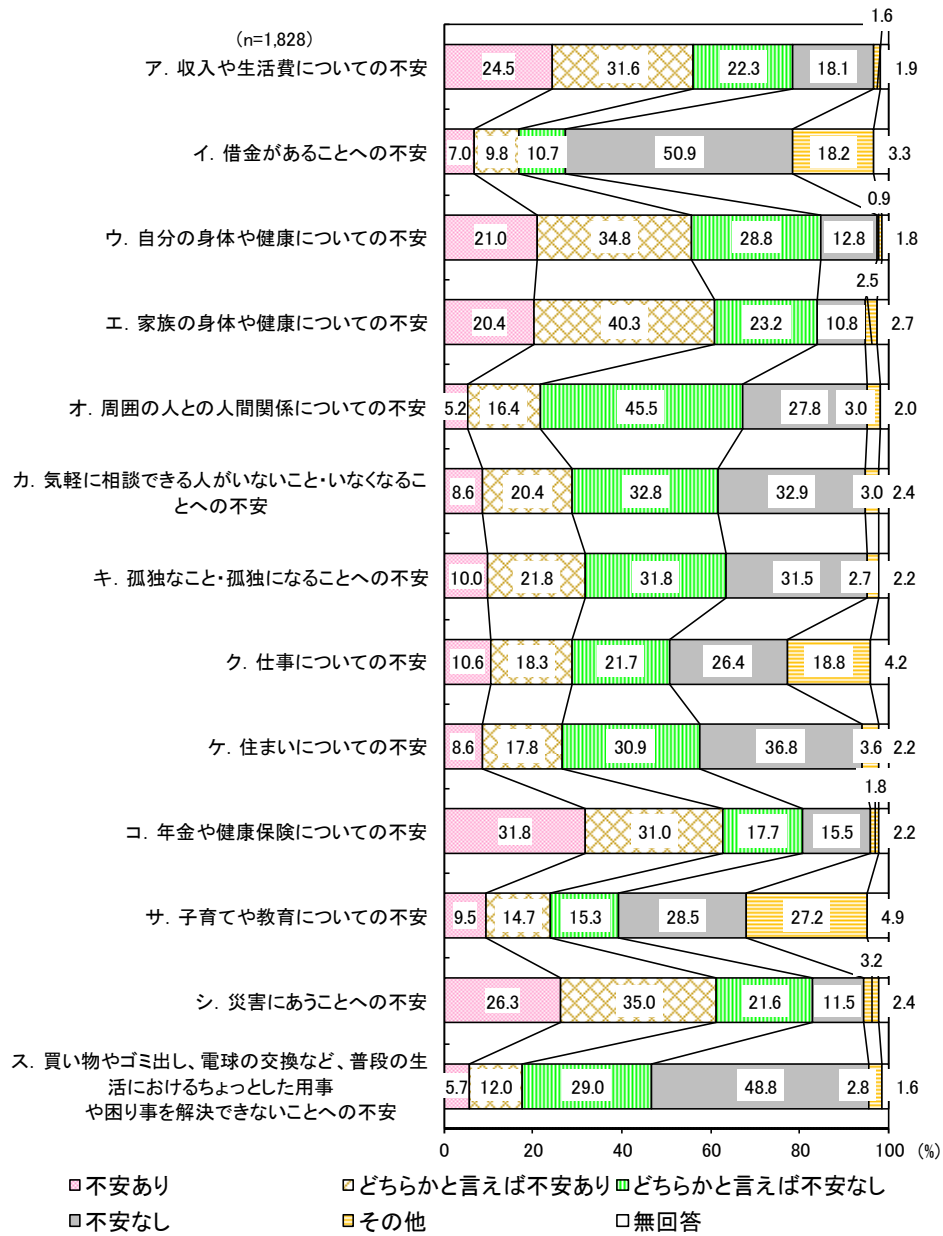
【人間関係の構築について】

(n=1,828)

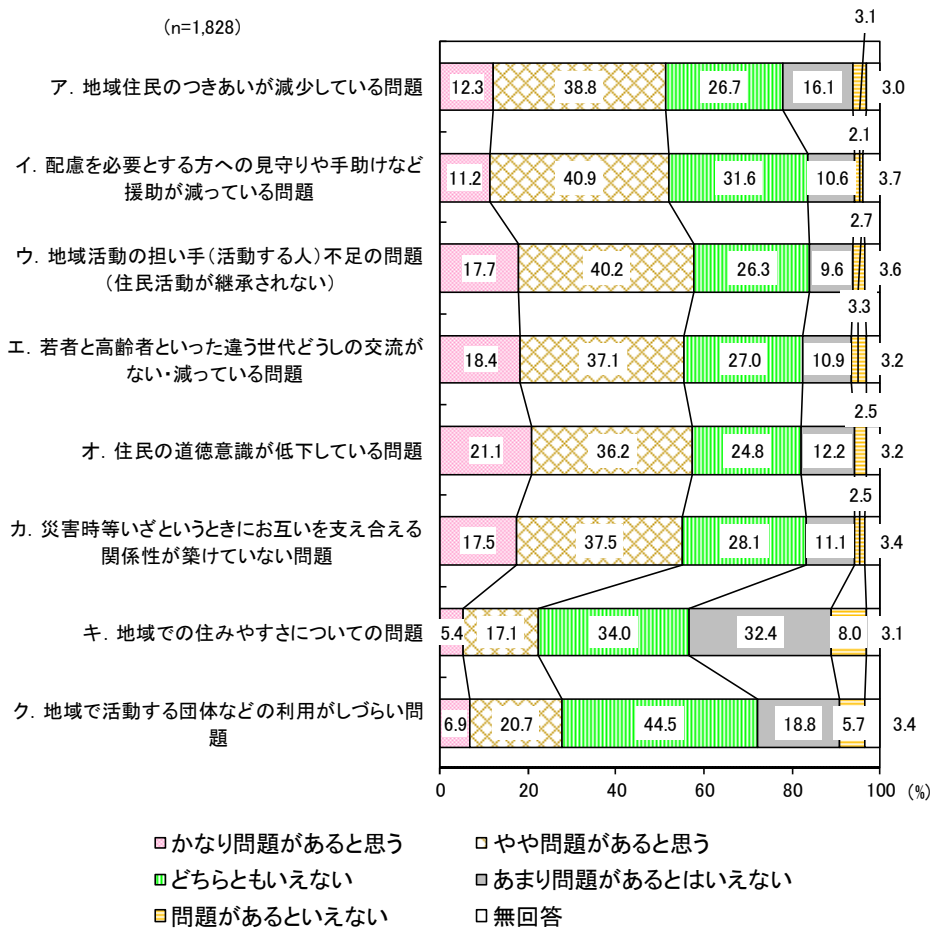


□ 多くの人と良好である □ 良好な人とそうでない人が半分ずつ
 □ 多くの人と良好でない □ 人間関係を築いていない
 □ 無回答

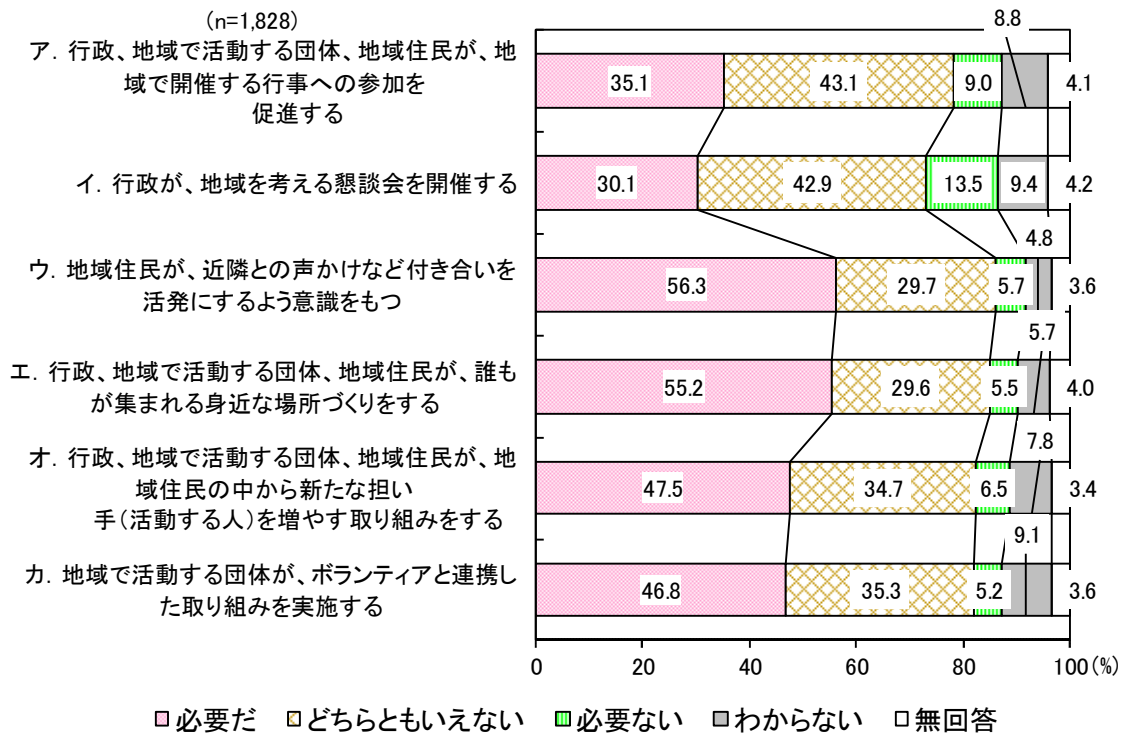
【日常生活上の不安】



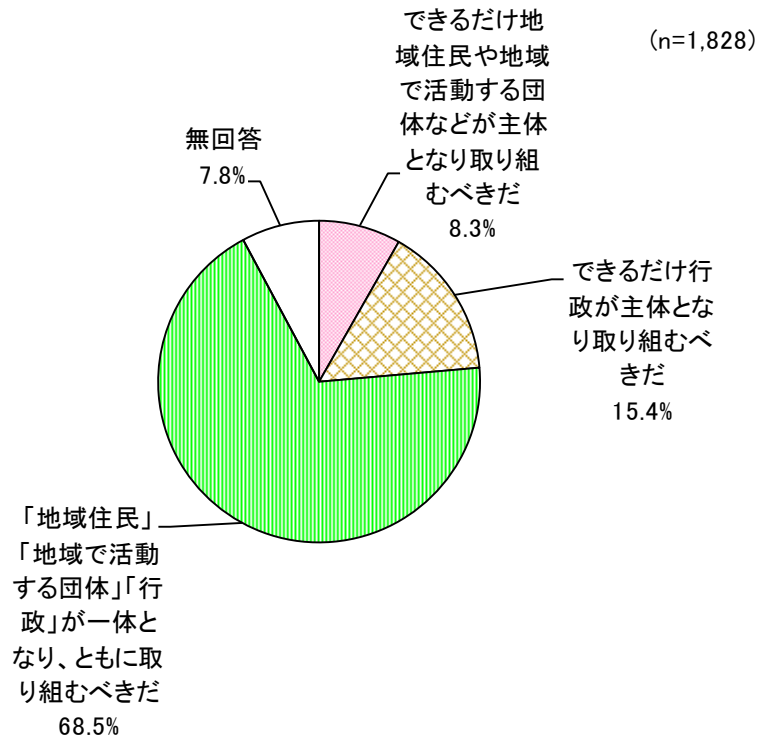
【地域における福祉の問題】



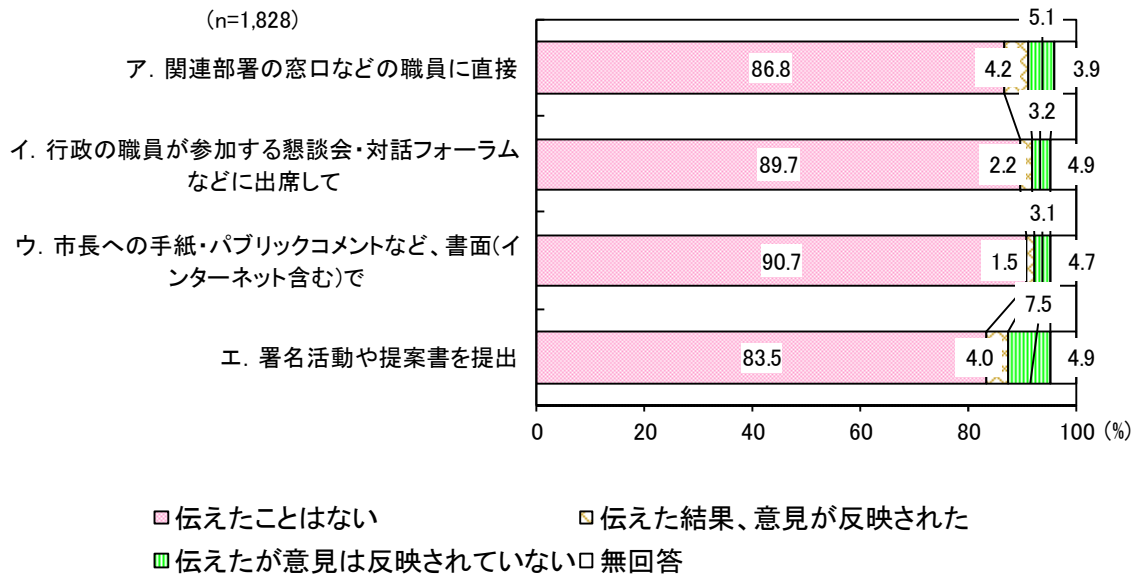
【地域活動を活発にするために必要なこと】



【地域団体と行政との関係】

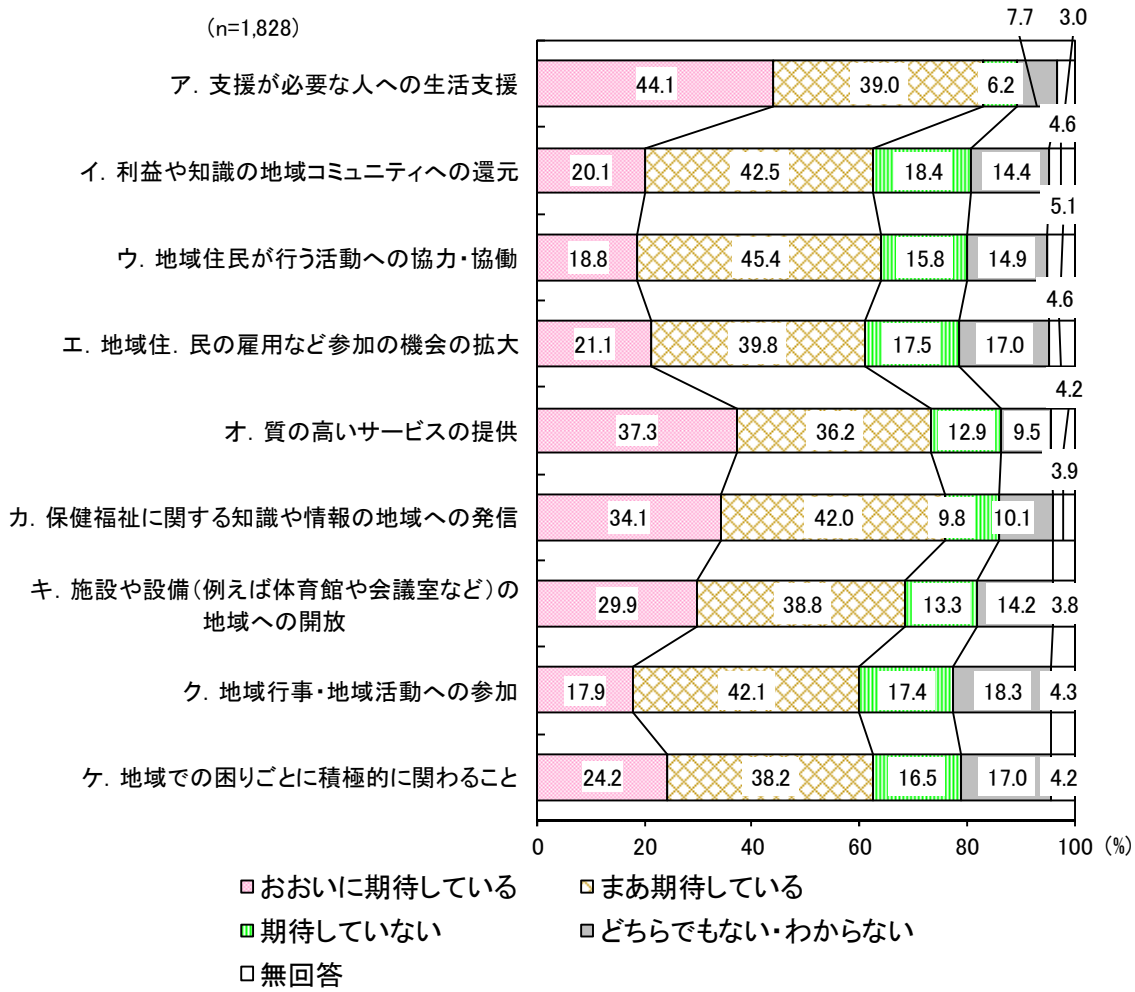


【行政や社会に対して提案・意見・要望を伝えたことがあるか】

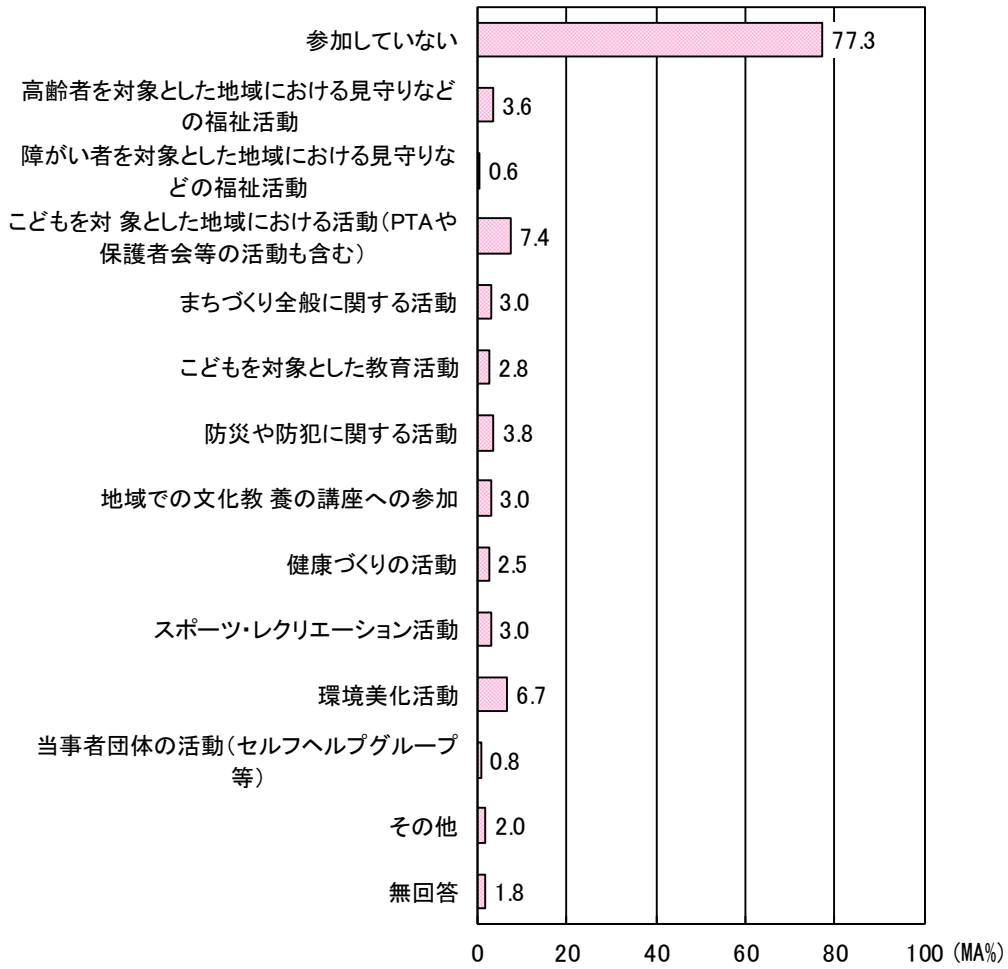


【地域団体や事業者に対して期待すること】

(n=1,828)

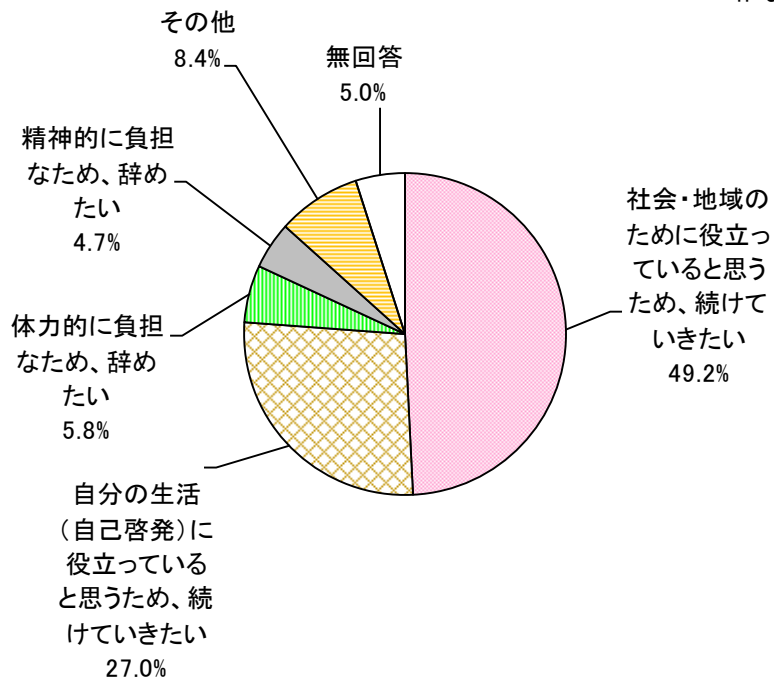


【地域活動への参加状況と種類】



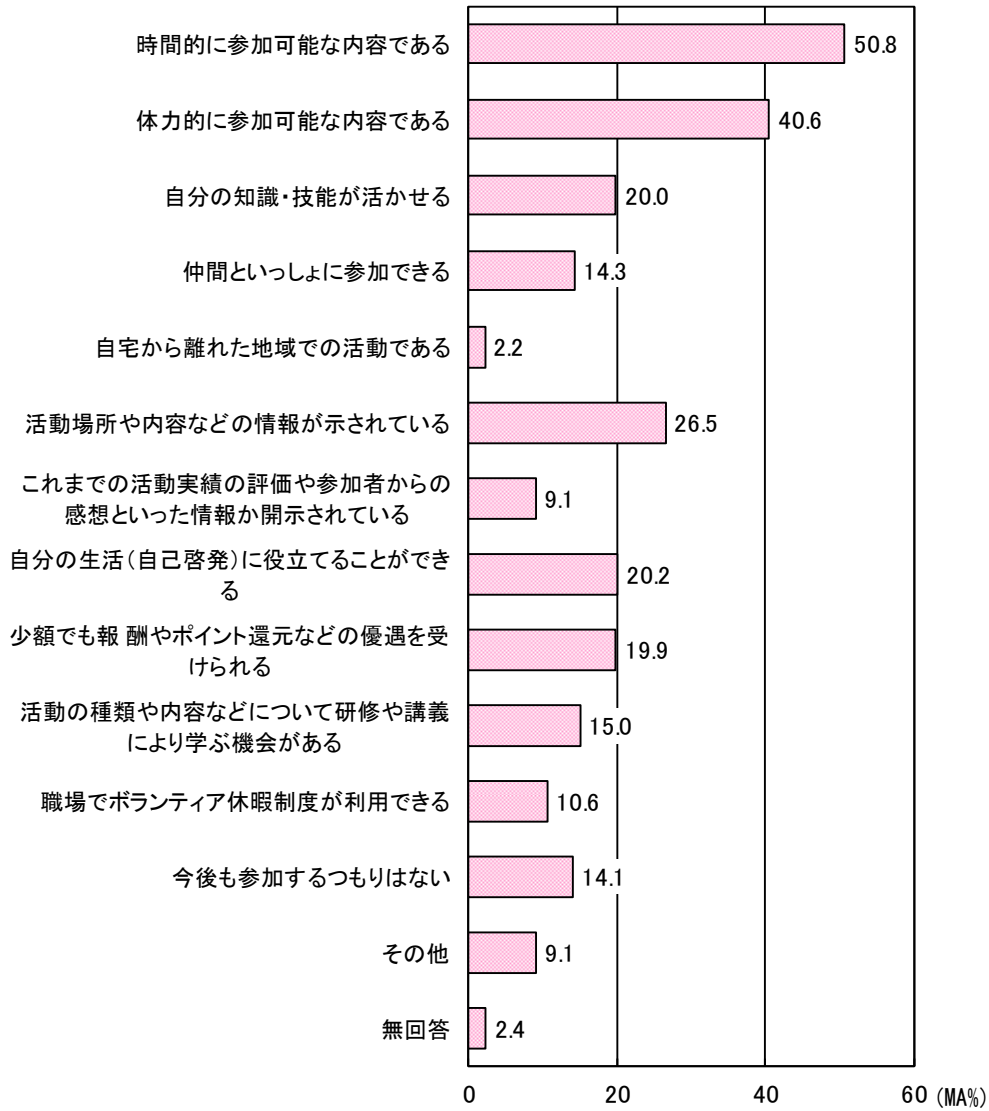
【地域活動に参加した感想】

n=382

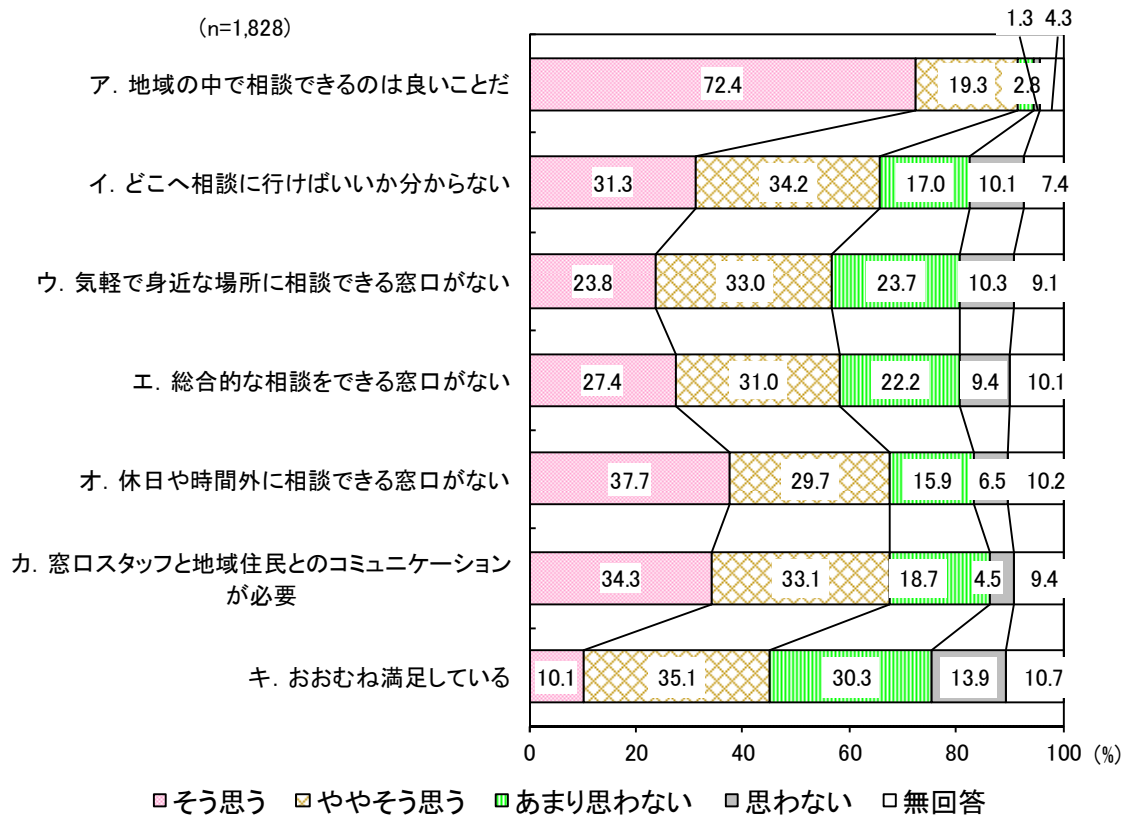


【ボランティア活動への参加条件】

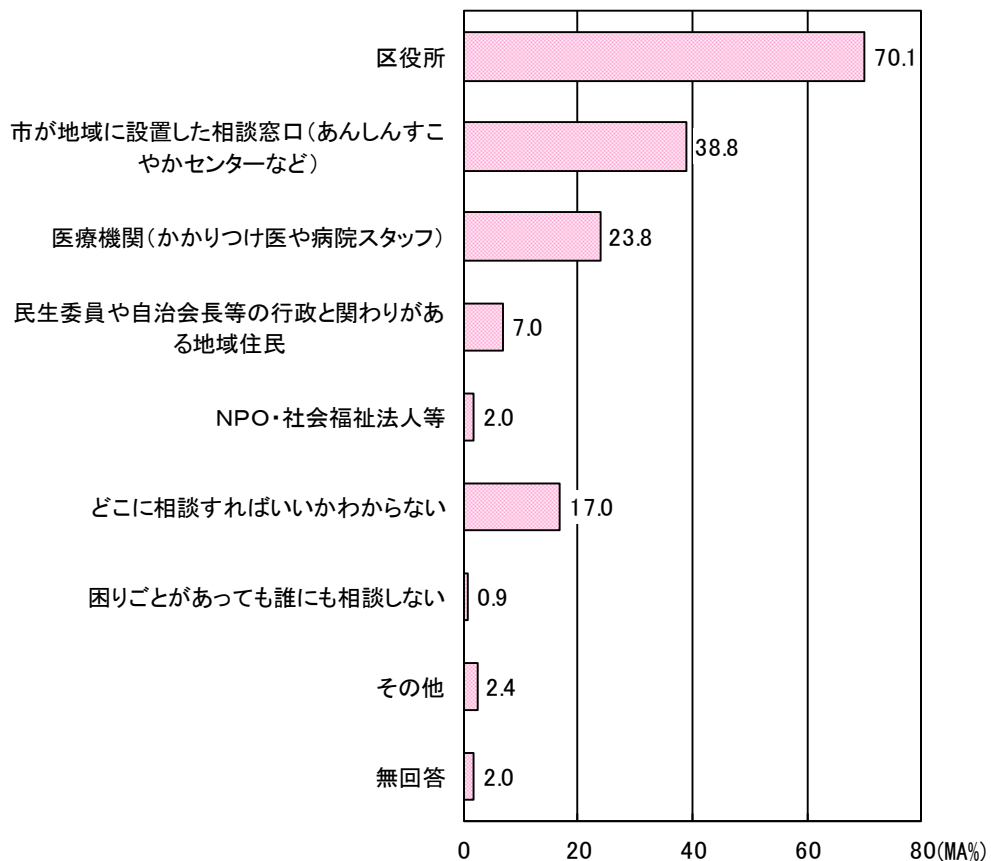
(n=1,413)



【市の相談窓口に対する考え方】

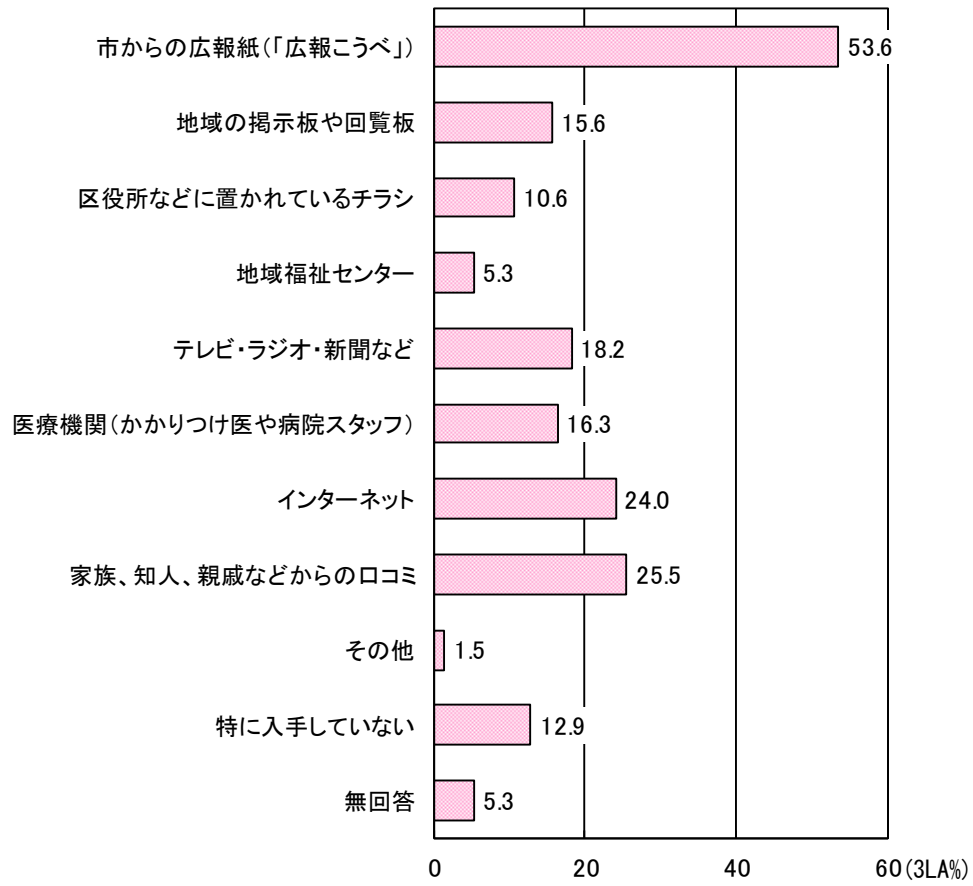


【福祉に関する相談先】



【福祉の情報の入手方法】

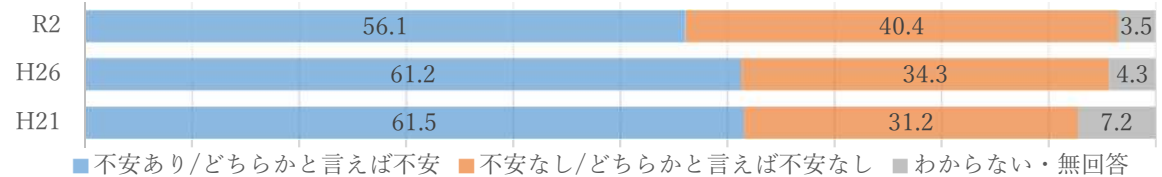
(n=1,828)



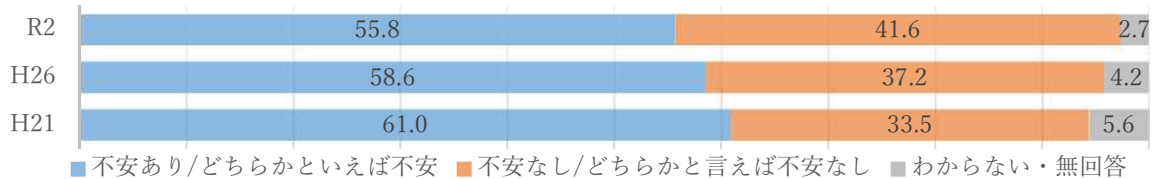
2. 日常生活における不安について -経年比較 (%) -

問5 あなたは、現在不安に思っていることがありますか。それぞれの項目について、あてはまるものを1つずつ選んで番号に○をつけてください。 報告書P35～

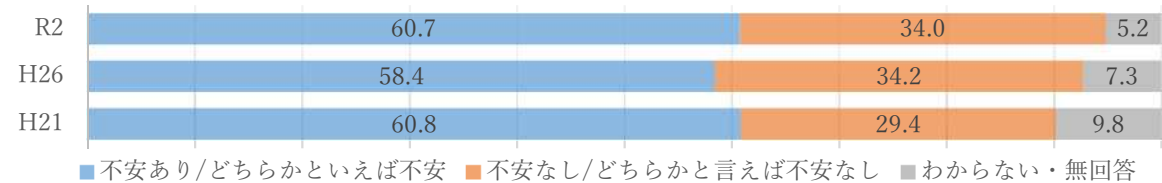
収入や生活費についての不安



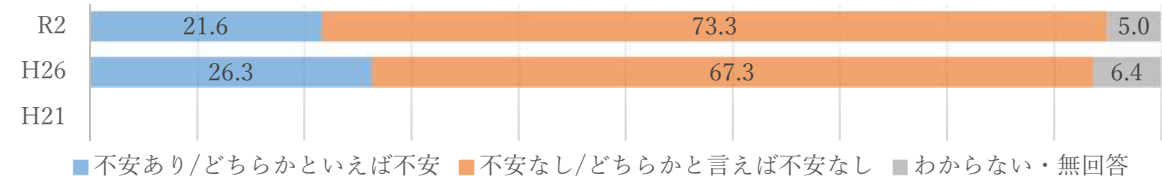
自分自身の身体や健康についての不安



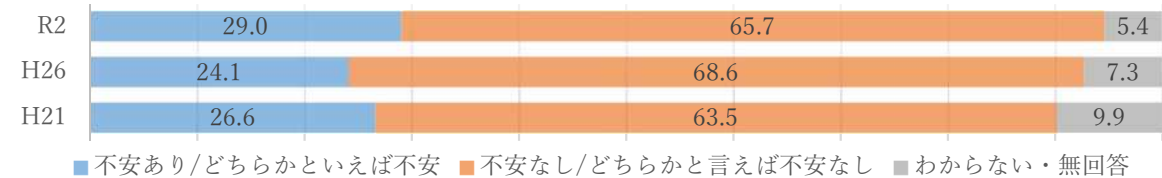
家族の身体や健康のことについての不安



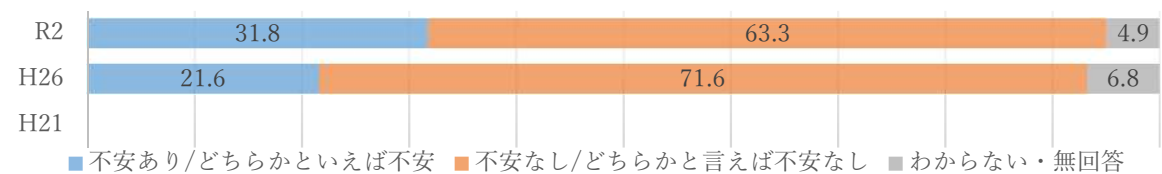
周囲との人間関係についての不安



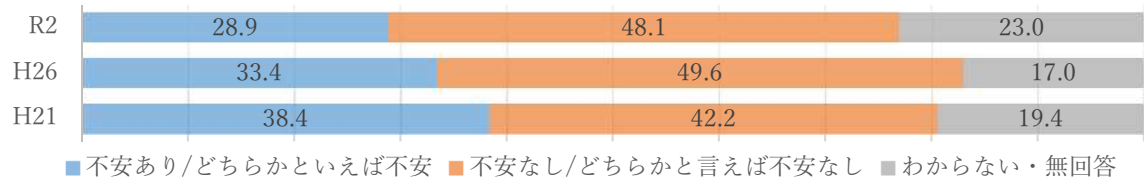
気軽に相談できる知人がいないことへの不安



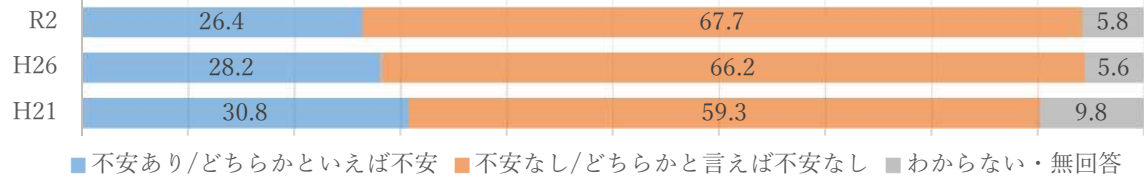
孤独であると感じることへの不安



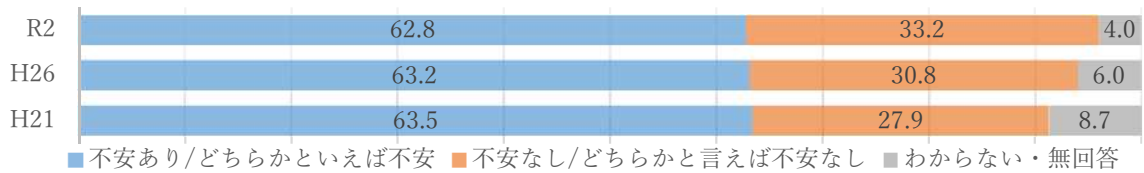
仕事のことへの不安



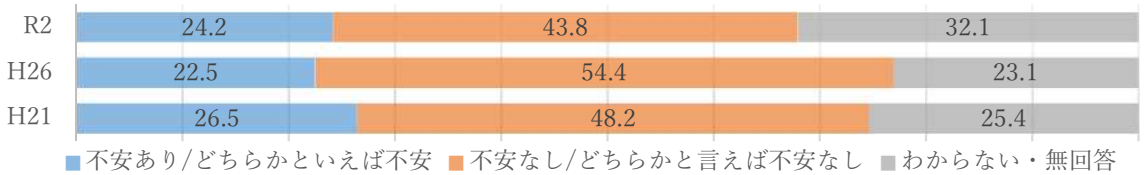
住まいのことへの不安



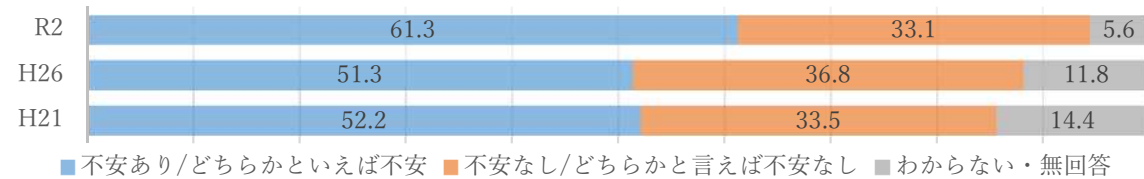
年金や健康保険のことへの不安



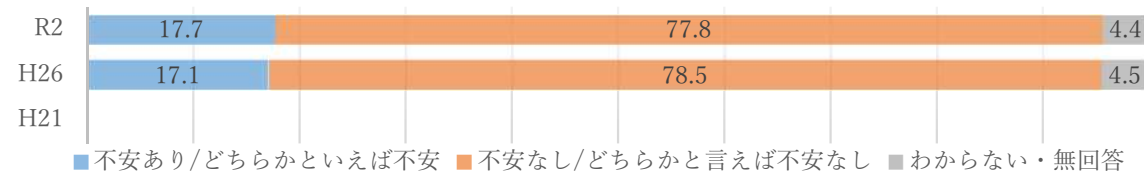
子育てや教育のことへの不安



災害にあうことへの不安

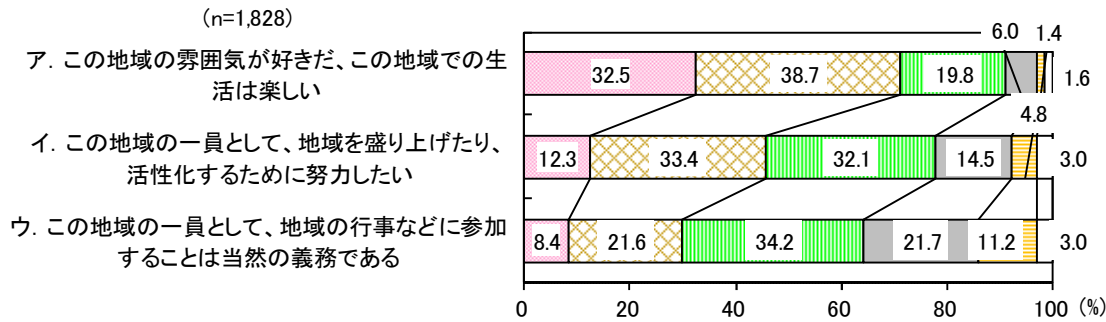


ちょっとした困りごとを解決できないことへの不安



3. 自分がくらす地域について 報告書 P8～

問2 あなたがくらす地域について、あなたはどう思いますか。ア～ウのそれぞれの項目について、あてはまるものを1つずつ選んで○をつけてください。



□ そう思う □ ややそう思う □ どちらともいえない □ あまり思わない □ 思わない □ 無回答

【クロス集計記載ページ】

- 性別 P 9
- 年代別 P10
- 経済状況（主観）別 P12

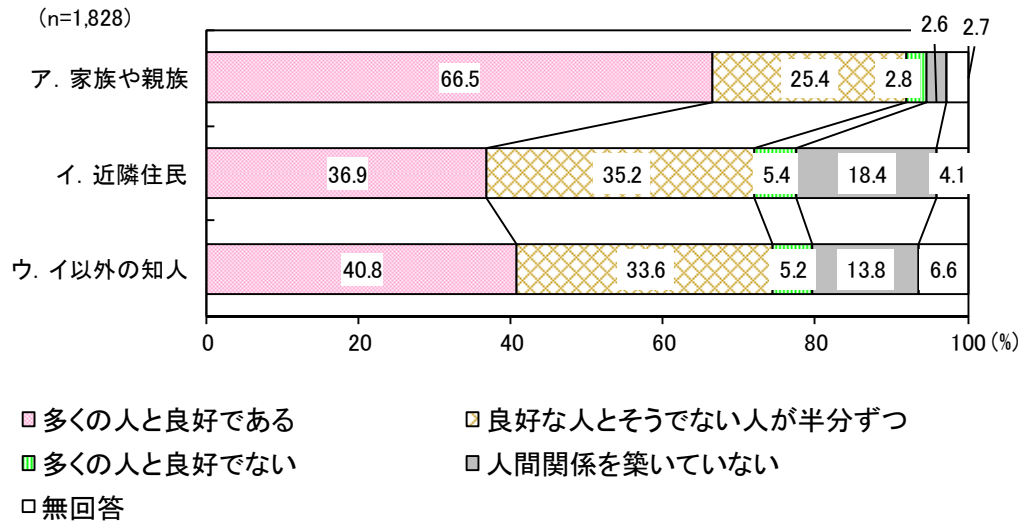
経済状況を余裕がなく苦しいと感じている人ほど、この地域の雰囲気が好き・この地域での生活は楽しいと感じている人の割合が減る。一方、この地域の一員として、地域の行事などに参加することは当然の義務であると感じている人の割合は、経済状況別に大きな差はない。

- 居住区別 P13
- 居住年数別 P15
- 世帯構成別 P16
- 健康状態別 P17
- 幸福感（主観）別 P18

幸福であると感じている人ほど、この地域の雰囲気が好き・この地域での生活は楽しいと感じている人の割合が高く、幸福ではないと感じている人は同項目に対し「思わない」と感じている人の割合が高い。

4. 人間関係について 報告書P19～

問3 あなたは現在、家族・親族、近隣住民とどのような人間関係を築いていると感じていますか。ア～ウのそれぞれの項目について、あてはまるものを1つずつ選んで番号に○をつけてください。



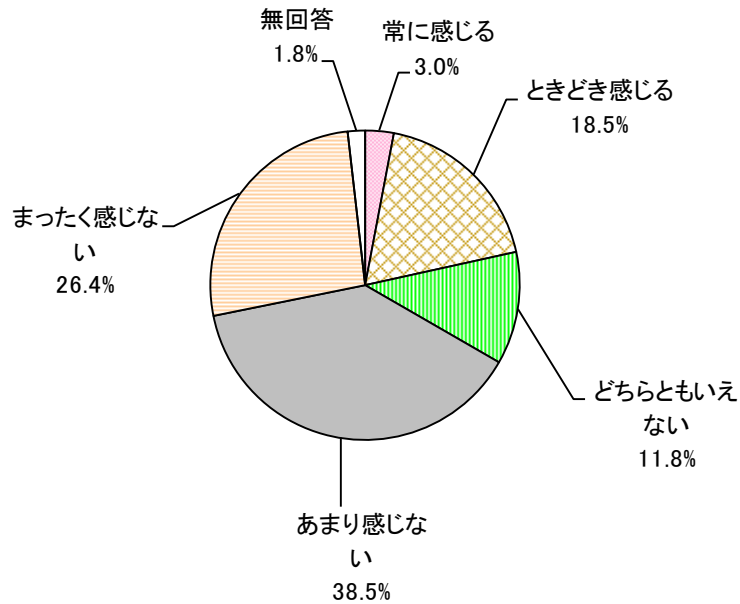
【クロス集計記載ページ】

- 性別 P20
- 年代別 P21
- 経済状況（主観）別 P23
- 居住区別 P24
- 居住年数別 P26
- 世帯構成別 P27
- 健康状態別 P28
- 幸福感別 P29

5. 孤独感について 報告書P30～

問4 あなたは現在、孤独であると感じますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

(n=1,828)



【クロス集計記載ページ】

○性別 P30

○年代別 P31

○経済状況（主観）別 P32

経済状況を余裕がなく苦しいと感じている人ほど、孤独感を常を感じる人の割合が高い。

○転入理由別 P32

「以前の住居の家賃や維持費の支払いが困難・負担となった」と回答した人のうち、常に孤独を感じている人の割合が7.9%と最も高く、次いで「離婚・死別・世帯員の転出等の世帯人員減」7.4%、「自分や家族の病気・怪我・体調の変化」4.5%と続く。

○居住年数別 P33

○世帯構成別 P33

複数世帯のうち常に孤独を感じている人の割合は2%以下であるのに対し、単身世帯は8.2%と高い割合を占めている。

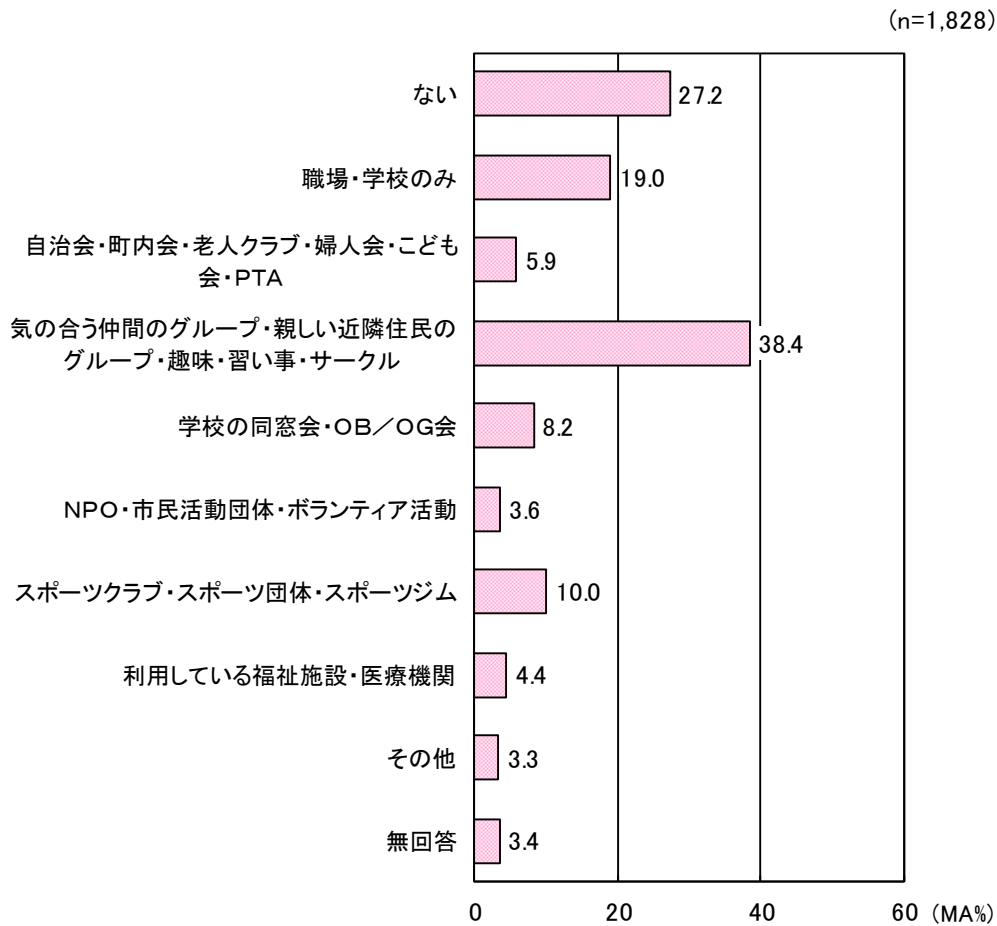
○健康状態別 P34

○幸福感別 P34

6. 自宅以外の居場所（サードプレイス）について 報告書P156～

問36 あなたは自宅以外にどのような居場所がありますか。

- ・ ない場合「1」に、職場や学校のみの場合「2」に○をつけ、問37へ。
- ・ 職場や学校以外にある場合「3～97」の中であてはまるもの全てに○をつけてください。



【クロス集計記載ページ】

- 主観的幸福感別 P157
- 社会貢献に対する考え別 P158

神戸市
市民福祉に関する行動・意識調査
報告書

令和2年2月

神戸市

目 次

I 調査の概要	1
1. 調査目的	1
2. 調査項目	1
3. 対象者	1
4. 調査方法	1
5. 調査期間	1
6. 回収数（回収率）	1
7. 報告書の見方	1
II 調査の結果	2
1. 地域及び人間関係について	2
2. 日常生活上の不安について	35
3. 地域で活動する団体や地域の課題について.....	53
4. 福祉施策やサービス・相談窓口について.....	90
5. 災害時に備えた地域での助け合いについて.....	109
6. 人権問題について	120
7. 回答者の属性	144
8. 自由意見	162
■資料(調査票)	165

I 調査の概要

1. 調査目的

次期市民福祉総合計画の策定にあたり、「市民福祉」に関する市民の意識を把握し、今後の福祉施策検討等の基礎資料として、次期計画に反映させることを目的として、意識調査を実施しました。

2. 調査項目

- (1) 地域及び人間関係について
- (2) 日常生活上の不安について
- (3) 地域で活動する団体や地域の課題について
- (4) 福祉施策やサービス・相談窓口について
- (5) 災害時に備えた地域での助け合いについて
- (6) 人権問題について
- (7) 回答者の属性

3. 対象者

神戸市内在住の20歳以上の市民5千人（単純無作為抽出）

4. 調査方法

郵送によるアンケート方式

5. 調査期間

令和元年11月22日～12月19日

6. 回収数（回収率）

1,828件（36.6%）

7. 報告書の見方

- (1) 図表中のn（Number of case）は、設問に対する回答者数のことである。
- (2) 回答比率（%）は回答者数（n）を100%として算出し、小数点以下第2位を四捨五入して表示した。四捨五入の結果、内訳の合計が計に一致しないことがある。また、一人の対象者に複数の回答を求める設問では、回答比率（%）の計は100.0%を超える。
- (3) 図表中の「MA%」（Multiple Answerの略）や「2LA%」（2 Limited Answerの略）、「3LA%」（3 Limited Answerの略）という表示は、複数回答形式の質問（回答選択肢の中から「あてはまるものをすべて」や「○は2つまで」、「○は3つまで」選択する形式の質問）である。

Ⅱ 調査の結果

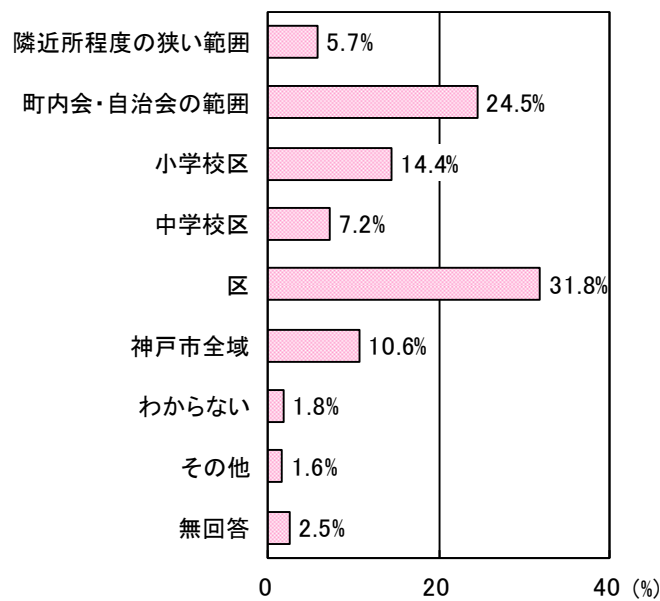
1. 地域及び人間関係について

(1) 「あなたがくらす地域」と言われたときに思い浮かべる範囲

問1 「あなたがくらす地域」と言われたときに、次のうちどれを思い浮かべますか。
あてはまるもの1つに○をつけてください。

【図表1-1 あなたがくらす地域と言われたときに思い浮かべる範囲】

(n=1,828)

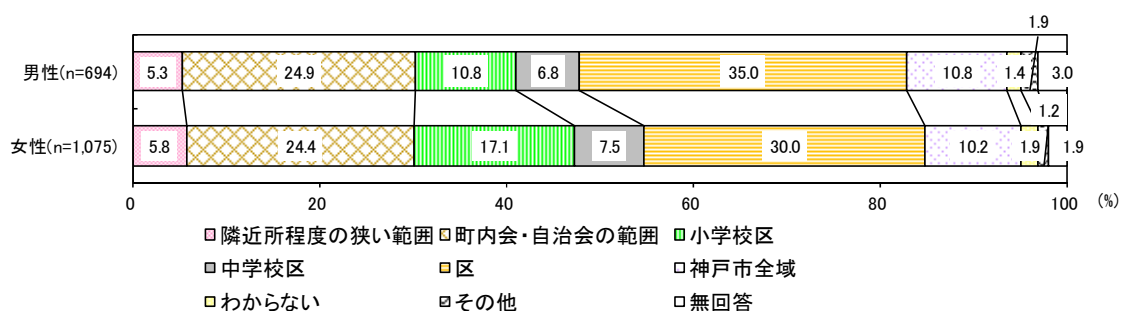


「あなたがくらす地域」と言われたときに思い浮かべる範囲は、「区」(31.8%)が最も多く、次いで「町内会・自治会の範囲」(24.5%)、「小学校区」(14.4%)が多い。(図表1-1)

性別でみると、男女とも「区」「町内会・自治会の範囲」「小学校区」「中学校区」の順に推移するが、「区」は、男性(35.0%)に対し、女性(30.0%)で、女性に比べると男性が5ポイント高く、逆に「小学校区」は、男性(10.8%)に対し、女性(17.1%)で、女性に比べると男性が6.3ポイント低い。

他の思い浮かべる地域は、ほぼ同じ割合になっている。(図表1-1-1)

【図表1-1-1 性別 あなたがくらす地域と言われたときに思い浮かべる範囲】



年齢別でみると、「隣近所程度の狭い範囲」は、55～59歳（0.8%）が最も少なく、55～59歳を中心として、若い年代層と高い年代層が高くなっている。

「町内会・自治会の範囲」は、若い年代層と比べて高い年代層が高く、逆に「区」「小学校区」は、若い年代層が高くなる傾向になっている。

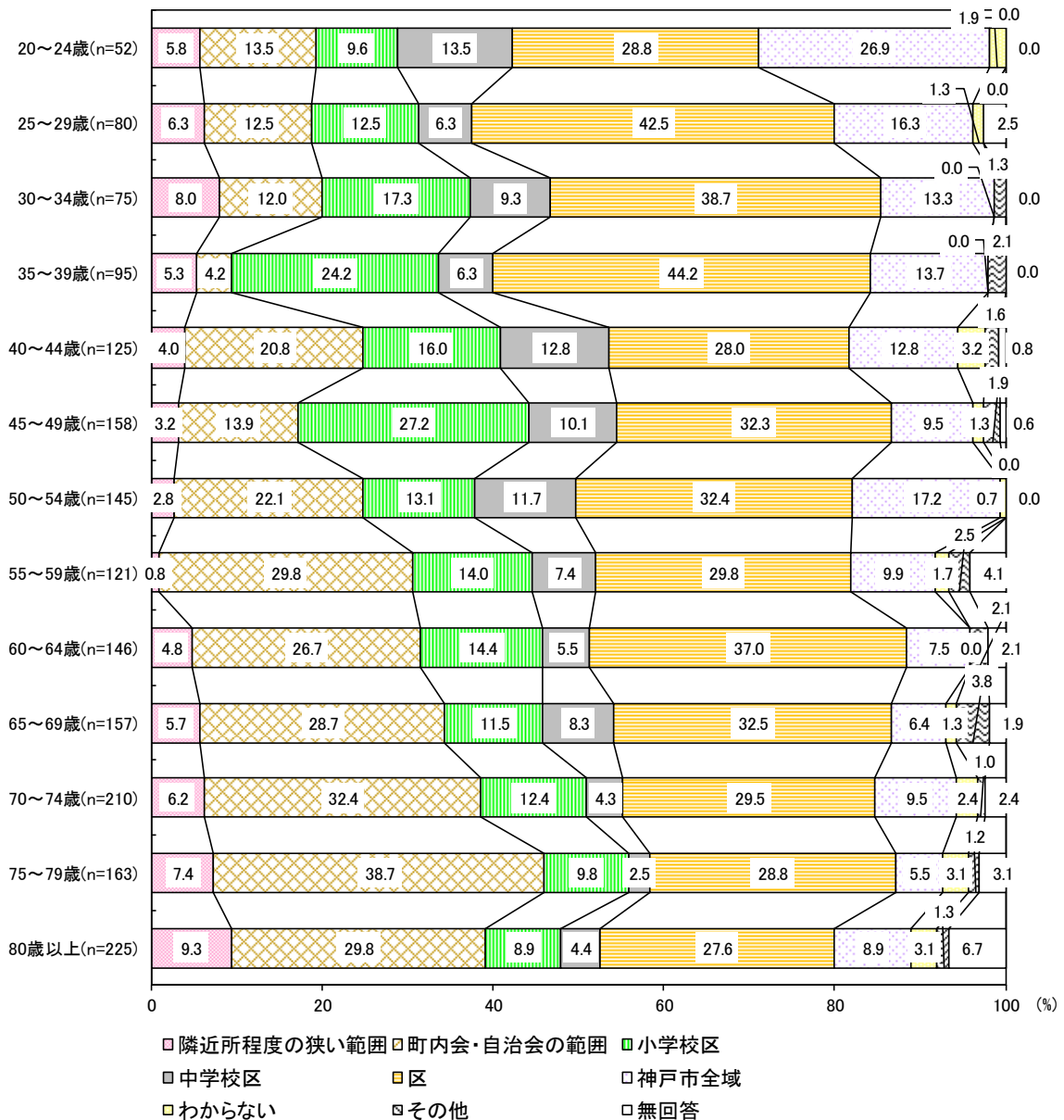
「町内会・自治会の範囲」は、75～79歳（38.7%）が最も多く、次いで70～74歳（32.4%）となっており、35～39歳（4.2%）が最も少ない。

「区」は、35～39歳（44.2%）が最も多く、次いで25～29歳（42.5%）となっており、80歳以上（27.6%）が最も少ない。

「小学校区」は、45～49歳（27.2%）が最も多く、次いで35～39歳（24.2%）となっており、80歳以上（8.9%）が最も少ないが、次いで20～24歳（9.6%）となっており、子育て世代が高い傾向にあると思われる。

「神戸市全域」は20～24歳（26.9%）が最も多く、次ぐ50～54歳（17.2%）より10ポイント近く高くなっている。（図表1-1-2）

【図表1-1-2 性別 あなたがくらす地域と言われたときに思い浮かべる範囲】



職業別でみると、「隣近所程度の狭い範囲」は、フルタイム（雇用期限あり）（7.1%）が最も多く、フルタイム（雇用期限なし）（3.6%）が最も少ない。

「町内会・自治会の範囲」は、家事専業（29.5%）が最も多く、次いで個人事業主（29.1%）となっており、学生（12.9%）が最も少ない。

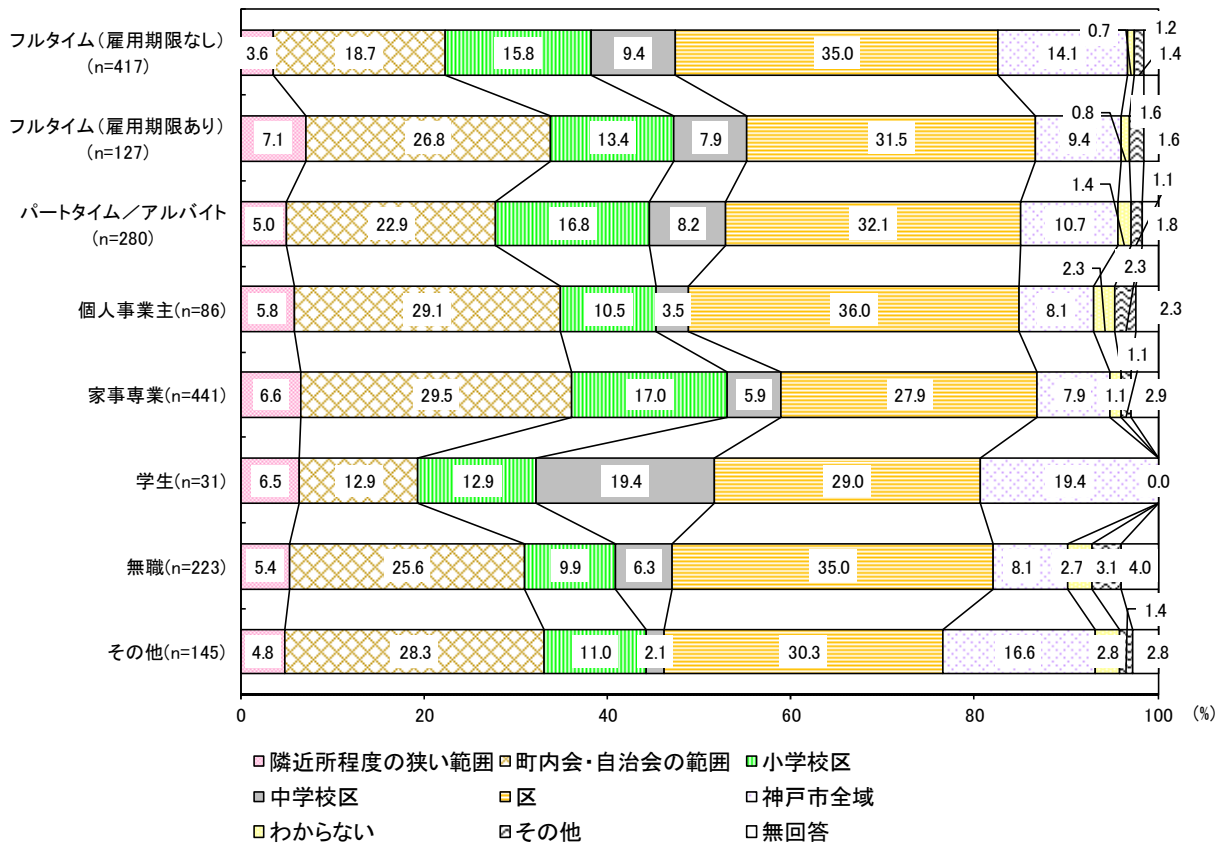
「区」は、個人事業主（36.0%）が最も多く、次いでフルタイム（雇用期限なし）、無職（35.0%）となっており、家事専業（27.9%）が最も少ない。

「小学校区」は、家事専業（17.0%）が最も多く、次いでパートタイム/アルバイト（16.8%）となっており、無職（9.9%）が最も少ない。

「中学校区」は、学生（19.4%）が最も多く、次いでフルタイム（雇用期限なし）（9.4%）となっており、その他（2.1%）が最も少ない。

「神戸市全域」は学生（19.4%）が最も多く、次いでその他（16.6%）となっており、家事専業（7.9%）が最も少ない。（図表1-1-3）

【図表1-1-3 職業別 あなたがくらす地域と言われたときに思い浮かべる範囲】



居住区別でみると、「隣近所程度の狭い範囲」は、長田区（13.5%）が最も多く、次いで中央区（10.1%）となっており、西区（3.8%）が最も少ない。

「町内会・自治会の範囲」は、北区（32.5%）が最も多く、次いで長田区（31.5%）となっており、中央区（15.9%）が最も少ない。

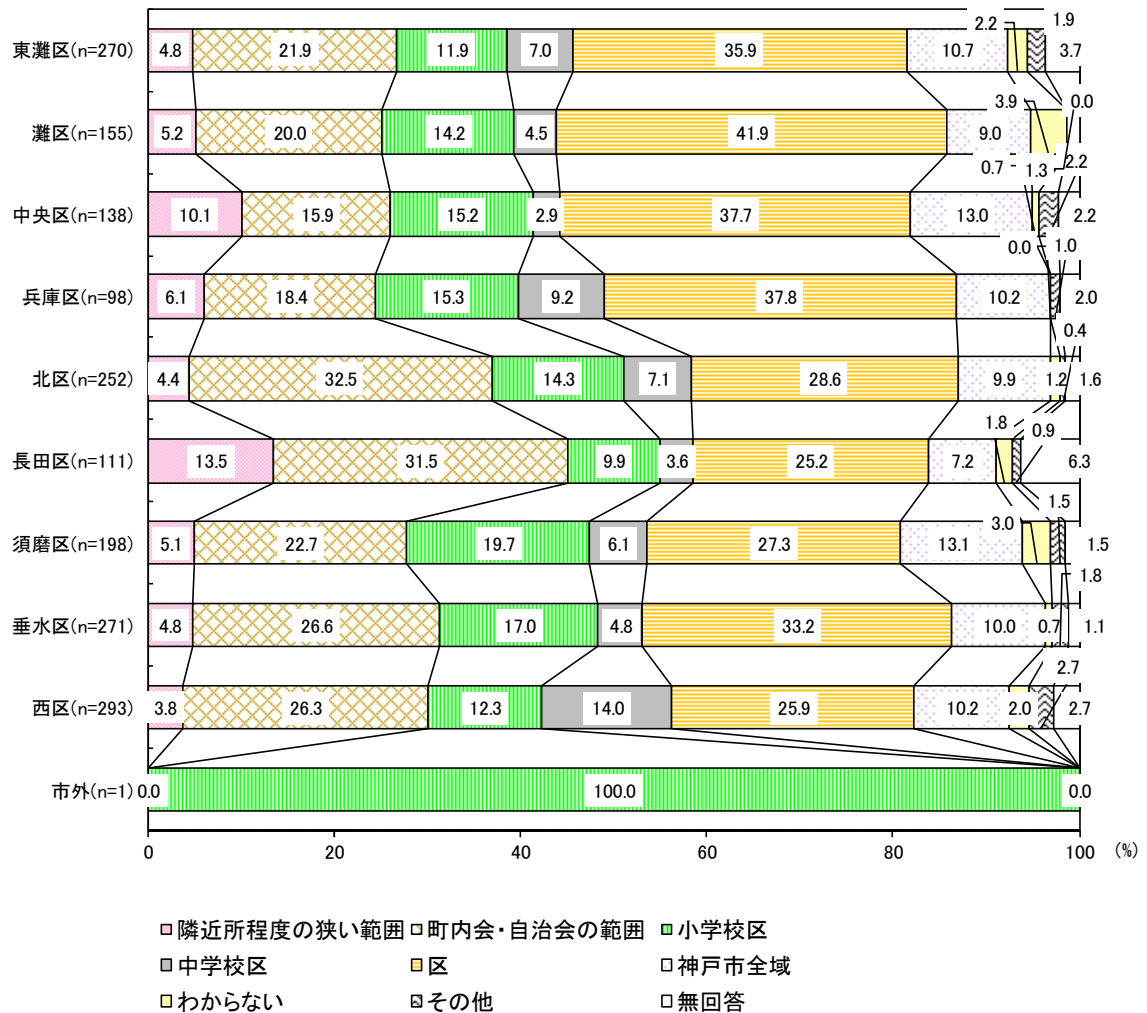
「区」は、兵庫区（37.8%）、中央区（37.7%）が多く、次いで東灘区（35.9%）となっており、長田区（25.2%）が最も少ない。

「小学校区」は、須磨区（19.7%）が最も多く、次いで垂水区（17.0%）となっており、長田区（9.9%）が最も少ない。

「中学校区」は、西区（14.0%）が最も多く、次いで兵庫区（9.2%）となっており、中央区（2.9%）が最も少ない。

「神戸市全域」は須磨区（13.1%）、中央区（13.0%）が多く、長田区（7.2%）が最も少なく、その他の区では（9.0~10.7%）となっている。（図表1-1-4）

【図表1-1-4 居住区別 あなたがくらす地域と言われたときに思い浮かべる範囲】



居住年数別でみると、「隣近所程度の狭い範囲」は、11年～20年ぐらい（3.9％）が最も少なく、その他の居住年数では（5.9～6.6％）となっている。

「町内会・自治会の範囲」は、21年以上（31.9％）が最も多く、次いで11年～20年ぐらい（21.9％）となっており、5年～10年ぐらい（15.3％）が最も少ない。

「区」は、5年未満（39.7％）、5年～10年ぐらい（39.3％）が多く、次いで21年以上（29.2％）となっており、11年～20年ぐらい（27.3％）が最も少ない。

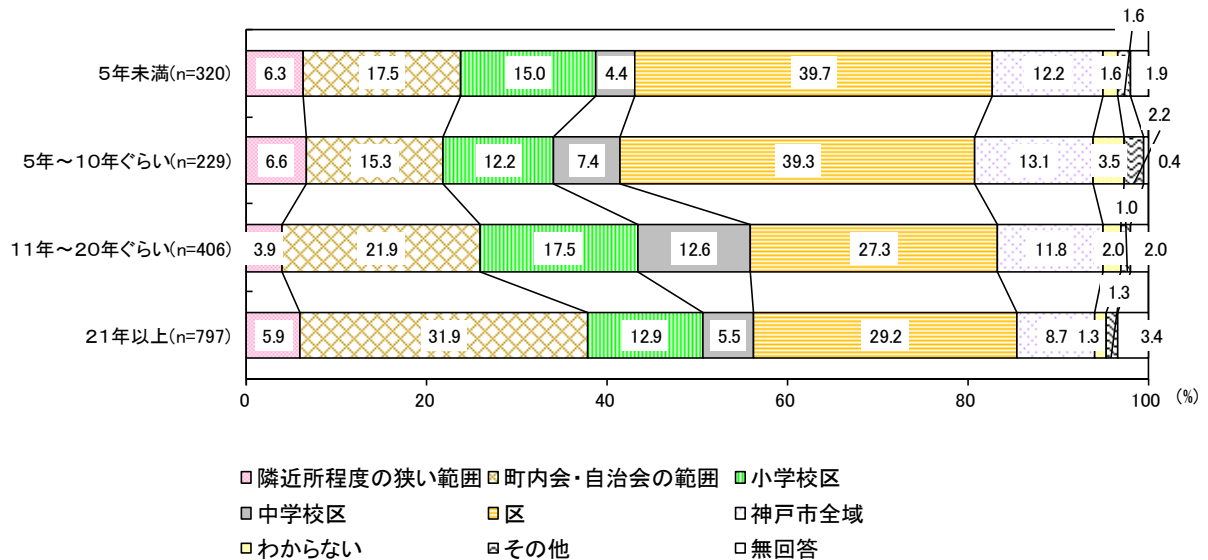
「小学校区」は、11年～20年ぐらい（17.5％）が最も多く、次いで5年未満（15.0％）となっており、5年～10年ぐらい（12.2％）が最も少ない。

「中学校区」は、11年～20年ぐらい（12.6％）が最も多く、次いで5年～10年ぐらい（7.4％）となっており、5年未満（4.4％）が最も少ない。

「神戸市全域」は5年～10年ぐらい（13.1％）、5年未満（12.2％）が多く、21年以上（8.7％）が最も少ない。

全体的には、居住年数が長いほど「町内会・自治会の範囲」が多く、逆に「区」は少なくなる傾向になっている。（図表1-1-5）

【図表1-1-5 居住年数別 あなたがくらす地域と言われたときに思い浮かべる範囲】



居場所別でみると、「隣近所程度の狭い範囲」は、ない(8.7%)、利用している福祉施設・医療機関(8.6%)、その他(8.2%)が多く、自治会・町内会・老人クラブ・婦人会・子ども会・PTA(0.9%)が最も少ない。

「町内会・自治会の範囲」は、自治会・町内会・老人クラブ・婦人会・子ども会・PTA(29.0%)が最も多く、次いで、ない(28.0%)となっており、学校の同窓会・OB/OG会(18.7%)が最も少ない。

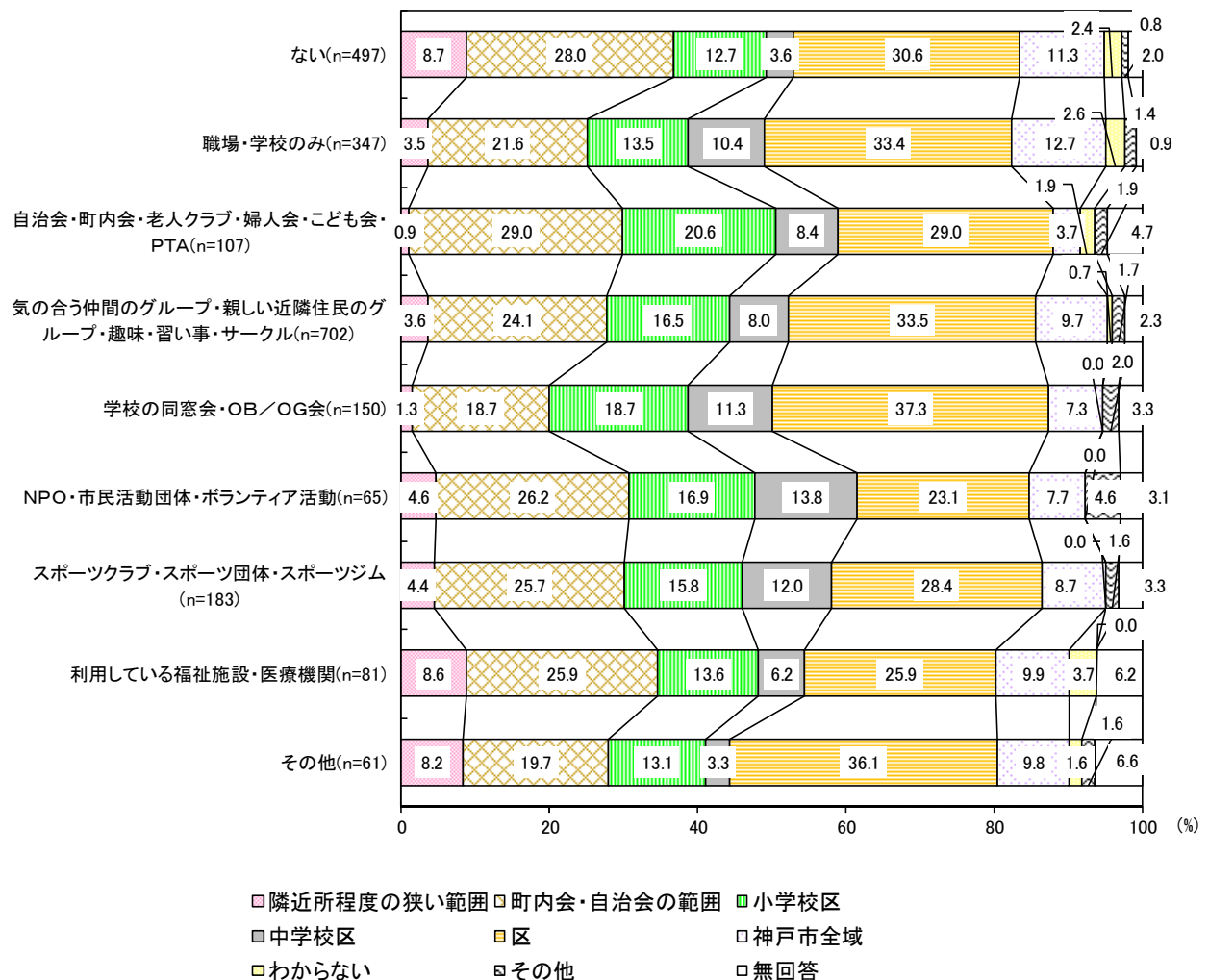
「区」は、学校の同窓会・OB/OG会(37.3%)、その他(36.1%)が多く、NPO・市民活動団体・ボランティア活動(23.1%)が最も少ない。

「小学校区」は、自治会・町内会・老人クラブ・婦人会・子ども会・PTA(20.6%)が最も多く、次いで学校の同窓会・OB/OG会(18.7%)となっており、ない(12.7%)が最も少ない。

「中学校区」は、NPO・市民活動団体・ボランティア活動(13.8%)が最も多く、次いでスポーツクラブ・スポーツ団体・スポーツジム(12.0%)となっており、その他(3.3%)が最も少ない。

「神戸市全域」は職場・学校のみ(12.7%)、ない(11.3%)が多く、自治会・町内会・老人クラブ・婦人会・子ども会・PTA(3.7%)が最も少ない。(図表1-1-6)

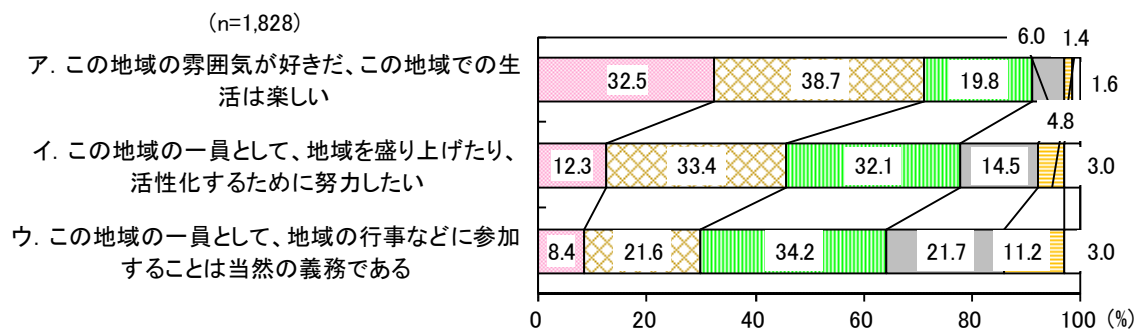
【図表1-1-6 居場所別 あなたがくらす地域と言われたときに思い浮かべる範囲】



(2) 地域についてどう思うか

問2 あなたがくらす地域について、あなたはどのように思いますか。ア～ウのそれぞれの項目について、あてはまるものを1つずつ選んで○をつけてください。

【図表1-2 くらす地域についてどう思うか】



□そう思う □ややそう思う ■どちらともいえない □あまり思わない □思わない □無回答

地域についてどう思うかについて、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた『そう思う』割合（以下、『そう思う』割合）では、“ア. この地域の雰囲気が好きだ、この地域での生活は楽しい”（71.2%）が最も高く、次いで、“イ. この地域の一員として、地域を盛り上げたり、活性化するために努力したい”（45.7%）となっている。一方、“ウ. この地域の一員として、地域の行事などに参加することは当然の義務である”（30.0%）は最も低く、「思わない」と「あまり思わない」を合わせた『思わない』割合（以下、『思わない』割合）（32.9%）の方が高い。（図表1-2）

性別で見ると、「そう思う」は、“ア. 地域の雰囲気が好き・生活は楽しい”で、男性（30.5%）、女性（34.0%）と30%以上、“イ. 地域の一員として盛り上げ・活性化に努力”や“ウ. この地域の一員として行事参加は当然の義務”については、男女ともに20%以下となっており、特に女性は10%以下となっている。

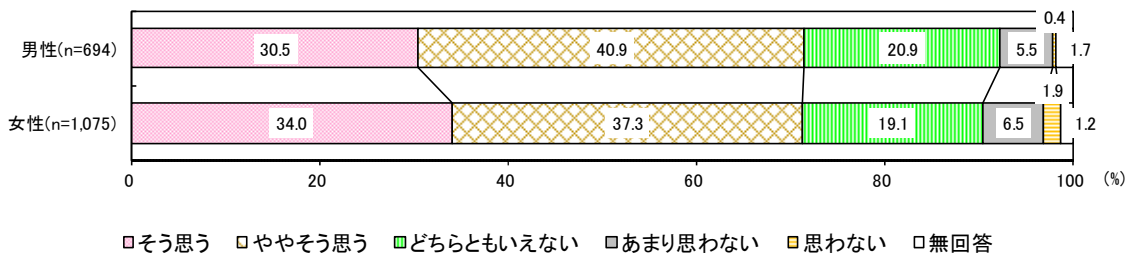
『そう思う』割合は、“ア. 地域の雰囲気が好き・生活は楽しい”で、男性（71.4%）、女性（71.3%）と70%以上、“イ. 地域の一員として盛り上げ・活性化に努力”で、男性（48.4%）、女性（44.4%）、“ウ. 地域の一員として行事参加は当然の義務”で、男性（34.9%）、女性（26.8%）となっている。

『思わない』割合は、“ア. 地域の雰囲気が好き・生活は楽しい”で、男性（5.9%）、女性（8.4%）と10%以下、“イ. 地域の一員として盛り上げ・活性化に努力”で、男性（17.6%）、女性（20.8%）、“ウ. 地域の一員として行事参加は当然の義務”で、男性（29.9%）、女性（34.7%）となっている。

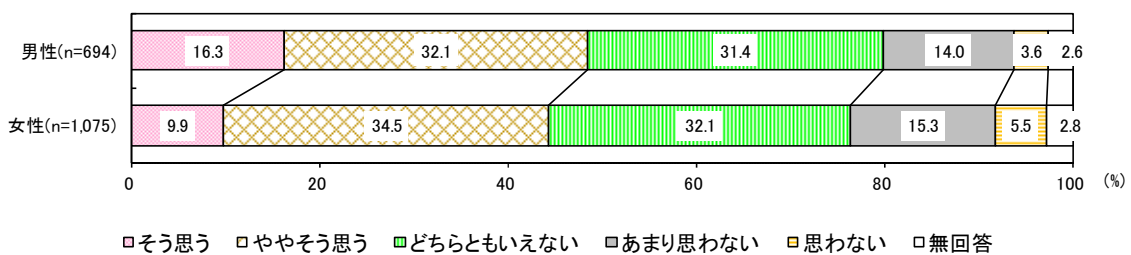
“イ. 地域の活性化”や“ウ. 地域行事の参加義務”の意識は、女性と比べて男性の割合が高い傾向となっている。（図表1-2-1）

【図表1-2-1 性別 くらす地域についてどう思うか】

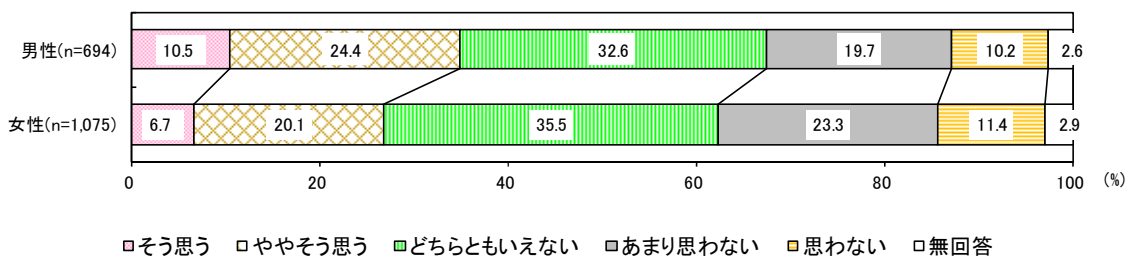
＜ア. この地域の雰囲気が好きだ、この地域での生活は楽しい＞



＜イ. この地域の一員として、地域を盛り上げたり、活性化するために努力したい＞



＜ウ. この地域の一員として、地域の行事などに参加することは当然の義務である＞



年代別でみると、「そう思う」は、“ア. 地域の雰囲気が好き・生活は楽しい”で、30～34歳（41.3%）が最も多く、次いで、20～24歳（40.4%）となっており、65～69歳（26.1%）が最も少ない。“イ. 地域の一員として盛り上げ・活性化に努力”では、80歳以上（21.8%）が最も多く、次いで、70～74歳（15.7%）となっており、25～29歳（6.3%）が最も少ない。“ウ. 地域の一員として行事参加は当然の義務”では、80歳以上（19.6%）が最も多く、次いで、75～79歳（12.3%）となっており、25～29歳、30～34歳（1.3%）が最も少ない。

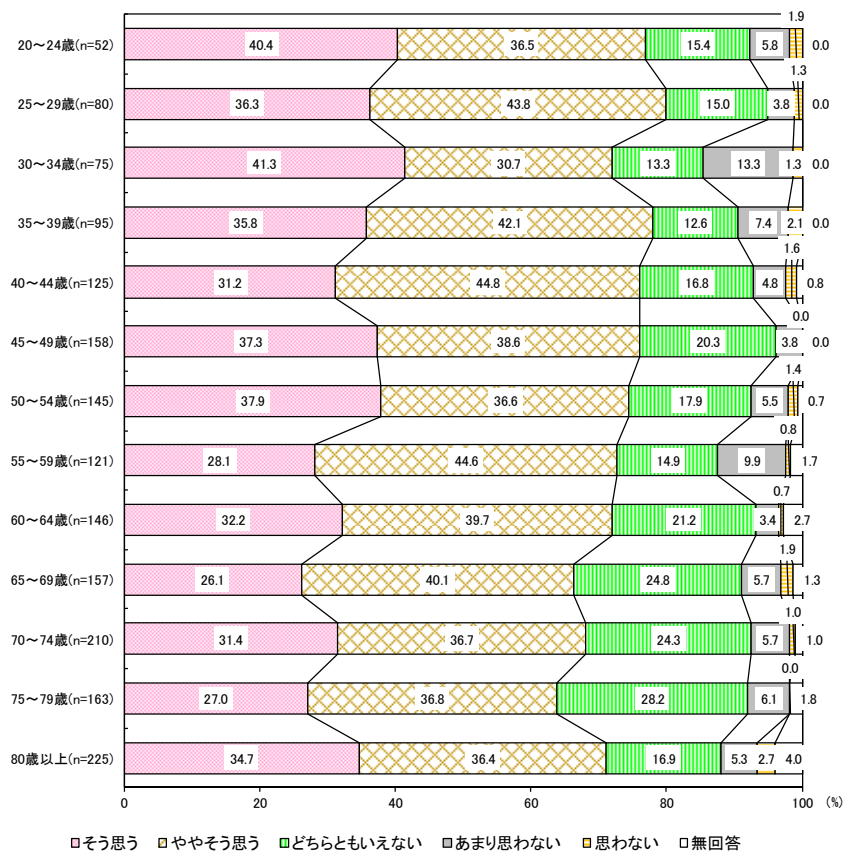
『そう思う』割合は、“ア. 地域の雰囲気が好き・生活は楽しい”で、25～29歳（80.0%）が最も多く、75～79歳（63.8%）が最も少ない。“イ. 地域の一員として盛り上げ・活性化に努力”では、80歳以上（55.1%）が最も多く、25～29歳（40.0%）が最も少ない。“ウ. 地域の一員として行事参加は当然の義務”でも、80歳以上（44.4%）が最も多く、25～29歳（8.8%）が最も少ない。

『思わない』割合は、“ア. 地域の雰囲気が好き・生活は楽しい”で、30～34歳（14.7%）が最も多く、60～64歳（4.1%）が最も少ない。“イ. 地域の一員として盛り上げ・活性化に努力”では、25～29歳（30.0%）が最も多く、70～74歳（13.8%）が最も少ない。“ウ. 地域の一員として行事参加は当然の義務”では、25～29歳（62.5%）が最も多く、75～79歳、80歳以上（19.6%）が最も少ない。

“イ. 地域の活性化”や“ウ. 地域行事の参加義務”の意識は、若い年代層と比べて高い年代層の割合が高い傾向となっている。（図表1-2-2）

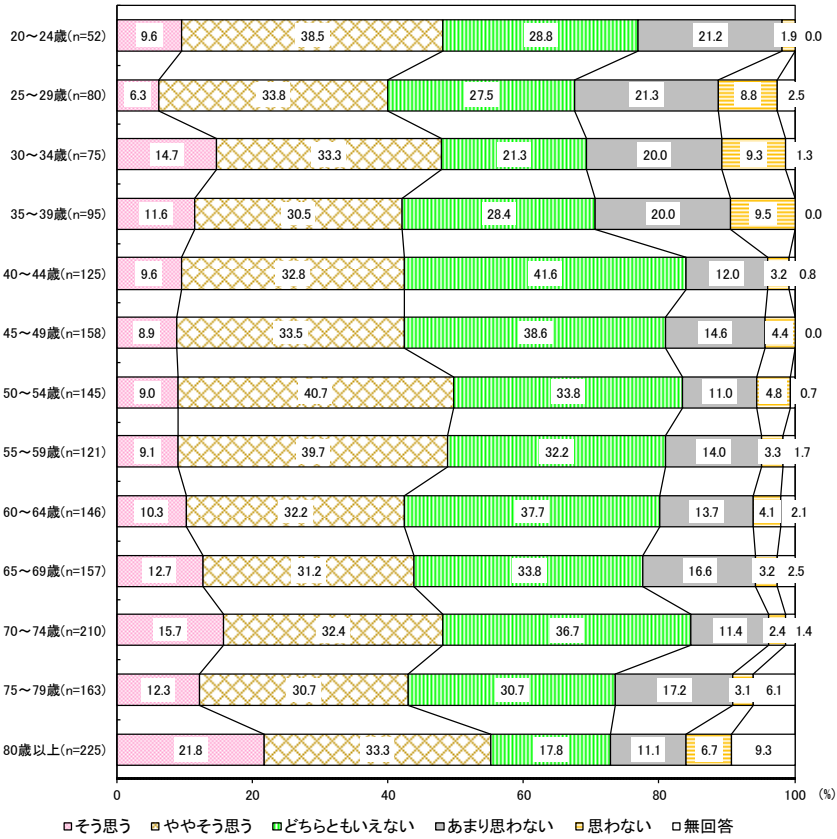
【図表1-2-2 年代別 くらす地域についてどう思うか】

<ア. この地域の雰囲気が好きだ、この地域での生活は楽しい>

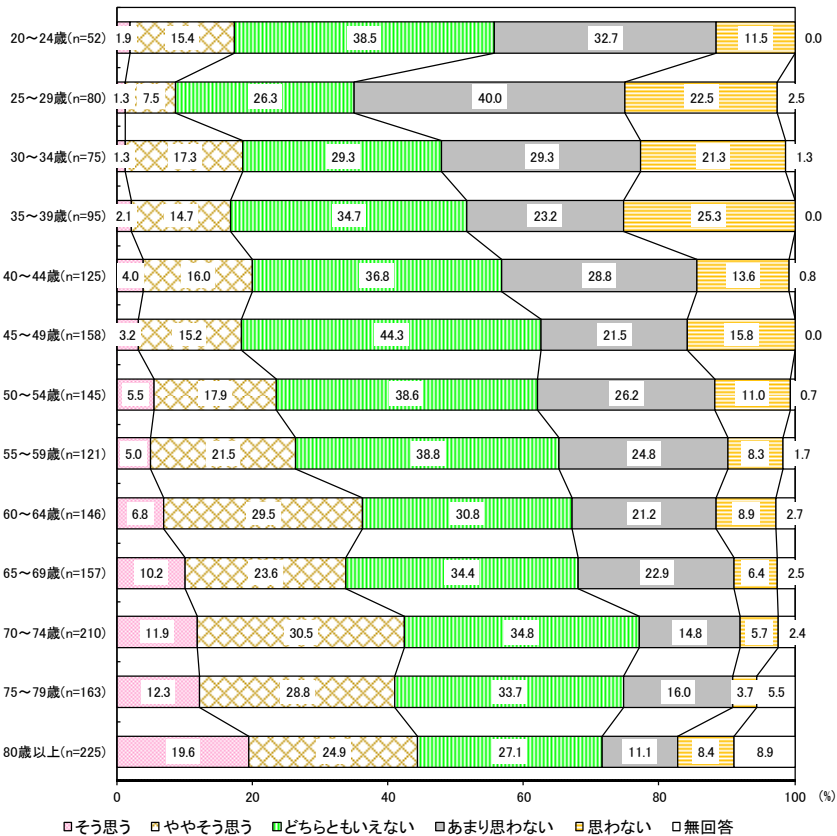


【図表1-2-2 年代別 くらす地域についてどう思うか（続き）】

<イ. この地域の一員として、地域を盛り上げたり、活性化するために努力したい>



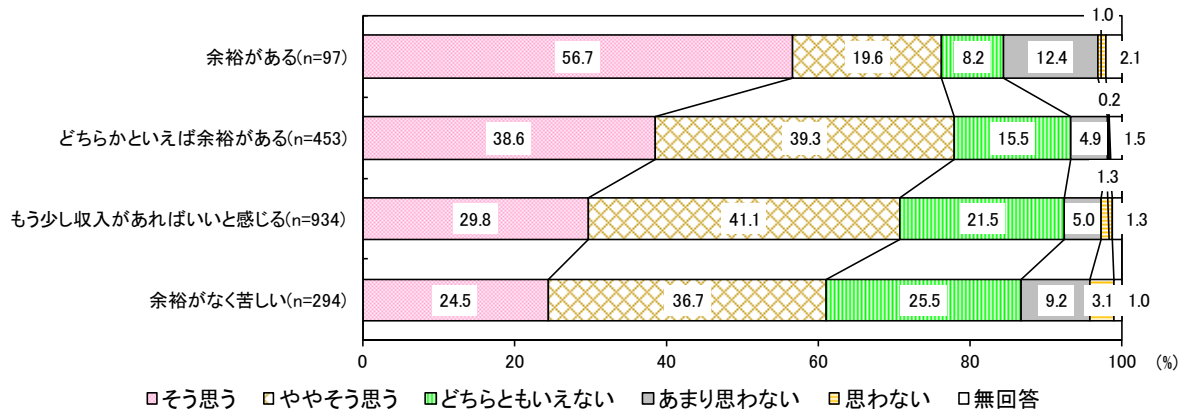
<ウ. この地域の一員として、地域の行事などに参加することは当然の義務である>



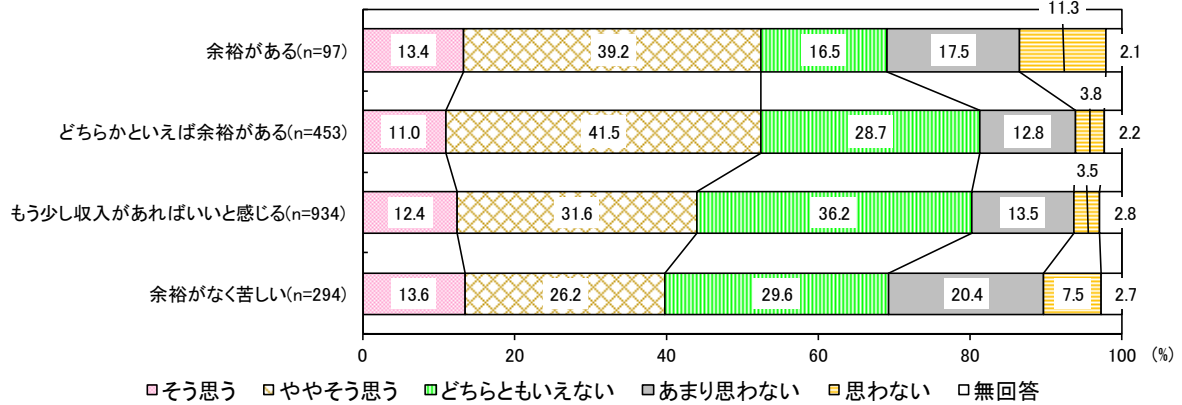
経済状況別でみると、「そう思う」は、“ア. 地域の雰囲気が好き・生活は楽しい”で、余裕がある（56.7%）が最も多く、余裕がなく苦しい（24.5%）が最も少ない。32.2ポイントの差があり、経済的に余裕がある層と比べて余裕がない層の割合が低くなっている。“イ. 地域の一員として盛り上げ・活性化に努力”、“ウ. 地域の一員として行事参加は当然の義務”では、共に10%前後で、経済状況による割合の開きは小さい。（図表1-2-3）

【図表1-2-3 経済状況別 くらす地域についてどう思うか】

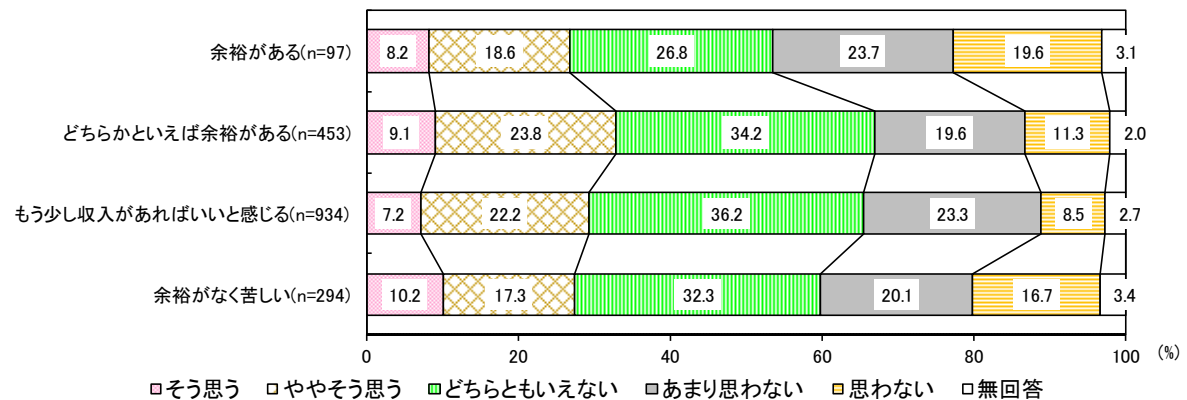
<ア. この地域の雰囲気が好きだ、この地域での生活は楽しい>



<イ. この地域の一員として、地域を盛り上げたり、活性化するために努力したい>



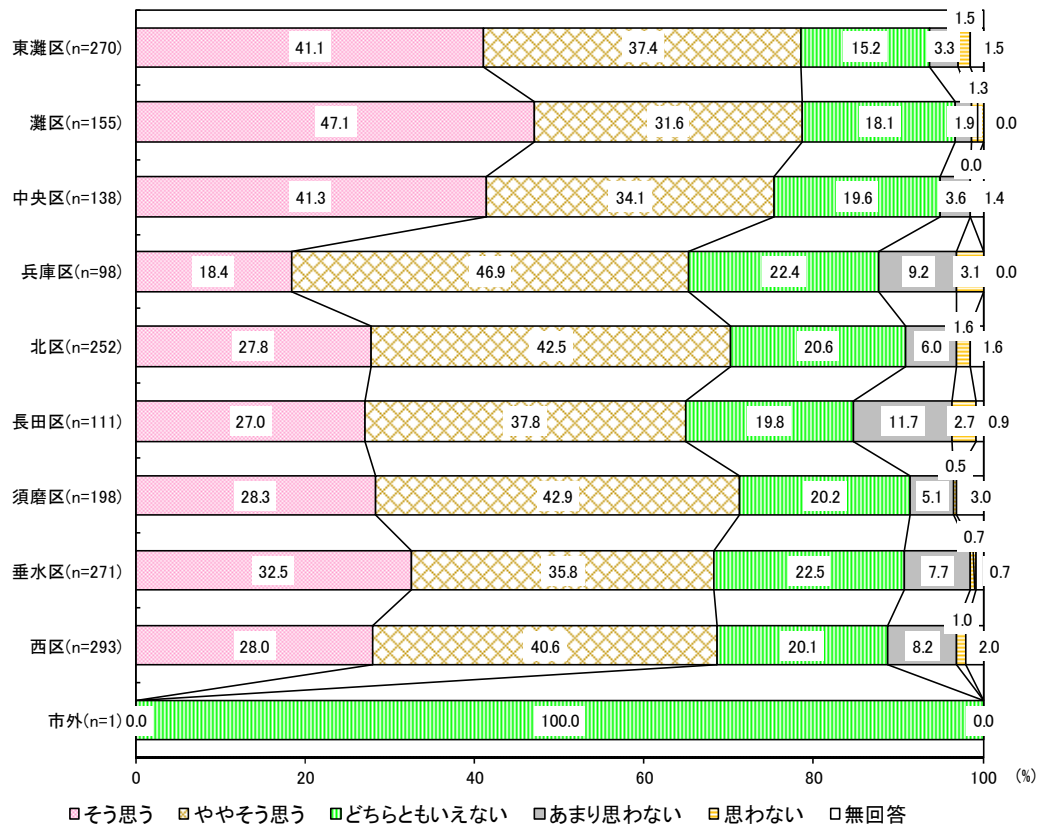
<ウ. この地域の一員として、地域の行事などに参加することは当然の義務である>



居住区別でみると、「そう思う」は、“ア. 地域の雰囲気が好き・生活は楽しい”で、東灘区、灘区、中央区が40%以上で、他の区と比べて8.6ポイント以上差がある。また、兵庫区（18.4%）が最も少なく、次いで少ない長田区（27.0%）と比べて8.6ポイント少ない。“イ. 地域の一員として盛り上げ・活性化に努力”は、須磨区（8.6%）が最も少なく、他の区は10～15%となっており、割合の開きは少ない。“ウ. 地域の一員として行事参加は当然の義務”は、北区（13.1%）が最も多く、中央区（6.5%）、須磨区（6.1%）、東灘区（4.1%）が少ない。（図表1-2-4）

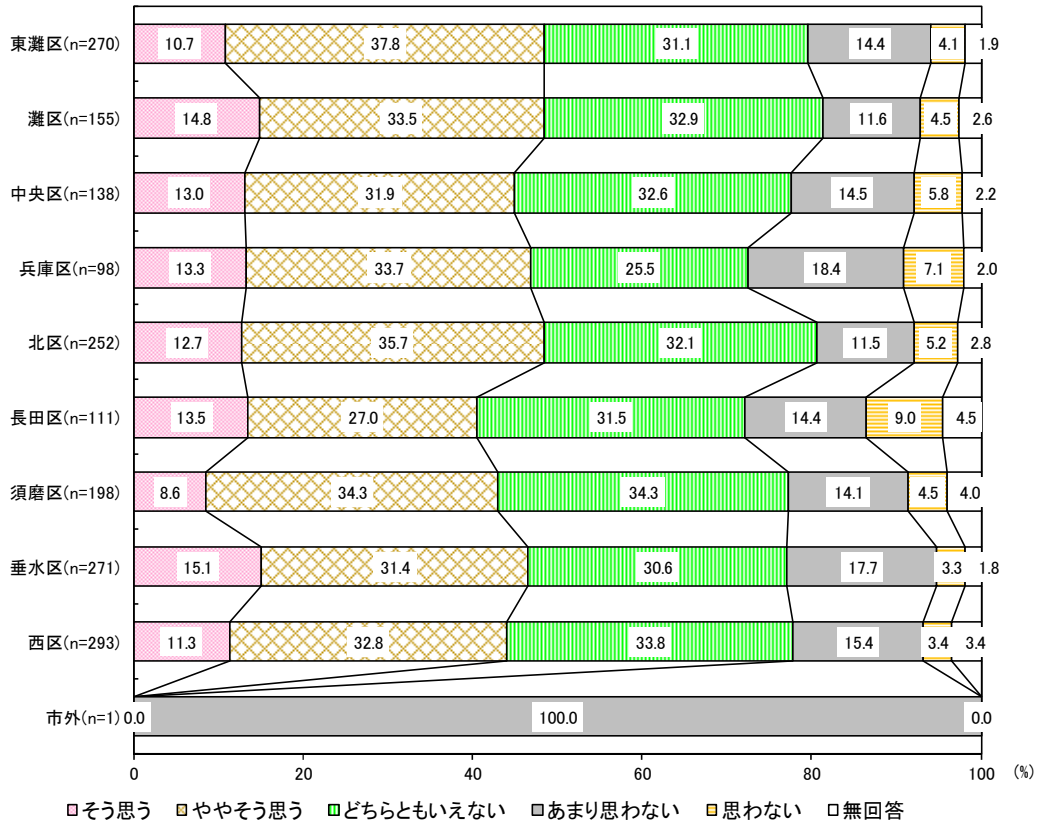
【図表1-2-4 居住区別 くらす地域についてどう思うか】

<ア. この地域の雰囲気が好きだ、この地域での生活は楽しい>

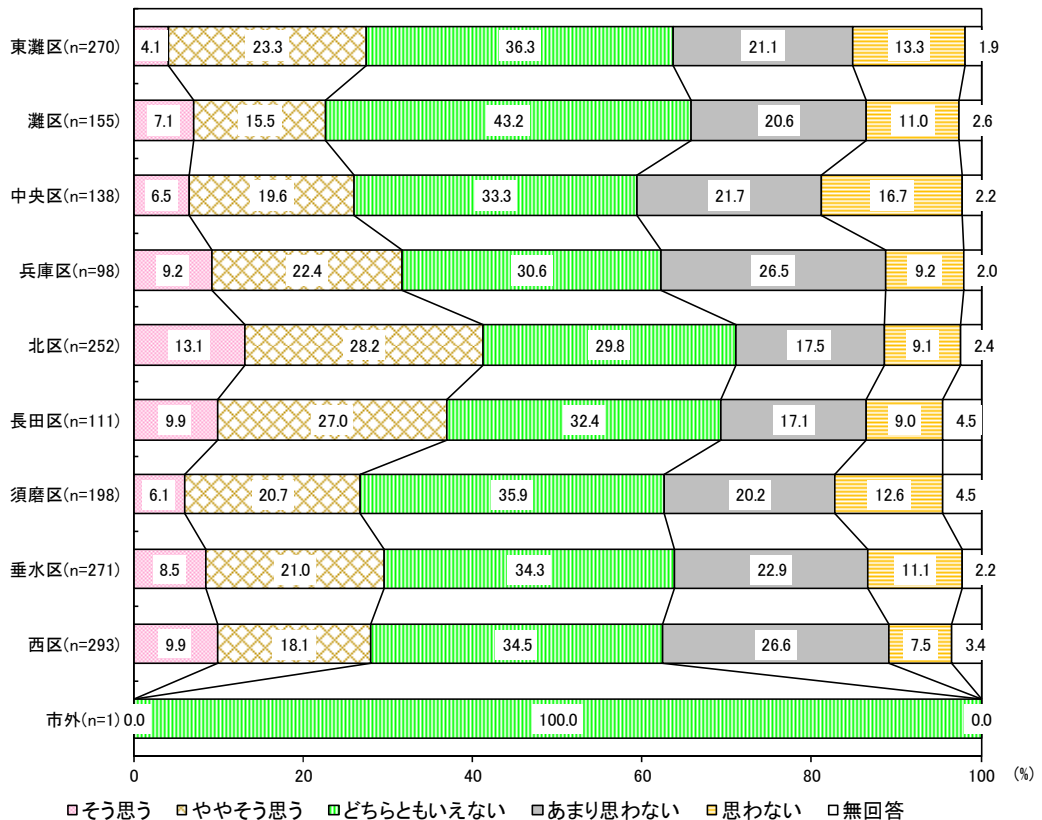


【図表1-2-4 居住区別 くらす地域についてどう思うか（続き）】

＜イ. この地域の一員として、地域を盛り上げたり、活性化するために努力したい＞



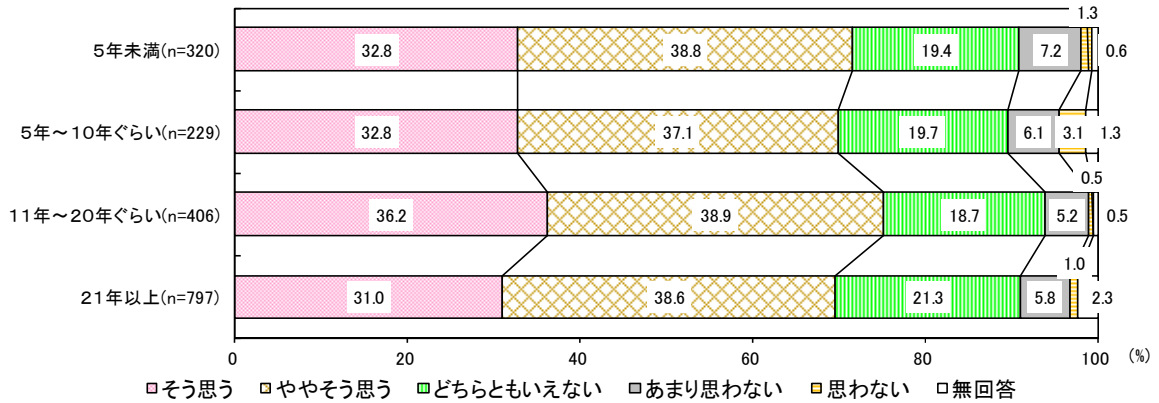
＜ウ. この地域の一員として、地域の行事などに参加することは当然の義務である＞



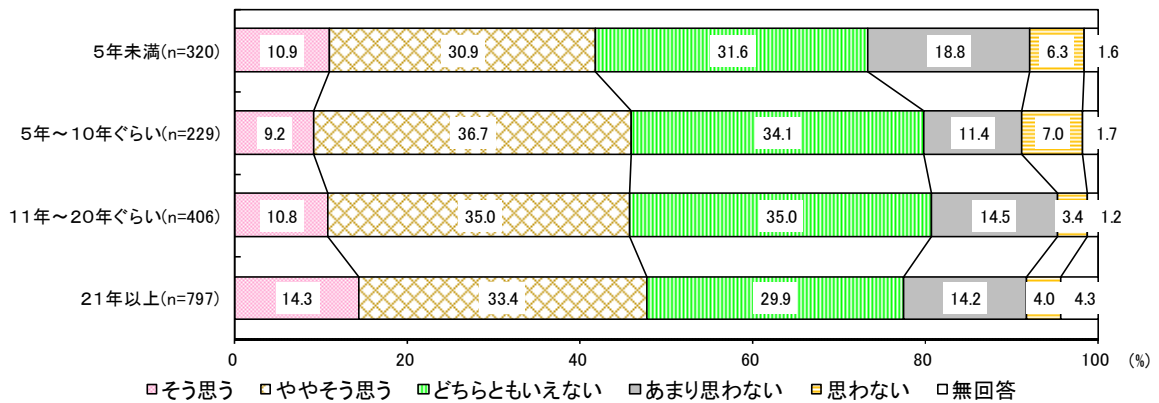
居住年数別でみると、「そう思う」は、“ア. 地域の雰囲気が好き・生活は楽しい”で、11年～20年ぐらい(36.2%)が最も多く、他の居住年数で31～33%となっている。“イ. 地域の一員として盛り上げ・活性化に努力”は、21年以上(14.3%)が最も多い。“ウ. 地域の一員として行事参加は当然の義務”も、21年以上(13.3%)が最も多く、居住年数が20年までと比べて9ポイントほど高い。(図表1-2-5)

【図表1-2-5 居住年数別 くらす地域についてどう思うか】

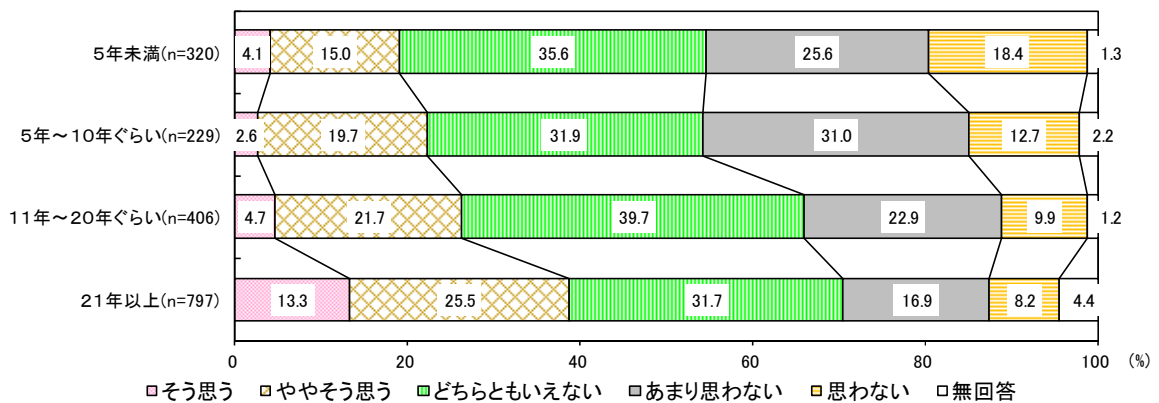
＜ア. この地域の雰囲気が好きだ、この地域での生活は楽しい＞



＜イ. この地域の一員として、地域を盛り上げたり、活性化するために努力したい＞



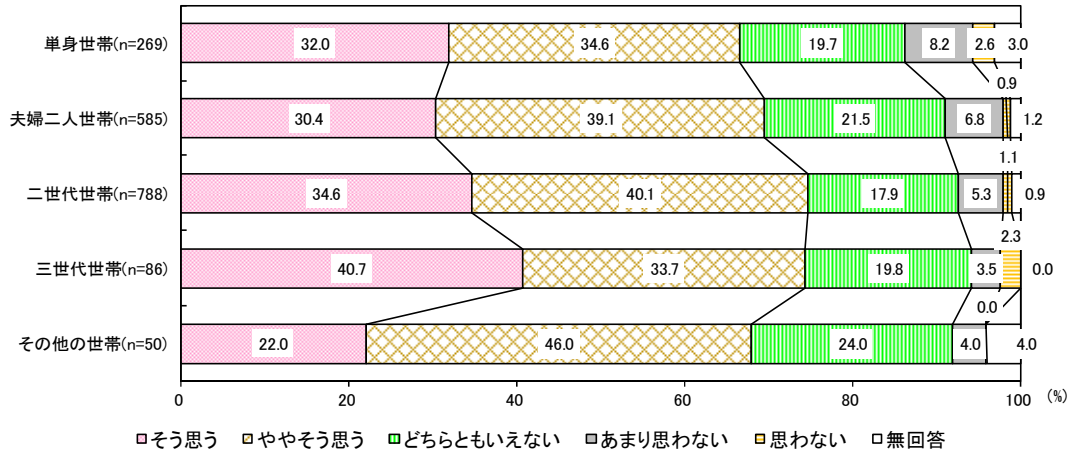
＜ウ. この地域の一員として、地域の行事などに参加することは当然の義務である＞



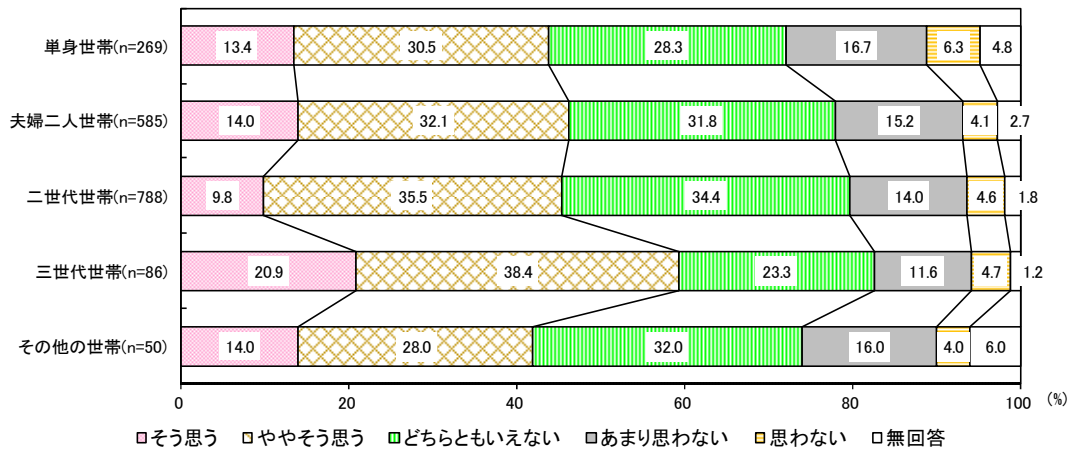
世帯構成別でみると、「そう思う」は三世帯世帯がすべての項目で一番多い。“ア. 地域の雰囲気が好き・生活は楽しい”（40.7%）、「イ. 地域の一員として盛り上げ・活性化に努力」（20.9%）、「ウ. 地域の一員として行事参加は当然の義務」（12.8%）となっている。単身・夫婦二人・二世帯世帯と比べて高い割合となっている。（図表1-2-6）

【図表1-2-6 世帯構成別 くらす地域についてどう思うか】

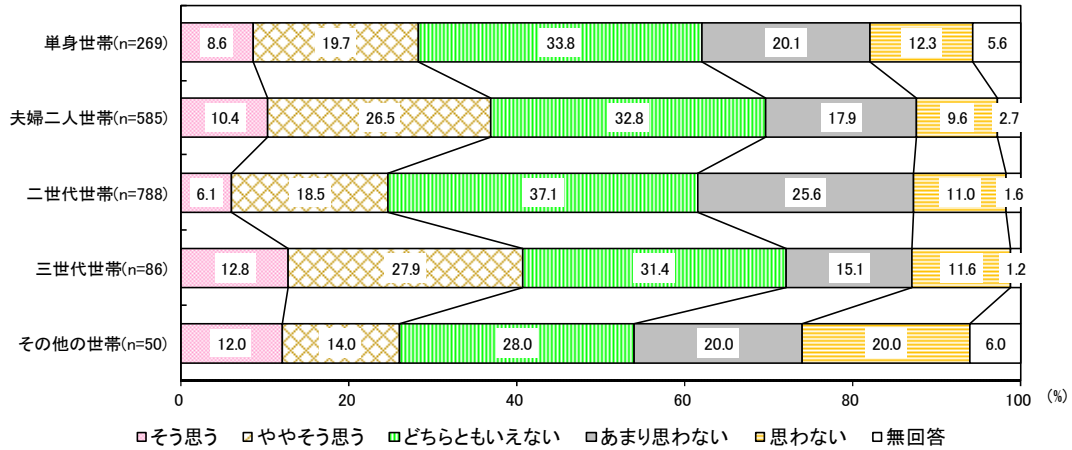
<ア. この地域の雰囲気が好きだ、この地域での生活は楽しい>



<イ. この地域の一員として、地域を盛り上げたり、活性化するために努力したい>



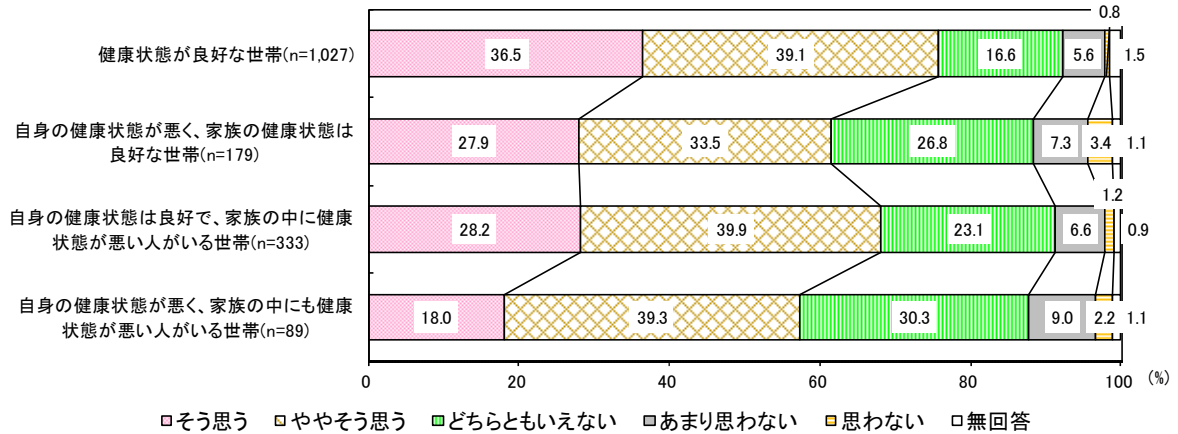
<ウ. この地域の一員として、地域の行事などに参加することは当然の義務である>



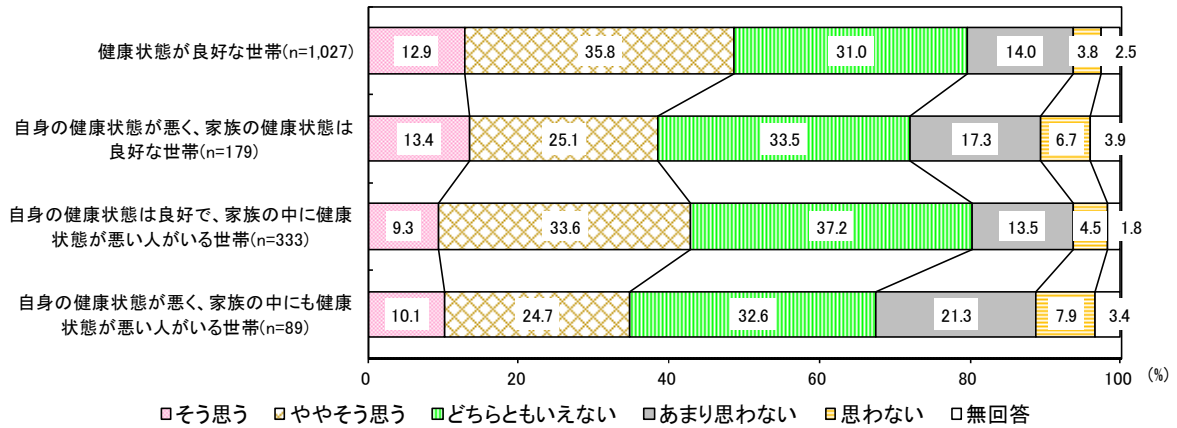
健康状態別でみると、“ア. 地域の雰囲気が好き・生活は楽しい”で、「そう思う」は、健康状態が良好な世帯（36.5%）が最も多く、自身や家族の健康状態が悪くなるほど低い割合となっている。“イ. 地域の一員として盛り上げ・活性化に努力”で、『そう思う』割合は、自身の健康状態が良好な世帯、自身の健康状態は良好で、家族の中に健康状態が悪い人がいる世帯が高い。“ウ. 地域の一員として行事参加は当然の義務”で、『思わない』割合は、自身の健康状態が悪く、家族の中にも健康状態が悪い人がいる世帯（42.7%）が最も多くなっている。（図表1-2-7）

【図表1-2-7 健康状態別 くらす地域についてどう思うか】

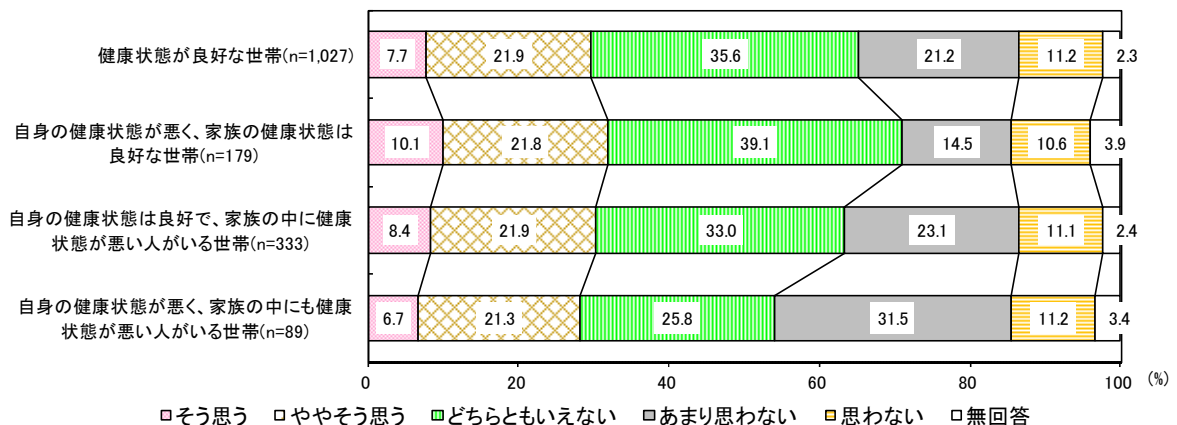
＜ア. この地域の雰囲気が好きだ、この地域での生活は楽しい＞



＜イ. この地域の一員として、地域を盛り上げたり、活性化するために努力したい＞



＜ウ. この地域の一員として、地域の行事などに参加することは当然の義務である＞



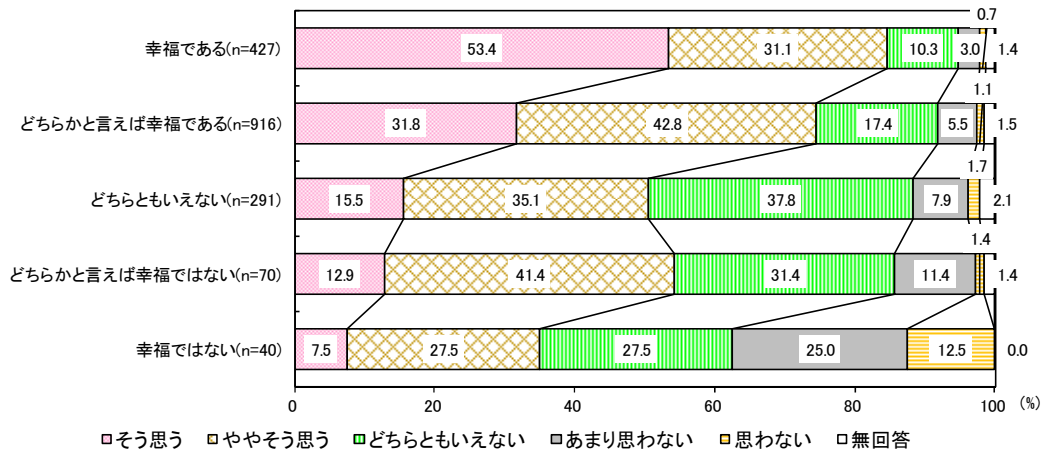
主観的幸福感別でみると、“ア. 地域の雰囲気が好き・生活は楽しい”で、「そう思

う」は、幸福である（53.4%）が最も多く、幸福の割合が悪くなるほど低い割合となっている。“イ. 地域の一員として盛り上げ・活性化に努力”も、『そう思う』割合は、幸福の割合が悪くなるほど低くなっている。

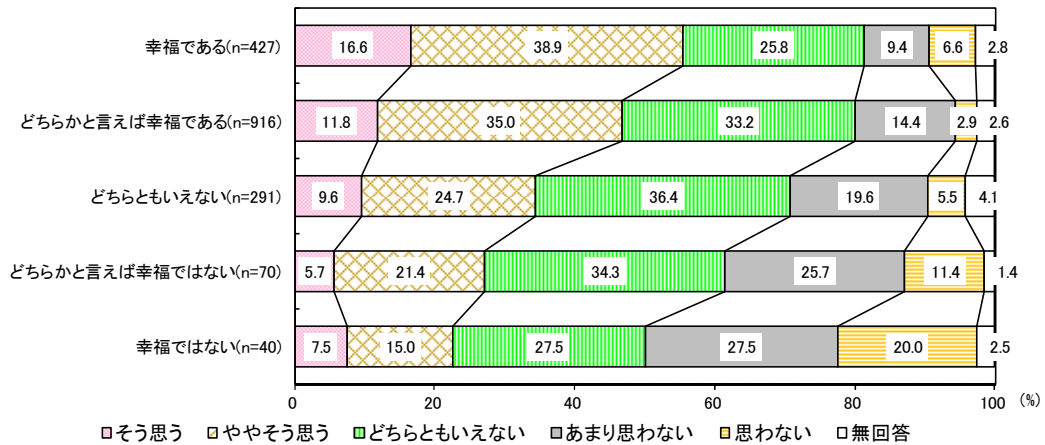
“ウ. 地域の一員として行事参加は当然の義務”でも同様の傾向にあるが、「思わない」は、幸福ではない（42.5%）が、突出して多い。（図表1-2-8）

【図表1-2-8 主観的幸福感別 くらす地域についてどう思うか】

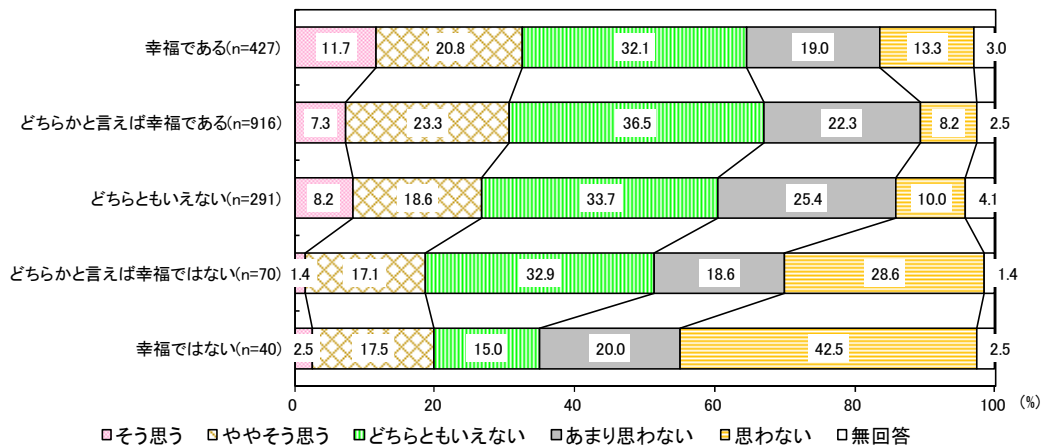
＜ア. この地域の雰囲気が好きだ、この地域での生活は楽しい＞



＜イ. この地域の一員として、地域を盛り上げたり、活性化するために努力したい＞



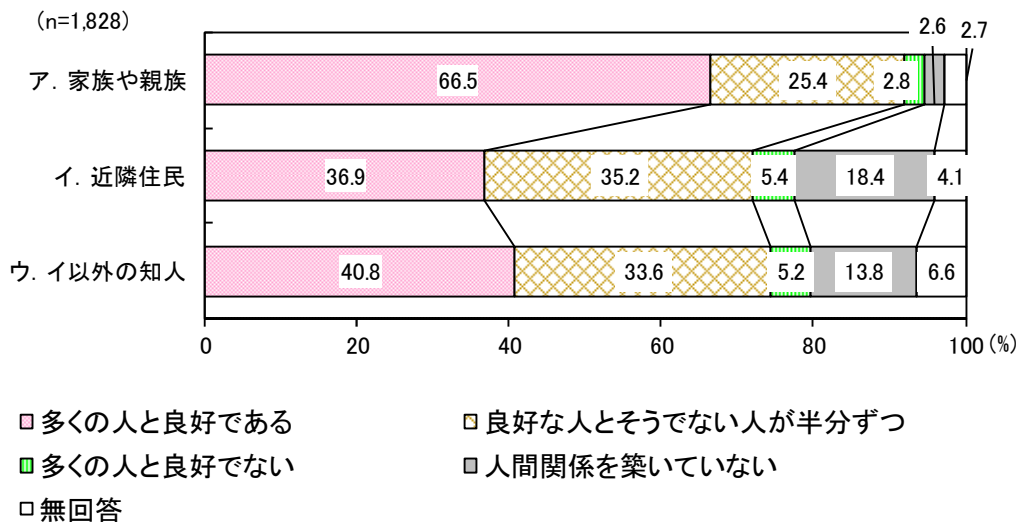
＜ウ. この地域の一員として、地域の行事などに参加することは当然の義務である＞



(3) 人間関係の構築について

問3 あなたは現在、家族・親族、近隣住民とどのような人間関係を築いていると感じていますか。ア～ウのそれぞれの項目について、あてはまるものを1つずつ選んで番号に○をつけてください。

【図表1-3 人間関係の構築について】

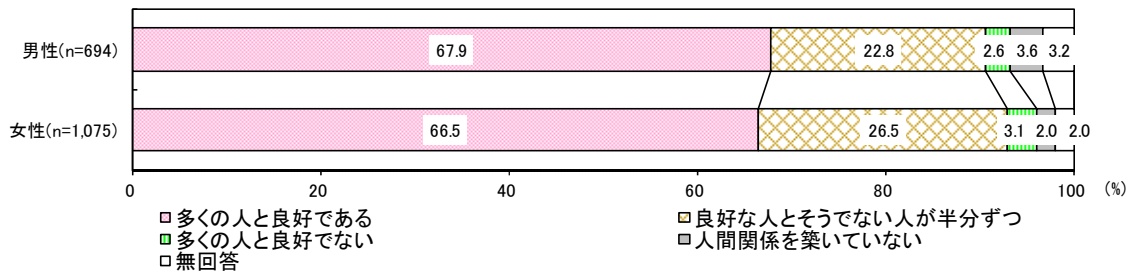


人間関係の構築について、「多くの人と良好である」と回答した割合は、“ア. 家族や親族” (66.5%) が最も高く、次いで、“ウ. イ (近隣住民) 以外の知人” (40.8%)、 “イ. 近隣住民” (36.9%) の順となっている。(図表1-3)

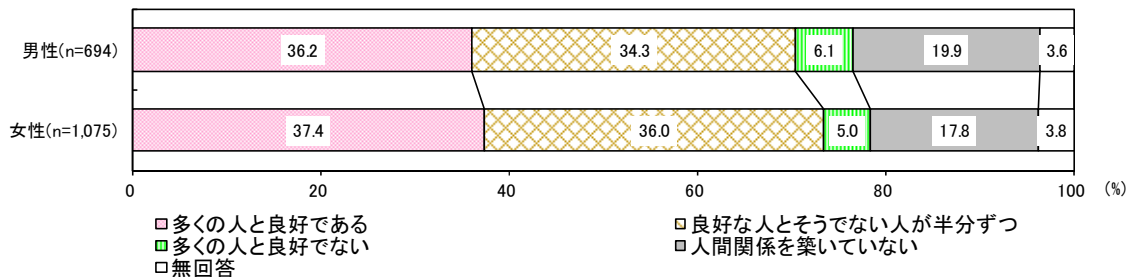
性別でみると、“ア. 家族や親族”で、『多くの人と良好である』は、男性（67.9%）、女性（66.5%）と65%以上で、『多くの人と良好である』と『良好な人とそうでない人が半分ずつ』を合わせた割合では、男性（90.6%）、女性（93.0%）で、大半を占めている。“イ. 近隣住民”で、『多くの人と良好である』と『良好な人とそうでない人が半分ずつ』を合わせた割合は、男性（70.5%）、女性（73.4%）、『多くの人と良好である』と『良好な人とそうでない人が半分ずつ』の比率は男女共、二分する比率となっている。“ウ. イ（近隣住民）以外の知人”も“イ. 近隣住民”と同じ傾向であるが、『多くの人と良好である』は、男性（35.4%）に比べて、女性（44.4%）で9ポイント高い。（図表1-3-1）

【図表1-3-1 性別 人間関係の構築について】

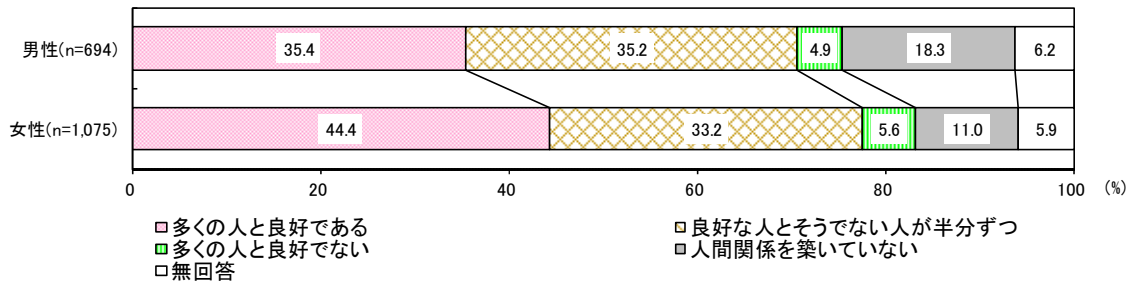
<ア. 家族や親族>



<イ. 近隣住民>



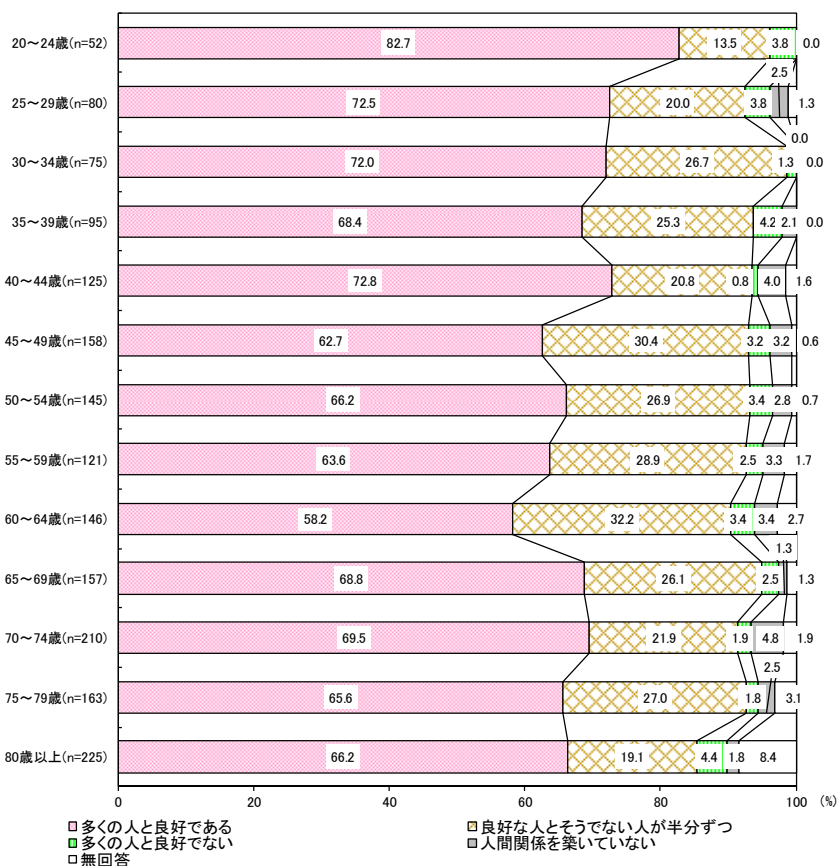
<ウ. イ（近隣住民）以外の知人>



年代別でみると、“ア. 家族や親族”で、『多くの人と良好である』は、20～24歳(82.7%)が最も多く、全ての年代層でも58%以上の割合を占めている。“イ. 近隣住民”で、『人間関係を築いていない』が、高い年代層に比べて若い年代層で割合が高く、25～29歳(46.3%)が特に多い。また、『多くの人と良好でない』も若い年代層が高く25～39歳で10%を超えている。“ウ. イ(近隣住民)以外の知人”も“イ. 近隣住民”と同じ傾向で、『人間関係を築いていない』が、高い年代層に比べて若い年代層で割合が高く、25～29歳(23.8%)が一番多い。また、『多くの人と良好でない』も25～29歳(10.0%)が一番多い。(図表1-3-2)

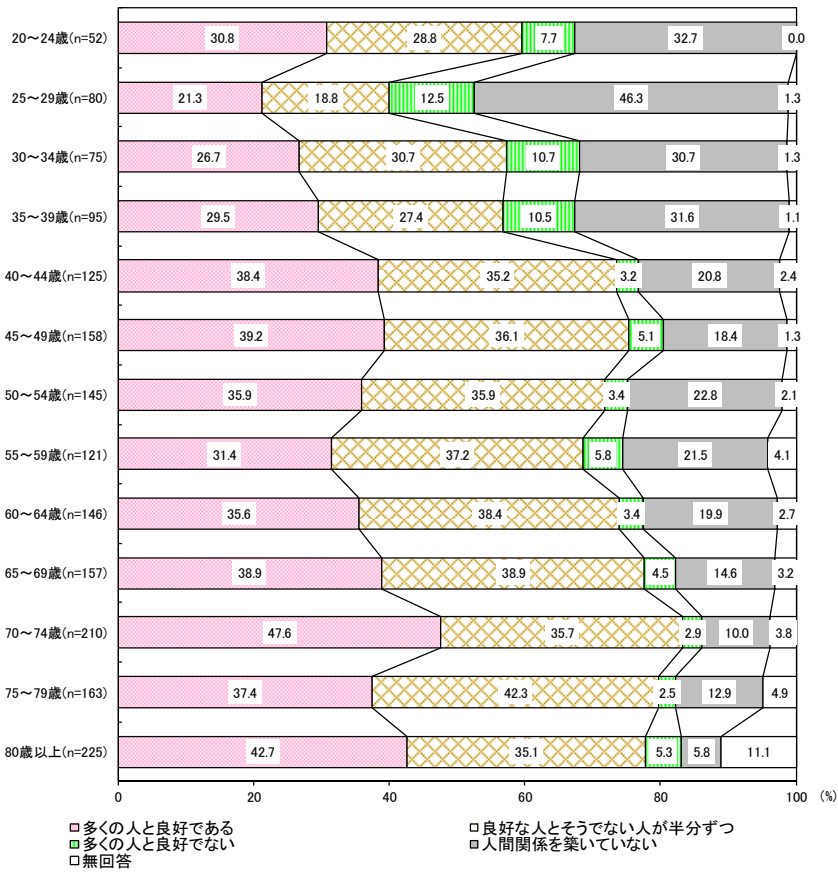
【図表1-3-2 年代別 人間関係の構築について】

＜ア. 家族や親族＞

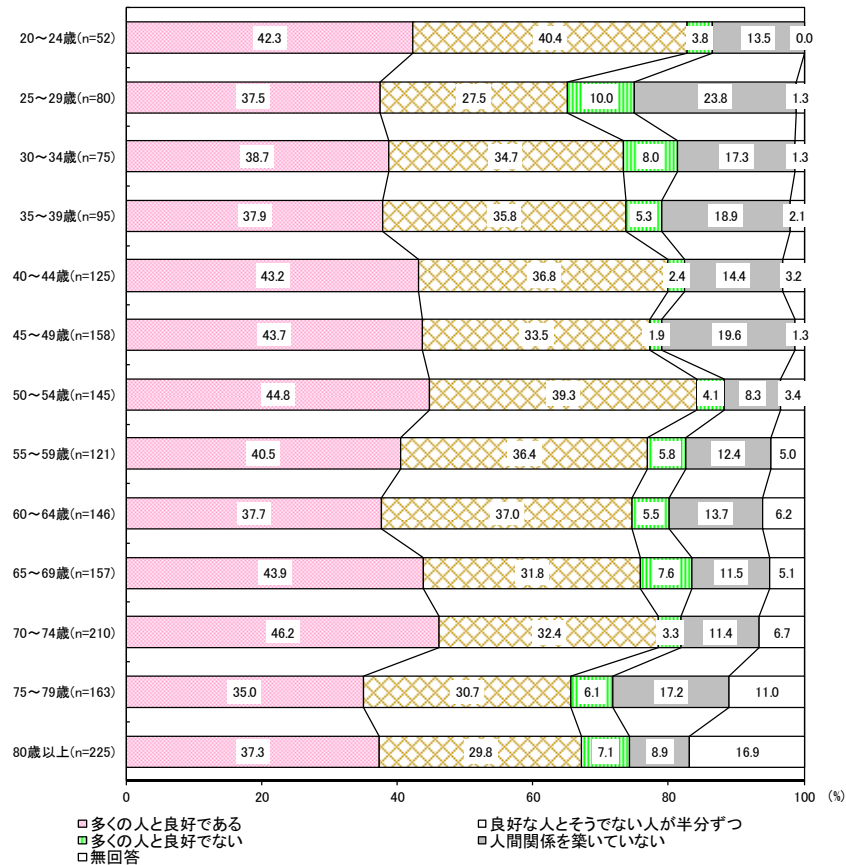


【図表1-3-2 年代別 人間関係の構築について（続き）】

<イ. 近隣住民>



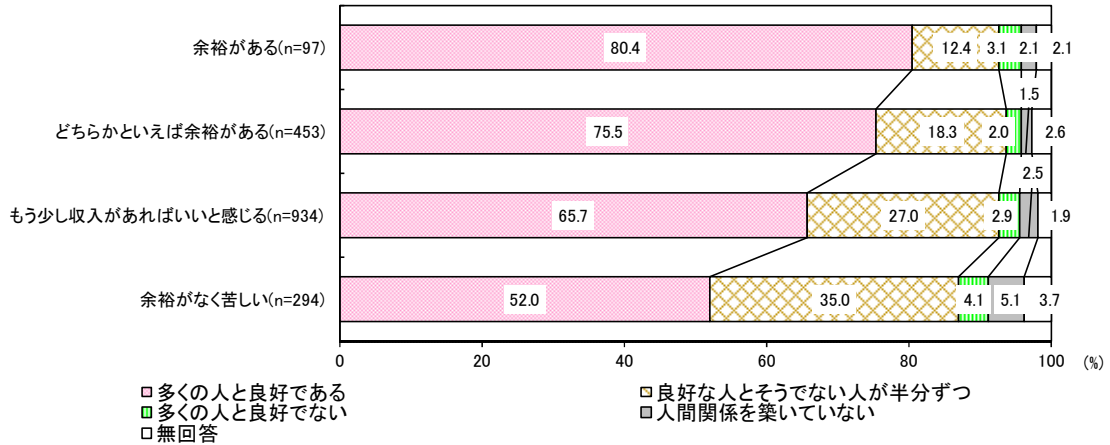
<ウ. イ（近隣住民）以外の知人>



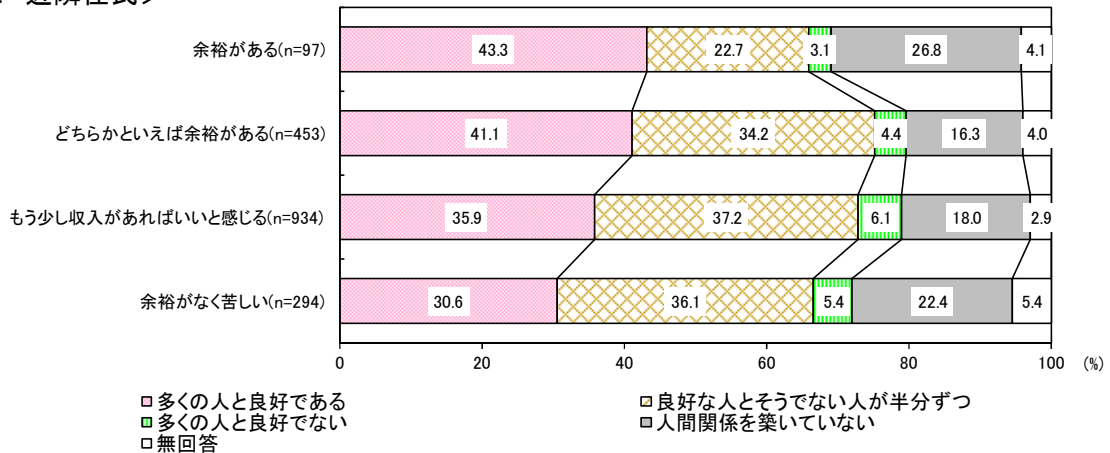
経済状況別でみると、『多くの人と良好である』は、“ア. 家族や親族”で、余裕がある(80.4%)が最も多く、余裕がなく苦しい(52.0%)が最も少ない。経済的に余裕がある層と比べて余裕がない層の割合が低くなっている。“イ. 近隣住民”や“ウ. イ(近隣住民)以外の知人”も同じ傾向となっている。『人間関係を築いていない』は、“イ. 近隣住民”で、経済状況に関係なく20%前後と高い。また、“ウ. イ(近隣住民)以外の知人”も10~18%と高い。(図表1-3-3)

【図表1-3-3 経済状況別 人間関係の構築について】

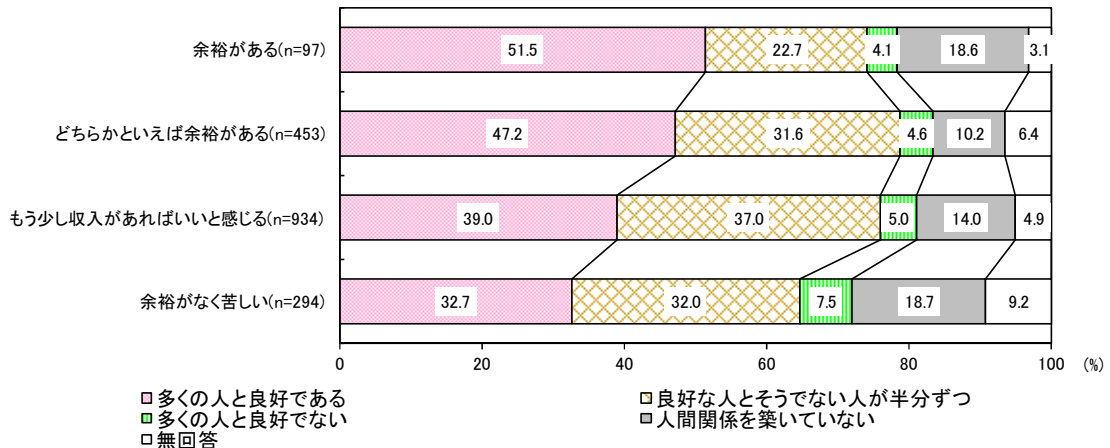
<ア. 家族や親族>



<イ. 近隣住民>



<ウ. イ(近隣住民)以外の知人>

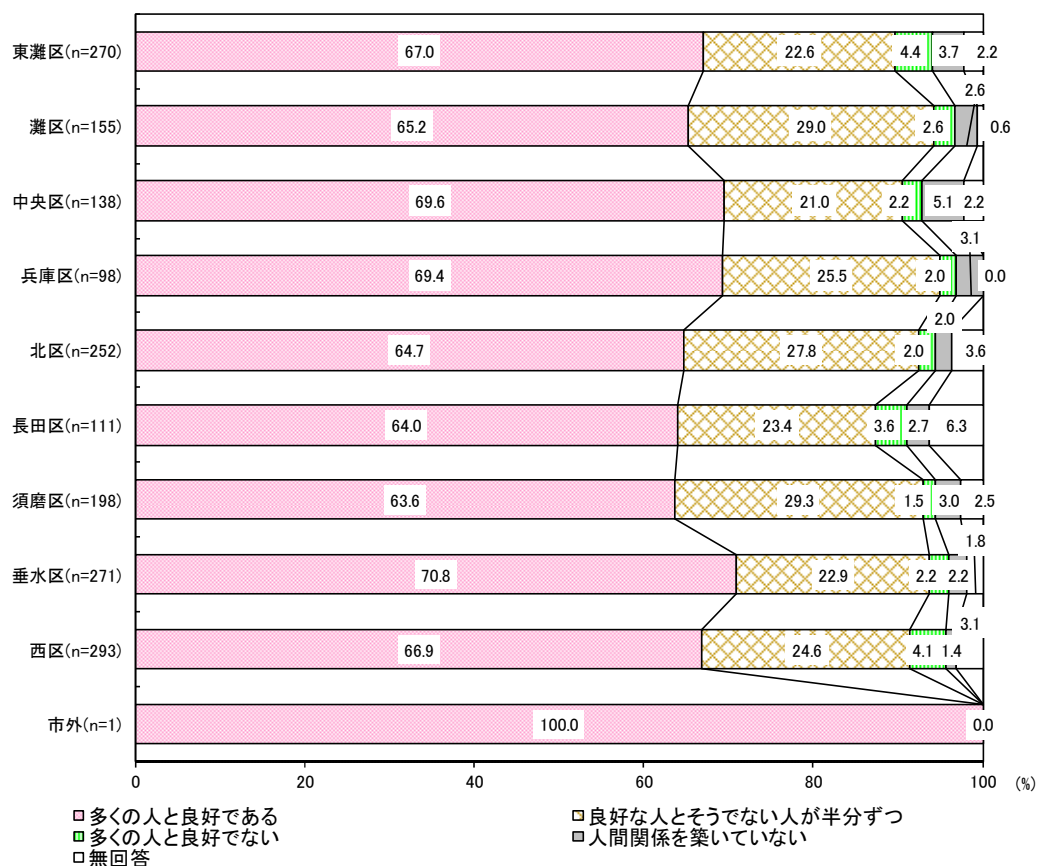


居住区別でみると、『多くの人と良好である』は、“ア. 家族や親族”で、垂水区(70.8%)が最も多い、次いで東灘区、中央区が69%台で、他の区も63%を超えている。“イ. 近隣住民”は、北区(44.4%)が最も多く、中央区(29.7%)、長田区(30.6%)が少ない。“ウ. イ(近隣住民)以外の知人”は、北区(50.0%)が最も多く、長田区(30.6%)、兵庫区(35.7%)、須磨区(35.9%)が少ない。

『人間関係を築いていない』は、“イ. 近隣住民”で、中央区(33.3%)、東灘区(26.7%)、灘区(25.8%)、兵庫区(23.5%)が多く、他の区より割合が高い。“ウ. イ(近隣住民)以外の知人”は、兵庫区(22.4%)が多く、他の区より割合が高い。(図表1-3-4)

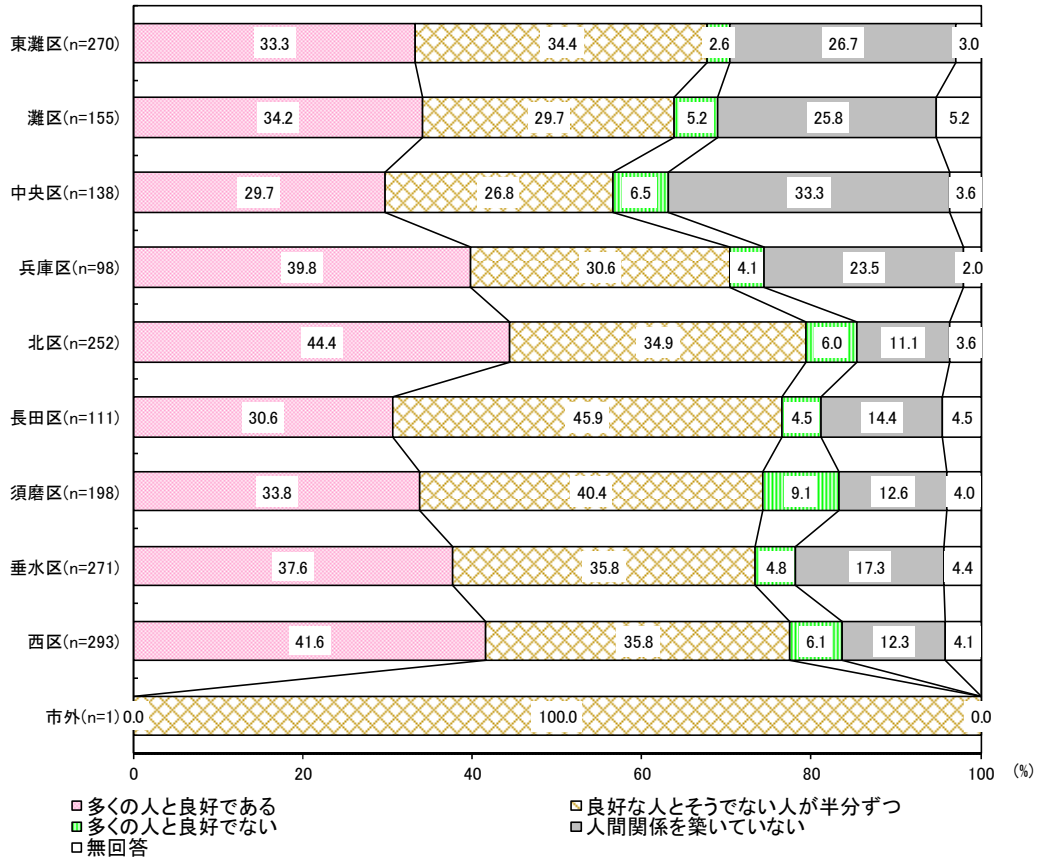
【図表1-3-4 居住区別 人間関係の構築について】

<ア. 家族や親族>

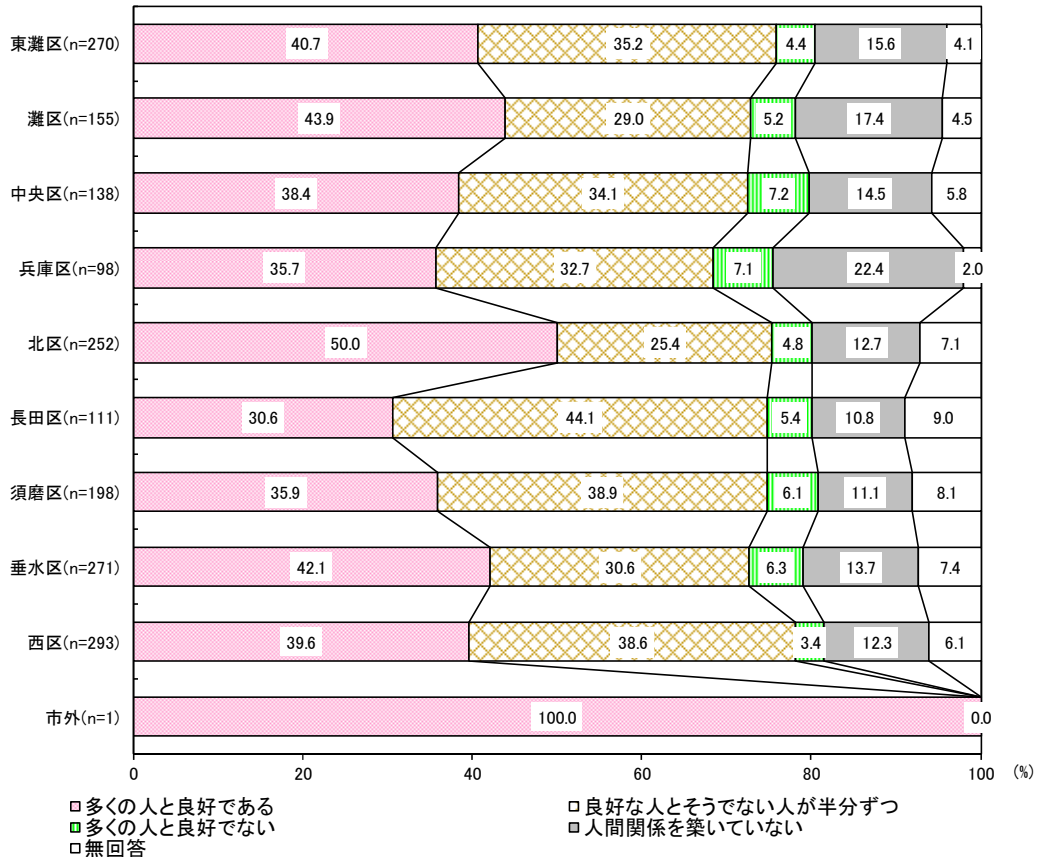


【図表1-3-4 居住区別 人間関係の構築について（続き）】

<イ. 近隣住民>



<ウ. イ（近隣住民）以外の知人>

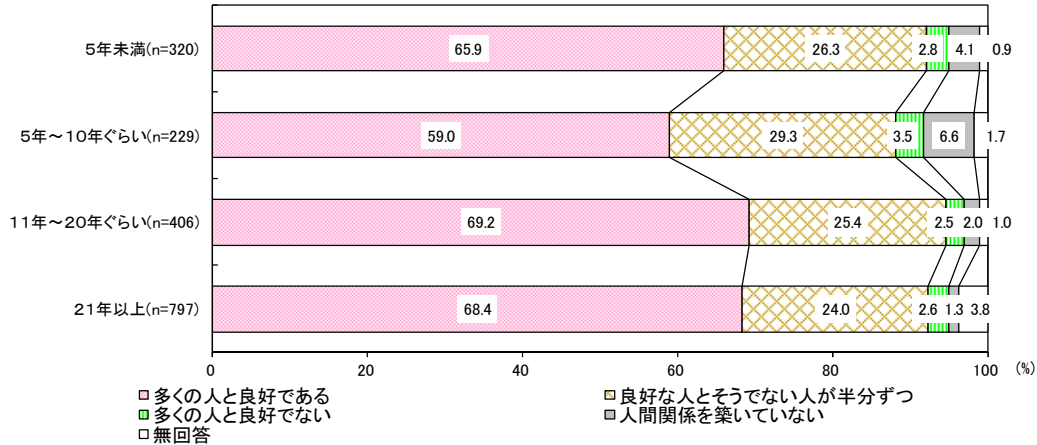


居住年数別でみると、『多くの人と良好である』は、“ア. 家族や親族”で、11年～20年ぐらい(69.2%)、20年以上(68.4%)が多いが、他の居住年数でも59%以上で開きは小さい。“イ. 近隣住民”は、20年以上(43.0%)、11年～20年ぐらい(42.6%)が多く、居住年数が10年までと比べて16ポイントほど高い。“ウ. イ(近隣住民)以外の知人”は、11年～20年ぐらい(45.6%)が最も多い。

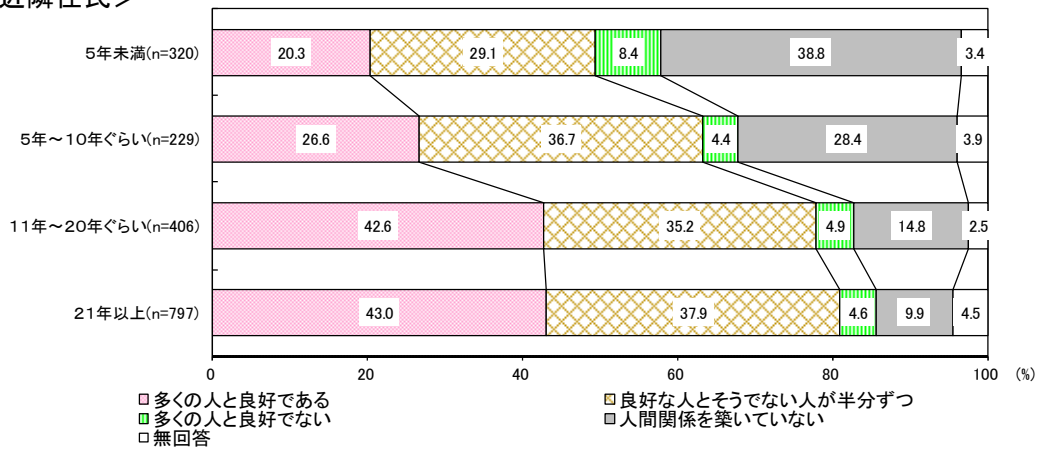
『人間関係を築いていない』は、“イ. 近隣住民”、“ウ. イ(近隣住民)以外の知人”で、居住年数が短いほど割合が高くなっている。(図表1-3-5)

【図表1-3-5 居住年数別 人間関係の構築について】

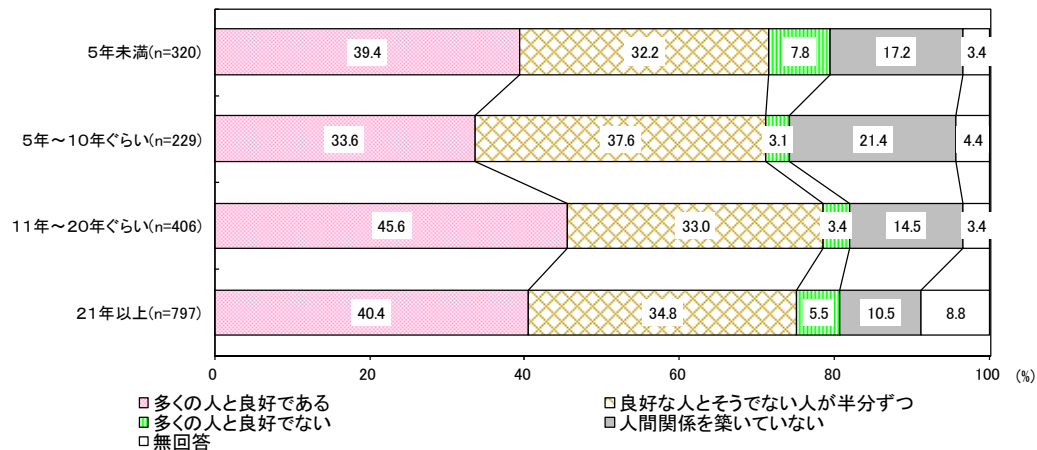
<ア. 家族や親族>



<イ. 近隣住民>



<ウ. イ(近隣住民)以外の知人>

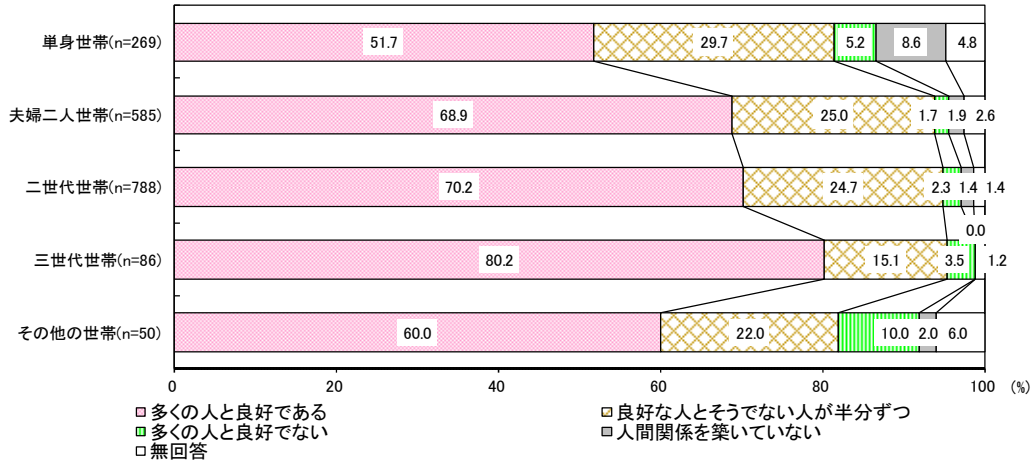


世帯構成別でみると、『多くの人と良好である』は三世帯世帯がすべての項目で一番多い。“ア. 家族や親族”（80.2%）、“イ. 近隣住民”（52.3%）、“ウ. イ（近隣住民）以外の知人”（46.5%）となっている。単身・夫婦二人・二世帯世帯と比べて高い割合となっている。

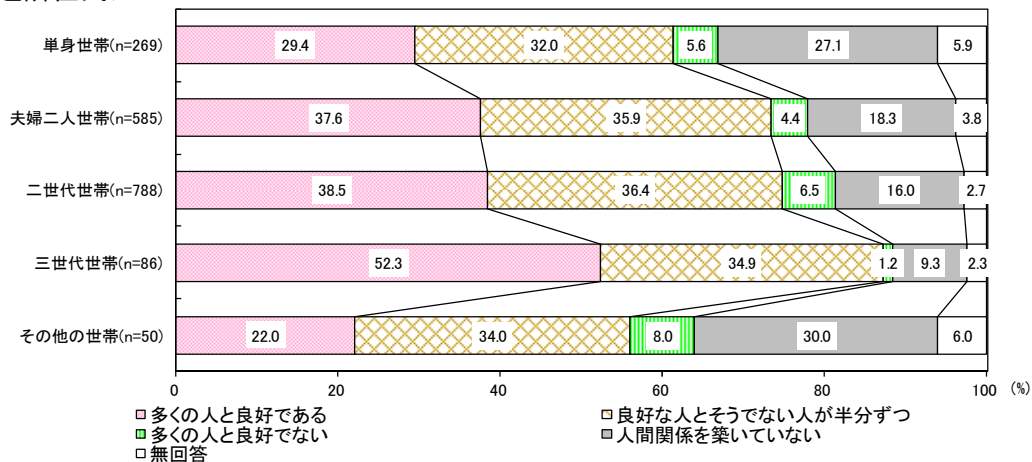
『人間関係を築いていない』は、“ア. 家族や親族”と“イ. 近隣住民”で、単身世帯が、夫婦二人・二世帯世帯・三世帯世帯と比べて高い割合となっている。（図表1-3-6）

【図表1-3-6 世帯構成別 人間関係の構築について】

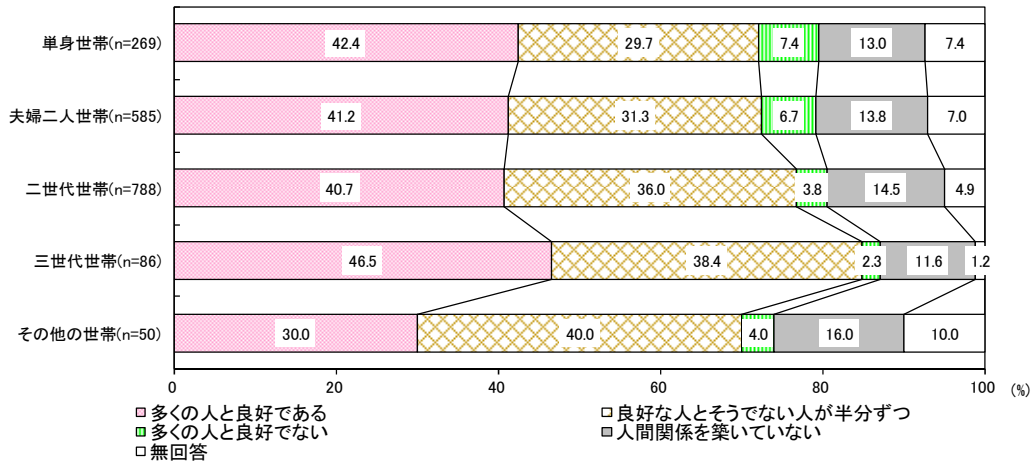
<ア. 家族や親族>



<イ. 近隣住民>



<ウ. イ（近隣住民）以外の知人>

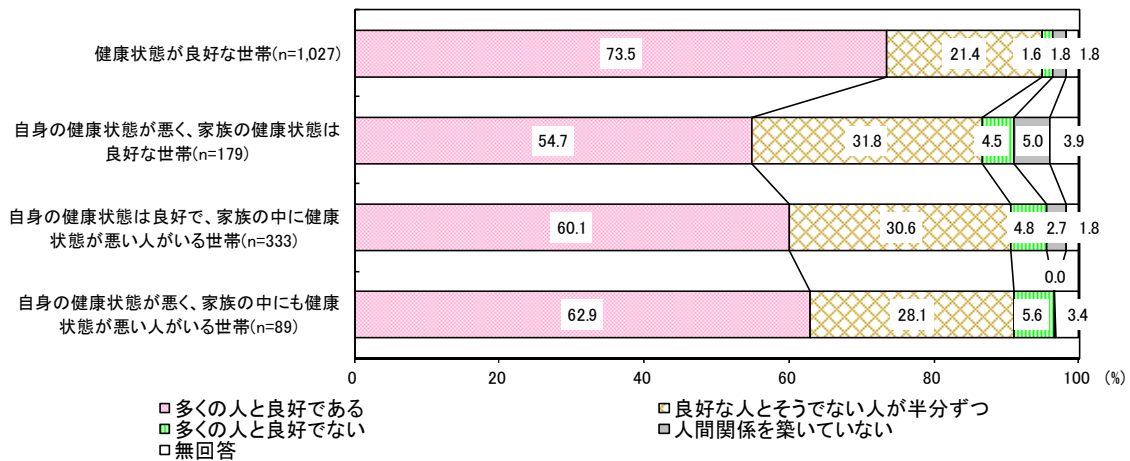


健康状態別でみると、『多くの人と良好である』は、“ア. 家族や親族”で、健康状態が良好な世帯（73.5%）が最も多く、他の健康状態と比べて10ポイント以上高い割合となっている。“イ. 近隣住民”、“ウ. イ（近隣住民）以外の知人”も、健康状態が良好な世帯が最も多いが、他の健康状態と比べて割合の開きは小さい。

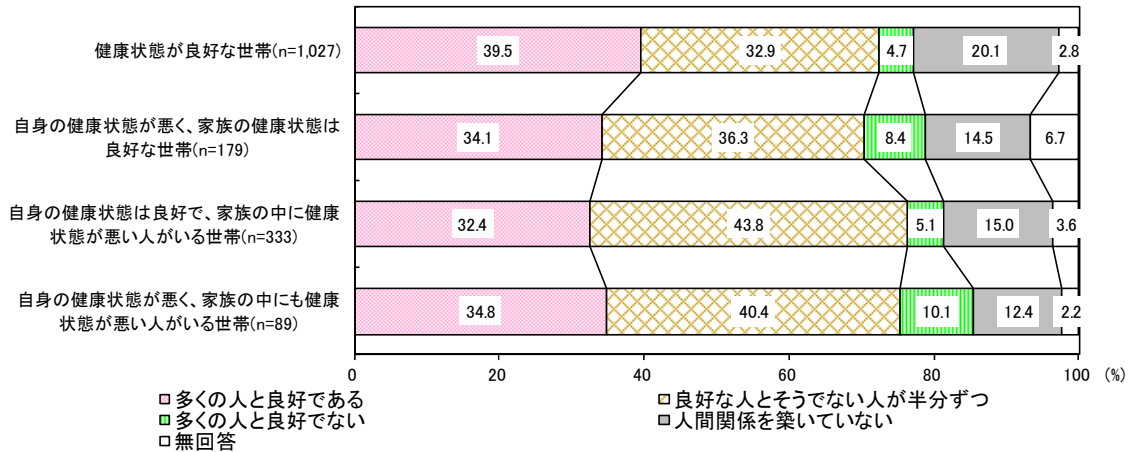
『人間関係を築いていない』は、“イ. 近隣住民”で、健康状態が良好な世帯（20.1%）が最も多い。“ウ. イ（近隣住民）以外の知人”は、自身の健康状態が悪く、家族の健康状態は良好な世帯（19.0%）が最も多い。（図表1-3-7）

【図表1-3-7 健康状態別 人間関係の構築について】

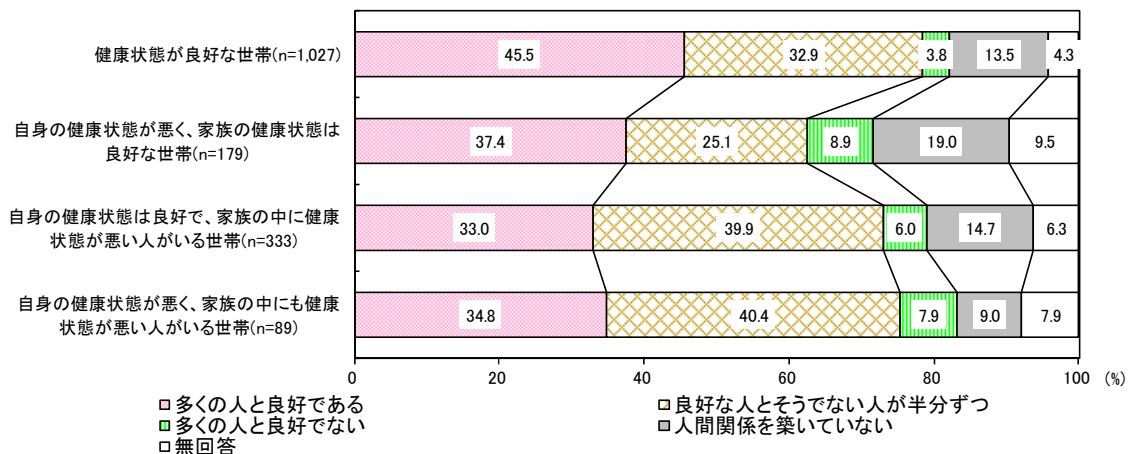
<ア. 家族や親族>



<イ. 近隣住民>



<ウ. イ（近隣住民）以外の知人>

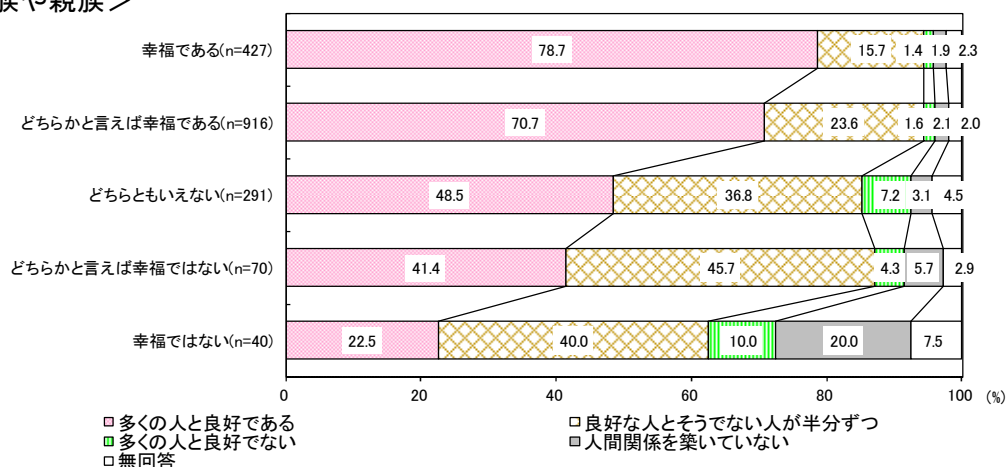


主観的幸福感別でみると、“ア．家族や親族”で、『多くの人と良好である』は、幸福である（78.7%）が最も多く、幸福の度合いが悪くなるほど低い割合となっている。『人間関係を築いていない』は、幸福ではない（20.0%）が他と比べて割合が高い。

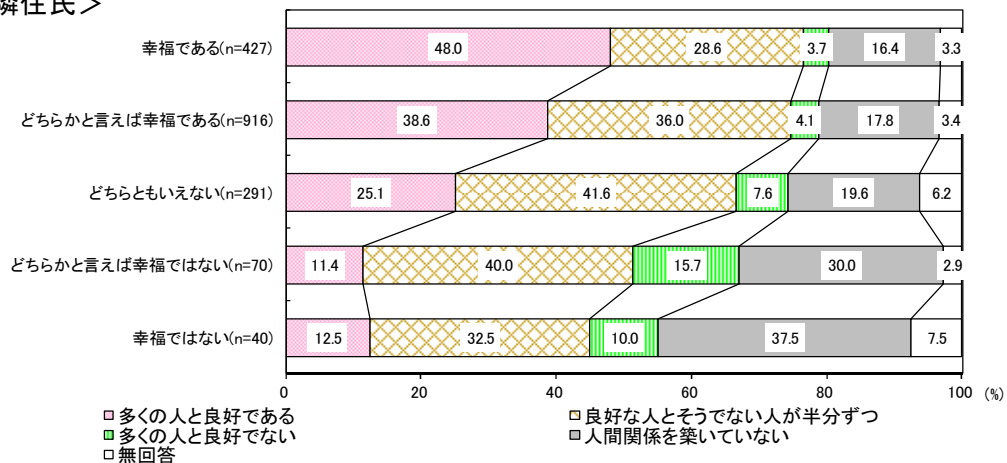
“イ．近隣住民”、“ウ．イ（近隣住民）以外の知人”でも、『多くの人と良好である』は、“ア．家族や親族”と同じ傾向で幸福の度合いが悪くなるほど低い割合となっている。また、『人間関係を築いていない』は、「幸福ではない」が30%を超え高い割合となっている。（図表1-3-8）

【図表1-3-8 主観的幸福感別 人間関係の構築について】

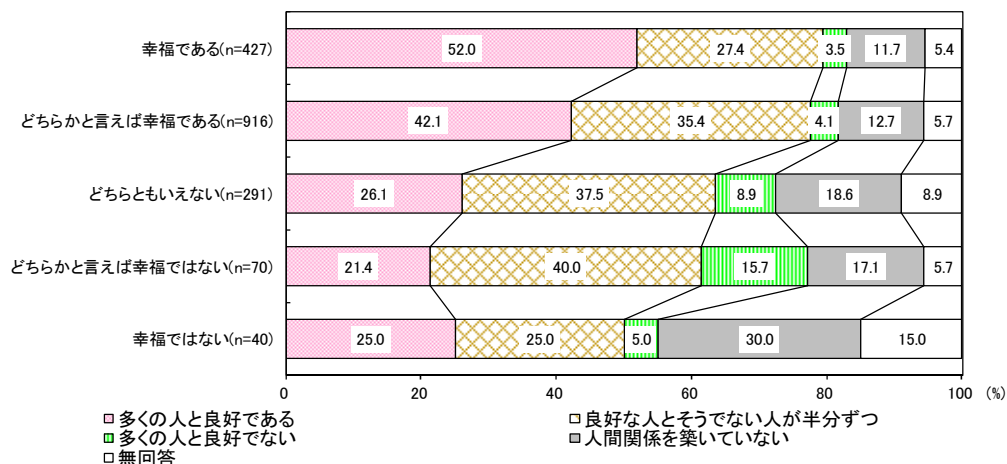
<ア．家族や親族>



<イ．近隣住民>



<ウ．イ（近隣住民）以外の知人>

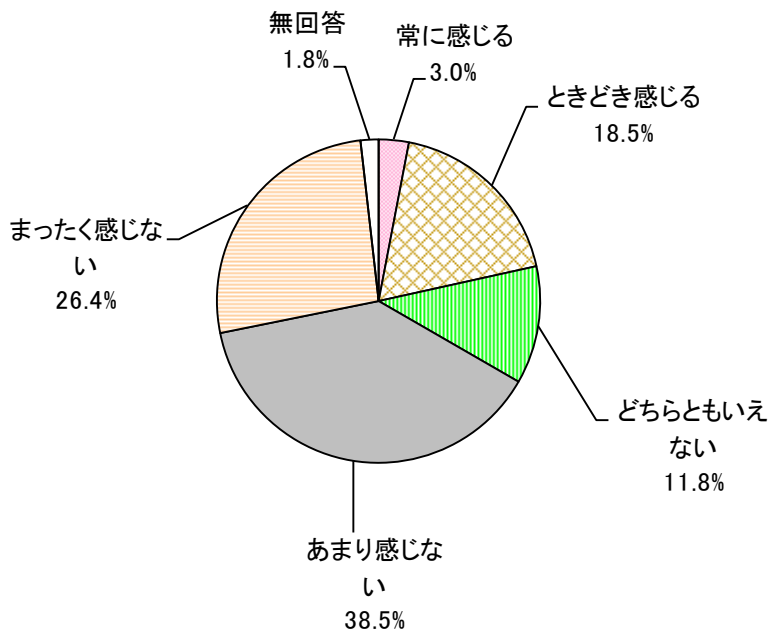


(4) 孤独であると感じるか

問4 あなたは現在、孤独であると感じますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

【図表1-4 孤独であると感じるか】

(n=1,828)



孤独であると感じるかについて、「まったく感じない」・「あまり感じない」を合わせた割合（以下、『孤独と感じない』割合）は64.9%であるのに対し、「常に感じる」・「ときどき感じる」を合わせた割合（以下、『孤独と感じる』割合）は21.5%となっている。（図表1-4）

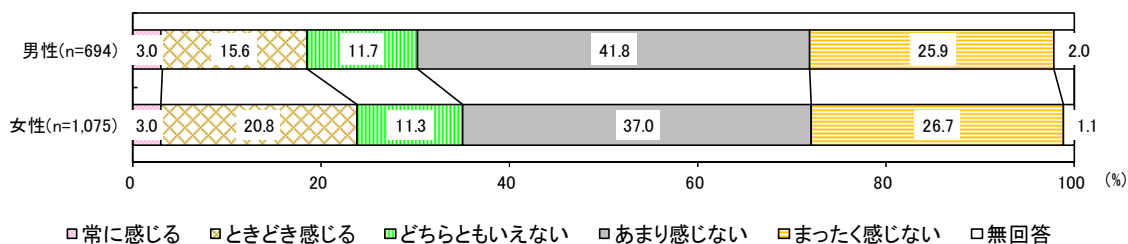
性別でみると、『孤独と感じない』割合は、男性（67.7%）、女性（63.7%）で、男女共60%を超えている。

『孤独と感じる』割合は、男性（18.6%）に比べて、女性（23.8%）で5.2ポイント高い。

「まったく感じない」は、男女共26%前後で、ほぼ同じ割合となっている。

（図表1-4-1）

【図表1-4-1 性別 孤独であると感じるか】

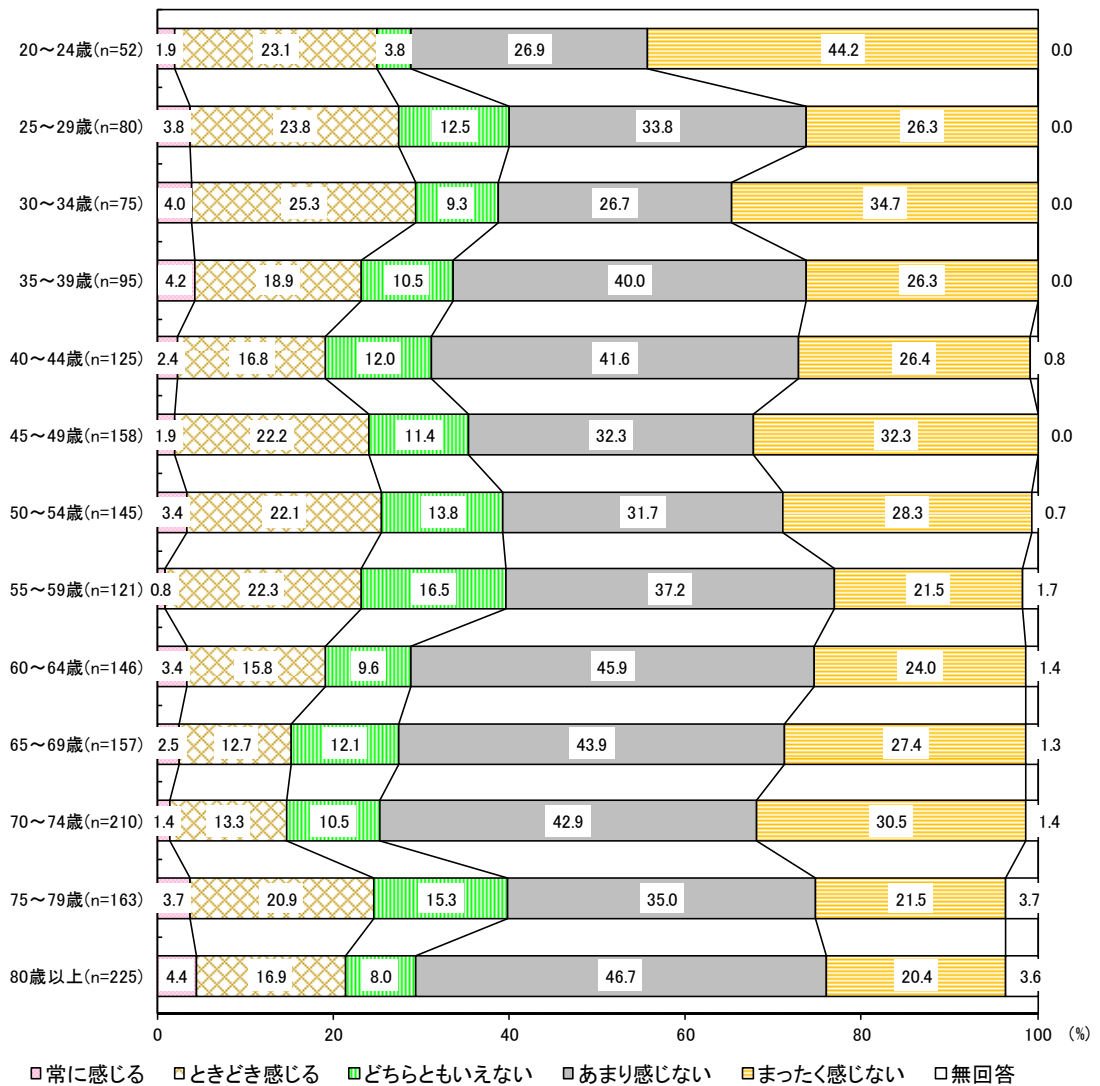


年代別でみると、『孤独と感しない』割合は、75～79歳（56.4%）を除く年代では、全体の60%を超えている。

『孤独を感じる』割合は、30～34歳（29.3%）が最も多く、70～74歳（14.8%）が最も少ない。

「まったく感しない」は、20～24歳（44.2%）が最も多く、80歳以上（20.4%）が最も少ない。（図表1-4-2）

【図表1-4-2 年代別 孤独であると感じるか】

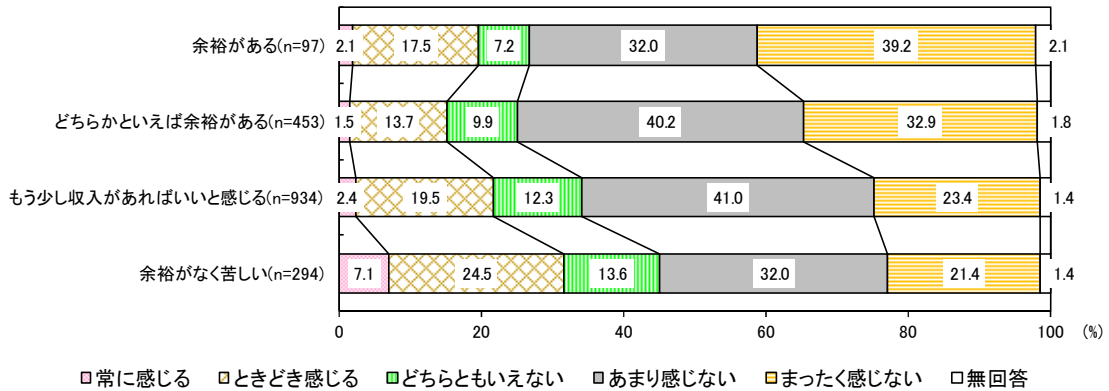


経済状況別でみると、『孤独と感しない』割合は、どちらかといえば余裕がある（73.1%）が最も多く、次いで、余裕がある（71.1%）となっており、余裕がなく苦しい（53.4%）が最も少ない。

『孤独と感する』割合は、余裕がなく苦しい（31.6%）が最も多く、どちらかといえば余裕がある（15.2%）が最も少ない。

「まったく感しない」は、余裕がある（39.2%）が最も多い。（図表1-4-3）

【図表1-4-3 経済状況別 孤独であると感するか】

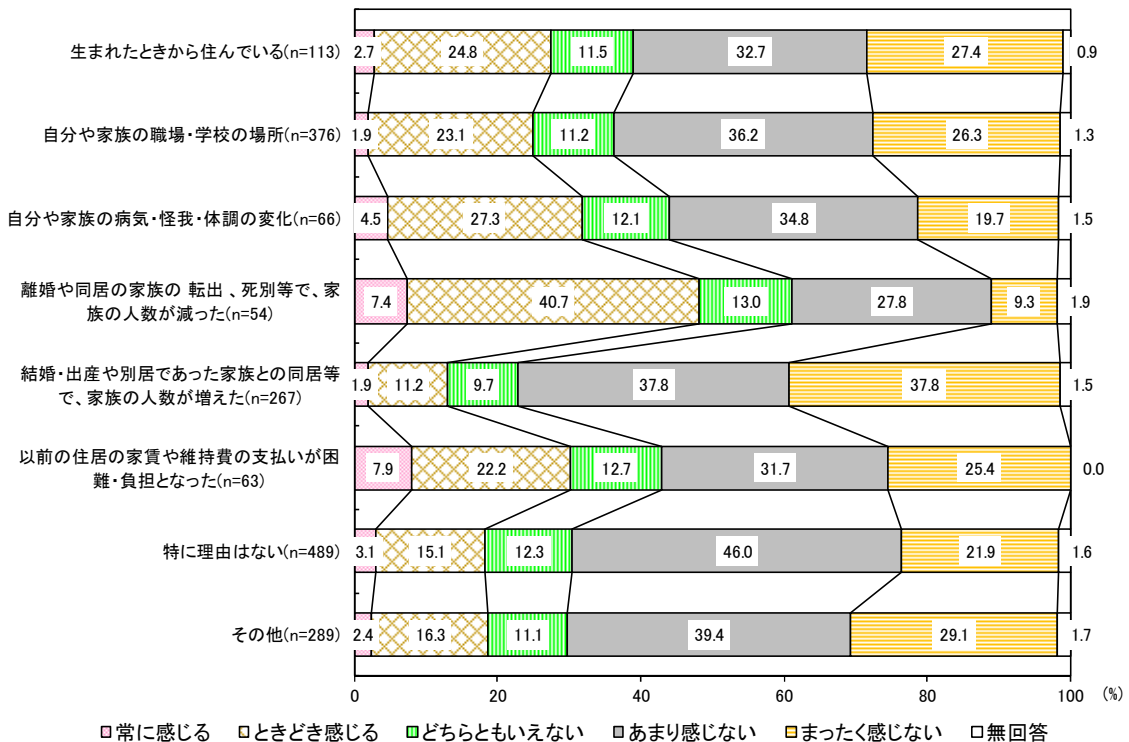


転入理由別でみると、『孤独と感しない』割合は、結婚・出産や別居であった家族との同居等で、家族の人数が増えた（75.7%）が最も多く、離婚や同居の家族の転出、死別等で、家族の人数が減った（37.1%）が最も少ない。

『孤独と感する』割合は、離婚や同居の家族の転出、死別等で、家族の人数が減った（48.1%）が最も多く、次に多い、自分や家族の病気・怪我・体調の変化（31.8%）と比べると16.3ポイントも高い。

「まったく感しない」は、結婚・出産や別居であった家族との同居等で、家族の人数が増えた（37.8%）が最も多い。（図表1-4-4）

【図表1-4-4 転入理由別 孤独であると感するか】

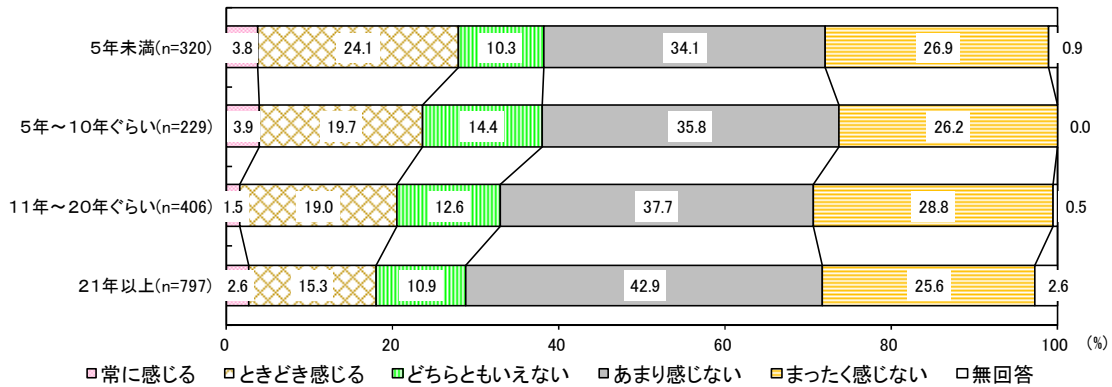


居住年数別でみると、『孤独と感じない』割合は、21年以上(68.5%)が最も多く、居住年数が長くなるほど高い割合となっている。

『孤独と感じる』割合は、5年未満(27.8%)が最も多く、居住年数が短くなるほど高い割合となっている。

「まったく感じない」は、11年～20年ぐらい(28.8%)が最も多い。(図表1-4-5)

【図表1-4-5 居住年数別 孤独であると感じるか】

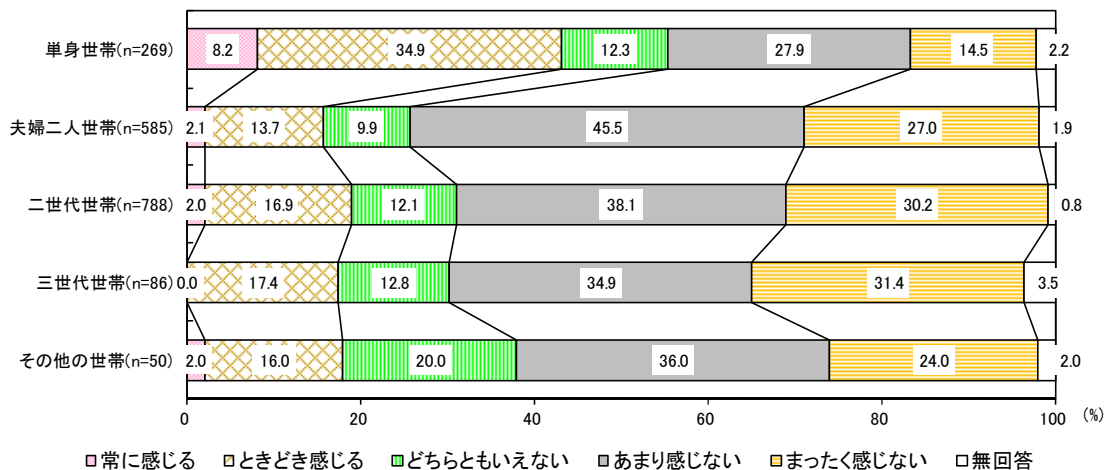


世帯構成別でみると、『孤独と感じない』割合は、夫婦二世帯(72.5%)が最も多く、単身世帯(42.4%)が少ない。

『孤独と感じる』割合は、単身世帯(43.1%)が最も多く、夫婦二人・二世帯世帯・三世帯世帯と比べて割合が突出して高い。

「まったく感じない」は、三世帯世帯(31.4%)、二世帯世帯(30.2%)が多く、単身世帯(14.5%)が最も少ない。(図表1-4-6)

【図表1-4-6 世帯構成別 孤独であると感じるか】

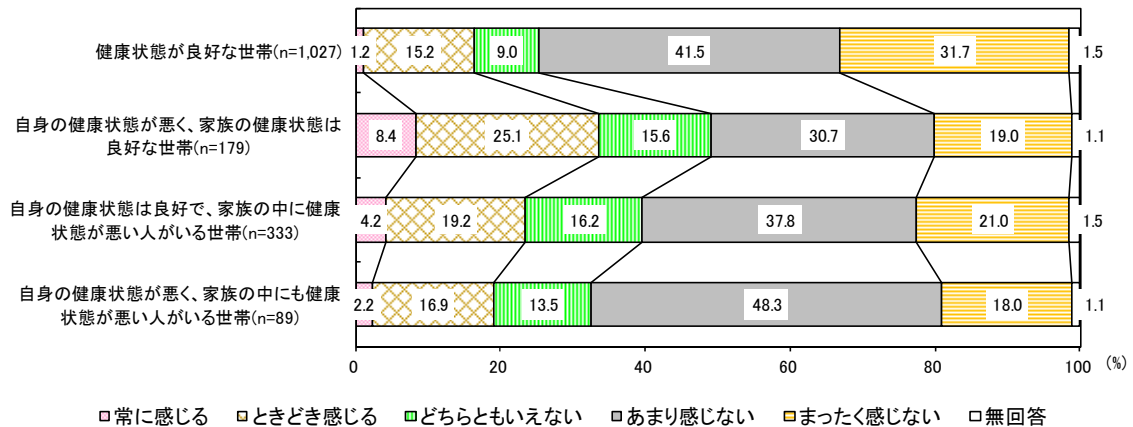


健康状態別でみると、『孤独と感しない』割合は、健康状態が良好な世帯（73.2%）が最も多く、自身の健康状態が悪く、家族の健康状態は良好な世帯（49.7%）が最も少ない。

『孤独と感する』割合は、自身の健康状態が悪く、家族の健康状態は良好な世帯（33.5%）が最も多く、健康状態が良好な世帯（16.4%）が最も少ない。

「まったく感しない」は、健康状態が良好な世帯（31.7%）が最も多く、他の健康状態と比べて10ポイント以上高い割合となっている。（図表1-4-7）

【図表1-4-7 健康状態別 孤独であると感するか】

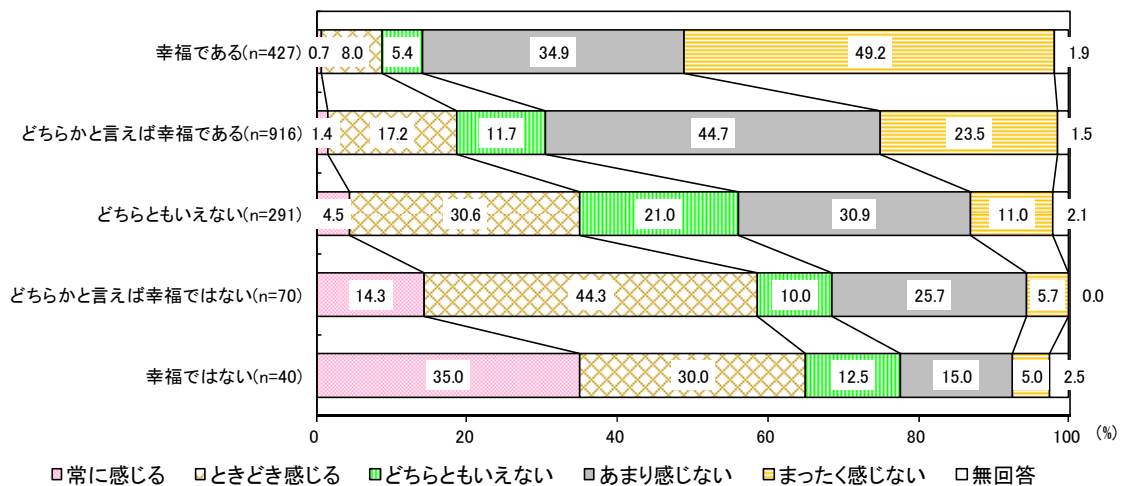


主観的幸福感別でみると、『孤独と感しない』割合は、幸福である（84.1%）が最も多く、幸福の度合いが悪くなるほど低い割合となっている。また、幸福ではない（20.8%）が他と比べて割合が突出して低い。

『孤独と感する』割合は、幸福ではない（65.0%）、どちらかと言えば幸福ではない（58.6%）が多く、幸福である（8.7%）が最も少ない。

「まったく感しない」も、幸福の度合いが悪くなるほど低い割合となっている。（図表1-4-8）

【図表1-4-8 主観的幸福感別 孤独であると感するか】

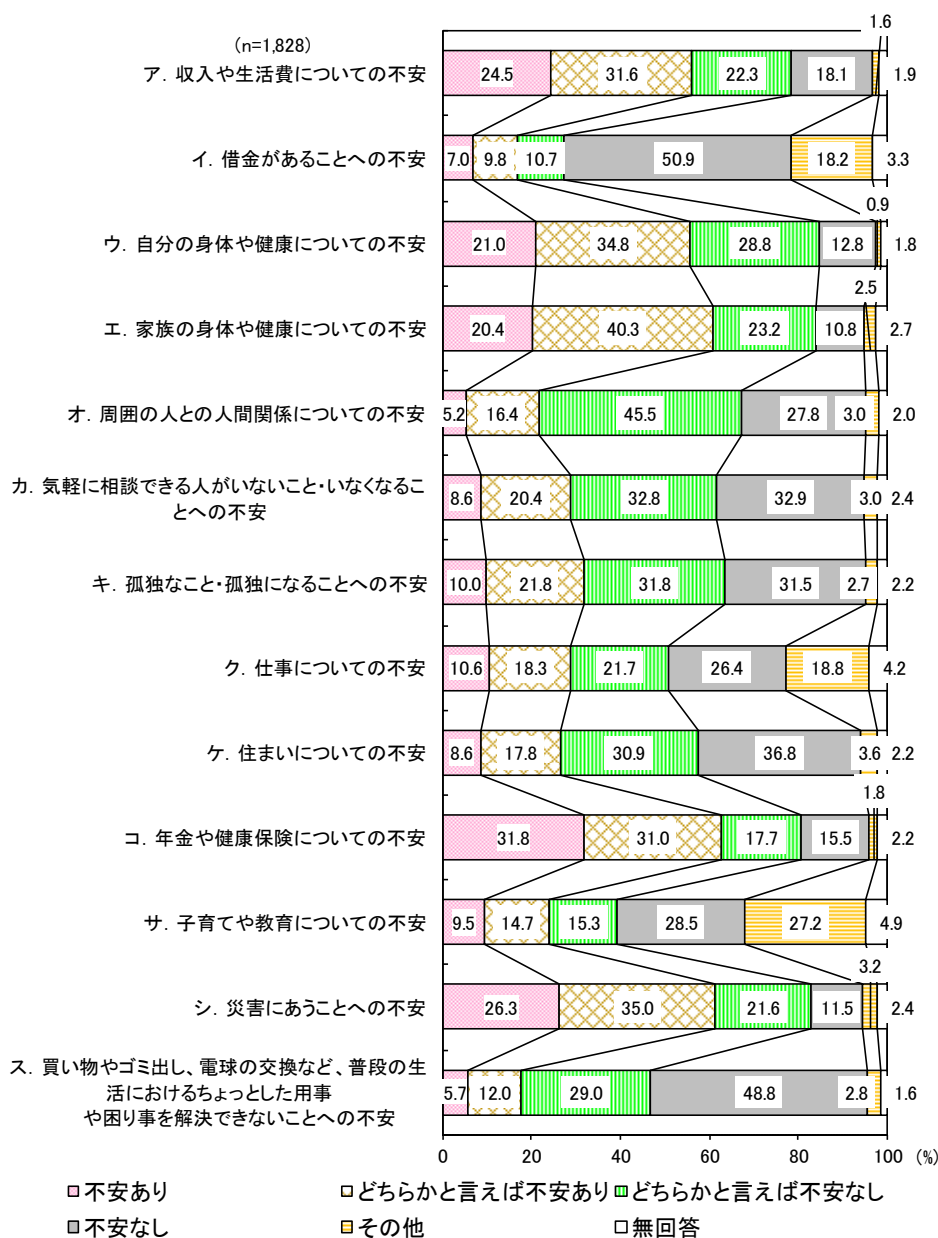


2. 日常生活上の不安について

(1) 日常生活上の不安

問5 あなたは、現在不安に思っていることがありますか。ア～スのそれぞれの項目について、あてはまるものを1つずつ選んで番号に○をつけてください。

【図表2-1 日常生活上の不安】



日常生活上の不安について、「不安あり」と「どちらかと言えば不安あり」を合わせた『不安あり』の割合（以下、『不安あり』割合）では、“コ. 年金や健康保険のこと”（62.8%）が最も高く、次いで“シ. 災害に合うことへの不安”（61.3%）、“エ. 家族の身体や健康についての不安”（60.7%）、“ア. 収入や生活費についての不安”（56.1%）、“ウ. 自分の身体や健康についての不安”（55.8%）の順となっており、それぞれ過半数を占めて高くなっている。（図表2-1）

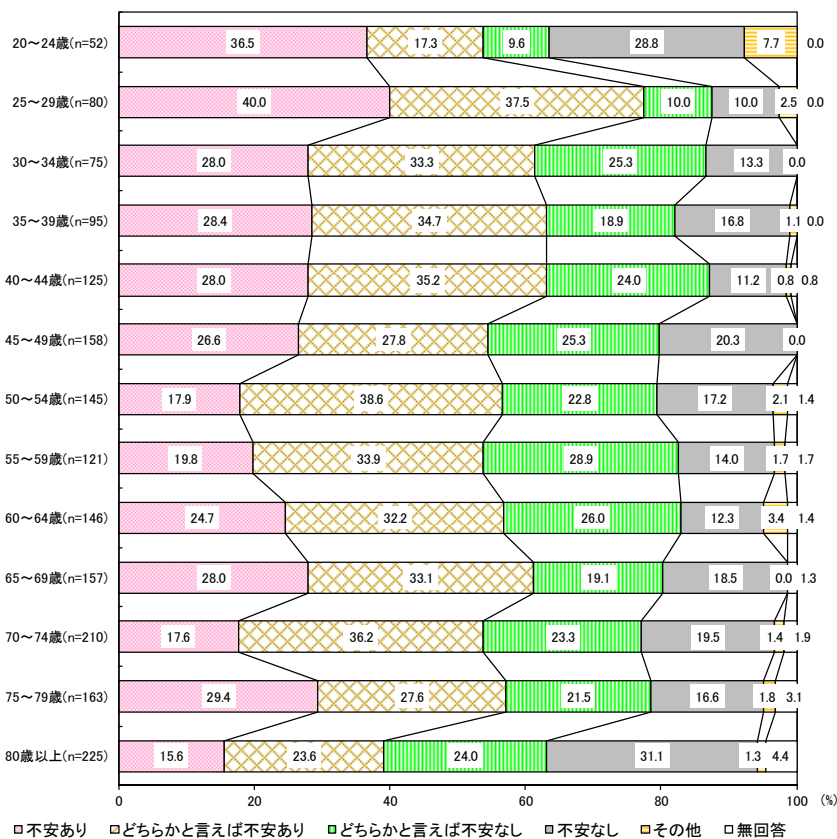
年代別でみると、全体的に若い年代層で『不安あり』割合が多い。“ウ. 自分の身体や健康についての不安”、“キ. 孤独なこと・孤独になることへの不安”、“ス. 買い物やゴミ出し、電球の交換など、普段の生活におけるちょっとした用事や困り事を解決できないことへの不安”の『不安あり』割合は高い年代層が多くなっている。

“ク. 仕事についての不安”、“コ. 年金や健康保険についての不安”は年代が上がるほど少なくなっている傾向がある。“ウ. 自分の身体や健康についての不安”は、年代が上がるほど多くなっている傾向がある。“サ. 子育てや教育についての不安”は、20～49歳が5割前後と多く、50歳以上で急落する。

“オ. 周囲の人との人間関係についての不安”、“カ. 気軽に相談できる人がいないこと・いなくなることへの不安”、“ケ. 住まいについての不安”、“ス. 買い物やゴミ出し、電球の交換など、普段の生活におけるちょっとした用事や困り事を解決できないことへの不安”は「不安なし」・「どちらかと言えば不安なし」を合わせた『不安なし』の割合（以下、『不安なし』割合）は全世代において6割を超えている。（図表2-1-1）

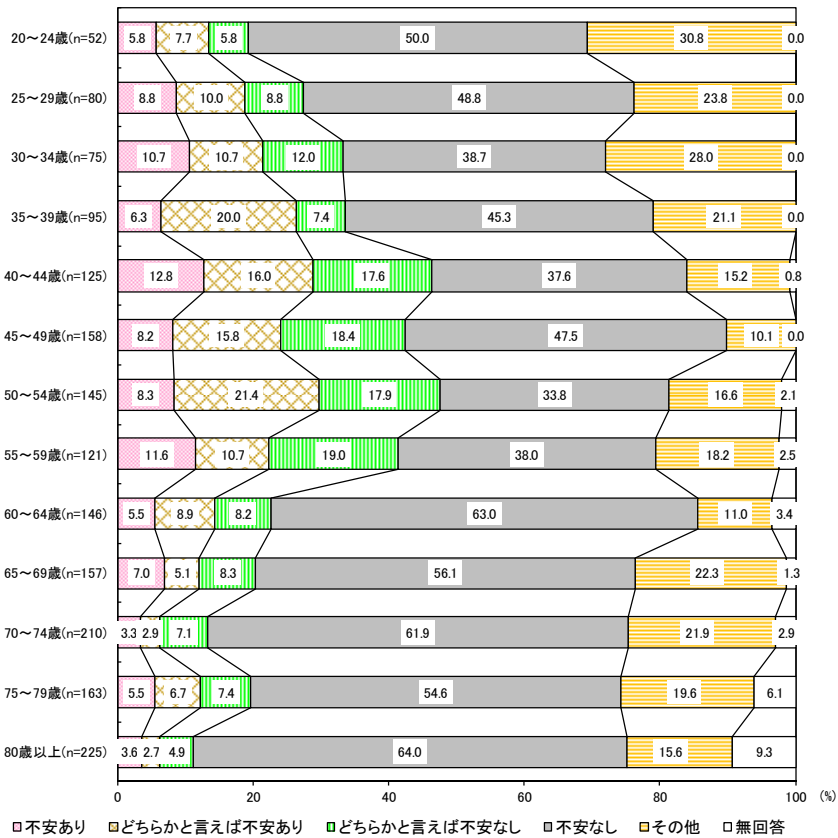
【図表2-1-1 年代別 日常生活上の不安】

＜ア. 収入や生活費についての不安＞

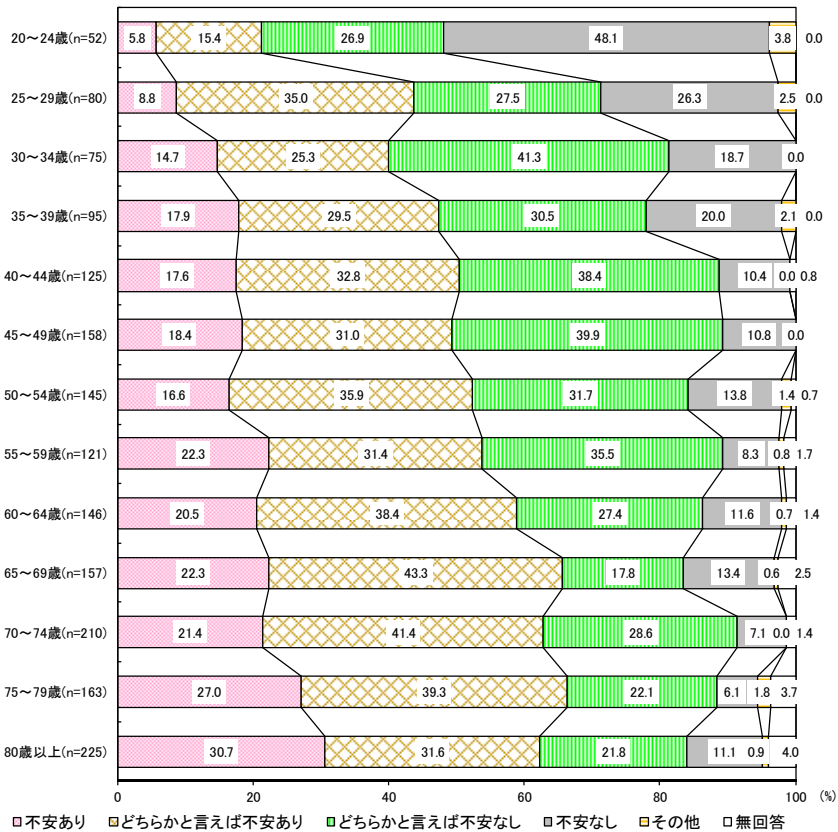


【図表2-1-1 年代別 日常生活上の不安（続き）】

<イ. 借金があることへの不安>

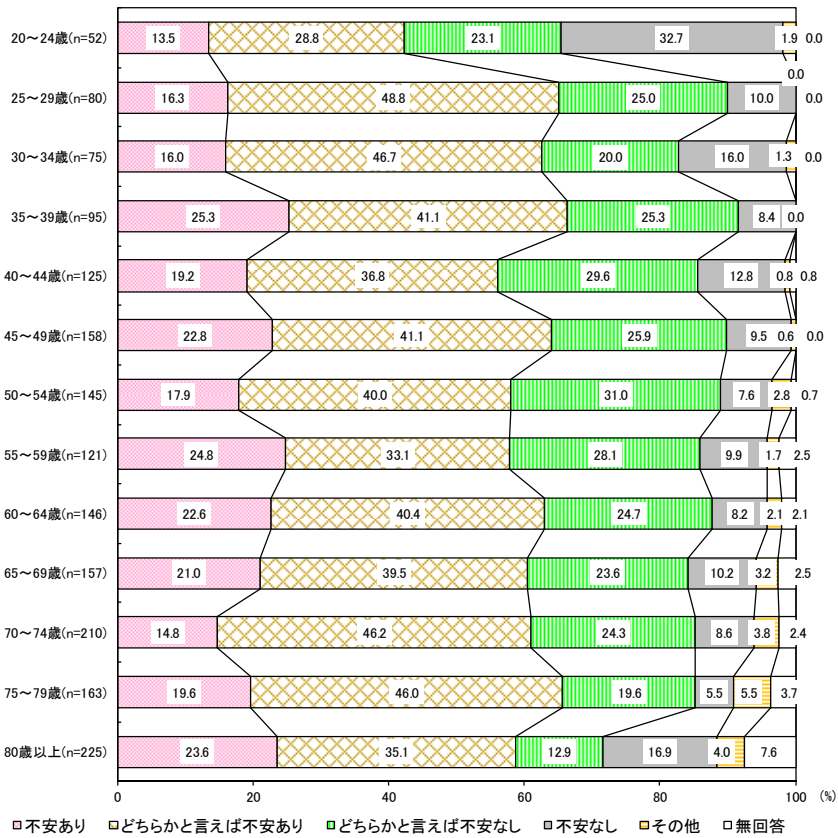


<ウ. 自分の身体や健康についての不安>

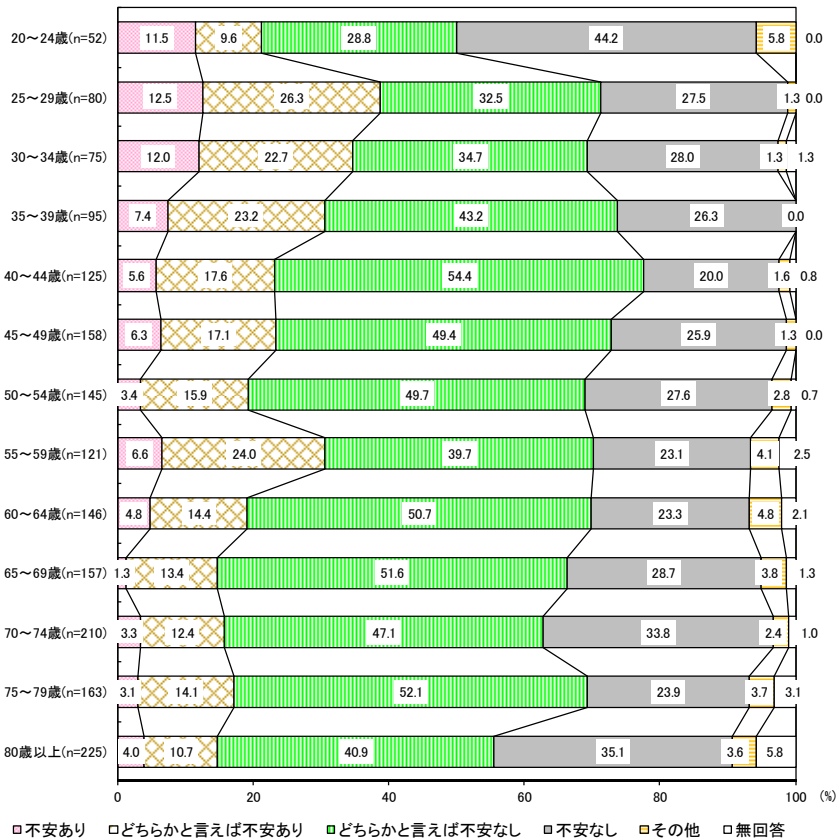


【図表2-1-1 年代別 日常生活上の不安（続き）】

<エ. 家族の身体や健康についての不安>

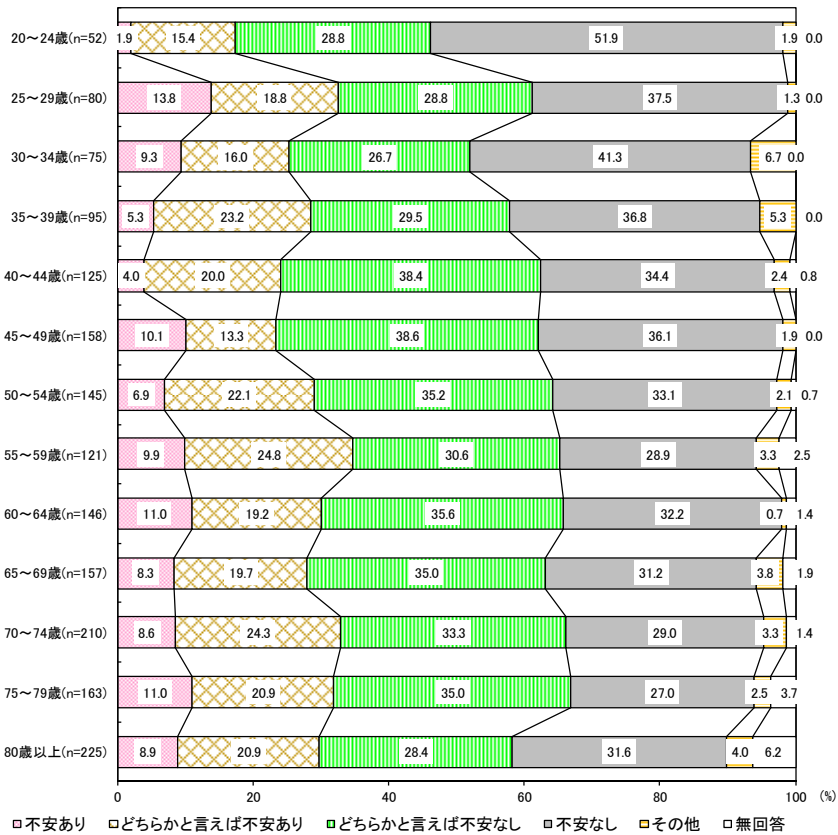


<オ. 周囲の人との人間関係についての不安>

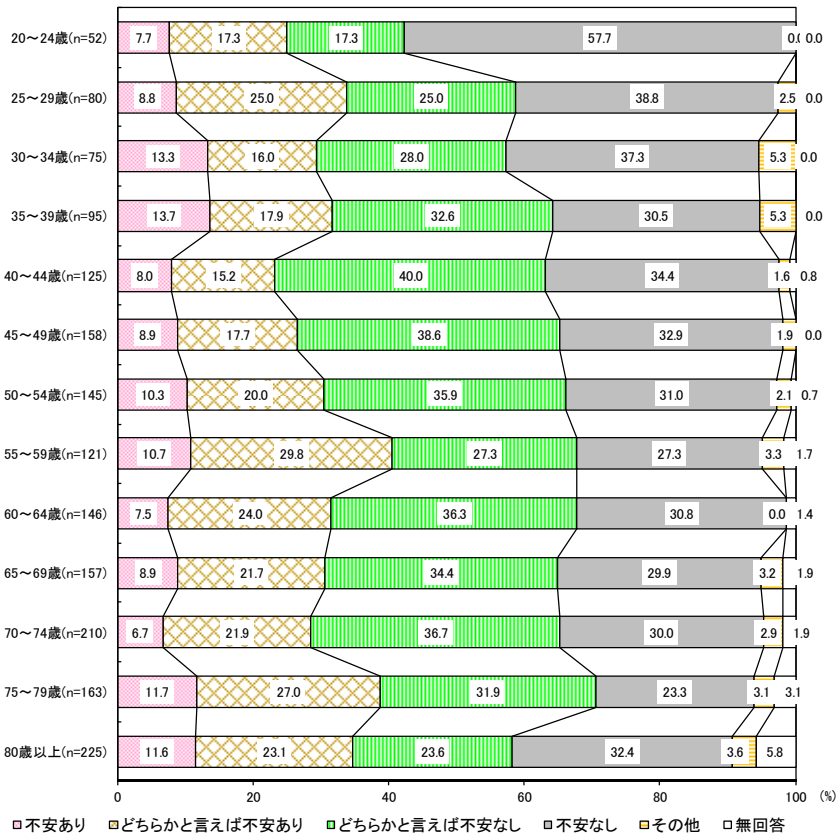


【図表2-1-1 年代別 日常生活上の不安（続き）】

<カ. 気軽に相談できる人がいないこと・いなくなることへの不安>

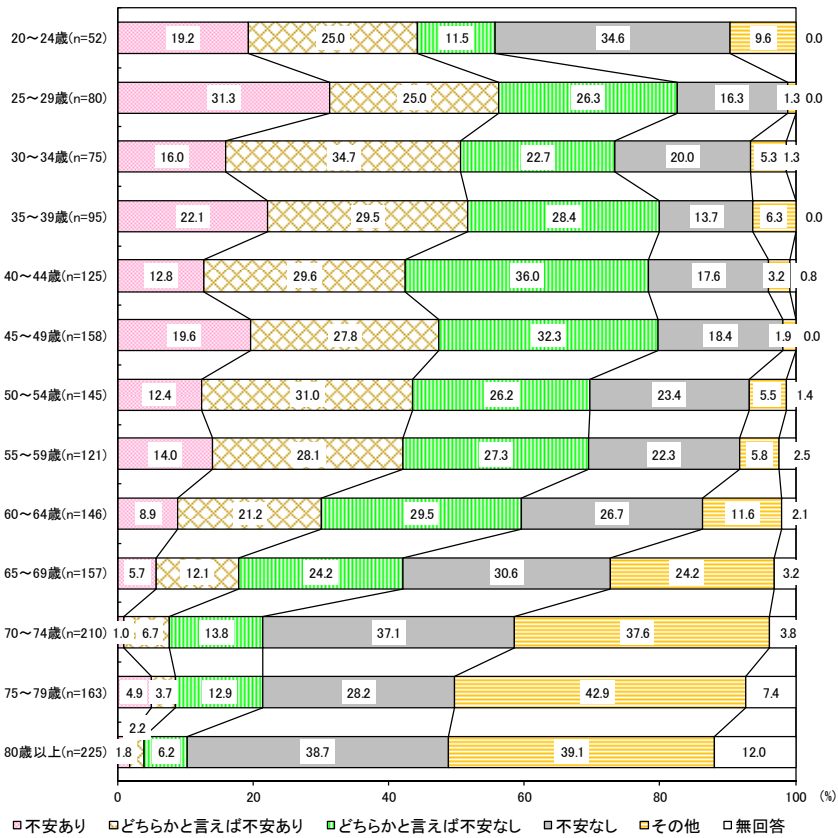


<キ. 孤独なこと・孤独になることへの不安>

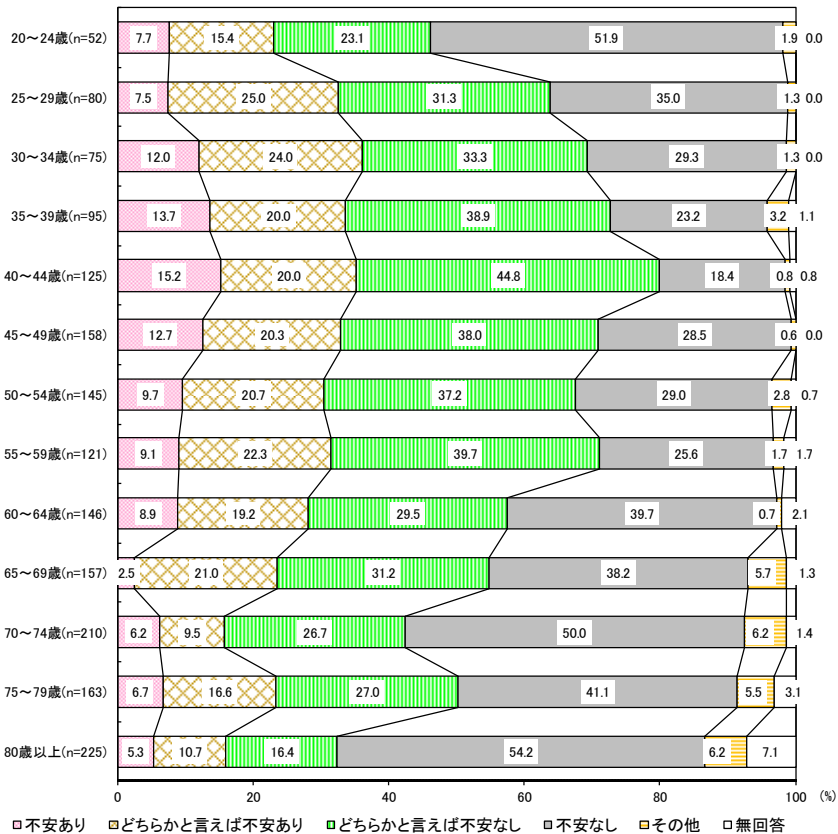


【図表2-1-1 年代別 日常生活上の不安（続き）】

<ク. 仕事についての不安>

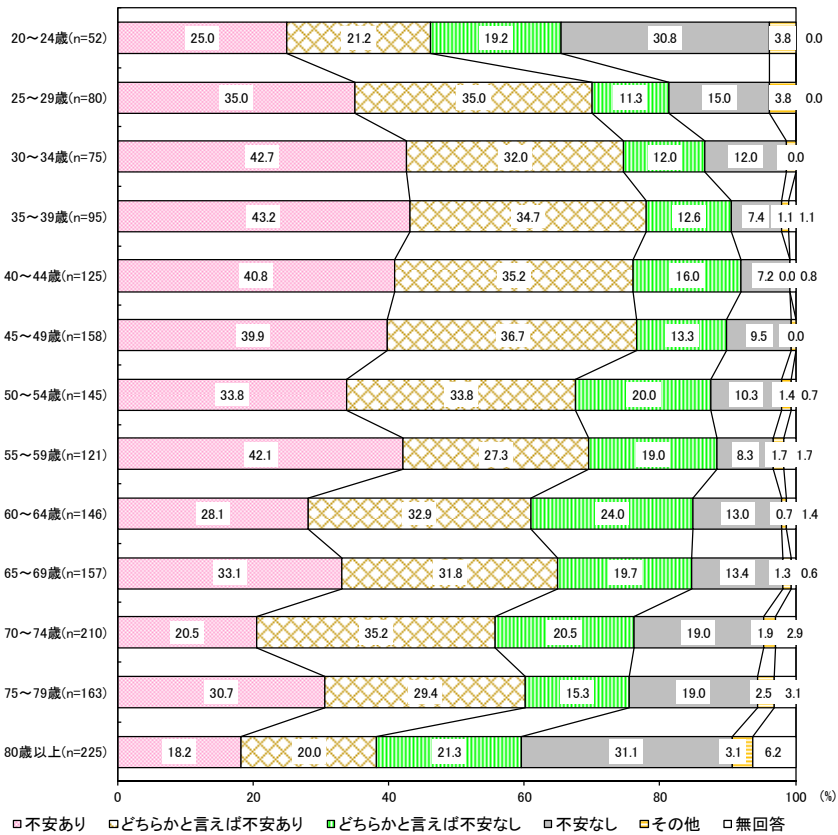


<ケ. 住まいについての不安>

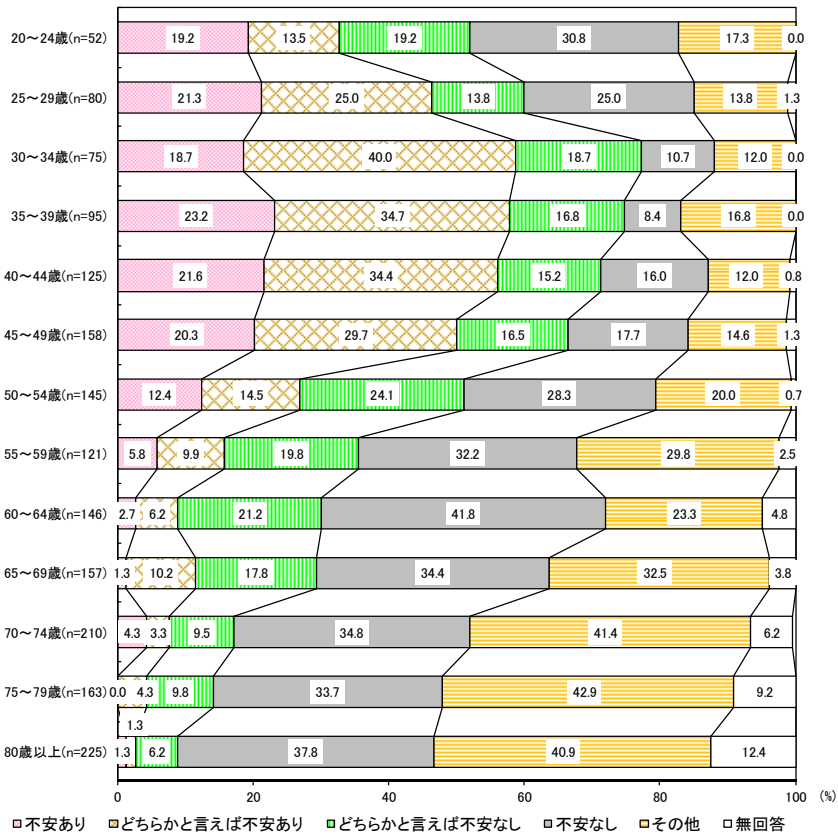


【図表2-1-1 年代別 日常生活上の不安（続き）】

<コ. 年金や健康保険についての不安>

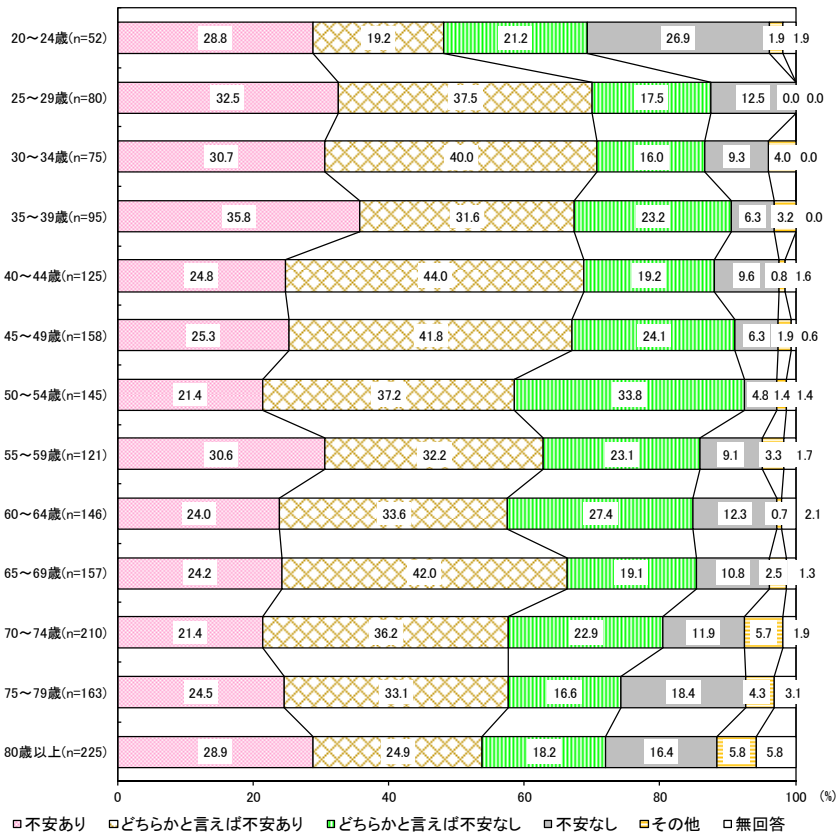


<サ. 子育てや教育についての不安>

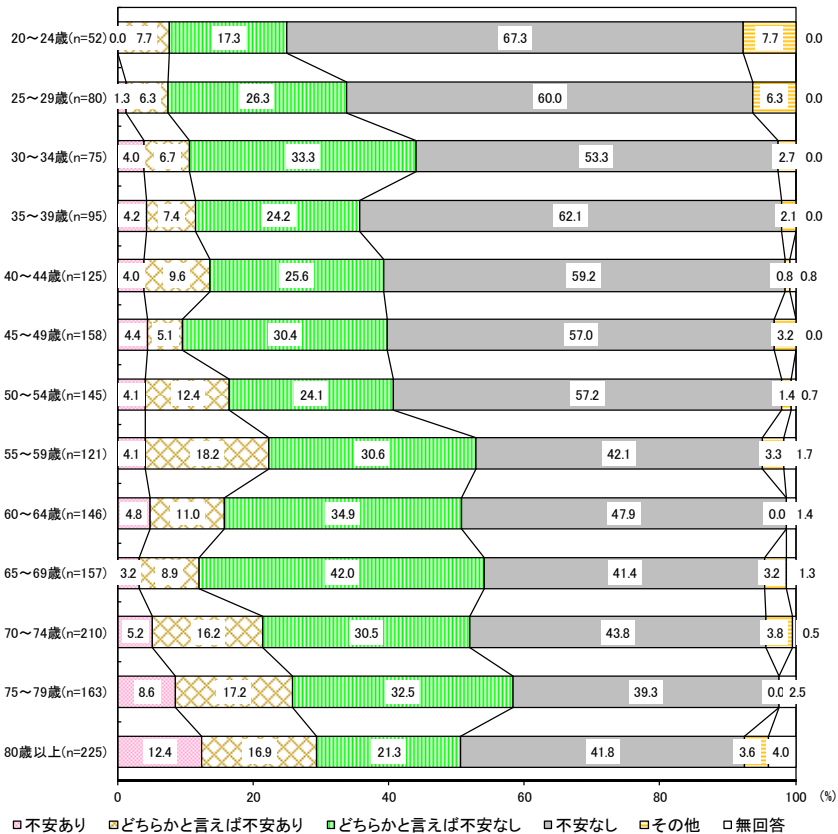


【図表2-1-1 年代別 日常生活上の不安（続き）】

<シ. 災害にあうことへの不安>



<ス. 買い物やゴミ出し、電球の交換など、普段の生活におけるちょっとした用事や困り事を解決できないことへの不安>

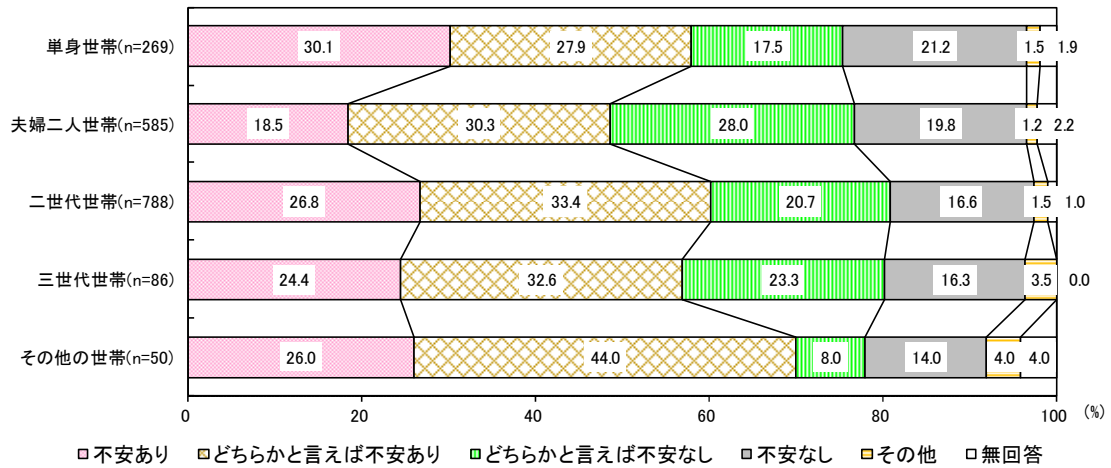


世帯構成別でみると、全体的にその他の世帯で『不安あり』割合が多い。“イ. 借金があることへの不安”、“サ. 子育てや教育についての不安”は、二世帯世帯・三世帯世帯が多い。

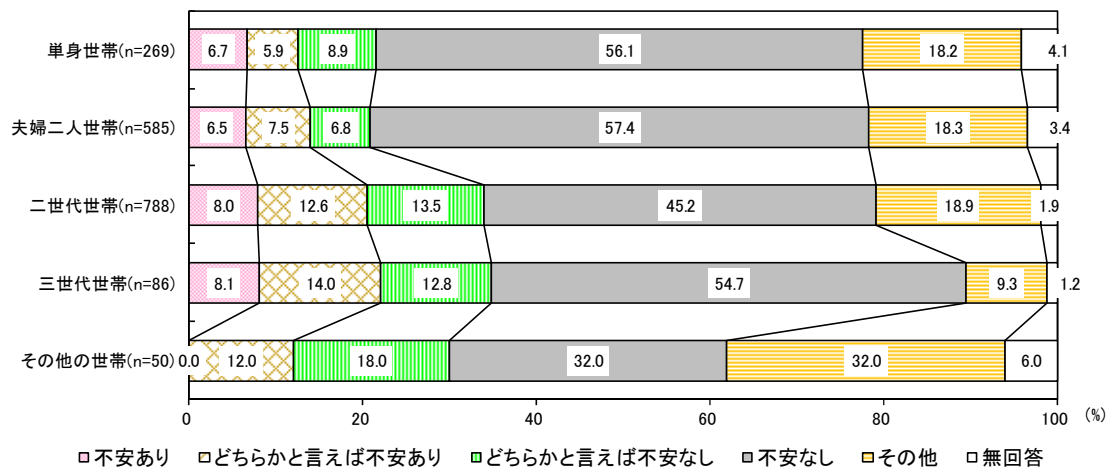
『不安なし』割合は、夫婦二人・二世帯世帯・三世帯世帯で全体的に多い。“イ. 借金があることへの不安”、“エ. 家族の身体や健康についての不安”、“コ. 年金や健康保険についての不安”の『不安なし』割合は単身世帯が多い。(図表2-1-2)

【図表2-1-2 世帯構成別 日常生活上の不安】

<ア. 収入や生活費についての不安>

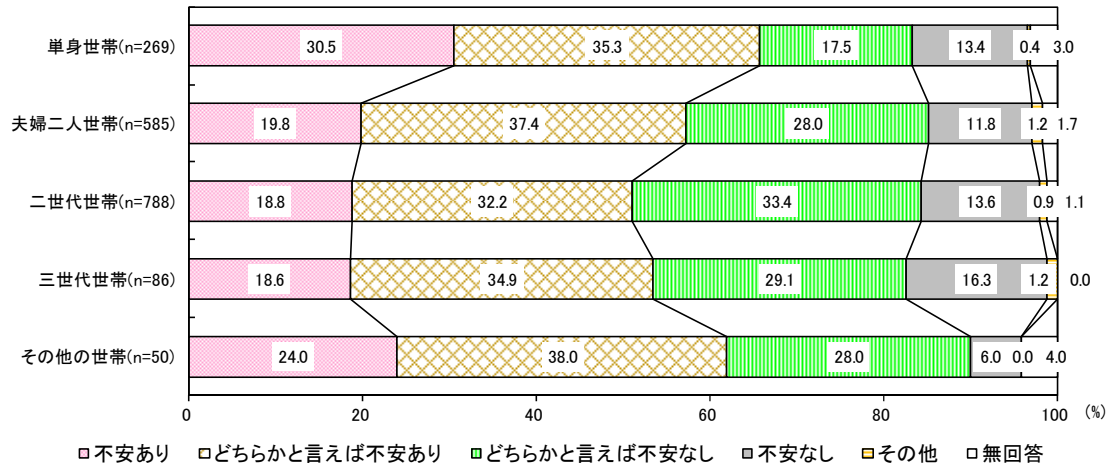


<イ. 借金があることへの不安>

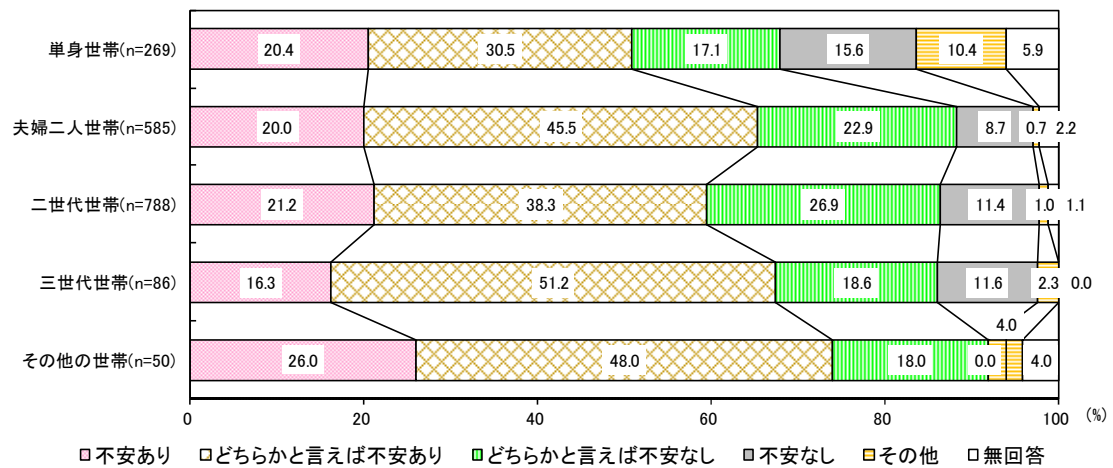


【図表2-1-2 世帯構成別 日常生活上の不安（続き）】

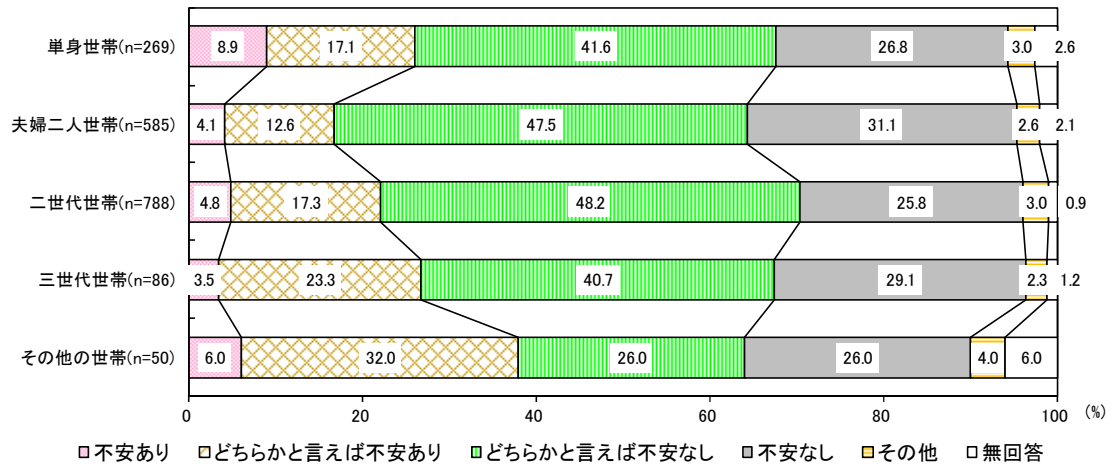
<ウ. 自分の身体や健康についての不安>



<エ. 家族の身体や健康についての不安>

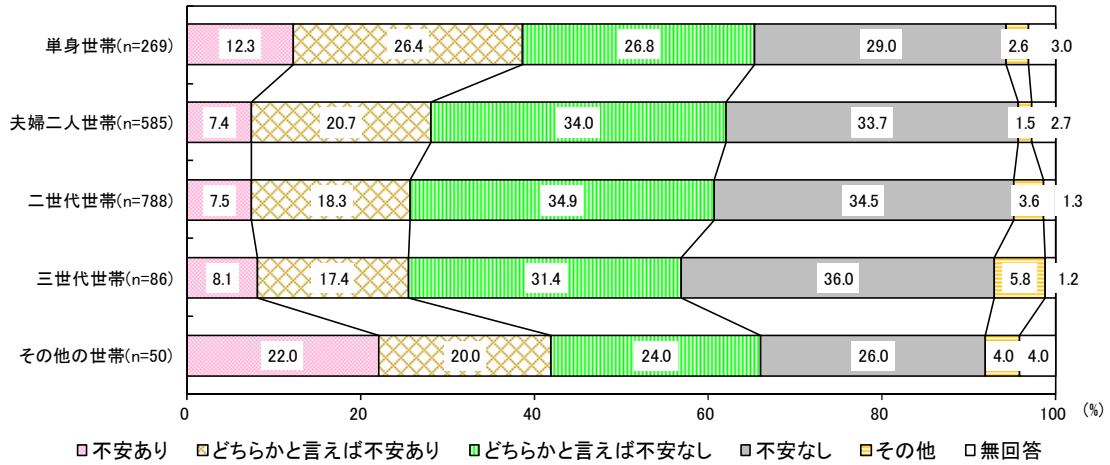


<オ. 周囲の人との人間関係についての不安>

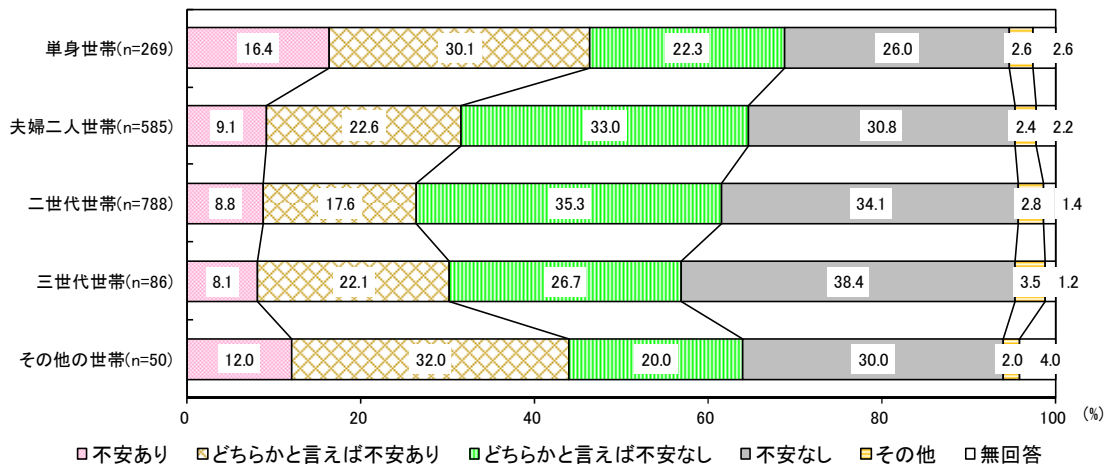


【図表2-1-2 世帯構成別 日常生活上の不安（続き）】

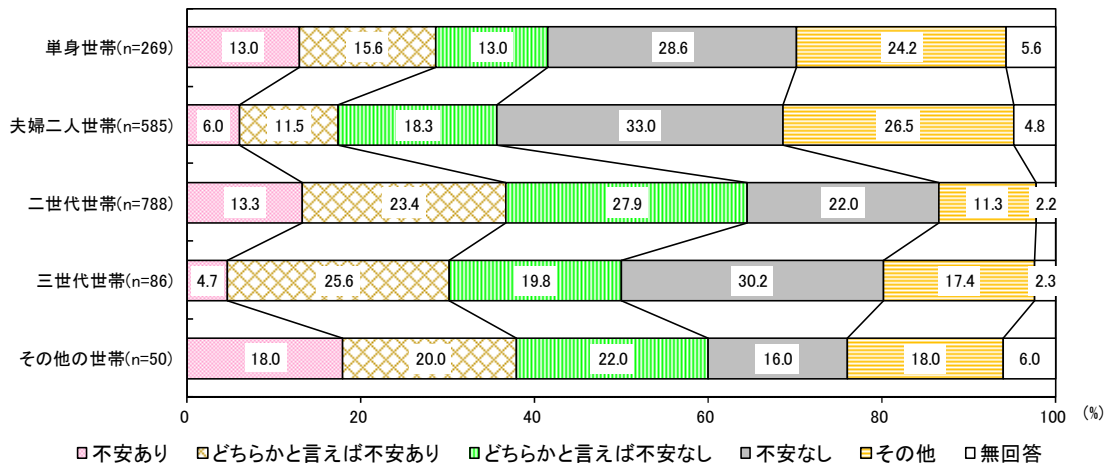
<カ. 気軽に相談できる人がいないこと・いなくなることへの不安>



<キ. 孤独なこと・孤独になることへの不安>

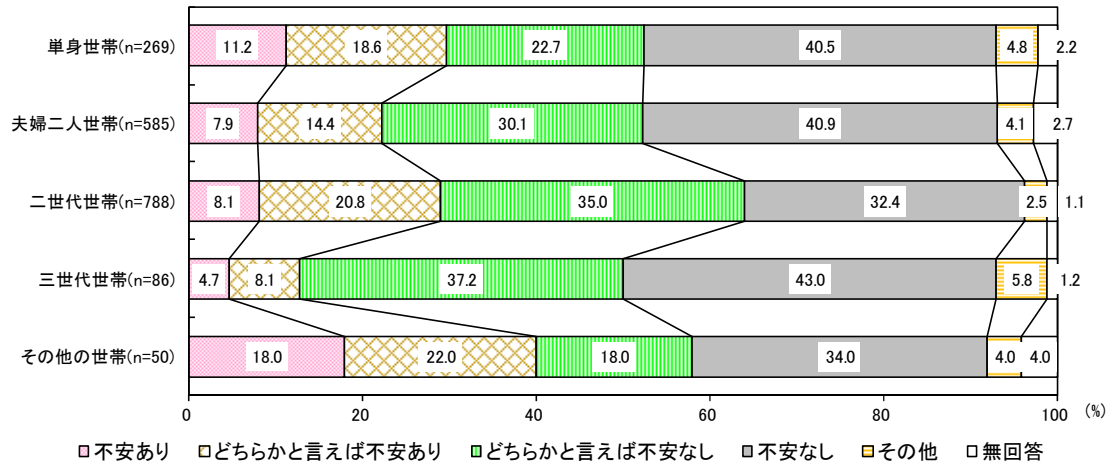


<ク. 仕事についての不安>

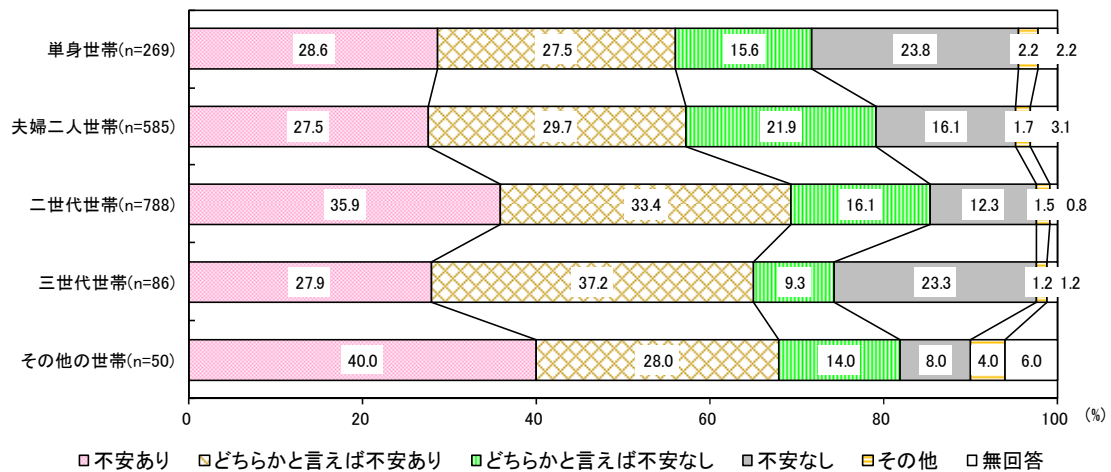


【図表2-1-2 世帯構成別 日常生活上の不安（続き）】

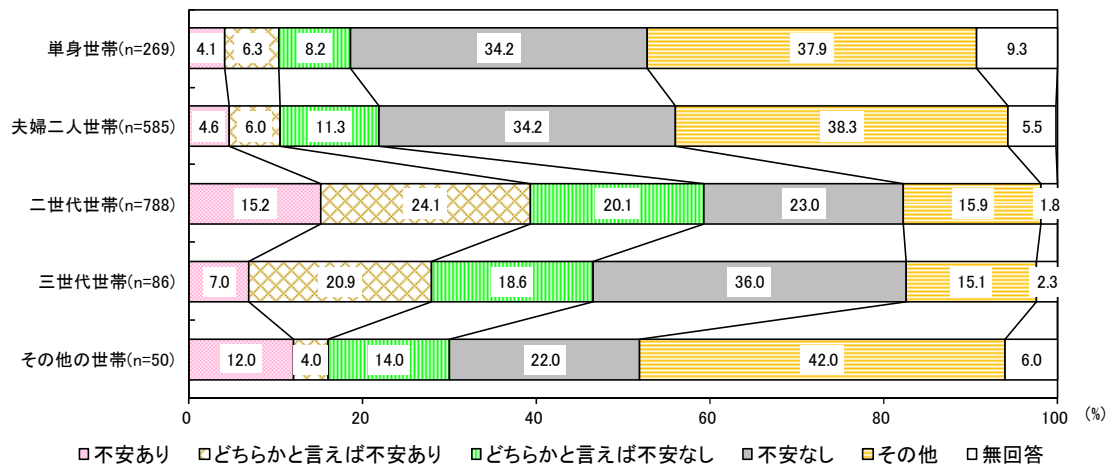
<ケ. 住まいについての不安>



<コ. 年金や健康保険についての不安>

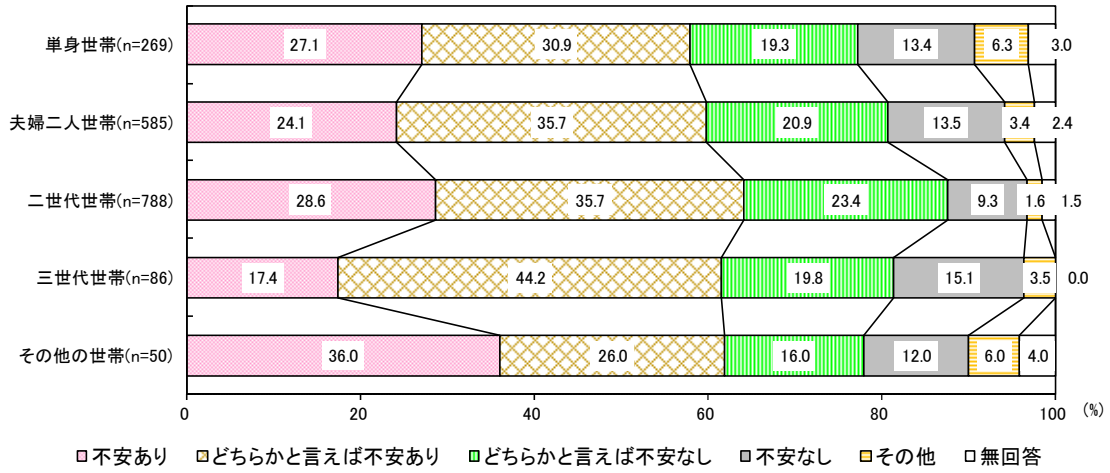


<サ. 子育てや教育についての不安>

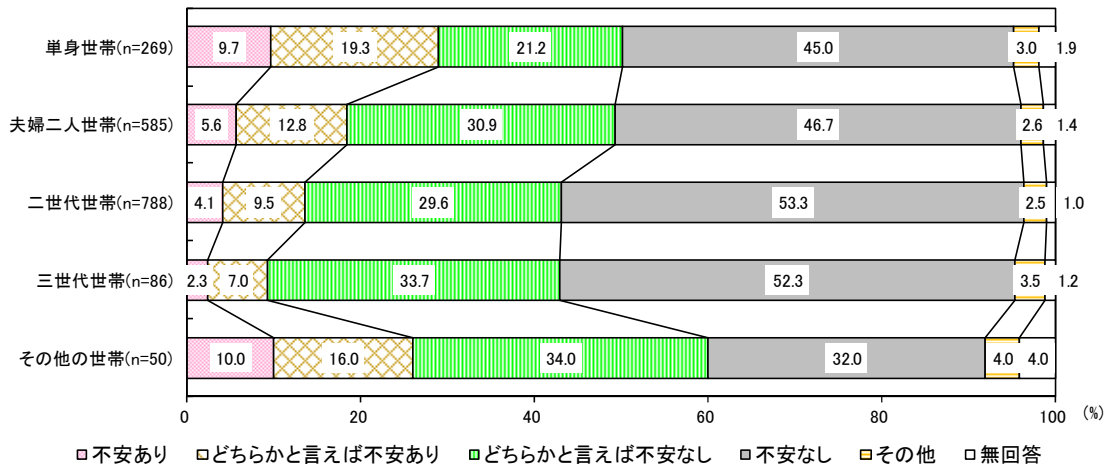


【図表2-1-2 世帯構成別 日常生活上の不安（続き）】

<シ. 災害にあうことへの不安>



<ス. 買い物やゴミ出し、電球の交換など、普段の生活におけるちょっとした用事や困り事を解決できないことへの不安>

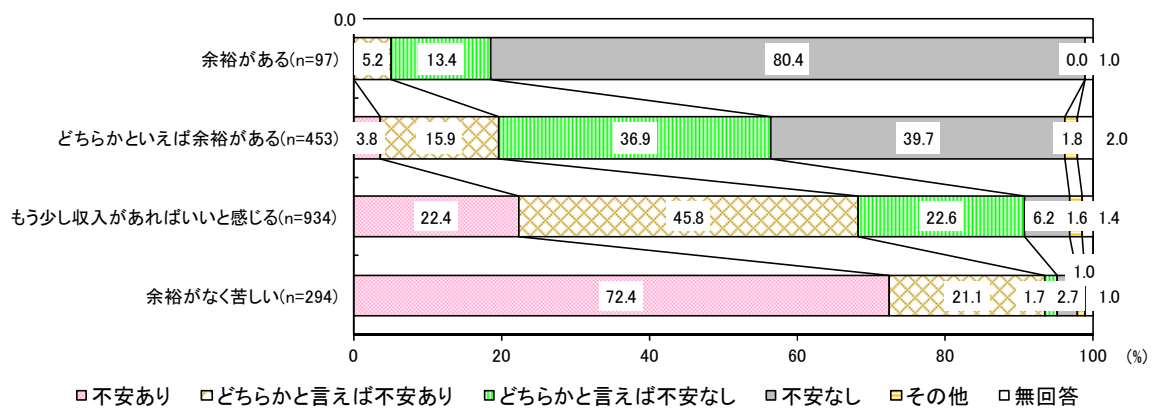


経済状況別でみると、『不安あり』割合は“ス. 買い物やゴミ出し、電球の交換など、普段の生活におけるちょっとした用事や困り事を解決できないことへの不安”以外の項目においてももう少し収入があればいいと感じる、余裕がなく苦しいの割合がもっとも多く、経済状況が悪いほど割合が高くなっている。特に“ア. 収入や生活費についての不安”、“コ. 年金や健康保険についての不安”が突出して高い。

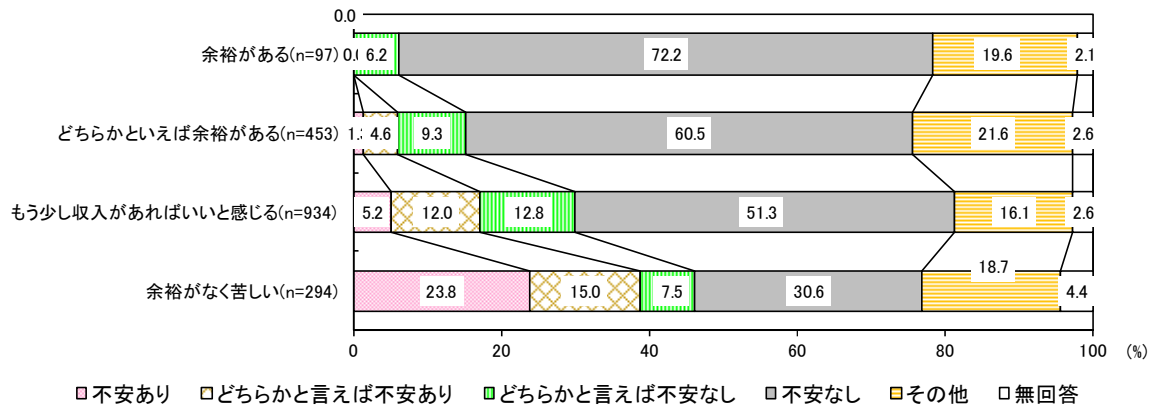
『不安なし』割合は、余裕がある、どちらかといえば余裕があるの割合がもっとも多くなっている。こちらは逆に経済状況が良いほど割合が高くなっている。(図表 2-1-3)

【図表2-1-3 経済状況別 日常生活上の不安】

<ア. 収入や生活費についての不安>

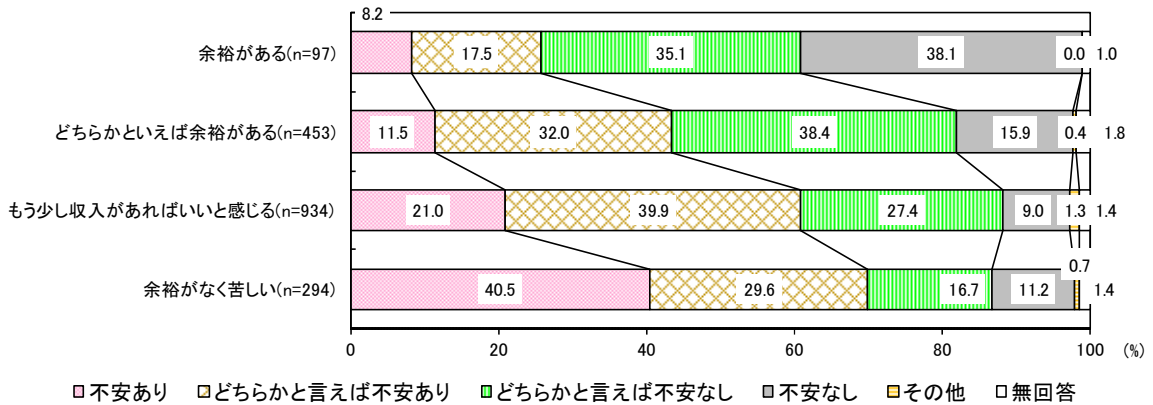


<イ. 借金があることへの不安>

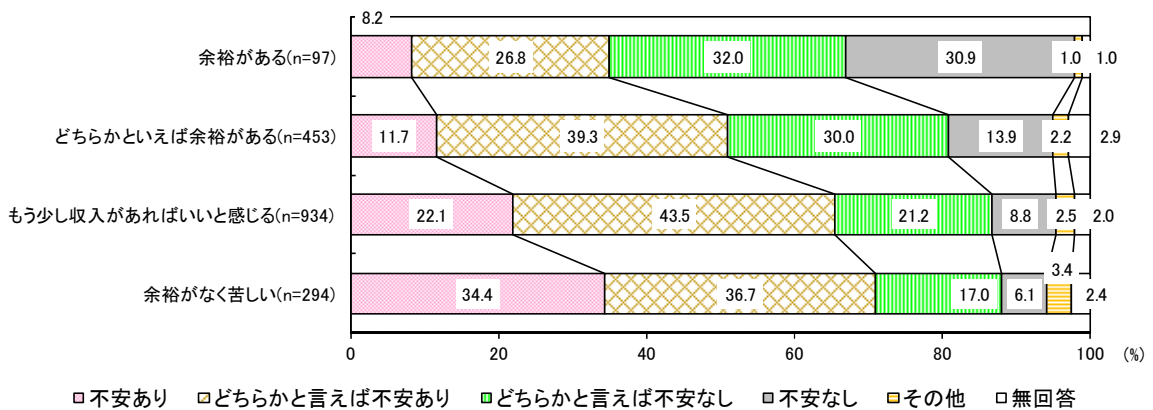


【図表2-1-3 経済状況別 日常生活上の不安（続き）】

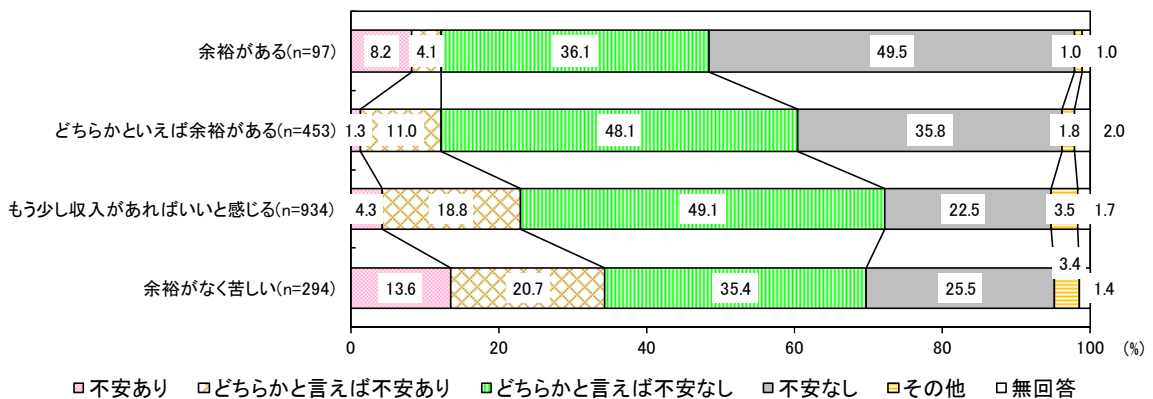
<ウ. 自分の身体や健康についての不安>



<エ. 家族の身体や健康についての不安>

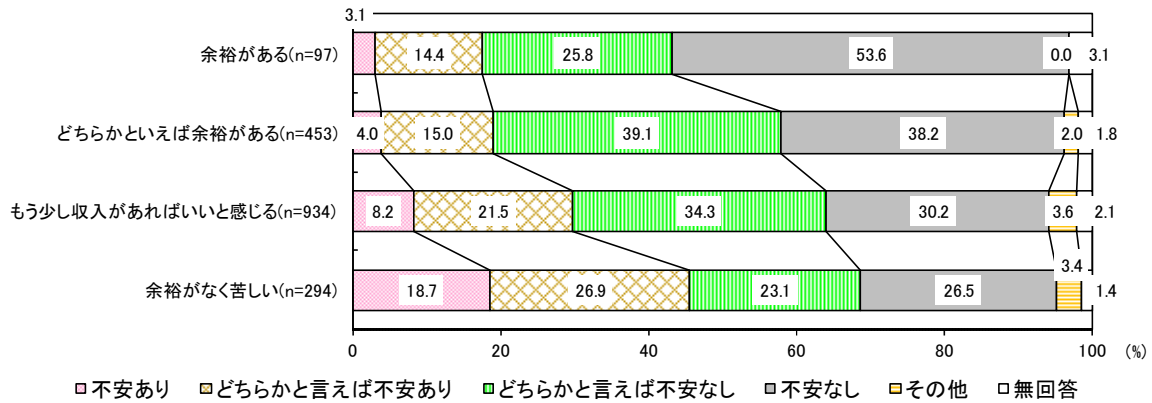


<オ. 周囲の人との人間関係についての不安>

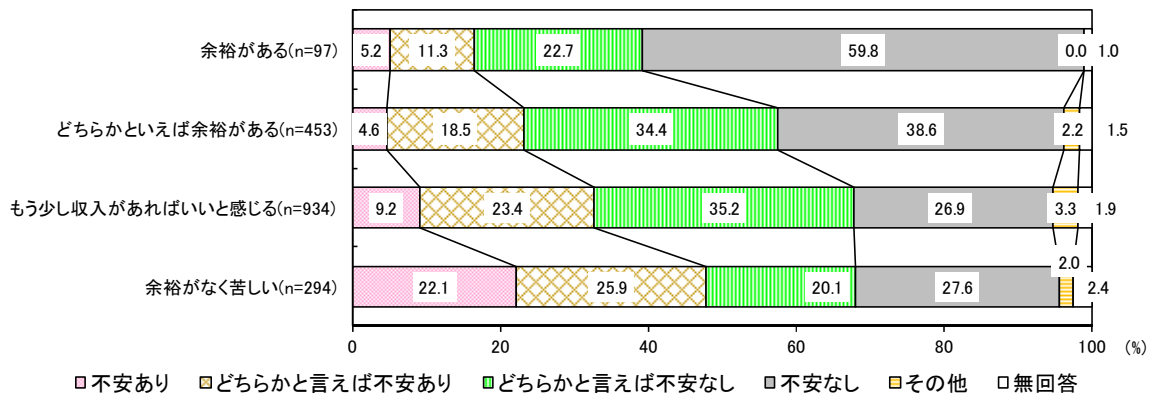


【図表2-1-3 経済状況別 日常生活上の不安（続き）】

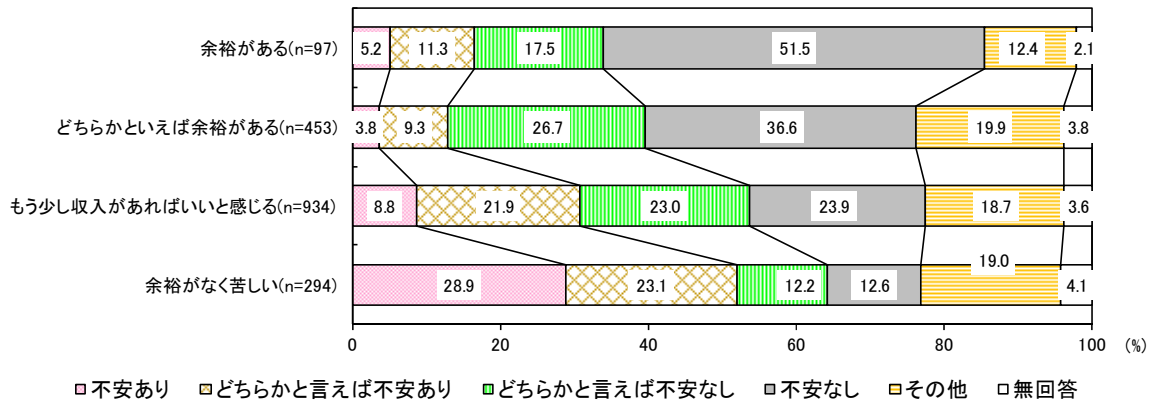
<カ. 気軽に相談できる人がいないこと・いなくなることへの不安>



<キ. 孤独なこと・孤独になることへの不安>

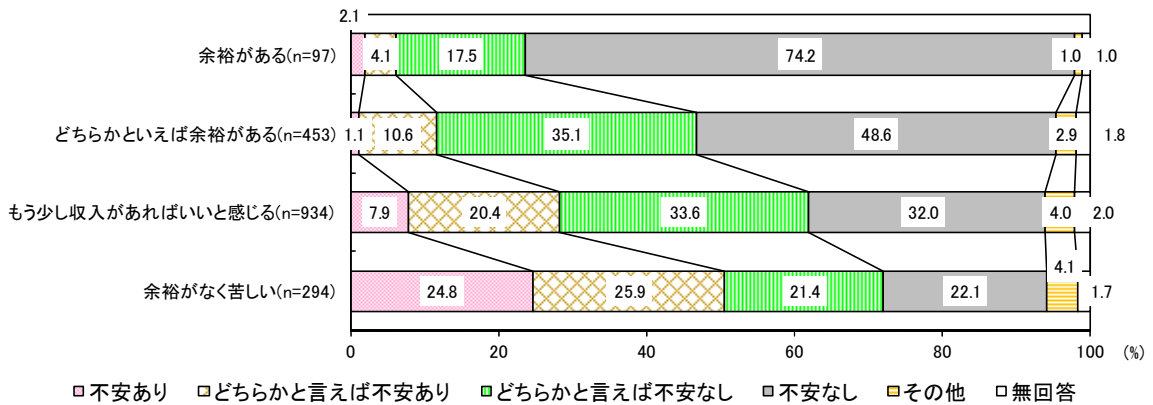


<ク. 仕事についての不安>

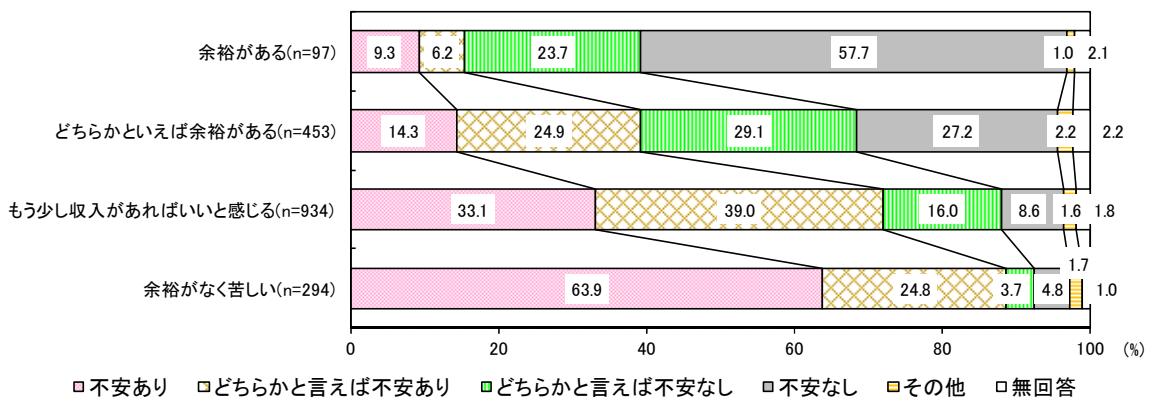


【図表2-1-3 経済状況別 日常生活上の不安（続き）】

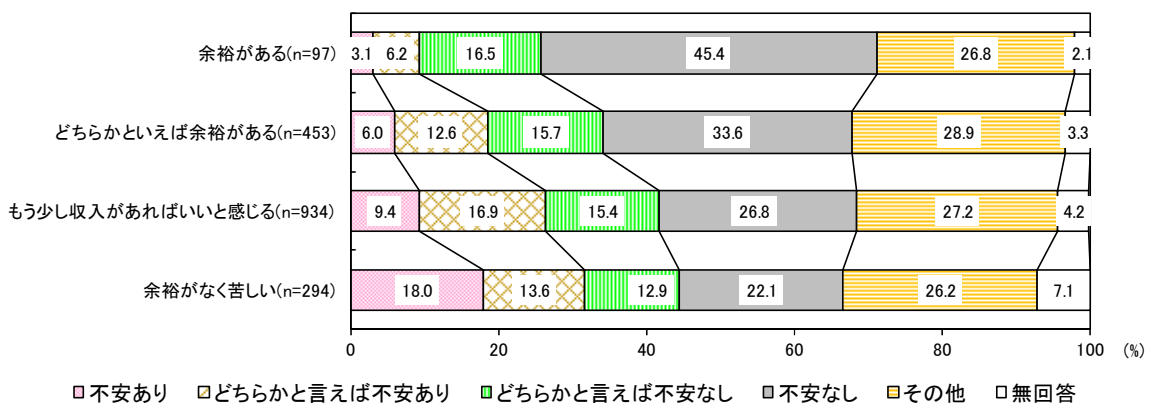
<ケ. 住まいについての不安>



<コ. 年金や健康保険についての不安>

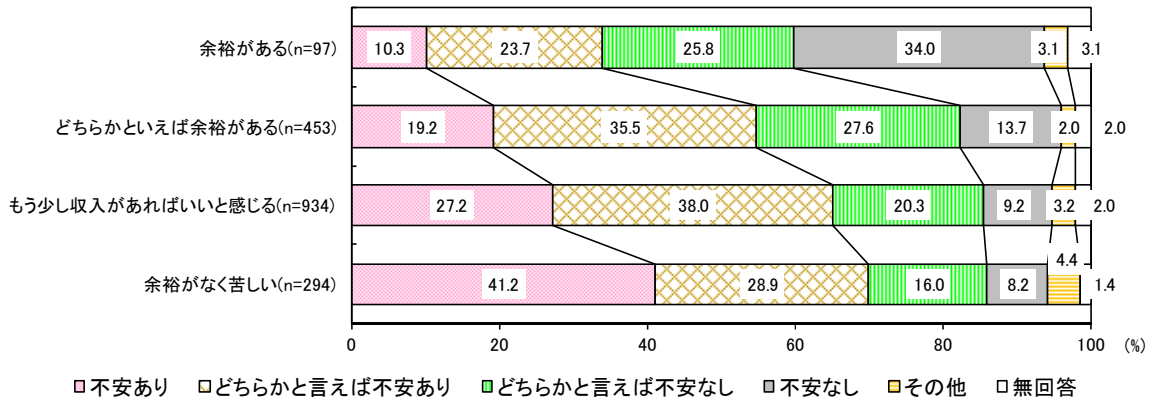


<サ. 子育てや教育についての不安>

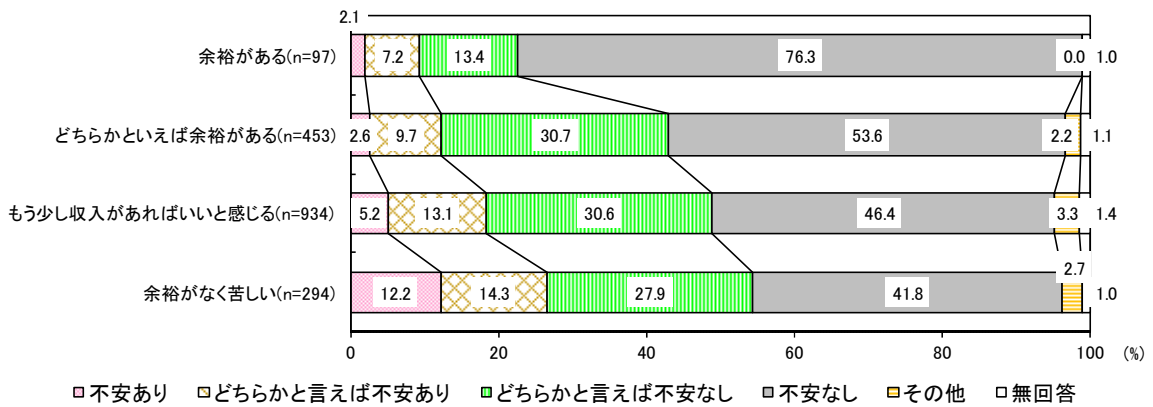


【図表2-1-3 経済状況別 日常生活上の不安（続き）】

<シ. 災害にあうことへの不安>



<ス. 買い物やゴミ出し、電球の交換など、普段の生活におけるちょっとした用事や困り事を解決できないことへの不安>

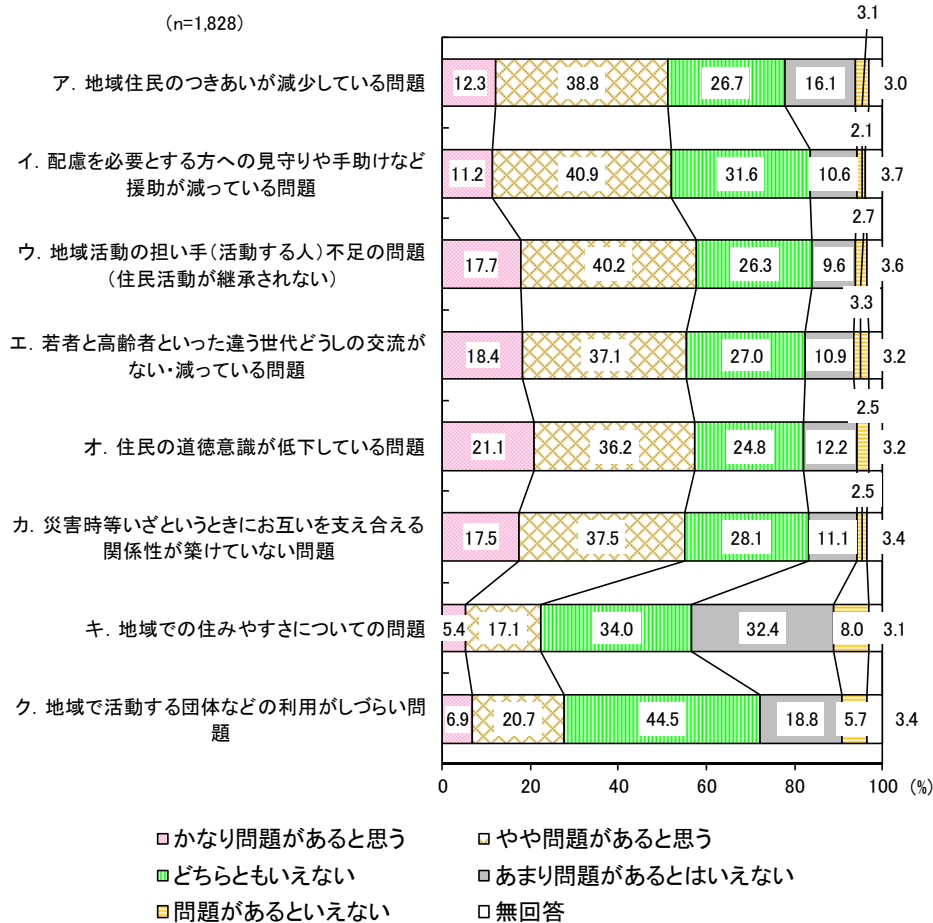


3. 地域で活動する団体や地域の課題について

(1) 地域における福祉の問題

問6 あなたのくらす地域における福祉の問題は何だと思いますか。ア～クのそれぞれの項目について、あてはまるものを1つずつ選んで番号に○をつけてください。

【図表3-1 地域における福祉の問題】



地域における福祉の問題について、「かなり問題があると思う」と「やや問題があると思う」を合わせた『問題があると思う』の割合（以下、『問題があると思う』割合）では、“ウ. 地域活動の担い手（活動する人）不足の問題（住民活動が継承されない）”（57.9%）が最も高く、次いで、“オ. 住民の道徳意識が低下している問題”（57.3%）、“エ. 若者と高齢者といった違う世代どうしの交流がない・減っている問題”（55.5%）、“カ. 災害時等いざというときにお互いを支え合える関係性が築けていない問題”（55.0%）、“イ. 配慮を必要とする方への見守りや手助けなど援助が減っている問題”（52.1%）、“ア. 地域住民のつきあいが減少している問題”（51.1%）といずれも5割台となっている。

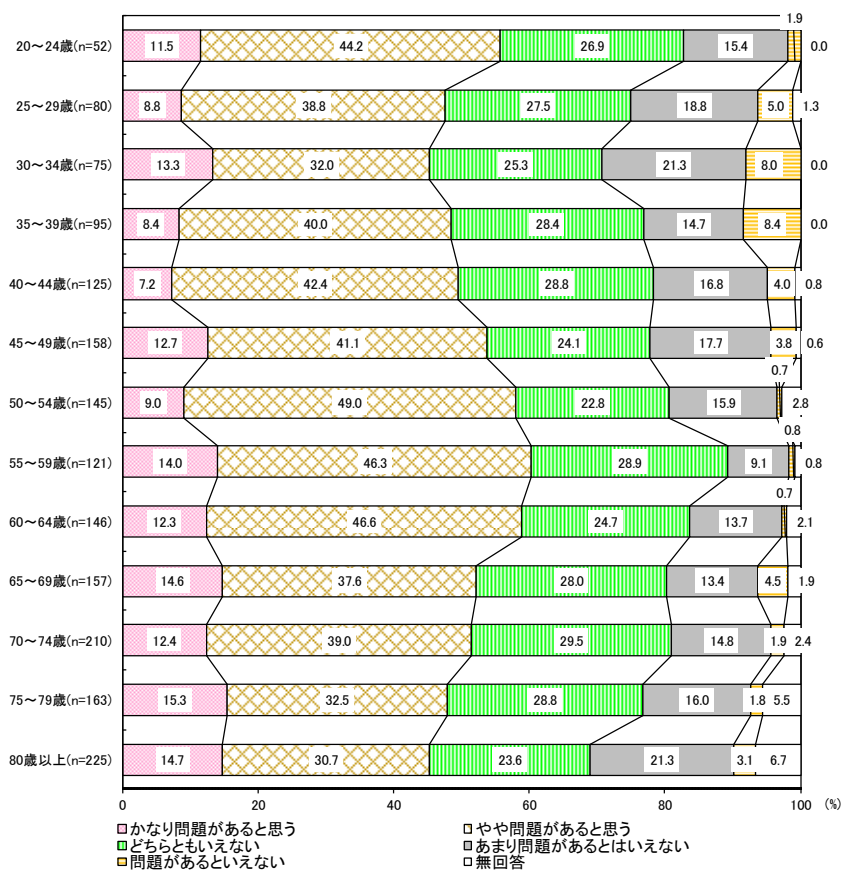
なお、“キ. 地域での住みやすさについての問題”（22.4%）、“ク. 地域で活動する団体などの利用がしづらい問題”（27.6%）の割合は低い。（図表3-1）

年代別でみると、『問題があると思う』割合では、ほぼ全ての項目において40～64歳の割合が多い。例外として“エ. 若者と高齢者といった違う世代どうしの交流がない・減っている問題”では25歳～29歳の割合が多く、“キ. 地域での住みやすさについての問題”では30～39歳の割合が多い。

「あまり問題があるとはいえない」と「問題があるとはいえない」を合わせた『問題があるとはいえない』の割合（以下、『問題があるとはいえない』割合）では、ほぼ全ての項目において40歳未満の割合が多い。例外として“ア. 地域住民のつきあいが減少している問題”では80歳以上の割合が多い。“カ. 災害時等いざというときにお互いを支え合える関係性が築けていない問題”、“キ. 地域での住みやすさについての問題”では80歳以上に加えて、70～74歳の割合も多い。（図表3-1-1）

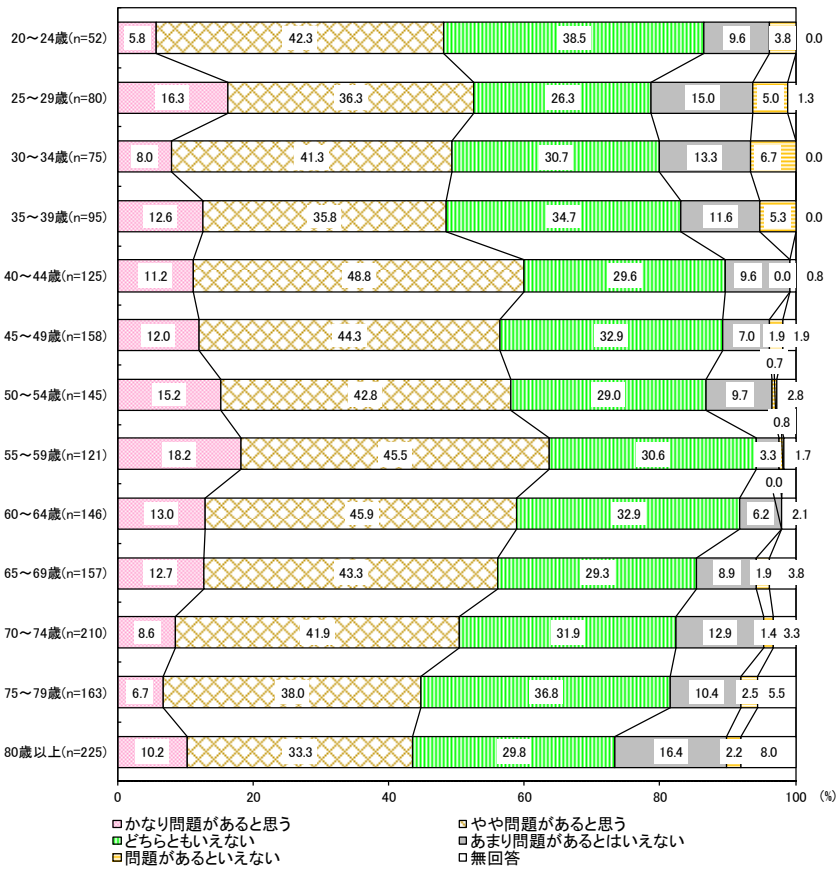
【図表3-1-1 年代別 地域における福祉の問題】

<ア. 地域住民のつきあいが減少している問題>

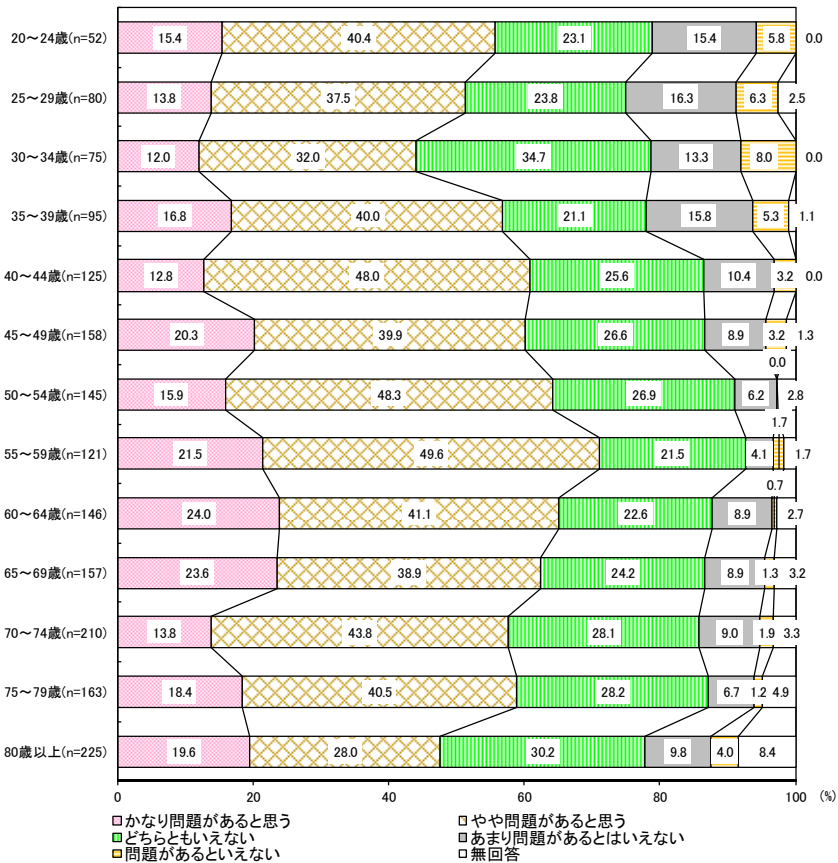


【図表3-1-1 年代別 地域における福祉の問題（続き）】

＜イ. 配慮を必要とする方への見守りや手助けなど援助が減っている問題＞

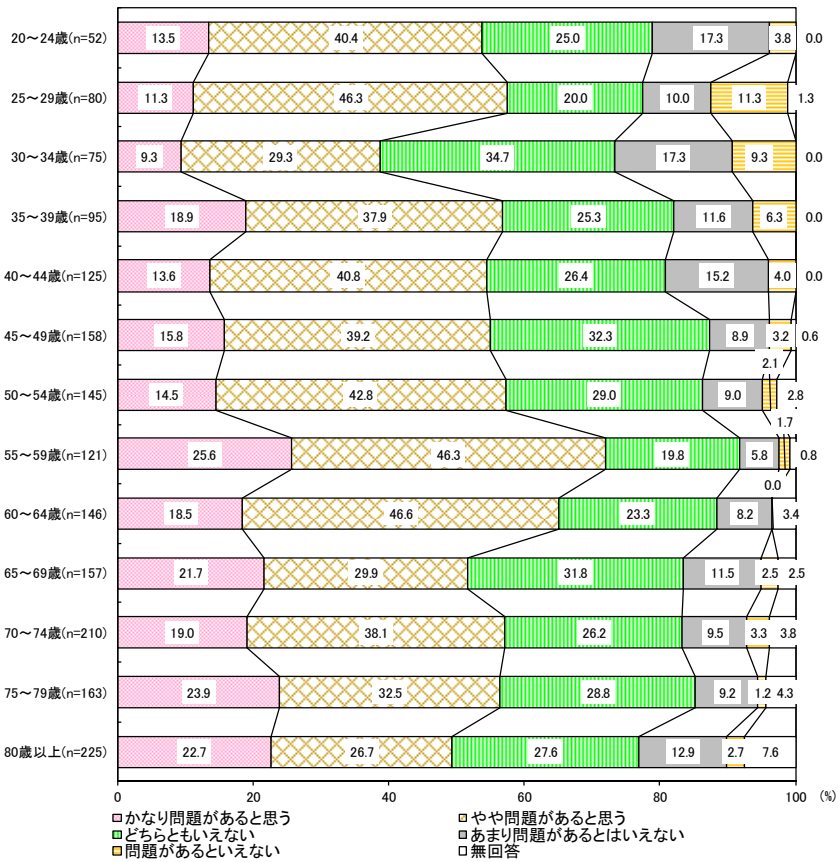


＜ウ. 地域活動の担い手（活動する人）不足の問題（住民活動が継承されない）＞

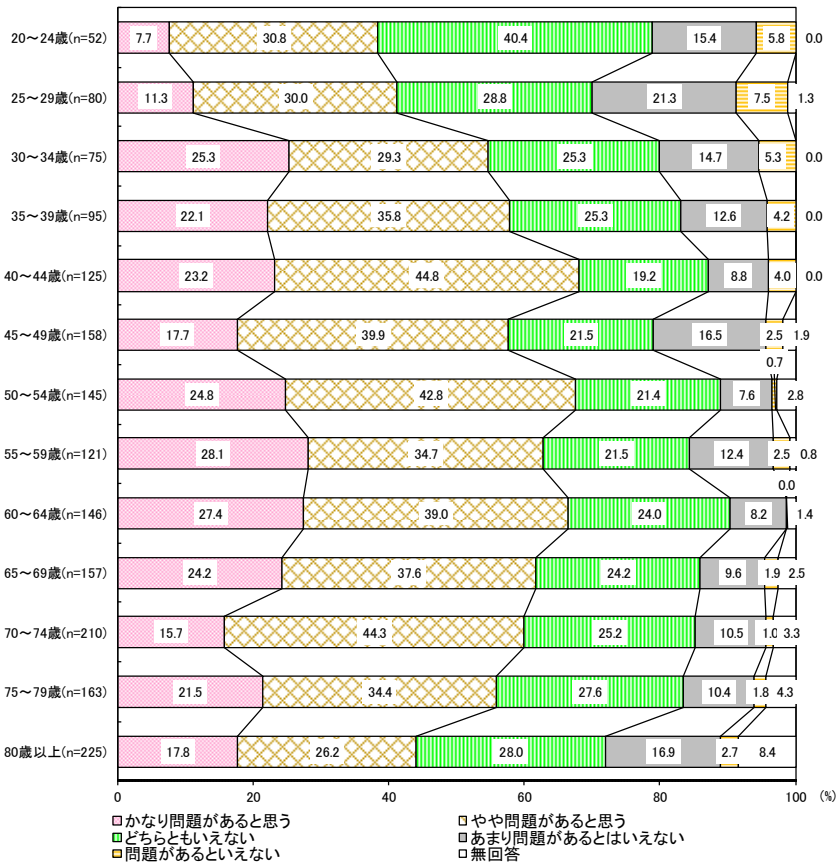


【図表3-1-1 年代別 地域における福祉の問題（続き）】

<エ. 若者と高齢者といった違う世代どうしの交流がない・減っている問題>

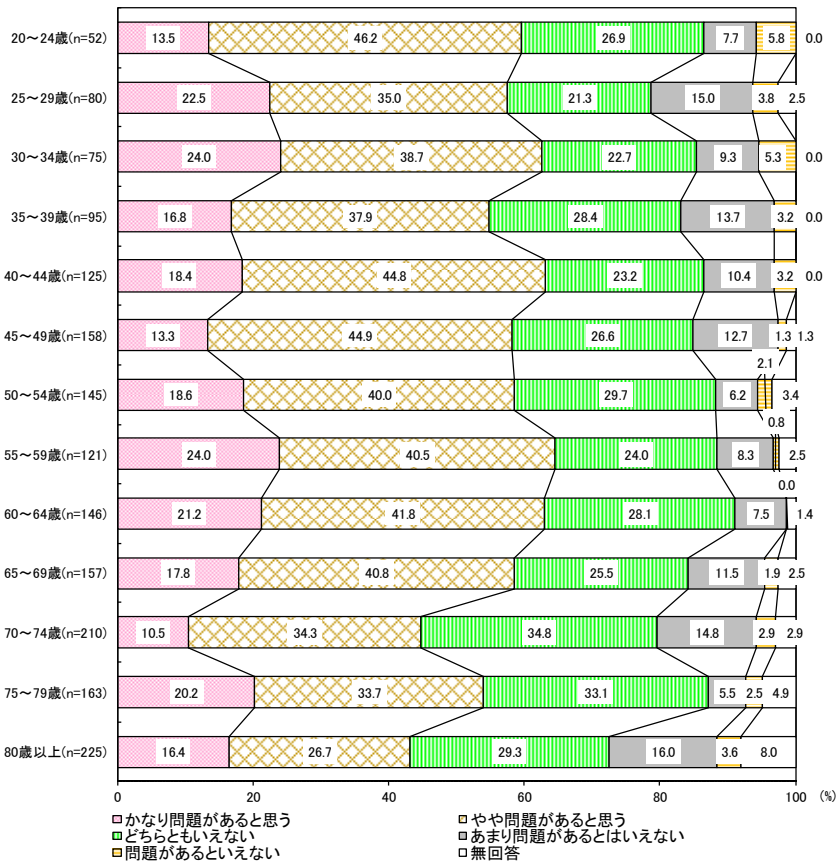


<オ. 住民の道徳意識が低下している問題>

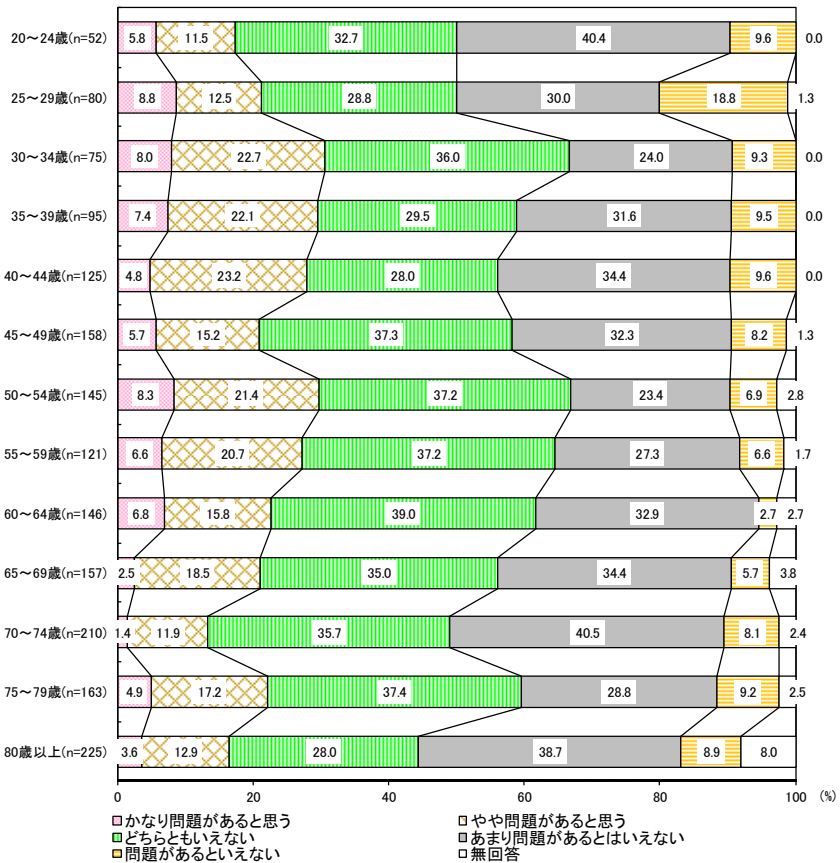


【図表3-1-1 年代別 地域における福祉の問題（続き）】

<カ. 災害時等いざというときにお互いを支え合える関係性が築けていない問題>

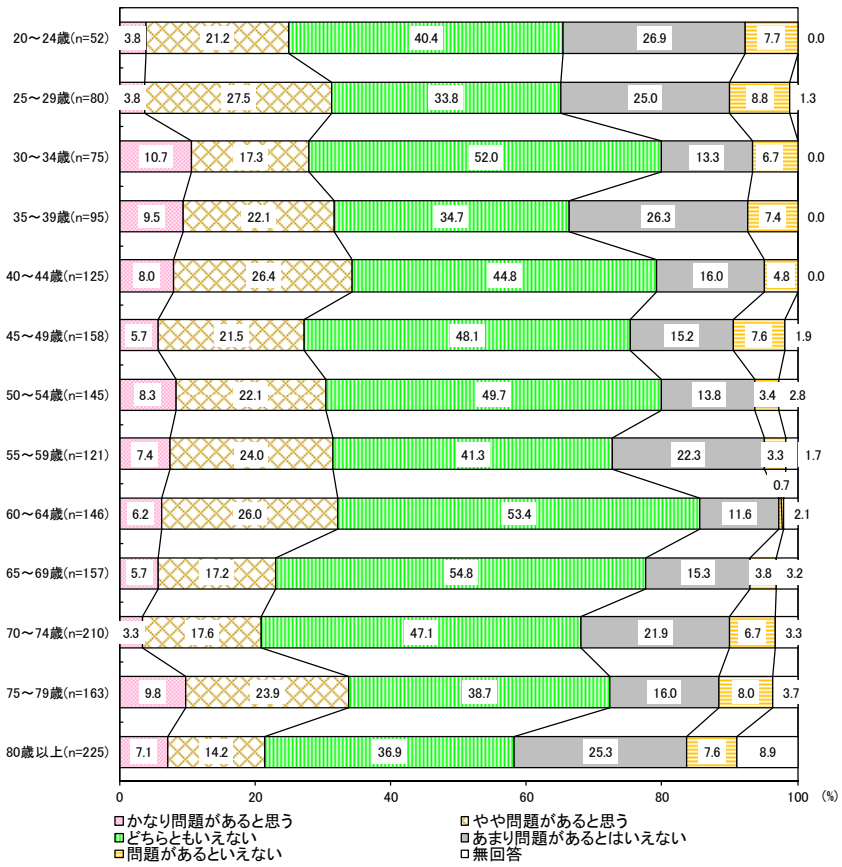


<キ. 地域での住みやすさについての問題>



【図表3-1-1 年代別 地域における福祉の問題（続き）】

<ク. 地域で活動する団体などの利用がしづらい問題>

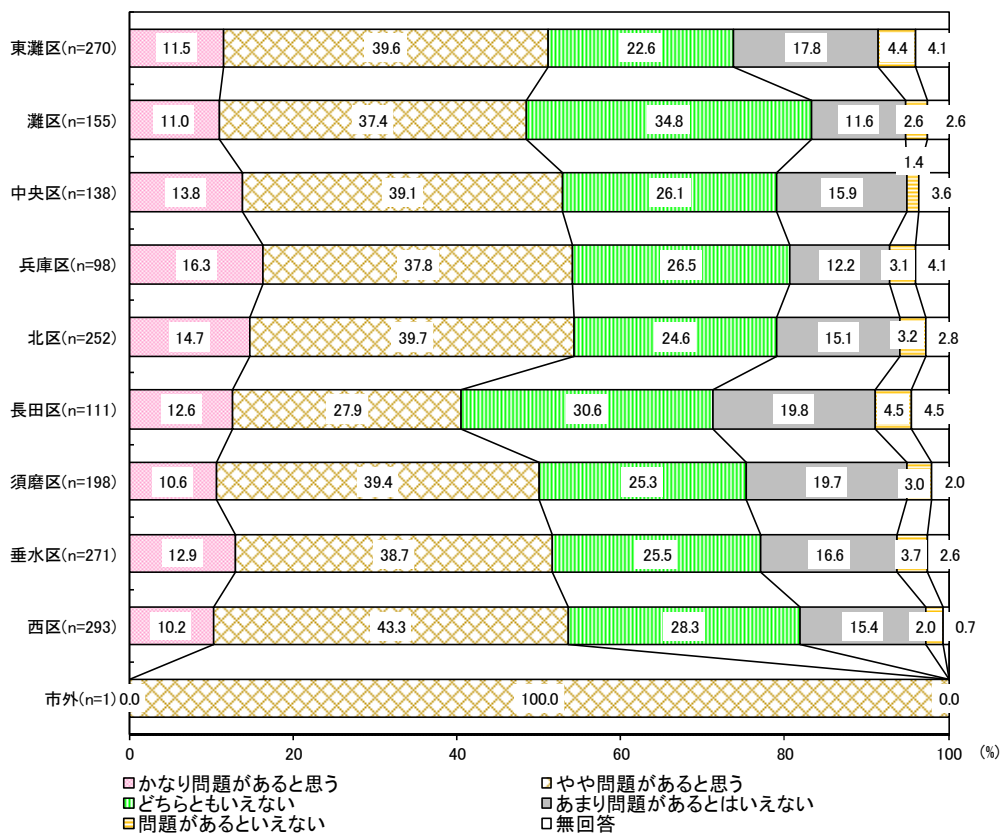


居住区別でみると、『問題があると思う』割合では、ほぼ全ての項目で中央区、兵庫区の割合が多い。例外として、“キ. 地域での住みやすさについての問題”では兵庫区(18.4%)の割合が一番多い中央区(28.3%)に比べて10ポイント近く低い。“ア. 地域住民のつきあいが減少している問題”は北区と西区の割合が多い。“イ. 配慮を必要とする方への見守りや手助けなど援助が減っている問題”、“オ. 住民の道德意識が低下している問題”、“カ. 災害時等いざというときにお互いを支え合える関係性が築けていない問題”、“キ. 地域での住みやすさについての問題”は須磨区の割合が多い。“ウ. 地域活動の担い手(活動する人)不足の問題(住民活動が継承されない)”は長田区の割合が多い。“エ. 若者と高齢者といった違う世代どうしの交流がない・減っている問題”は北区がもっとも多い。

『問題があるといえない』割合では、ほぼ全ての項目で東灘区、垂水区の割合が多い。(図表3-1-2)

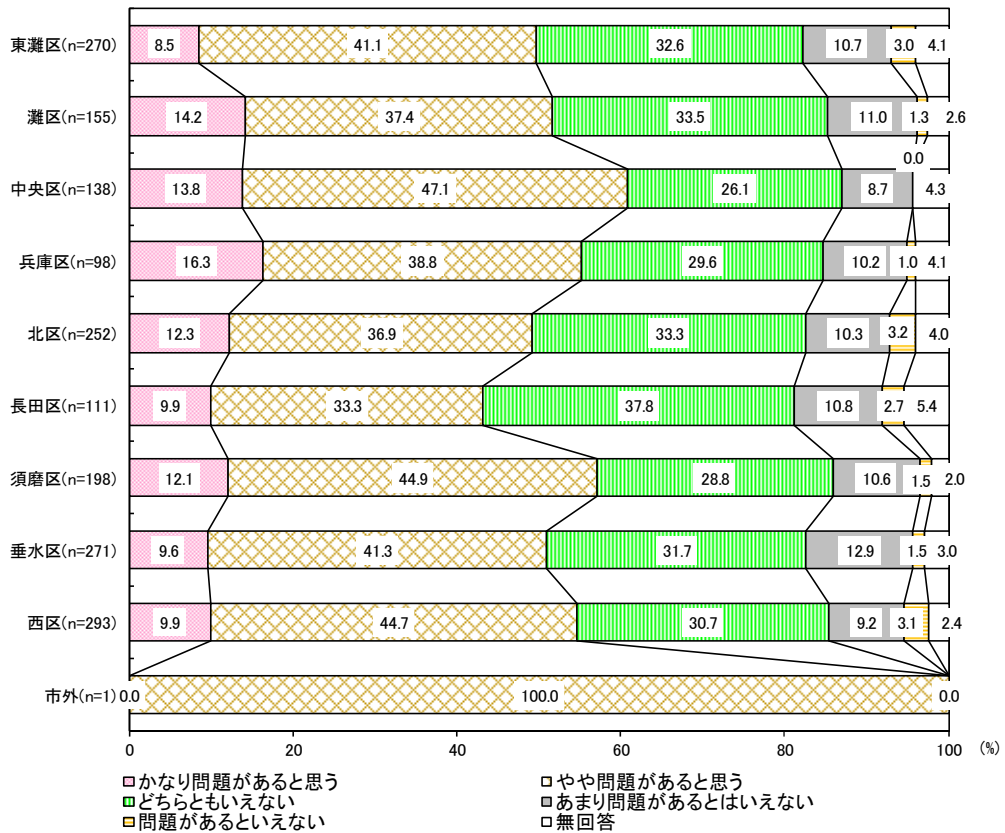
【図表3-1-2 居住区別 地域における福祉の問題】

<ア. 地域住民のつきあいが減少している問題>

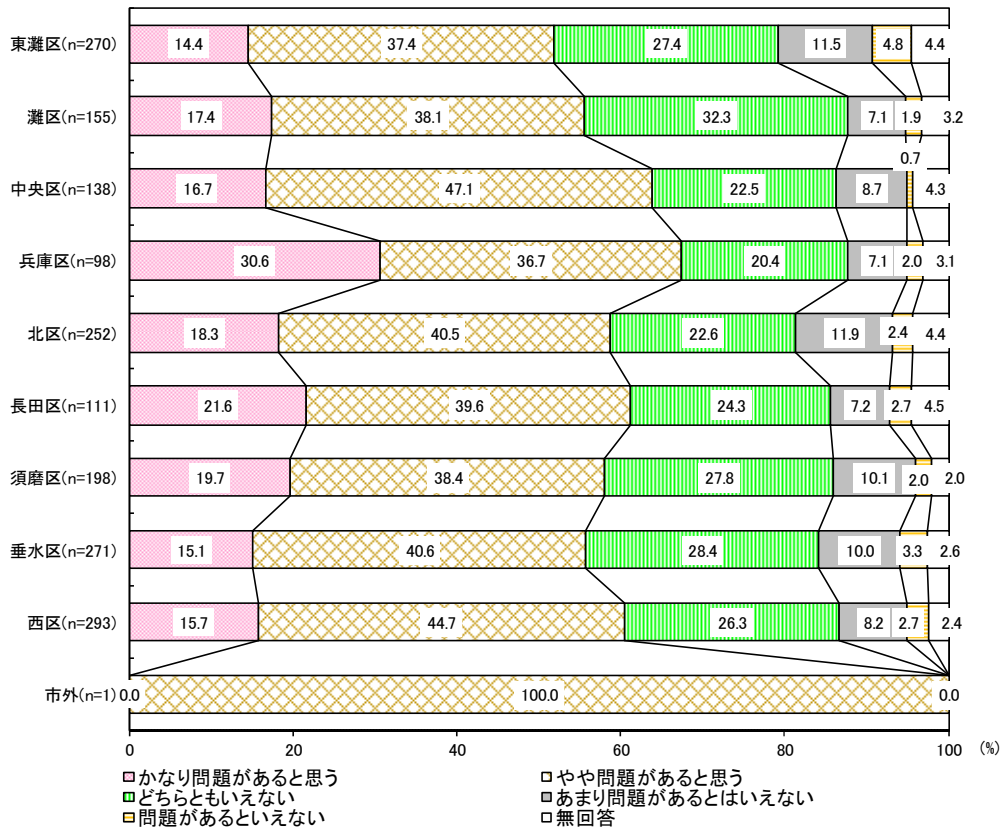


【図表3-1-2 居住区別 地域における福祉の問題（続き）】

<イ. 配慮を必要とする方への見守りや手助けなど援助が減っている問題>

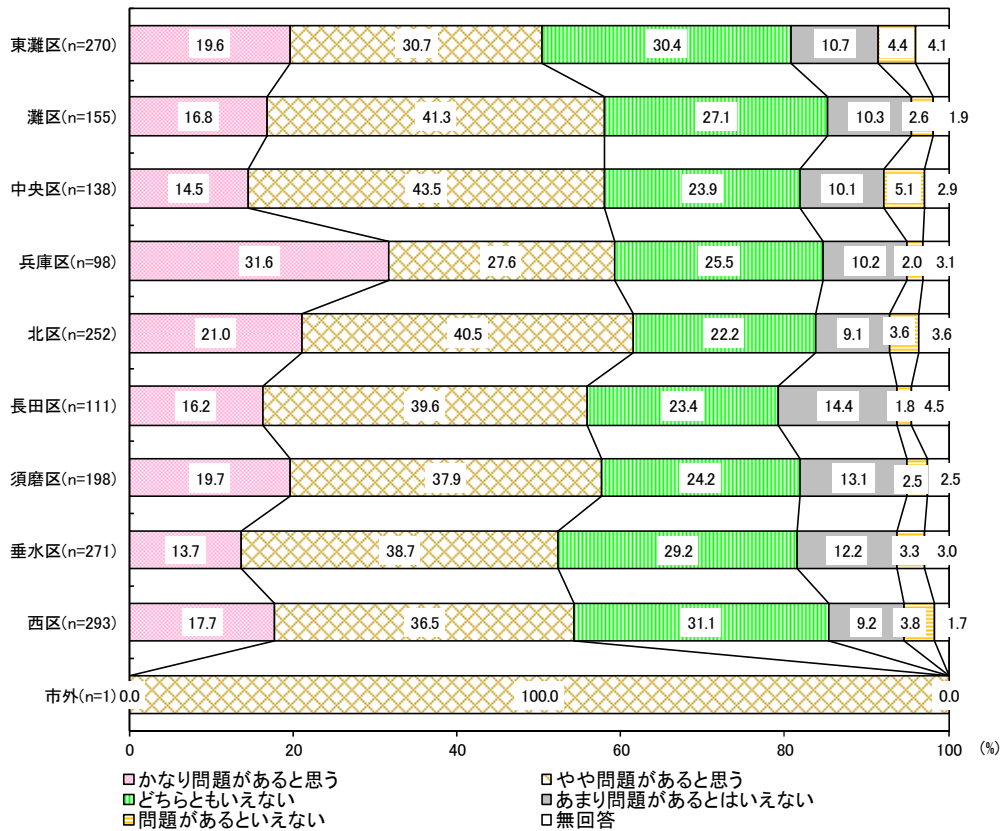


<ウ. 地域活動の担い手（活動する人）不足の問題（住民活動が継承されない）>

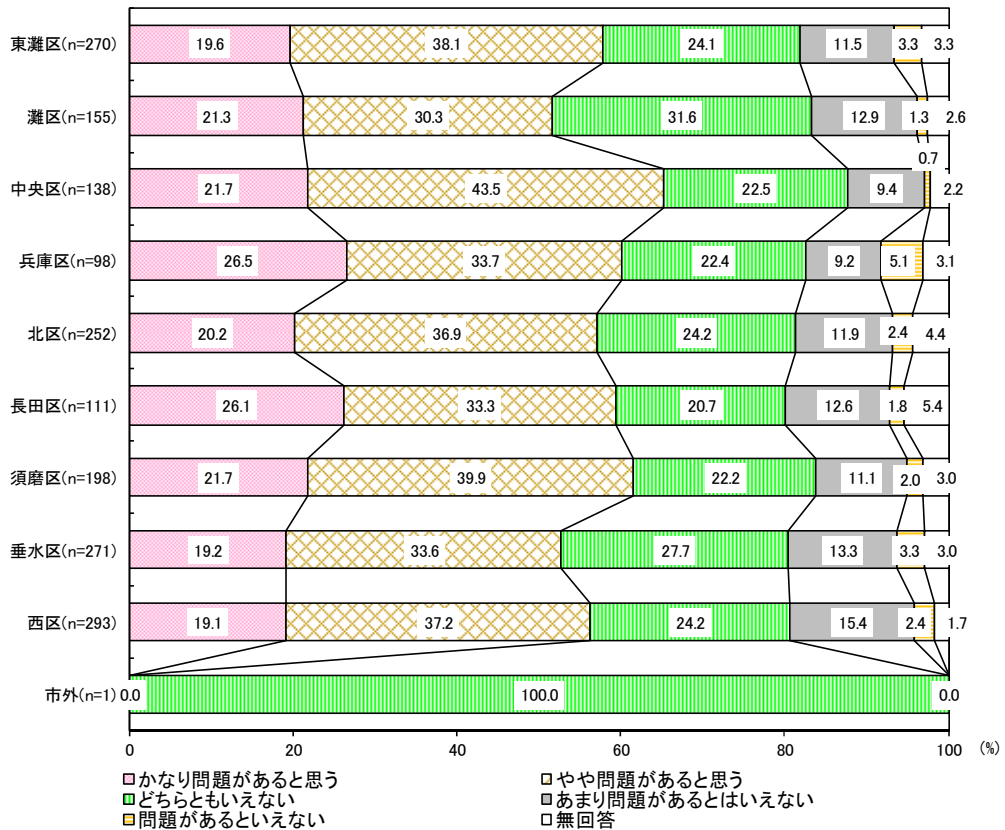


【図表3-1-2 居住区別 地域における福祉の問題（続き）】

<エ. 若者と高齢者といった違う世代どうしの交流がない・減っている問題>

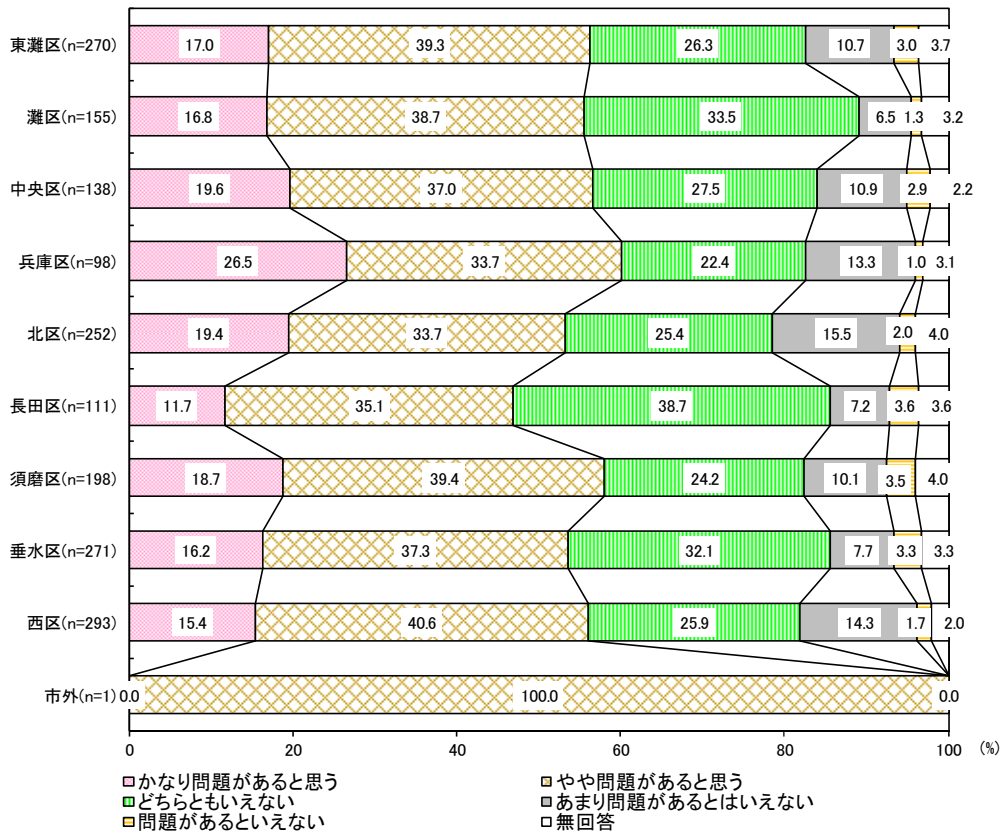


<オ. 住民の道徳意識が低下している問題>

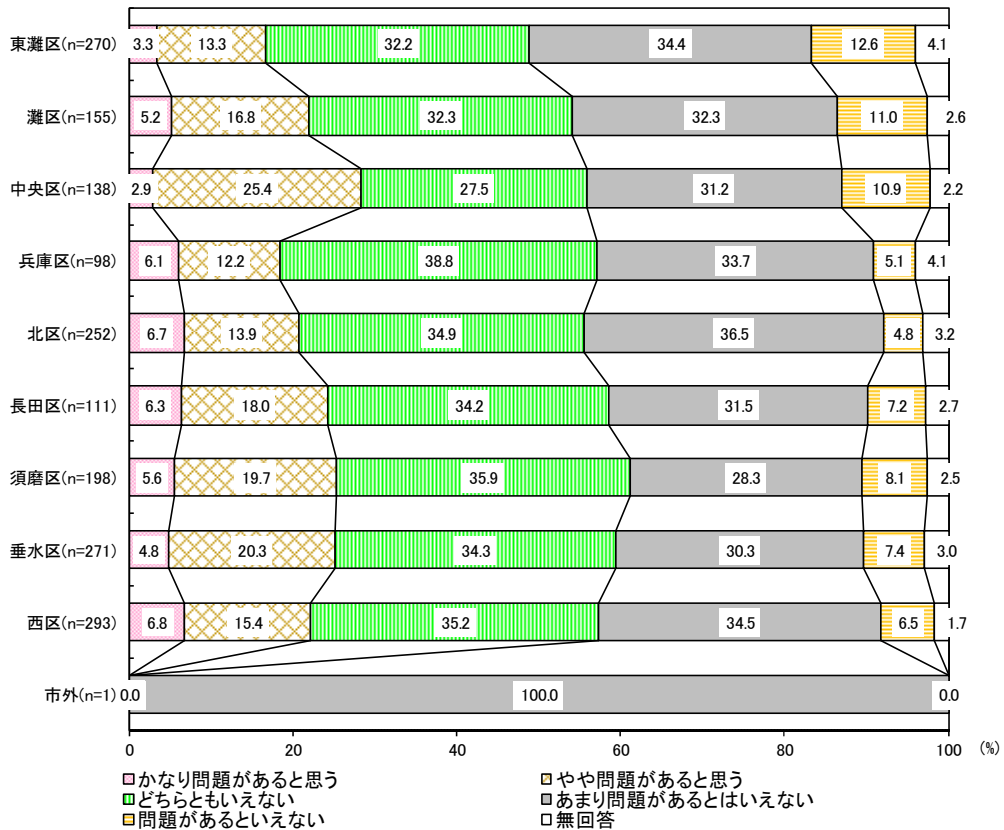


【図表3-1-2 居住区別 地域における福祉の問題（続き）】

＜カ. 災害時等いざというときにお互いを支え合える関係性が築けていない問題＞

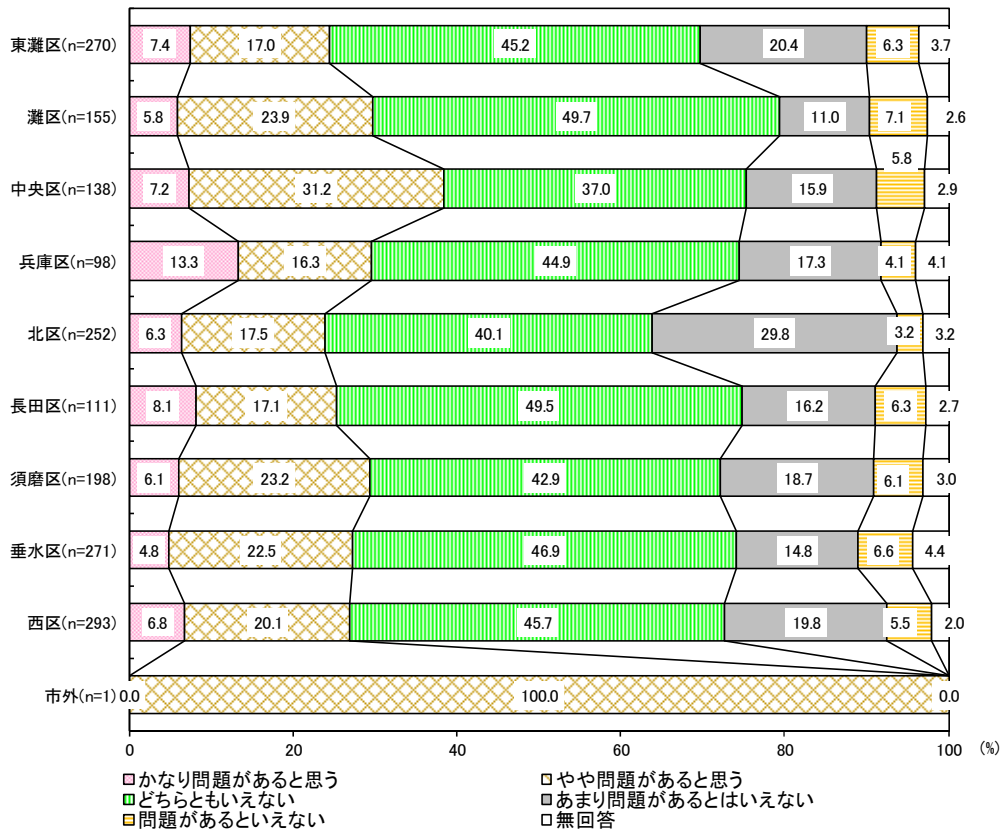


＜キ. 地域での住みやすさについての問題＞



【図表3-1-2 居住区別 地域における福祉の問題（続き）】

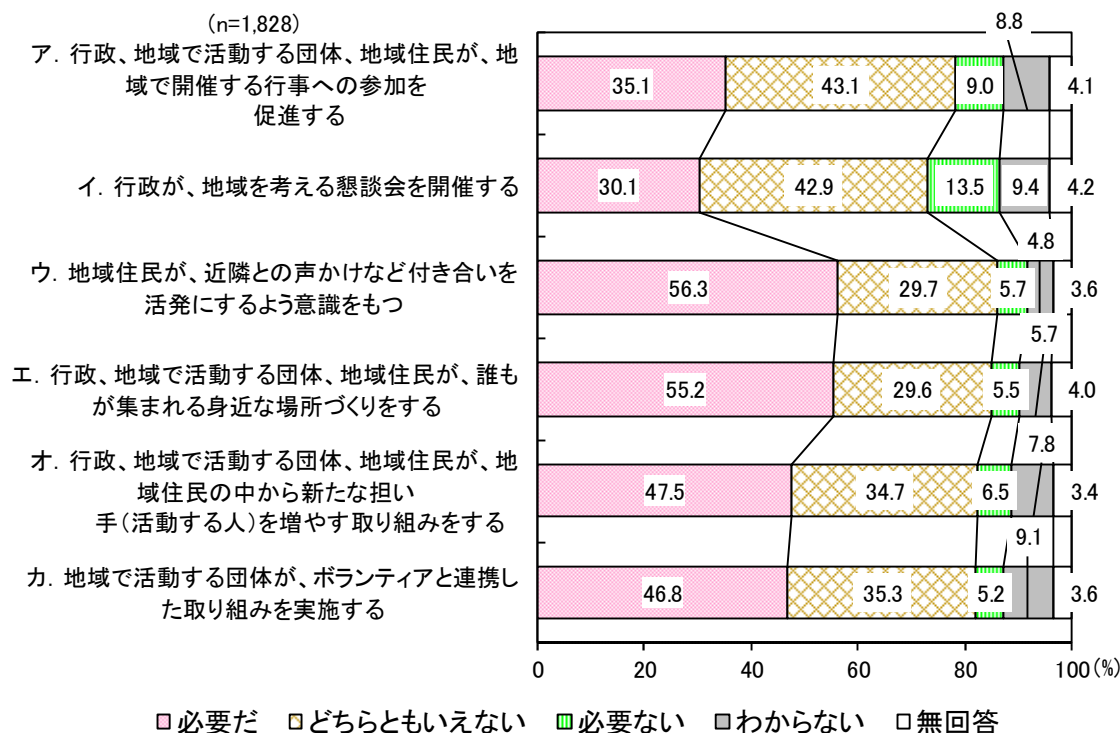
<ク. 地域で活動する団体などの利用がしづらい問題>



(2) 地域の福祉活動を活発にするために必要なこと

問7 あなたは、今後、高齢化が進むなどの中で、地域の福祉活動を活発にするために、どのようなことが必要だと思われますか。ア～カのそれぞれの項目について、あてはまるものを1つずつ選んで番号に○をつけてください。

【図表3-2 地域活動を活発にするために必要なこと】



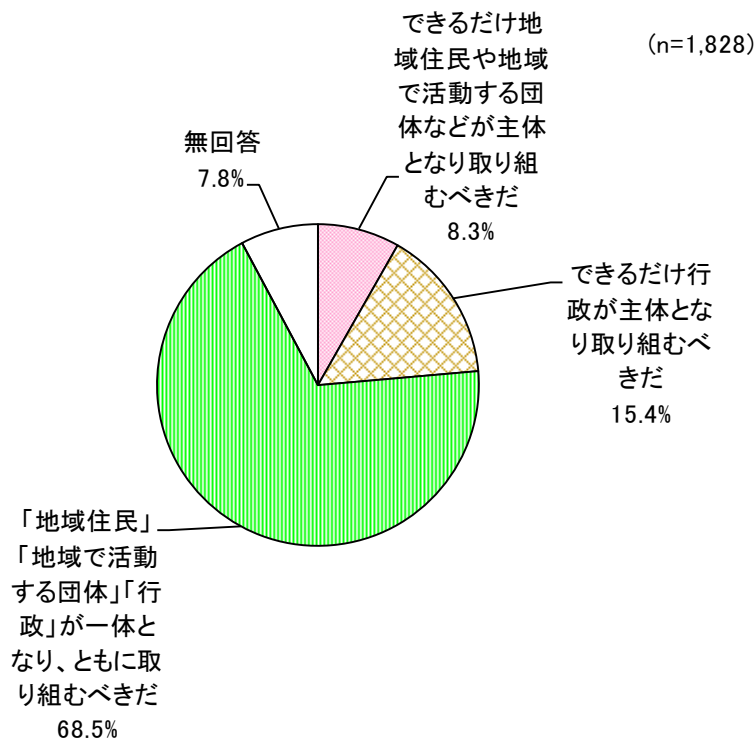
地域活動を活発にするために必要なことについて、「必要だ」と回答した割合では、“ウ. 地域住民が、近隣との声かけなど付き合いを活発にするよう意識をもつ”(56.3%)や“エ. 行政、地域で活動する団体、地域住民が、誰もが集まれる身近な場所づくりをする”(55.2%)が5割台、“オ. 行政、地域で活動する団体、地域住民が、地域住民の中から新たな担い手(活動する人)を増やす取り組みをする”(47.5%)や“カ. 地域で活動する団体が、ボランティアと連携した取り組みを実施する”(46.8%)が4割台となっている。

「どちらともいえない」と回答した割合は“ア. 行政、地域で活動する団体、地域住民が、地域で開催する行事への参加を促進する”(43.1%)、“イ. 行政が、地域を考える懇談会を開催する”(42.9%)が4割台となっている。(図表3-2)

(3) 地域団体と行政との関係についての考え方

問8 地域の福祉を充実させていく上で、地域住民・地域で活動する団体と行政（神戸市）はどのような関係であるべきだと思いますか。あてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください

【図表3-3 地域団体と行政の関係】



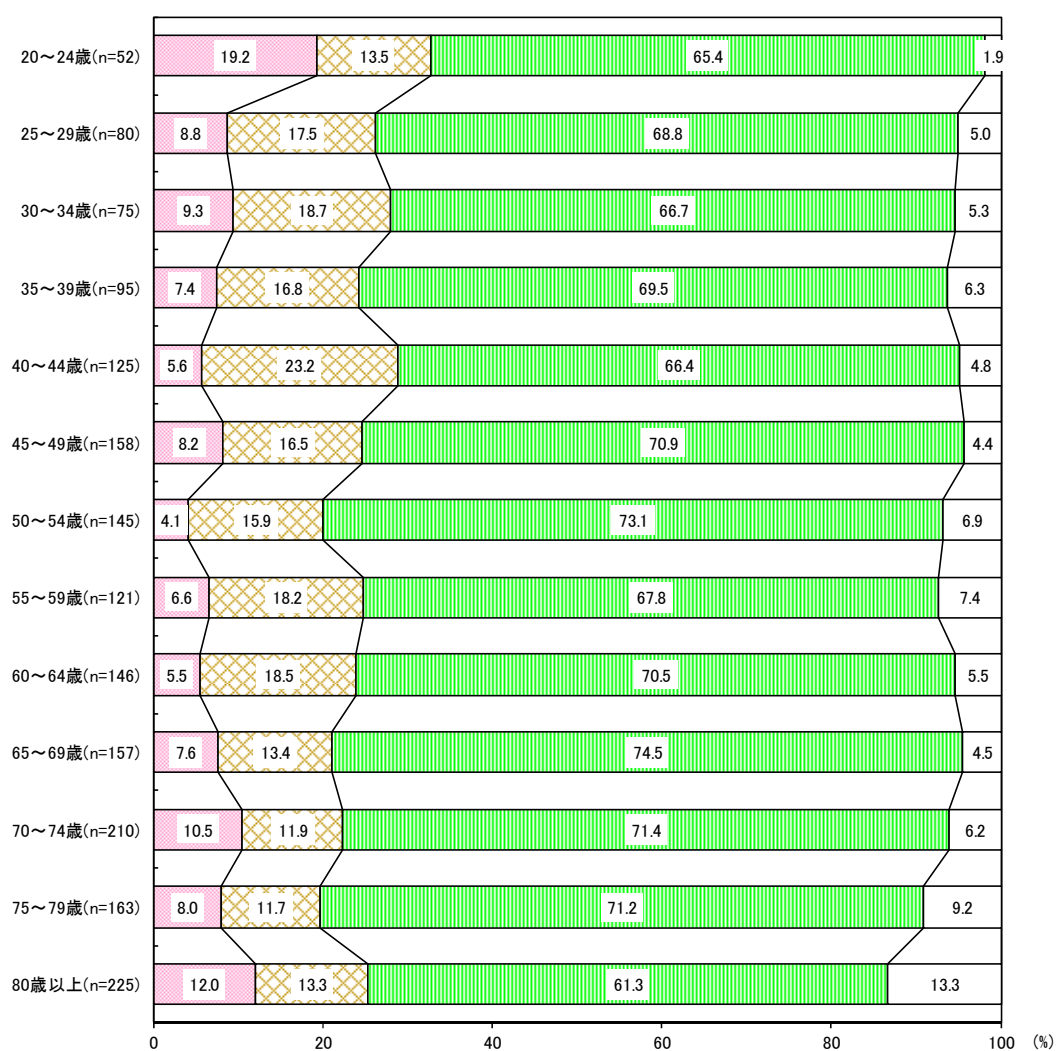
地域団体と行政との関係についての考え方では、「地域住民」「地域で活動する団体」「行政」が一体となり、ともに取り組むべきだ（68.5%）が最も高く、次いで「できるだけ行政が主体となり取り組むべきだ」（15.4%）となっている。（図表3-3）

年代別でみると、「地域住民・地域で活動する団体・行政が一体となり、ともに取り組むべきだ」は、65～69歳（74.5%）が最も多く、他の年代でも65%を超えている。

「できるだけ地域住民や地域で活動する団体などが主体となり取り組むべきだ」は、20～24歳（19.2%）が最も多く、次いで80歳以上（12.0%）、70～74歳（10.5%）となっており、50～54歳（4.1%）が最も少ない。

「できるだけ行政が主体となり取り組むべきだ」は、40～44歳（23.2%）が最も多く、次いで30～34歳（18.7%）、60～64歳（18.5%）、55～59歳（18.2%）となっており、75～79歳（11.7%）が最も少ない。（図表3-3-1）

【図表3-3-1 年代別 地域活動への参加状況】

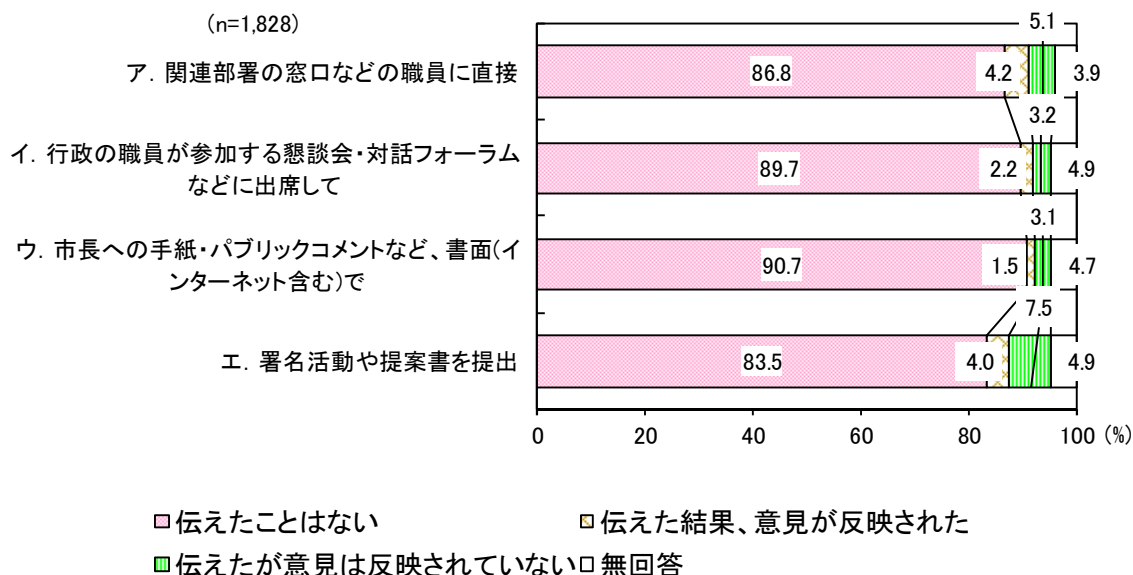


- できるだけ地域住民や地域で活動する団体などが主体となり取り組むべきだ
- できるだけ行政が主体となり取り組むべきだ
- 「地域住民」「地域で活動する団体」「行政」が一体となり、ともに取り組むべきだ
- 無回答

(4) 行政や社会に対して提案・意見・要望を伝えたことがあるか

問9 あなたは、個人や所属する団体等から、行政や社会に対してくらしや福祉に関する提案・意見・要望を伝えたことがありますか。ア～エのそれぞれの項目について、あてはまるものを1つずつ選んで番号に○をつけてください。

【図表3-4 行政や社会に対して提案・意見・要望を伝えたことがあるか】



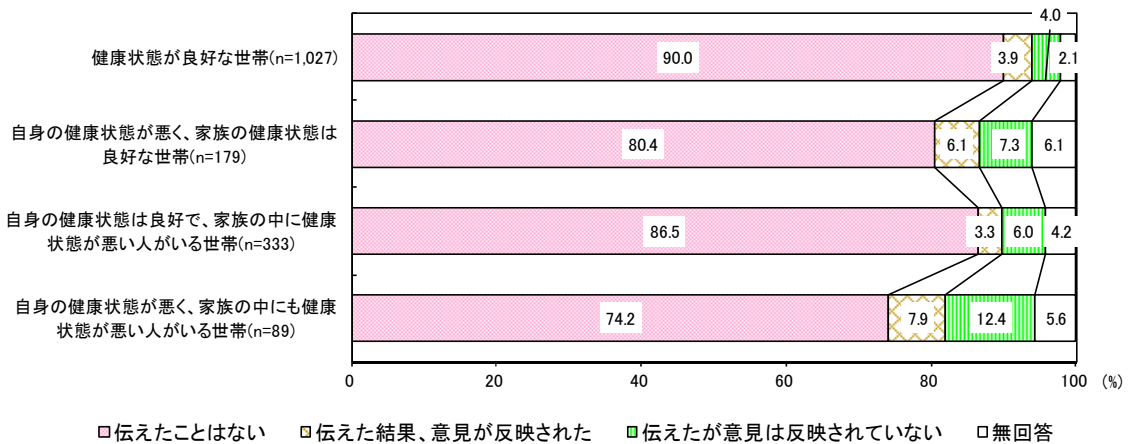
行政や社会に対する提案・意見・要望の伝達状況では、いずれの項目も「伝えたことがない」が8～9割と高い。「伝えた結果、意見が反映された」の割合が最も高いのは“ア. 関連部署の窓口などの職員に直接”（4.2％）であり、「伝えたが意見は反映されていない」の割合が最も高いのは“エ. 署名活動や提案書を提出”（7.5％）であった。（図表3-4）

健康状態別でみると、「伝えたことはない」は、「ア. 関連部署の窓口などの職員に直接」～「エ. 署名活動や提案書を提出」の全ての項目で7割を超えており、[健康状態が良好な世帯] が90%前後で最も高い。

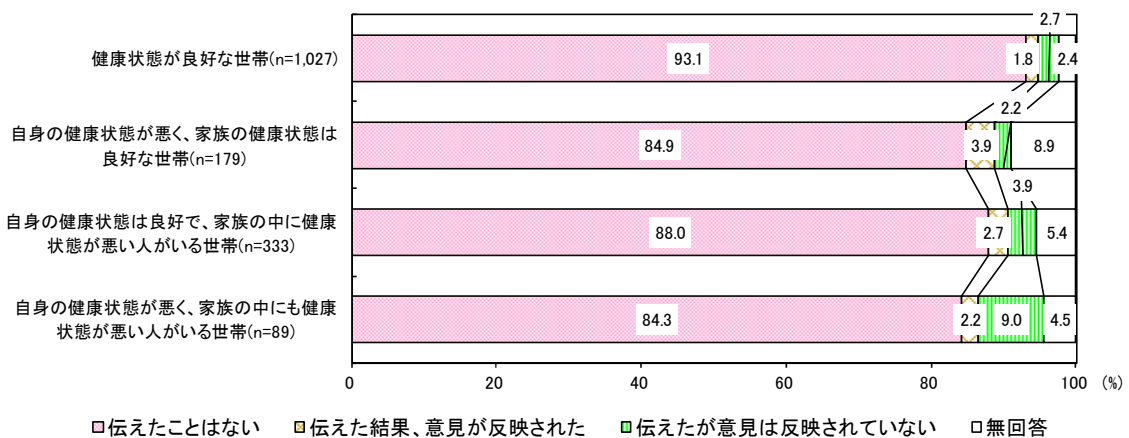
「伝えたが意見は反映されていない」は、「ア. 関連部署の窓口などの職員に直接」で、[自身の健康状態が悪く、家族の中にも健康状態が悪い人がいる世帯] (12.4%) が最も多く、「イ. 行政の職員が参加する懇談会・対話フォーラムなどに出席して」、 「エ. 署名活動や提案書を提出」で、[自身の健康状態が悪く、家族の中にも健康状態が悪い人がいる世帯]が、それぞれ (9.0%)、(16.9%) で最も多い。(図表3-4-1)

【図表3-4-1 健康状態別 行政や社会に対して提案・意見・要望を伝えたことがあるか】

＜ア. 関連部署の窓口などの職員に直接＞

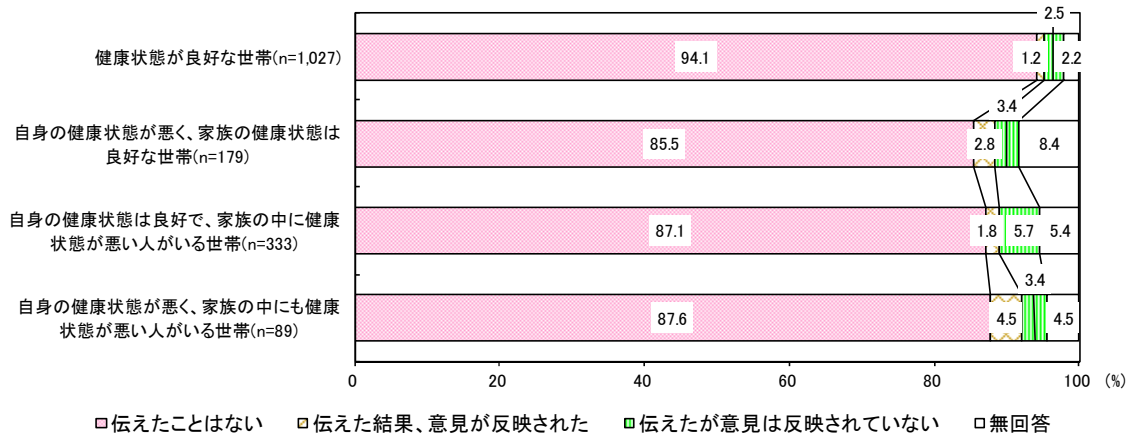


＜イ. 行政の職員が参加する懇談会・対話フォーラムなどに出席して＞

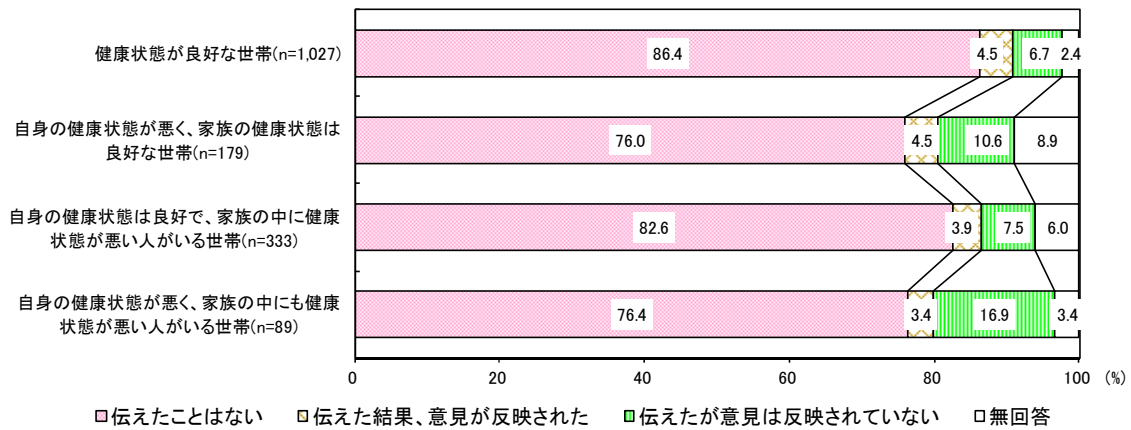


【図表3-4-1 健康状態別 行政や社会に対して提案・意見・要望を伝えたことがあるか（続き）】

<ウ. 市長への手紙・パブリックコメントなど、書面（インターネット含む）で>



<エ. 署名活動や提案書を提出>

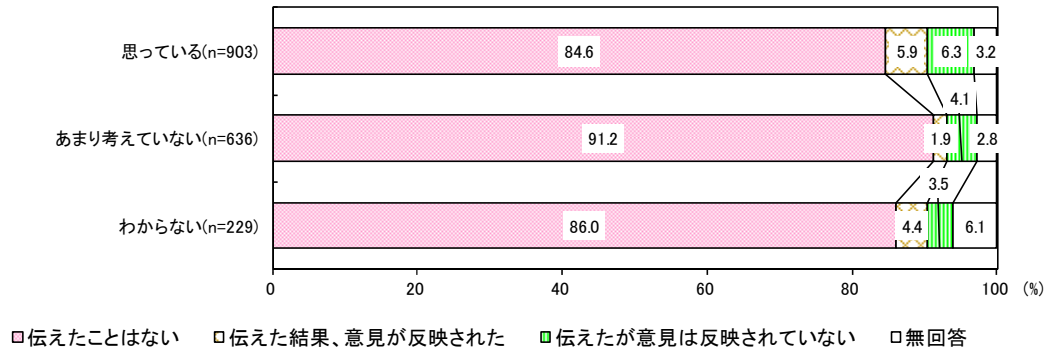


社会貢献に対する思い別でみると、「伝えたことはない」は、全ての項目で80%を超えており、[あまり考えていない]の割合がもっとも多い。

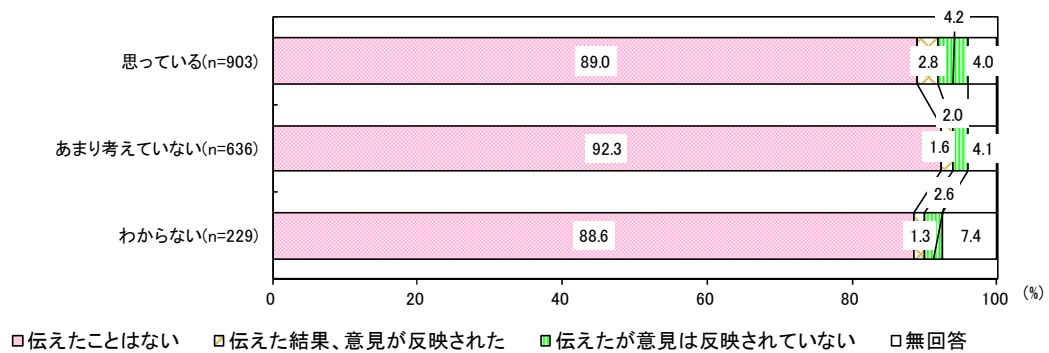
「伝えたが意見は反映されていない」は、“ア. 関連部署の窓口などの職員に直接”～“エ. 署名活動や提案書を提出”の全ての項目で[思っている]の割合が高い。(図表3-4-2)

【図表3-4-2 社会貢献に対する思い別 行政や社会に対して提案・意見・要望を伝えたことがあるか】

<ア. 関連部署の窓口などの職員に直接>

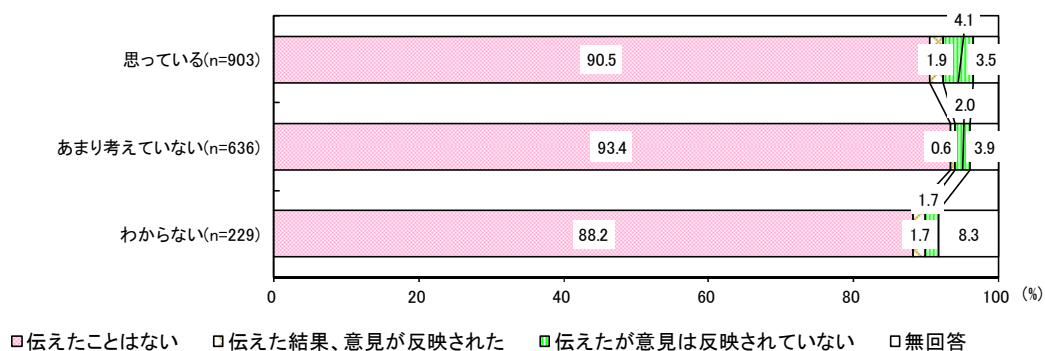


<イ. 行政の職員が参加する懇談会・対話フォーラムなどに参加して>

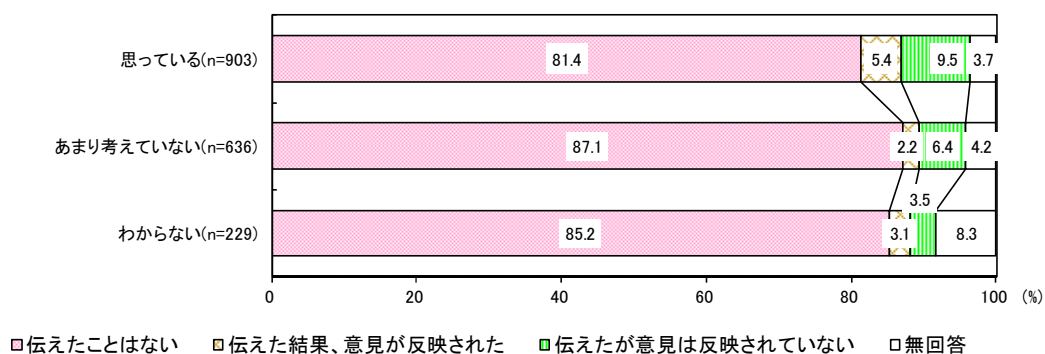


【図表3-4-2 社会貢献に対する思い別 行政や社会に対して提案・意見・要望を伝えたことがあるか(続き)】

<ウ. 市長への手紙・パブリックコメントなど、書面(インターネット含む)で>



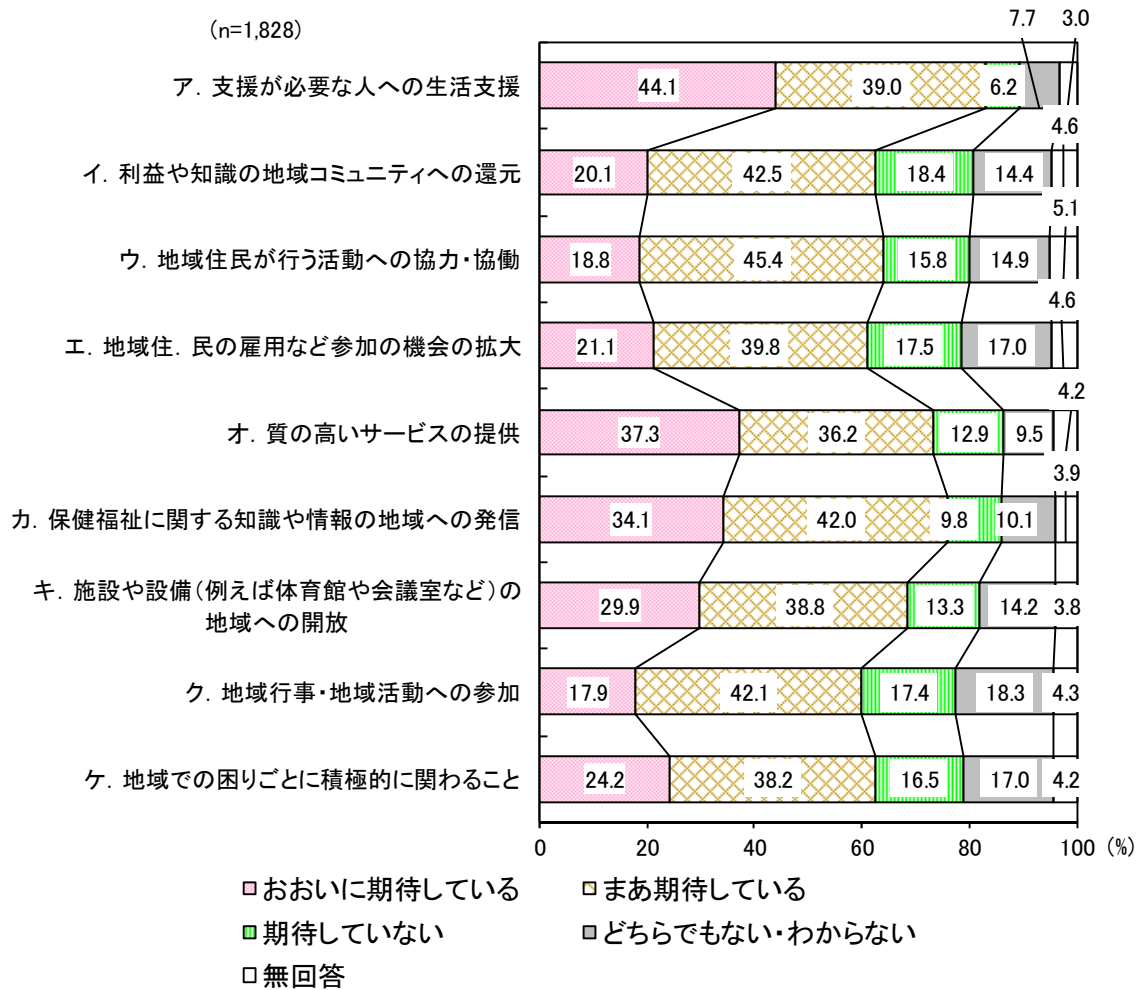
<エ. 署名活動や提案書を提出>



(5) 地域団体や事業者に対して期待すること

問10 地域で活動する団体や、保健福祉サービスを提供する事業者（老人ホーム、障がい者施設、保育所など）に対して期待することは何ですか。ア～ケのそれぞれの項目について、あてはまるものを1つずつ選んで番号に○をつけてください。

【図表3-5 地域団体や事業者に対して期待すること】



地域団体や事業者に期待することについて、「おおいに期待している」と「まあ期待している」を合わせた『期待している』の割合（以下、『期待している』割合）では、“ア. 地域の支援が必要な人への生活支援”（83.1%）が最も高く、次いで“カ. 保健福祉に関する知識や情報の地域への発信”（76.1%）、“オ. 質の高いサービスの提供”（73.5%）、“となっている。また、「おおいに期待している」は“ア. 地域の支援が必要な人への生活支援”（44.1%）が最も高くなっている。（図表3-5）

(6) ボランティア活動への参加状況

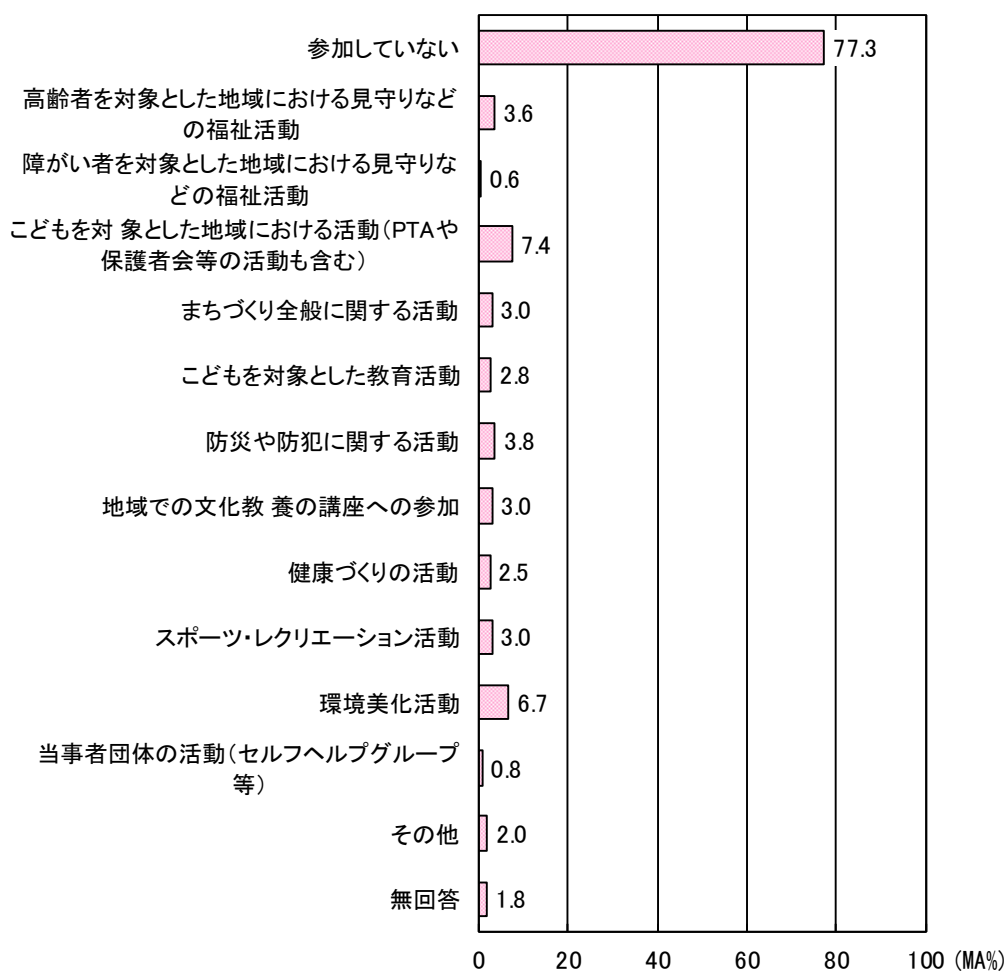
① ボランティア活動の参加状況と種類

問11 あなたは、定期的にどのようなボランティア活動（町内会などの地域活動や、NPO等のテーマ型の活動など）に参加していますか。

※ 水害などの災害が起こった現場での復旧作業などのボランティアは除きます。

【図表3-6 地域活動への参加状況と種類】

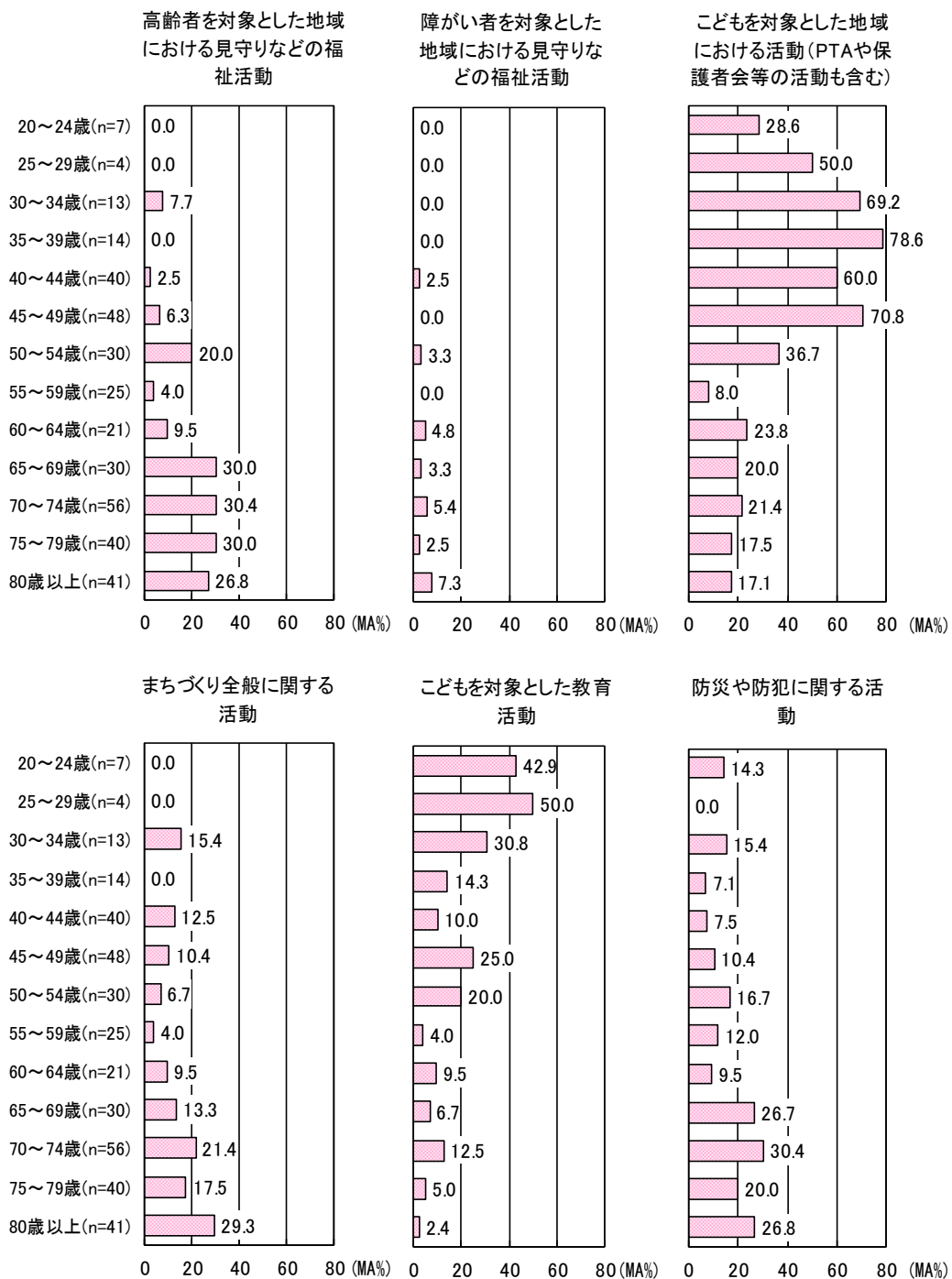
(n=1,828)



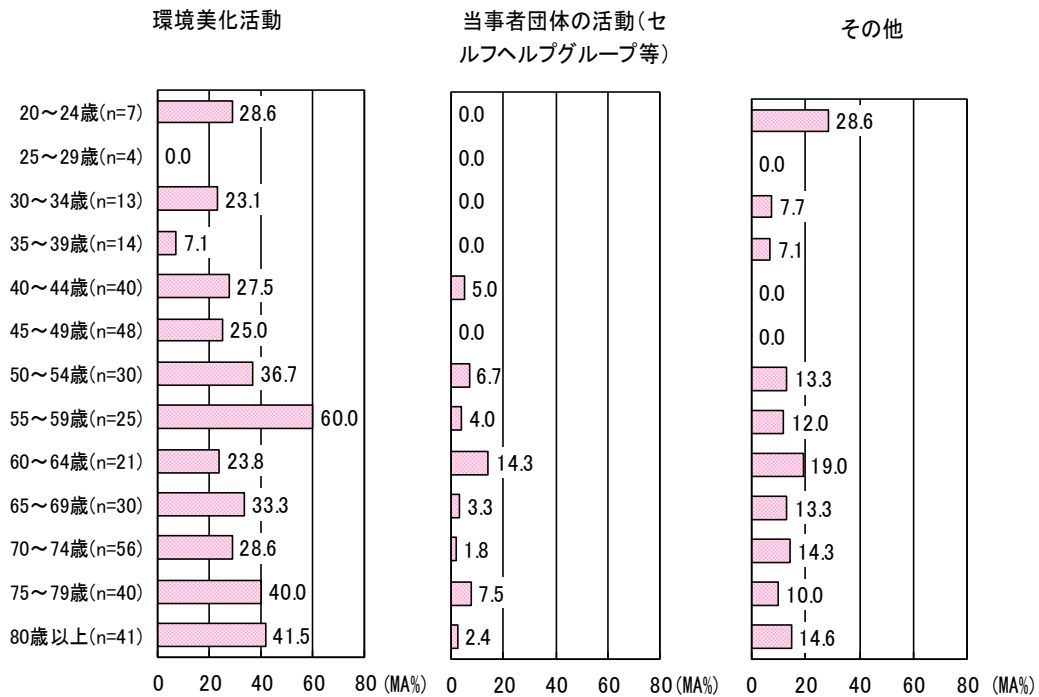
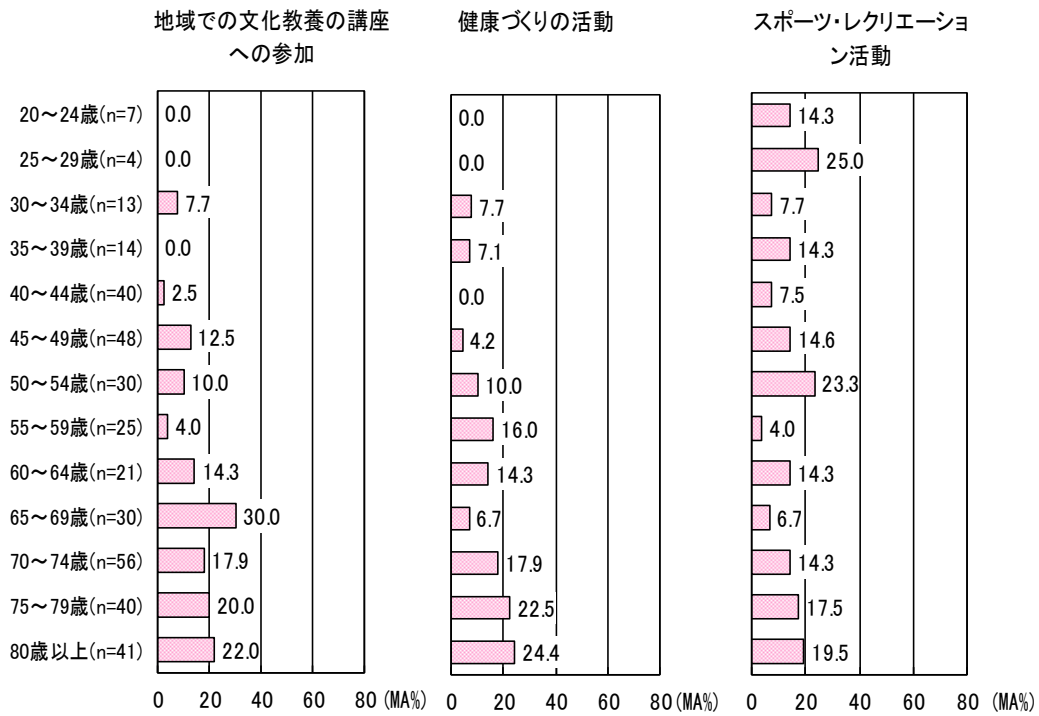
地域活動への参加状況では、「参加していない」(77.3%)が最も高い。参加しているもので多いものは、「子どもを対象とした地域における活動(PTAや保護者会等の活動も含む)」(7.4%)、「環境美化活動」(6.7%)である(図表3-6)

年代別でみると、「高齢者を対象とした地域における見守りなどの福祉活動」、「まちづくり全般に関する活動」、「防災や防犯に関する活動」、「地域での文化教養の講座への参加」、「健康づくりの活動」は、年代が上がるほど割合が高くなる傾向になっている。「障がい者を対象とした地域における見守りなどの福祉活動」は、全ての年代で10%を下回っており、参加状況が著しく低い。また、「当事者団体の活動（セルフヘルプグループ等）」も同様に参加状況が著しく低い。「子どもを対象とした地域における活動（PTAや保護者会等の活動も含む）」は、25～45歳の年代層で50%を超えており、35～39歳（78.6%）が最も多い。「環境美化活動」は、ほとんどの年代層で20%以上と高く、55～59歳（60.0%）が最も多い。「スポーツ・レクリエーション活動」は、25～29歳（25.0%）が最も多く、次いで50～54歳（23.3%）が多い。（図表3-6-1）

【図表3-6-1 年代別 地域活動への参加状況と種類】

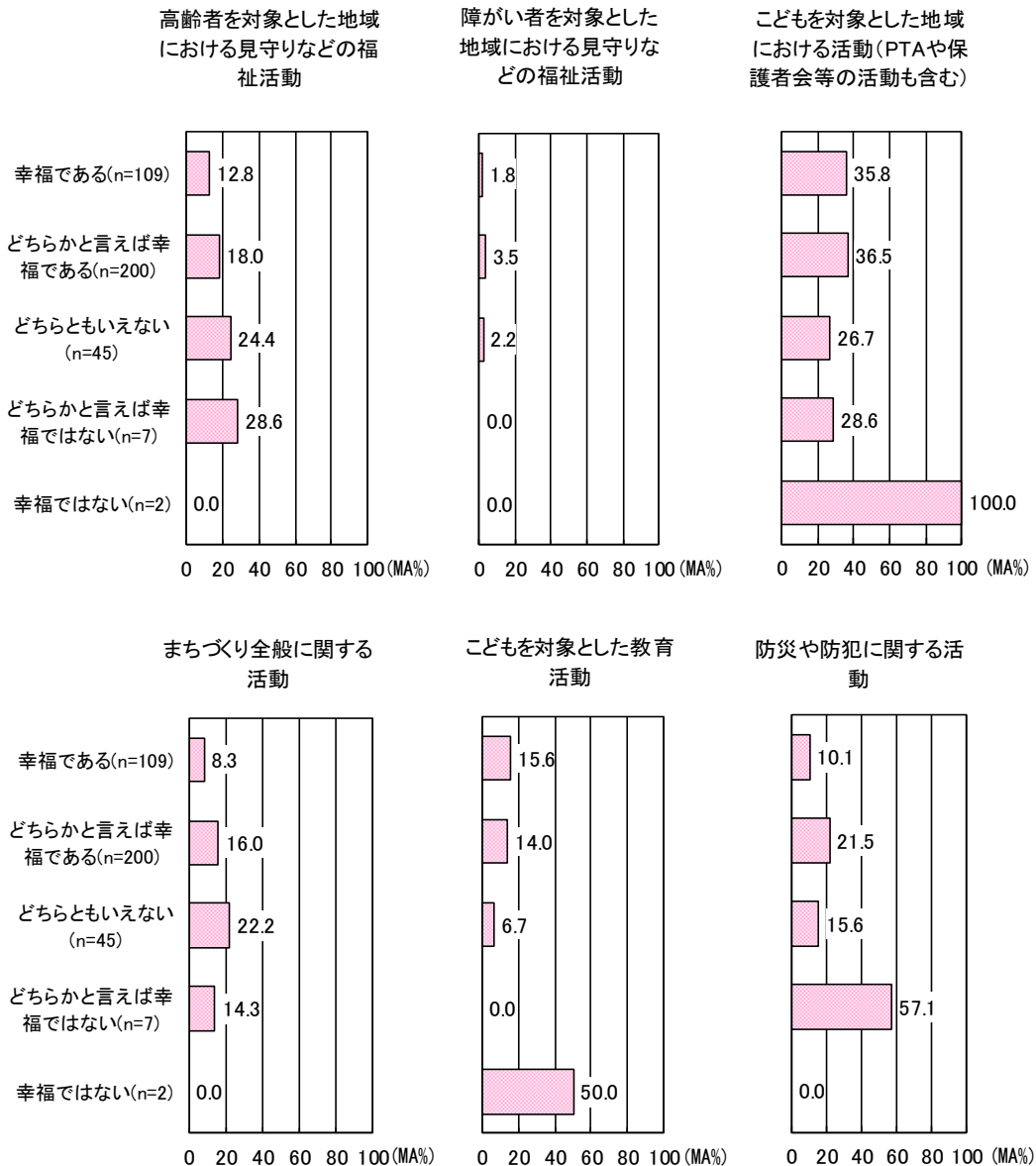


【図表3-6-1 年代別 地域活動への参加状況と種類（続き）】

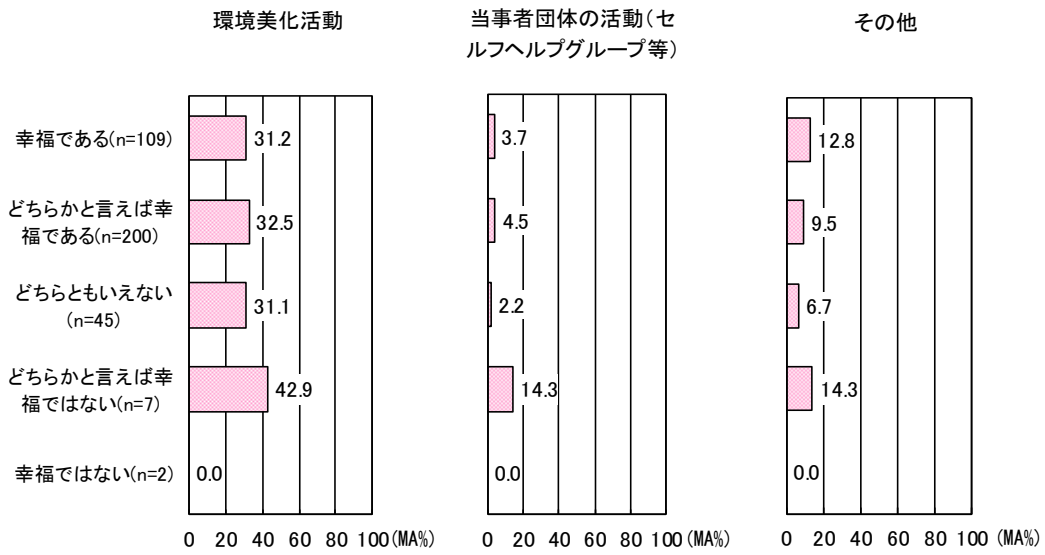
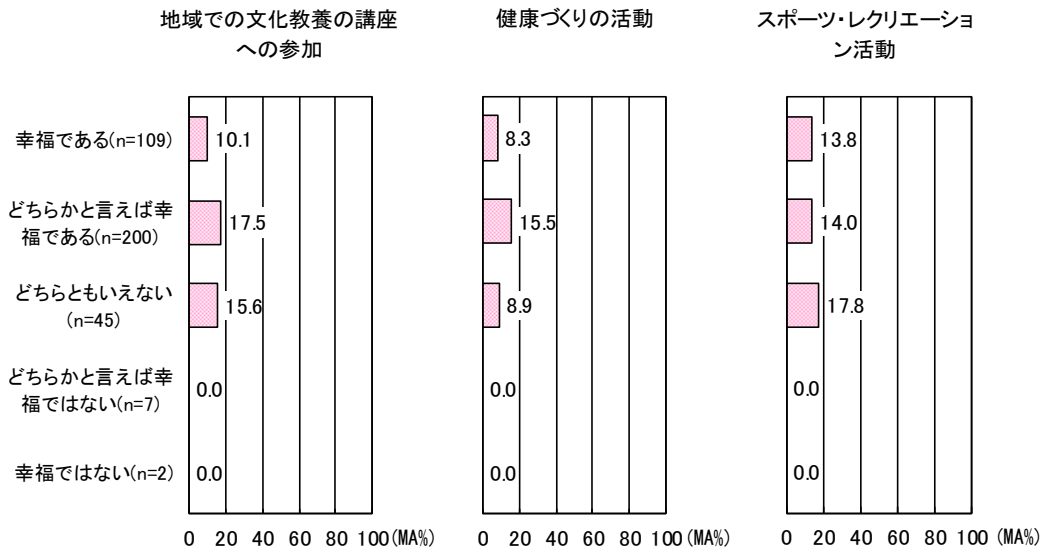


主観的幸福感別でみると、「高齢者を対象とした地域における見守りなどの福祉活動」は、どちらかと言えば幸福ではない(28.6%)が最も多い。「子どもを対象とした地域における活動(PTAや保護者会等の活動も含む)」は、幸福感の度合いに関係なく30%前後と他の項目と比較して参加状況が高い。逆に「障がい者を対象とした地域における見守りなどの福祉活動」、「当事者団体の活動(セルフヘルプグループ等)」は、幸福感の度合いに関係なく参加状況が著しく低い。「まちづくり全般に関する活動」は、どちらともいえない(22.2%)が最も多い。「防災や防犯に関する活動」は、どちらかと言えば幸福ではない(57.1%)が最も多い。「地域での文化教養の講座への参加」、「健康づくりの活動」、「スポーツ・レクリエーション活動」は、[幸福である][どちらかと言えば幸福である][どちらともいえない]が8.3~17.8%、[どちらかと言えば幸福ではない][幸福ではない]は0%となっている。「環境美化活動」は、どちらかと言えば幸福である(42.9%)が最も多く、幸福ではない(0.0%)以外でも30%を超えている。(図表3-6-2)

【図表3-6-2 主観的幸福感別 地域活動への参加状況と種類】

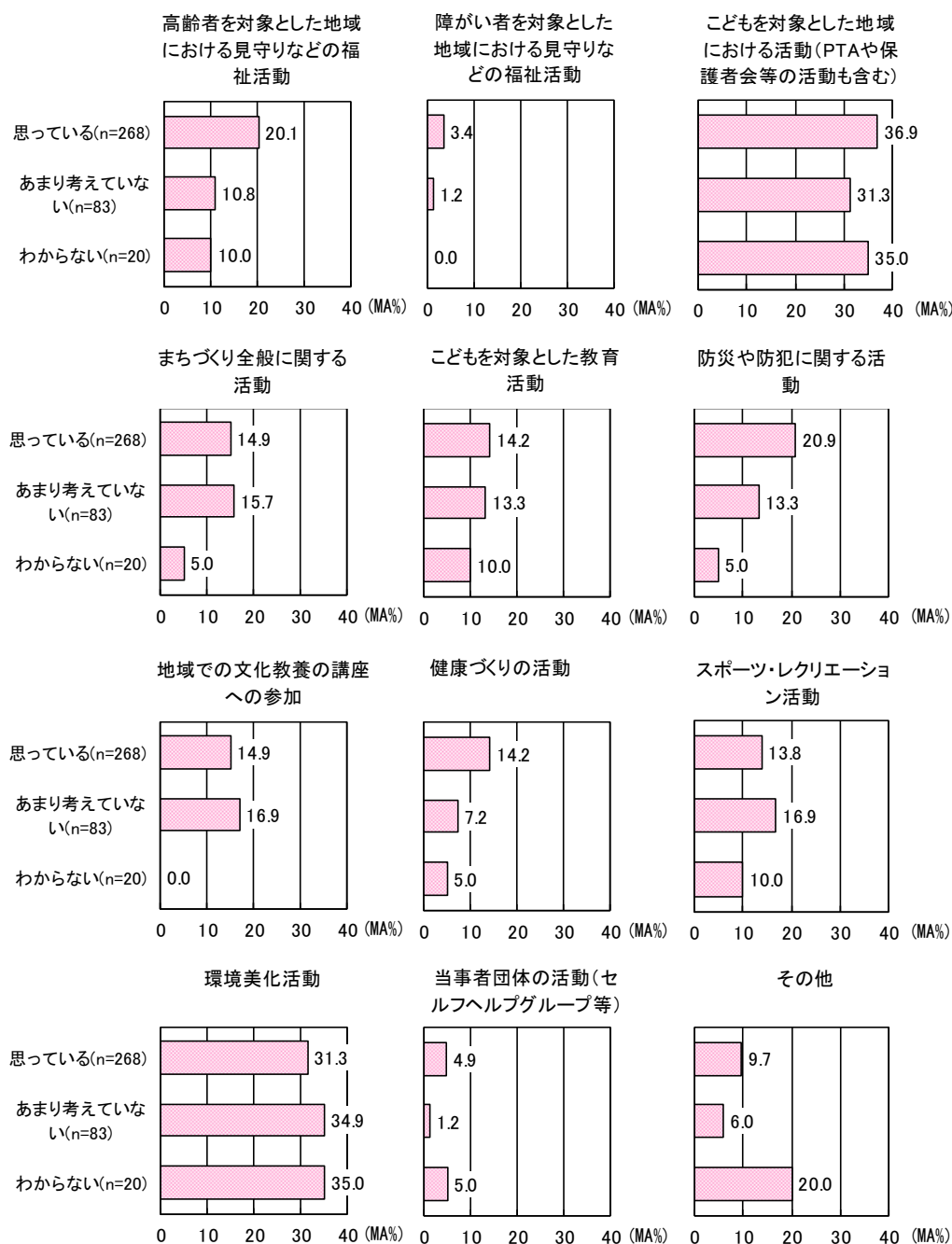


【図表3-6-2 主観的幸福感別 地域活動への参加状況と種類（続き）】



社会貢献に対する思い別でみると、「高齢者を対象とした地域における見守りなどの福祉活動」は、思っている(20.1%)が多い。「子どもを対象とした地域における活動(PTAや保護者会等の活動も含む)」、「環境美化活動」は、社会貢献に対する思いに関係なく30%以上で参加状況が高い。逆に「障がい者を対象とした地域における見守りなどの福祉活動」は、社会貢献に対する思いに関係なく参加状況が著しく低い。「子どもを対象とした教育活動」、「防災や防犯に関する活動」、「健康づくりの活動」では、[思っている]の割合が高い。「まちづくり全般に関する活動」、「地域での文化教養の講座への参加」、「スポーツ・レクリエーション活動」は、[あまり考えていない]の割合が高い。「当事者団体の活動(セルフヘルプグループ等)」は、わからない(5.0%)、思っている(4.9%)となっている。(図表3-6-3)

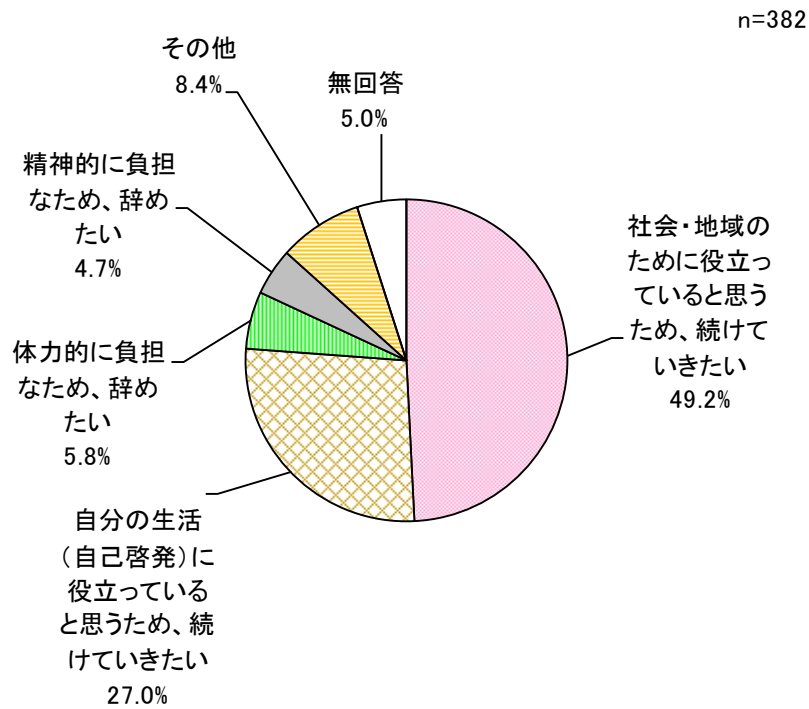
【図表3-6-3 社会貢献に対する思い別 地域活動への参加状況と種類】



②ボランティア活動の参加の感想

問12 【問11 で「2～13」（参加している）を選択された方におたずねします。
ボランティア活動の参加にあたり、お感じになっていることは何ですか。
あなたのお考えに一番近いもの1つに○をつけてください。

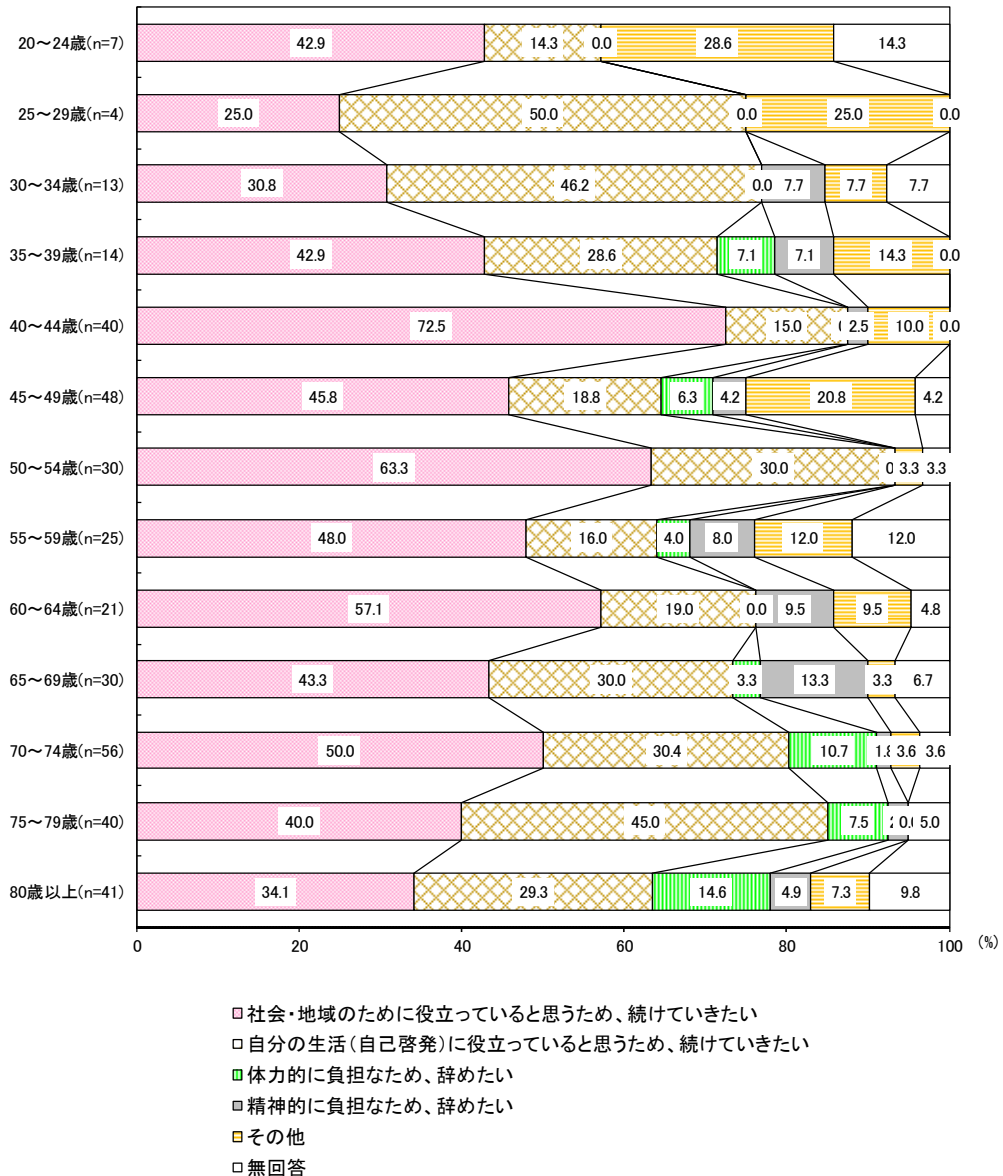
【図表3-7 ボランティア活動の参加の感想】



ボランティア活動に参加して感じたことをたずねると、「社会・地域のために役立っていると思うため、続けていきたい」（49.2%）が最も多く、次いで「社会・地域のために役立っていると思うため、続けていきたい」（27.0%）となっており、『続けていきたい』という意見が76.2%を占めている。（図表3-7）

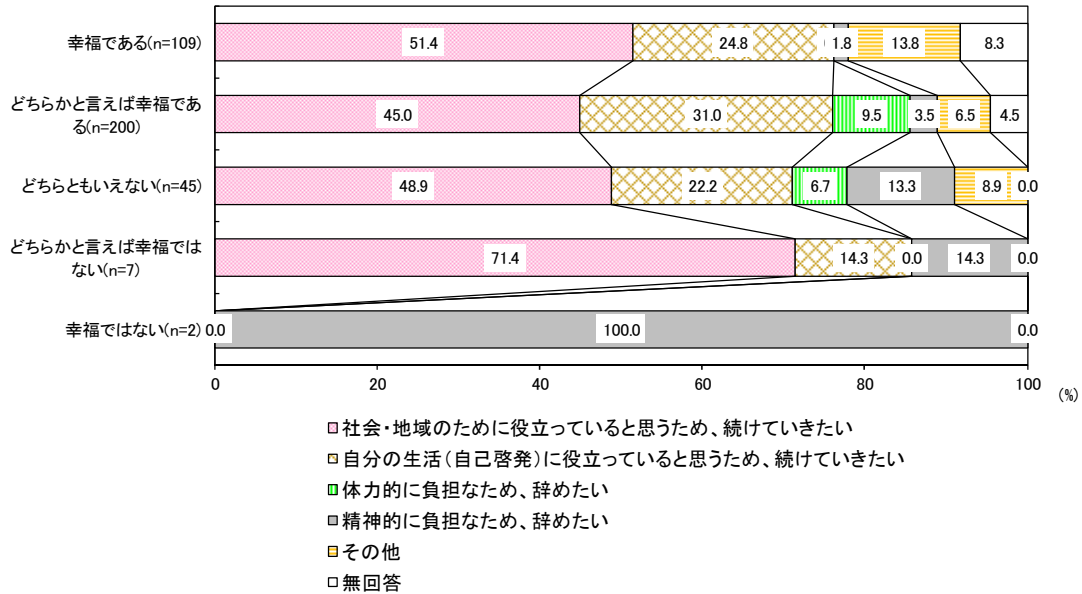
年代別でみると、「社会・地域のために役立っていると思うため、続けていきたい」は、40～44歳（72.5%）が最も多く、次いで、50～54歳（63.3%）、60～64歳（57.1%）となっており、25～29歳（25.0%）が最も少ない。「自分の生活（自己啓発）に役立っていると思うため、続けていきたい」は、25～29歳（50.0%）が最も多く、20～24歳（14.3%）が最も少ない。「体力的に負担なため、辞めたい」は、80歳以上（14.6%）、70～74歳（10.7%）が多い。「精神的に負担なため、辞めたい」は、65～69歳（13.3%）が最も多く、次いで、60～64歳（9.5%）、55～59歳（8.0%）が多い。（図表3-7-1）

【図表3-7-1 年代別 ボランティア活動の参加の感想】



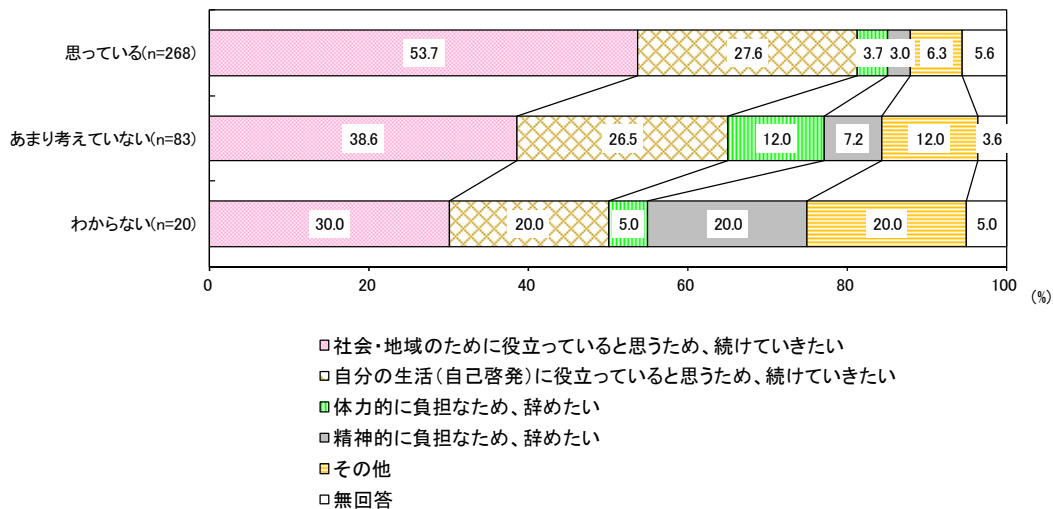
主観的幸福感別でみると、「社会・地域のために役立っていると思うため、続けていきたい」は、どちらかと言えば幸福ではない（71.4%）が最も多く、次いで、幸福である（51.4%）が多くなっている。「自分の生活（自己啓発）に役立っていると思うため、続けていきたい」は、どちらかと言えば幸福である（31.0%）が最も多く、次いで、幸福である（24.8%）が多くなっている。（図表3-7-2）

【図表3-7-2 主観的幸福感別 ボランティア活動の参加の感想】



社会貢献に対する思い別でみると、「社会・地域のために役立っていると思うため、続けていきたい」は、思っている（53.7%）が最も多く、次いで、あまり考えていない（38.6%）が多くなっている。「自分の生活（自己啓発）に役立っていると思うため、続けていきたい」も、思っている（27.6%）が最も多く、次いで、あまり考えていない（26.5%）が多くなっている。（図表3-7-3）

【図表3-7-3 社会貢献に対する思い別 ボランティア活動の参加の感想】

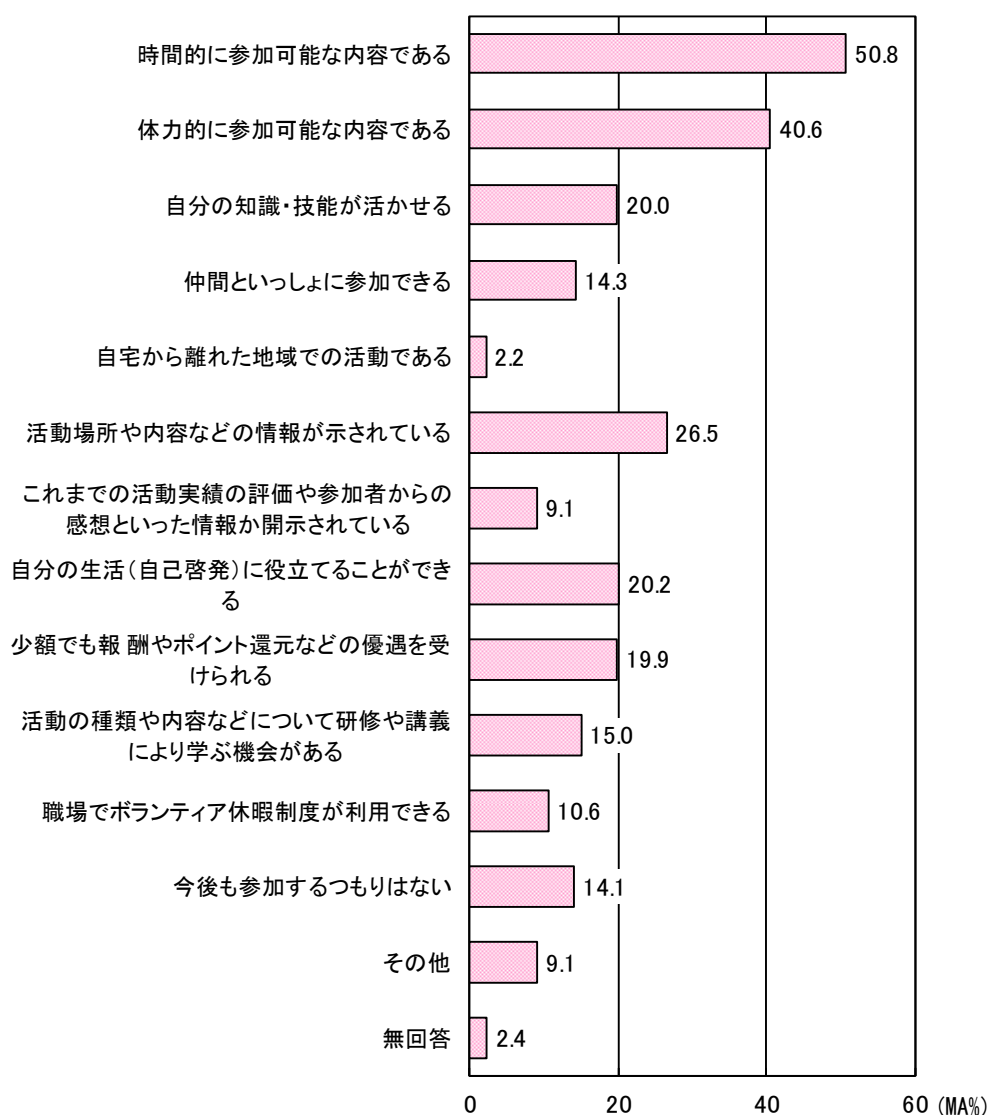


③ボランティア活動の参加条件

問13 【問11 で「1. 参加していない」とお答えされた方におたずねします。】
 どういう条件を整えばボランティア活動（地域活動）に参加されますか。
 あてはまるものすべてに○をつけてください。

【図表3-8 ボランティア活動への参加条件】

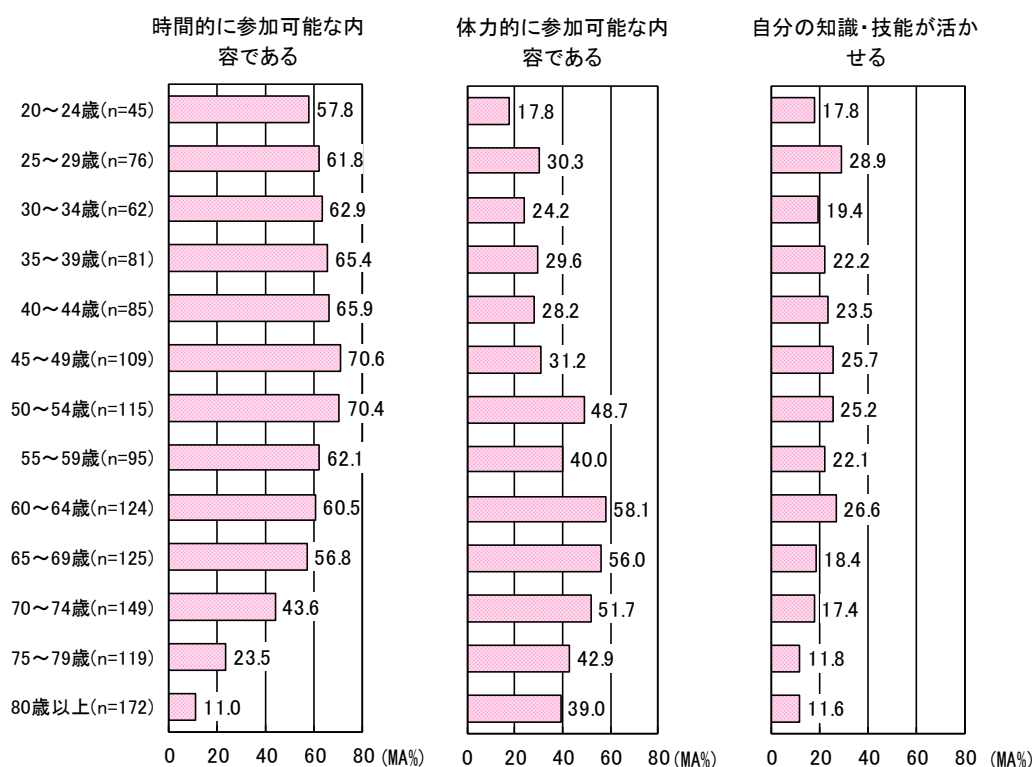
(n=1,413)



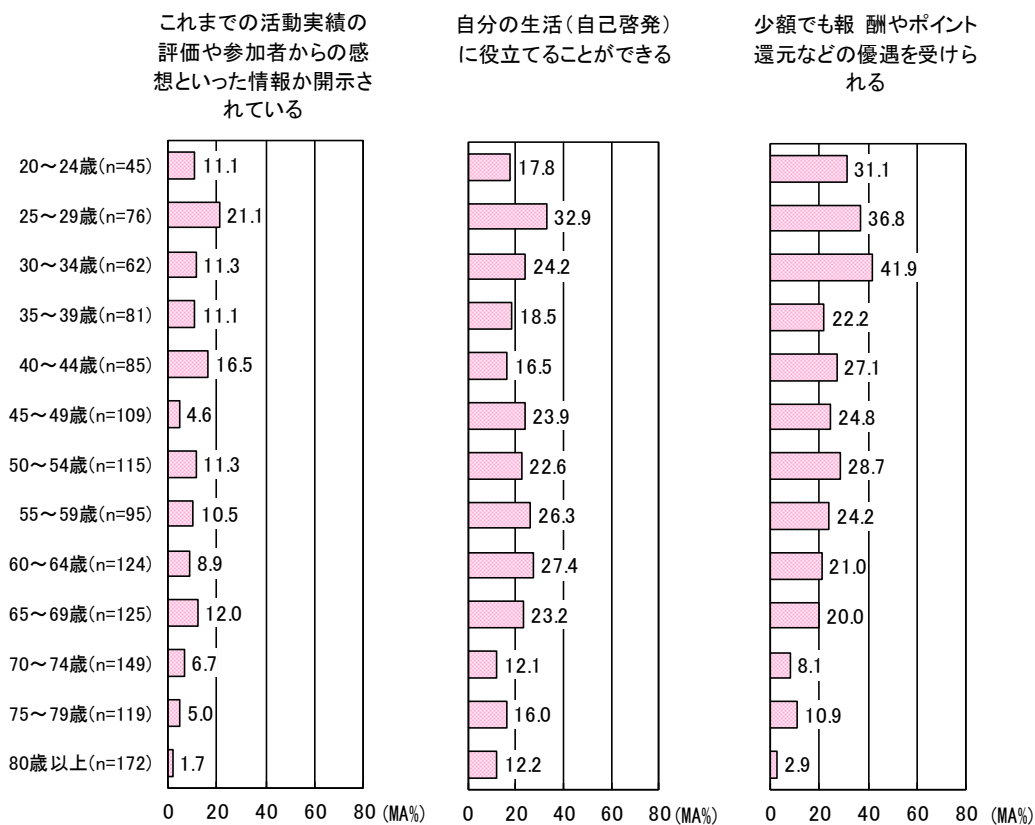
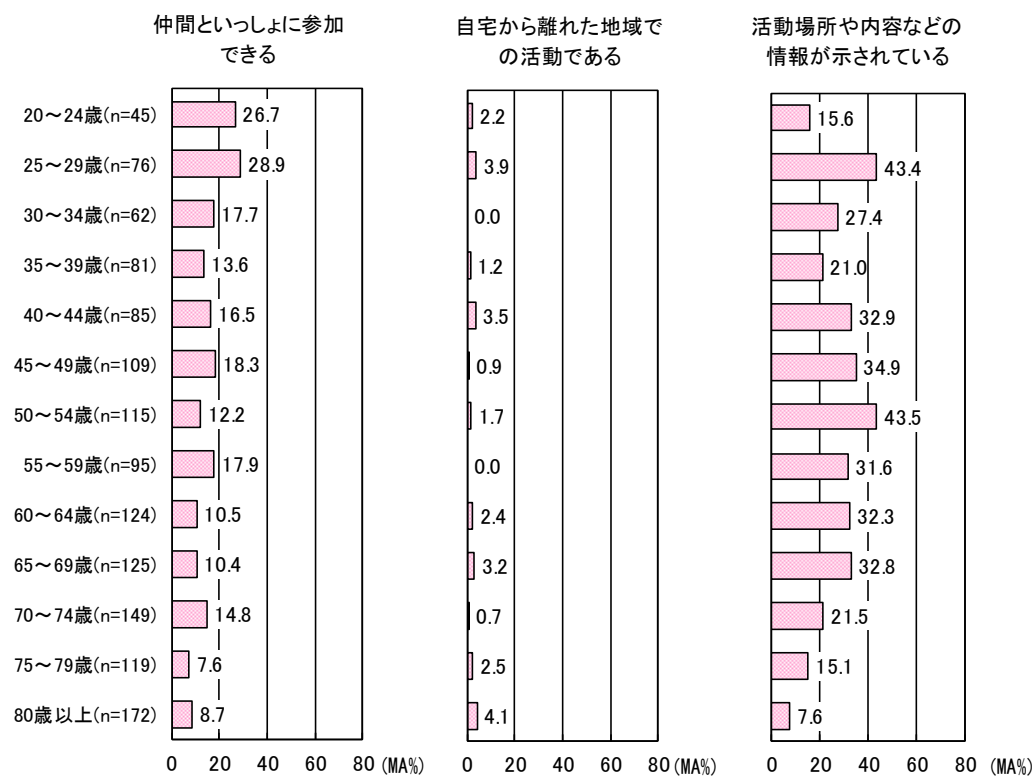
ボランティア活動に参加していないと回答した人に、参加条件をたずねると、「時間的に参加可能な内容である」(50.8%)が最も多く、次いで「体力的に参加可能な内容である」(40.6%)、「活動の場所や内容といった情報が示されている」(26.5%)と続いている。(図表3-8)

年代別でみると、「時間的に参加可能な内容である」は、20～64歳の年代層で56%を超えており、70歳から年代が上がるほど割合は低くなっている。「体力的に参加可能な内容である」は、50歳未満の年代層までは3割前後だが、50歳以上になると4割～5割前後まで跳ね上がる。「仲間といっしょに参加できる」は、20～29歳の年代層が多く、年代が上がるほど割合が低くなる傾向になっている。「自宅から離れた地域での活動である」は、全ての年代層が5%未満の低い割合になっている。「活動場所や内容などの情報が示されている」は、25～74歳の年代層で20%を超えている。「これまでの活動実績の評価や参加者からの感想といった情報が開示されている」は、25～29歳（21.1%）が最も多く、80歳以上（1.7%）が最も少ない。「自分の生活（自己啓発）に役立てることができる」、「少額でも報酬やポイント還元などの優遇を受けられる」は、70歳未満の年代層の割合が高く、70歳以上の年代層の割合が低い傾向がある。「活動の種類や内容などについて研修や講義により学ぶ機会がある」は、40～69歳の年代層の割合が高い。「職場でボランティア休暇制度が利用できる」は、25～29歳（31.6%）が最も多く、30～54歳の年代層では、2割前後の割合となっている。「今後も参加するつもりはない」は、80歳以上（25.0%）、75～79歳（21.0%）が多く、年代が上がるほど割合は高くなっている。（図表3-8-1）

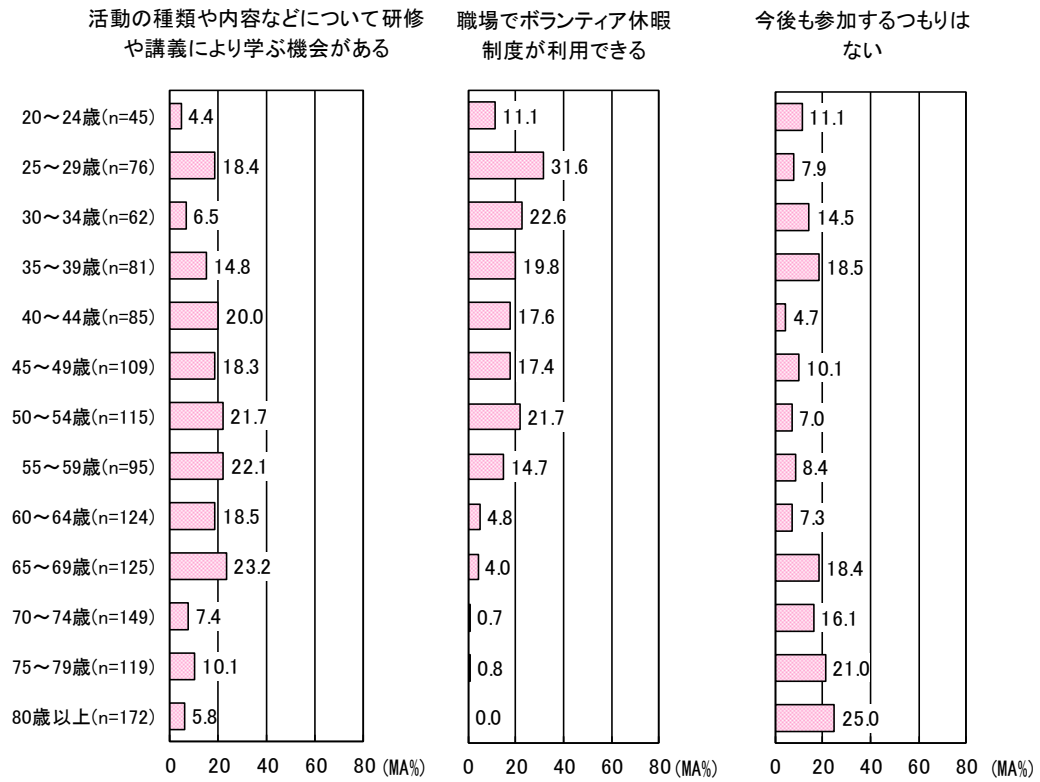
【図表3-8-1 年代別 ボランティア活動への参加条件】



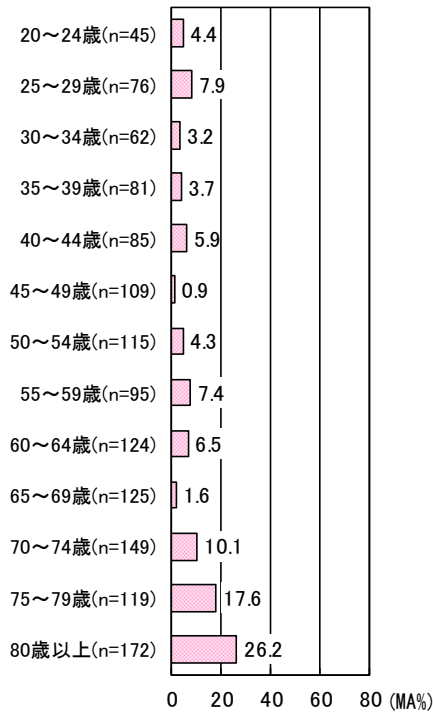
【図表3-8-1 年代別 ボランティア活動への参加条件（続き）】



【図表3-8-1 年代別 ボランティア活動への参加条件（続き）】

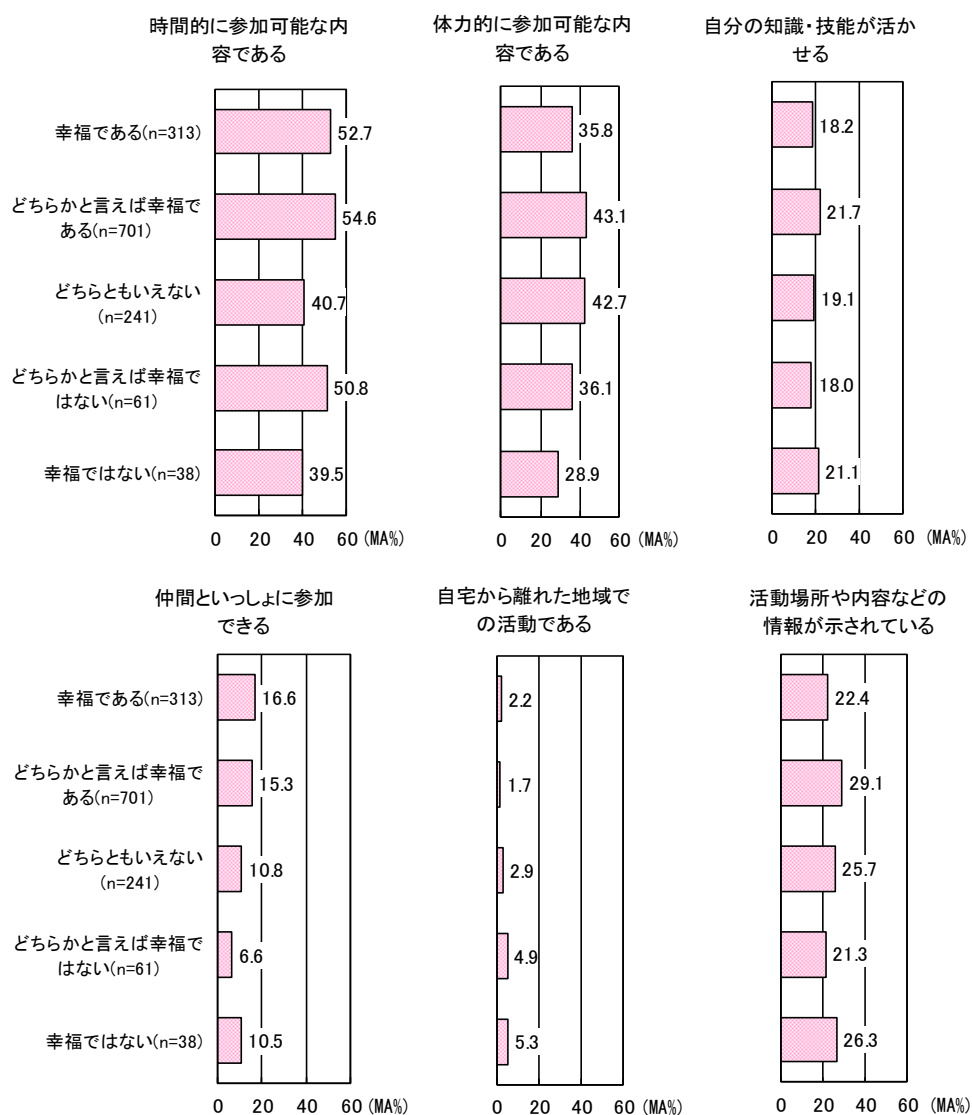


その他

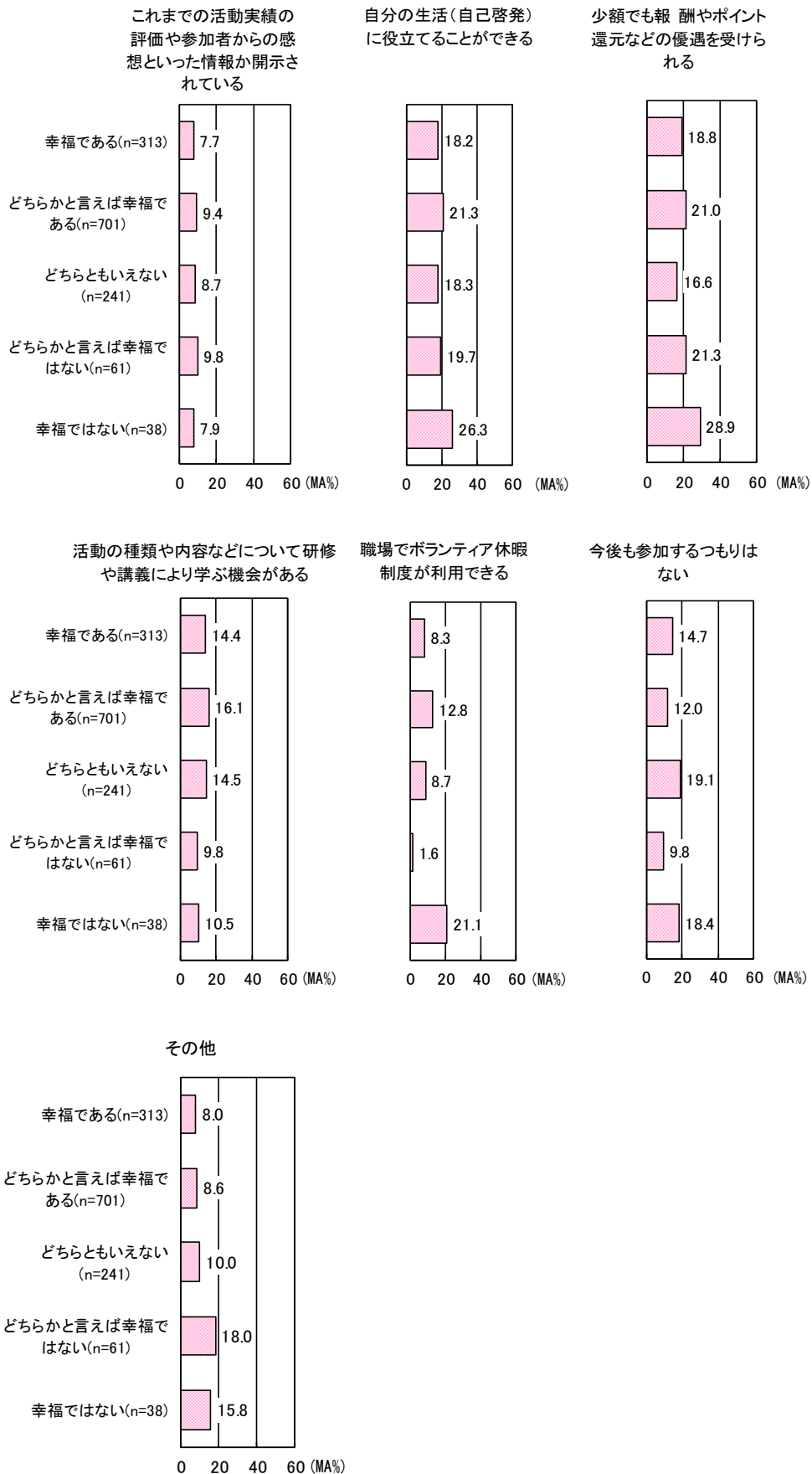


主観的幸福感別でみると、「時間的に参加可能な内容である」は、どちらかと言えば幸福である（54.6%）が最も多いが、幸福感の度合いに関係なく割合は39%を超えて高い。「仲間といっしょに参加できる」は、幸福である（16.6%）、どちらかと言えば幸福である（15.3%）が多い。「自宅から離れた地域での活動である」は、幸福感の度合いに関係なく5%未満で低い。「活動場所や内容などの情報が示されている」は、どちらかと言えば幸福である（29.1%）が多いが、他の項目も20%以上で割合の開きは小さい。「これまでの活動実績の評価や参加者からの感想といった情報が開示されて」は、7.7~9.8%で低い割合になっている。「自分の生活（自己啓発）に役立てることができる」、「少額でも報酬やポイント還元などの優遇を受けられる」は、「幸福ではない」が、それぞれ（26.3%）（28.9%）で最も多く、他の幸福感の度合いより5ポイント以上高い。「活動の種類や内容などについて研修や講義により学ぶ機会がある」は、幸福感が低い方が少ない傾向がある。「職場でボランティア休暇制度が利用できる」は、幸福ではない（21.1%）が多く、他の幸福感の度合いより8ポイント以上高い。また、どちらかと言えば幸福ではない（1.6%）が著しく低い。「今後も参加するつもりはない」は、どちらともいえない（19.1%）、幸福ではない（18.4%）が多い。（図表3-8-2）

【図表3-8-2 主観的幸福感別 ボランティア活動への参加条件】

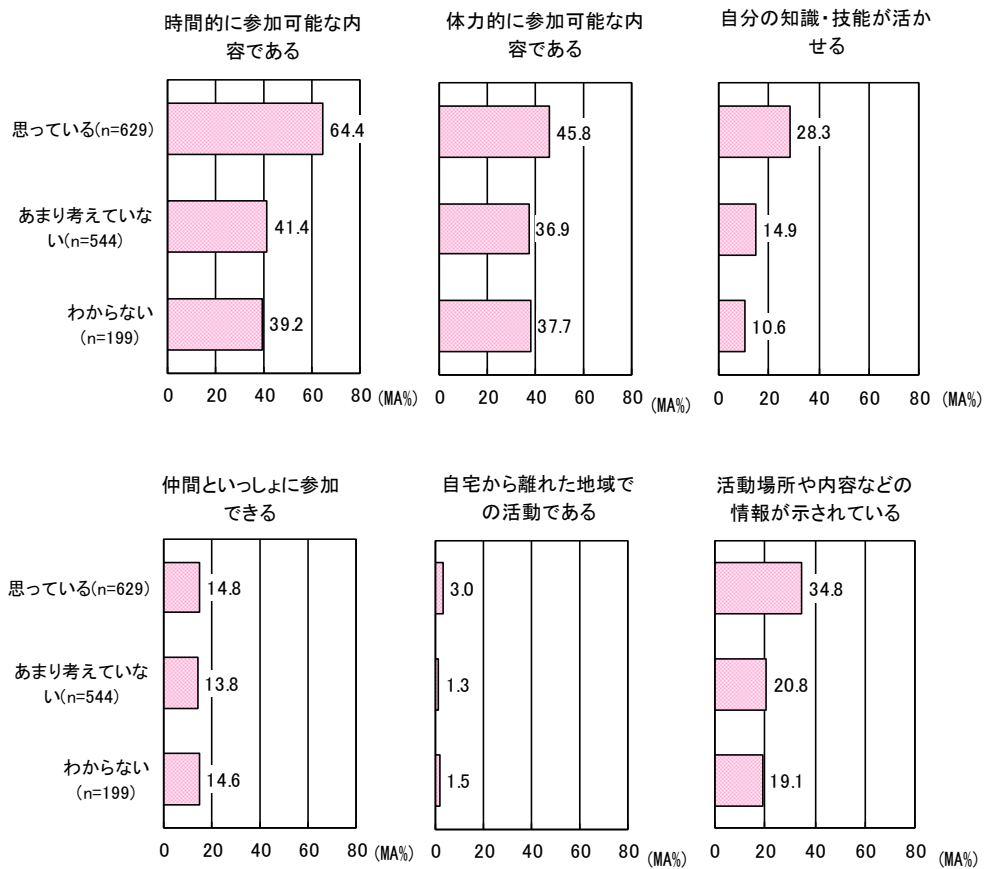


【図表3-8-2 主観的幸福感別 ボランティア活動への参加条件（続き）】

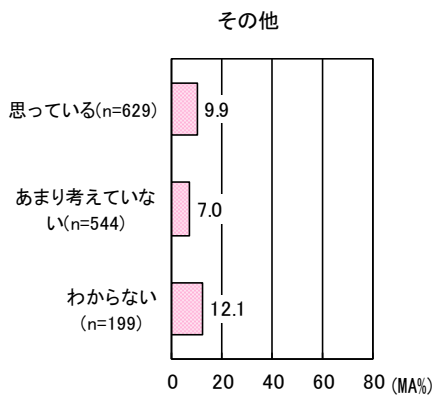
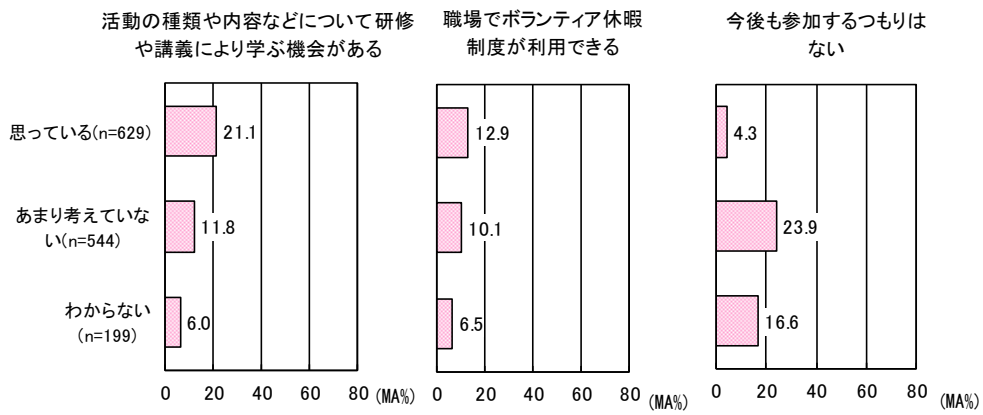
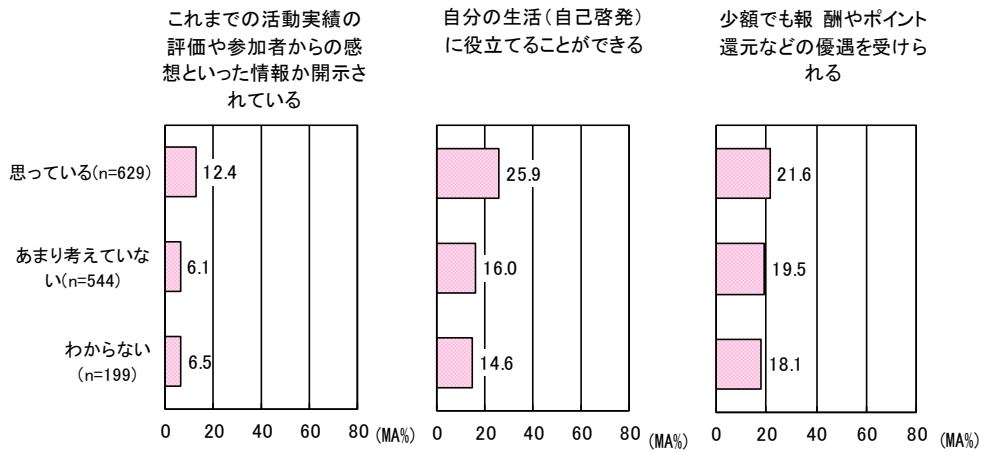


社会貢献に対する思い別でみると、「時間的に参加可能な内容である」は、思っている (64.4%) が [あまり考えていない]、[わからない] に比べて23ポイント以上高く、大きな開きがある。「自分の知識・技能が活かせる」は、思っている (28.3%) が [あまり考えていない]、[わからない] に比べて13ポイント以上高く、大きな開きがある。「仲間といっしょに参加できる」は、社会貢献に対する思いに関係なく14%前後で、開きは小さい。「自宅から離れた地域での活動である」は、社会貢献に対する思いに関係なく3.0%未満となっている。「活動場所や内容などの情報が示されている」は、思っている (29.1%) が [あまり考えていない]、[わからない] に比べて14ポイント以上高く、大きな開きがある。「これまでの活動実績の評価や参加者からの感想といった情報が開示されて」は、思っている (12.4%) が多い。「自分の生活 (自己啓発) に役立てることができる」、「活動の種類や内容などについて研修や講義により学ぶ機会がある」は思っているが、それぞれ (25.9%) (21.1%) で最も多く、[あまり考えていない]、[わからない] に比べていずれも9ポイント以上高く、大きな開きがある。「少額でも報酬やポイント還元などの優遇を受けられる」は、社会貢献に対する思いに関係なく20%前後で、開きは小さい。「今後も参加するつもりはない」は、あまり考えていない (23.9%) が最も多く、思っている (4.3%) と20ポイント近い差がある。(図表3-8-3)

【図表3-8-3 社会貢献に対する思い別 ボランティア活動への参加条件】



【図表3-8-3 社会貢献に対する思い別 ボランティア活動への参加条件（続き）】

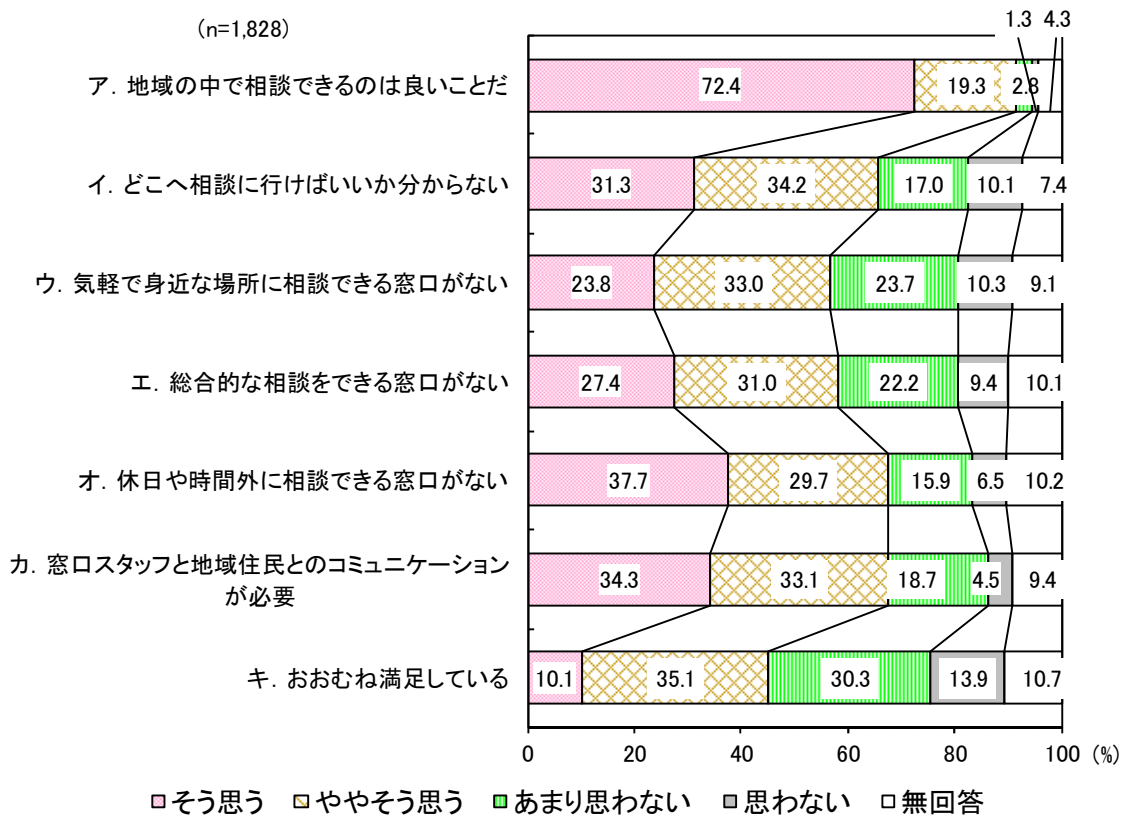


4. 福祉施策やサービス・相談窓口について

(1) 市の相談窓口に対する考え方

問14 神戸市では、高齢者や障がい者、子育てなど各種の福祉に関する相談窓口を設置していますが、あなたは現在の相談窓口についてどう思いますか。ア～キのそれぞれの項目について、あてはまるものを1つずつ選んで番号に○をつけてください。

【図表4-1 市の相談窓口に対する考え方】



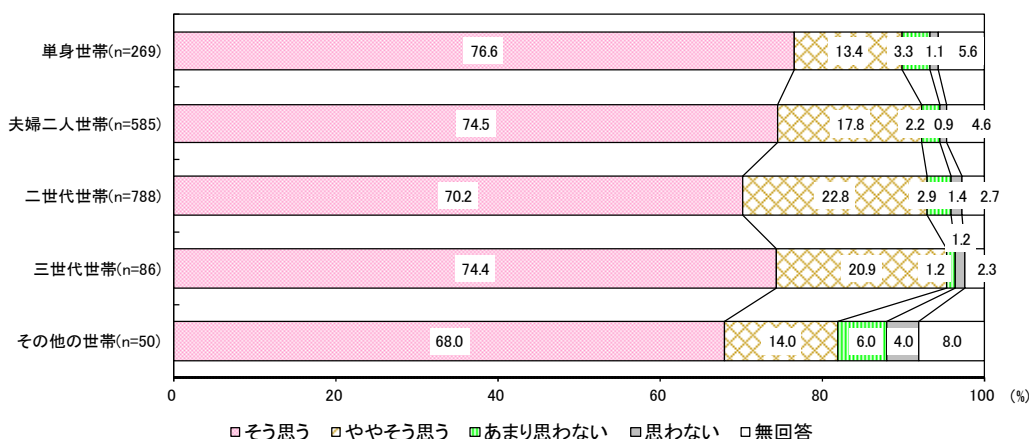
市の相談窓口に対する考え方について、『そう思う』割合では、“ア. 地域の中で相談できるのは良いことだ” (91.7%) が最も高く、次いで“オ. 休日や時間外に相談できる窓口がない”、“カ. 窓口スタッフと地域住民とのコミュニケーションが必要” (共に67.4%)、“イ. どこへ相談に行けばいいかわからない” (65.5%)、“エ. 総合的な相談ができる窓口がない” (58.3%)、“ウ. 気軽に身近な場所に相談できる窓口がない” (56.8%) と、それぞれ過半数を占めている。また、「そう思う」では“ア. 地域の中で相談できるのは良いことだ” (72.4%) が他の項目に比べ高くなっている。一方、『思わない』割合は“キ. おおむね満足している” (44.1%) が最も高い。(図表4-1)

世帯構成別でみると、「そう思う」は、「ア. 地域の中で相談できるのは良いことだ」で、全ての世帯で68%を超え、大きく占めている。「イ. どこへ相談に行けばいいか分からない」、「ウ. 気軽に身近な場所に相談できる窓口がない」、「オ. 休日や時間外に相談できる窓口がない」は、二世帯世帯の割合が高い。「エ. 総合的な相談をできる窓口がない」、「カ. 窓口スタッフと地域住民とのコミュニケーションが必要」、「キ. おおむね満足している」は、三世帯世帯の割合が高い。また、「キ. おおむね満足している」では、全ての世帯で20%以下の割合となっており、他の項目と比べて低い。

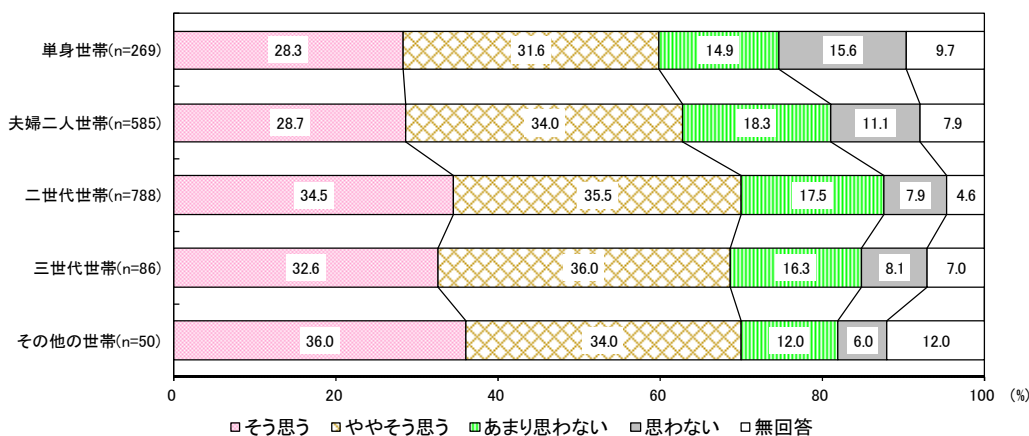
「思わない」は、「イ. どこへ相談に行けばいいか分からない」、「ウ. 気軽に身近な場所に相談できる窓口がない」、「エ. 総合的な相談をできる窓口がない」で単身世帯の割合が高く、「キ. おおむね満足している」では、その他の世帯、二世帯世帯の割合が高い。(図表4-1-1)

【図表4-1-1 世帯構成別 市の相談窓口に対する考え方】

<ア. 地域の中で相談できるのは良いことだ>

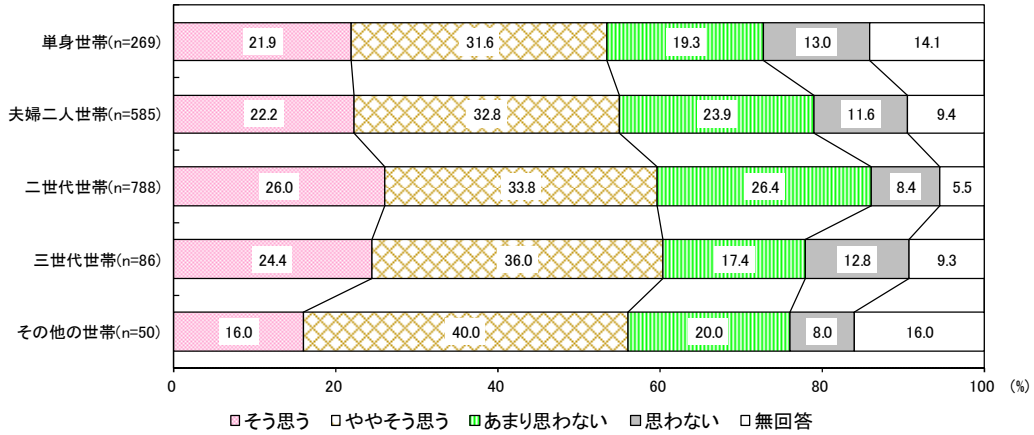


<イ. どこへ相談に行けばいいか分からない>

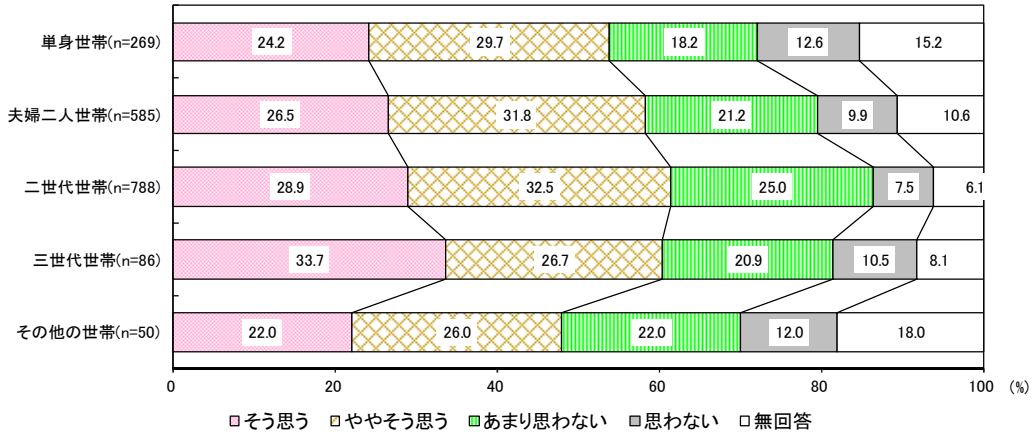


【図表4-1-1 世帯構成別 市の相談窓口に対する考え方（続き）】

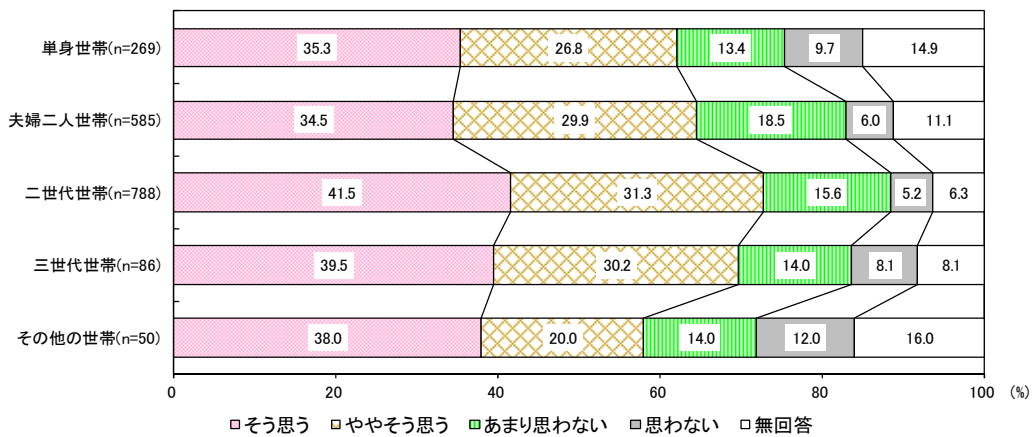
<ウ. 気軽に身近な場所に相談できる窓口がない>



<エ. 総合的な相談をできる窓口がない>

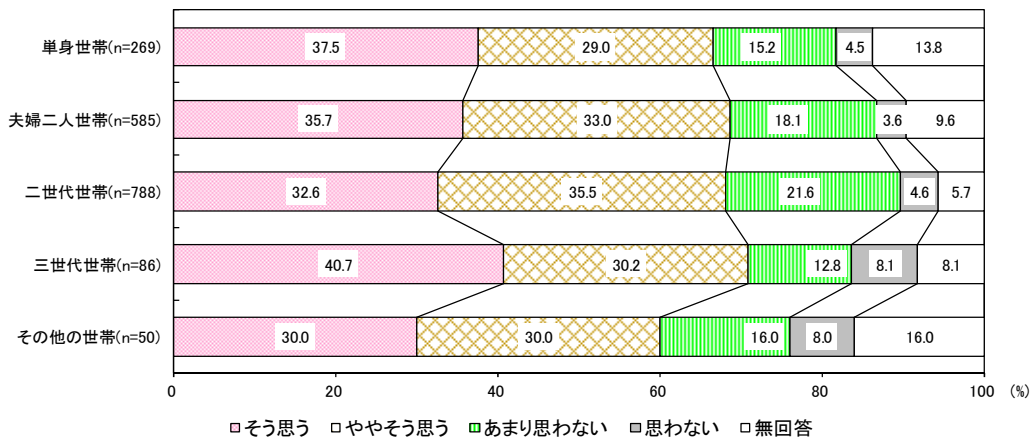


<オ. 休日や時間外に相談できる窓口がない>

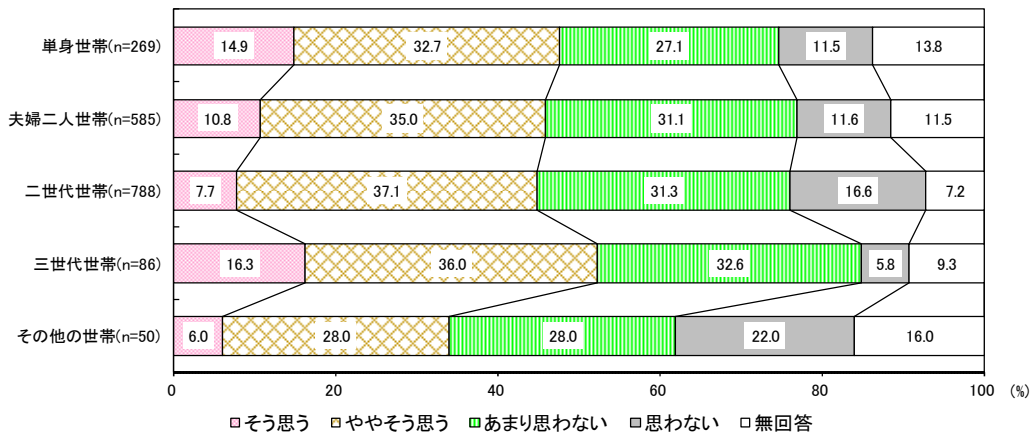


【図表4-1-1 世帯構成別 市の相談窓口に対する考え方（続き）】

<カ. 窓口スタッフと地域住民とのコミュニケーションが必要>



<キ. おおむね満足している>

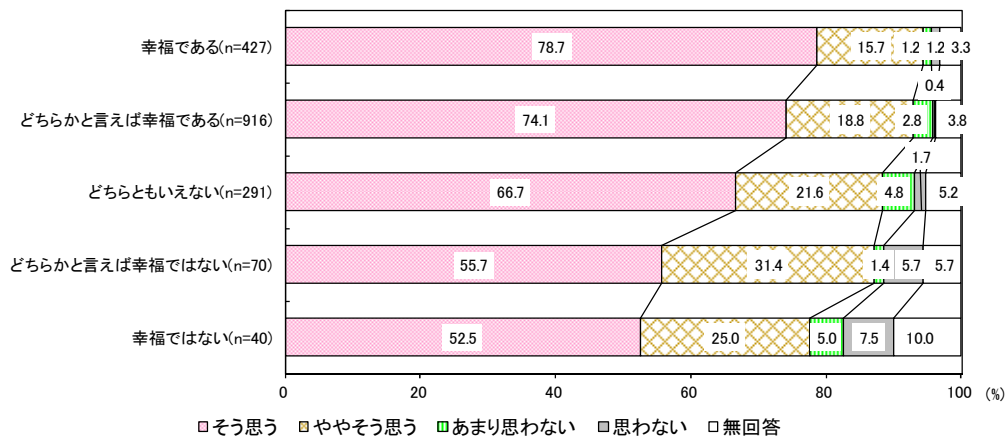


主観的幸福感別でみると、「そう思う」は、“ア. 地域の中で相談できるのは良いことだ”で、全ての世帯で50%を超え、割合で全体を大きく占めている。また、幸福の度合いが悪くなるほど割合が低くなっている。“イ. どこへ相談に行けばいいかわからない”、“ウ. 気軽に身近な場所に相談できる窓口がない”、“エ. 総合的な相談をできる窓口がない”、“オ. 休日や時間外に相談できる窓口がない”、“カ. 窓口スタッフと地域住民とのコミュニケーションが必要”は、幸福の度合いが悪くなるほど割合が高くなっている。“キ. おおむね満足している”では、全ての幸福の度合いで15%以下の割合となっており、他の項目と比べて低い。

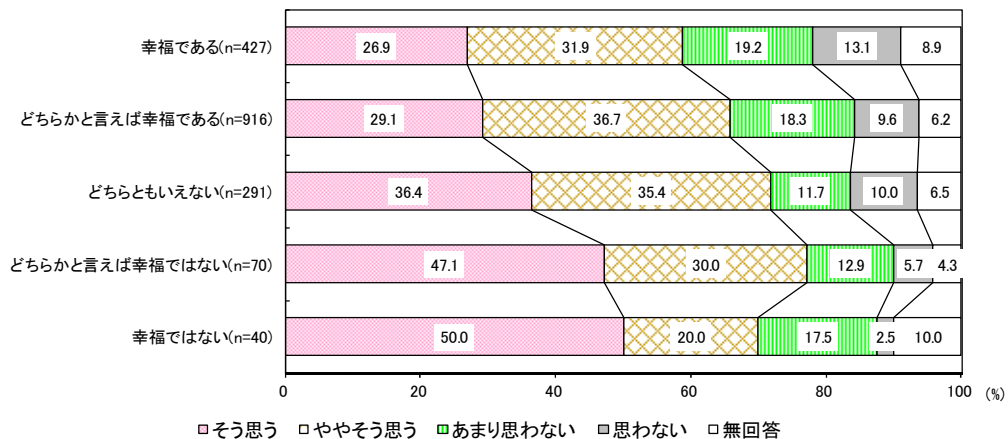
「思わない」は、“イ. どこへ相談に行けばいいかわからない”、“ウ. 気軽に身近な場所に相談できる窓口がない”、“エ. 総合的な相談をできる窓口がない”、“オ. 休日や時間外に相談できる窓口がない”、“カ. 窓口スタッフと地域住民とのコミュニケーションが必要”で「幸福である」の割合が高く、“キ. おおむね満足している”では、「幸福ではない」の割合が高い。(図表4-1-2)

【図表4-1-2 主観的幸福感別 市の相談窓口に対する考え方】

<ア. 地域の中で相談できるのは良いことだ>

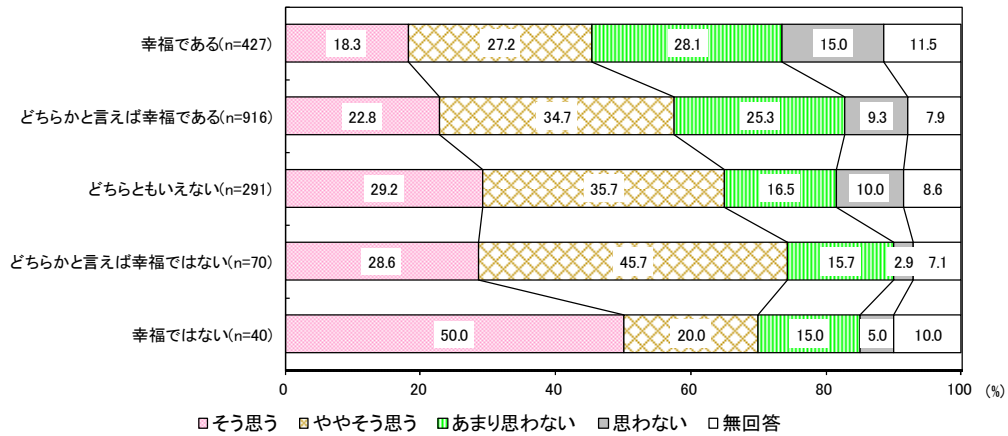


<イ. どこへ相談に行けばいいかわからない>

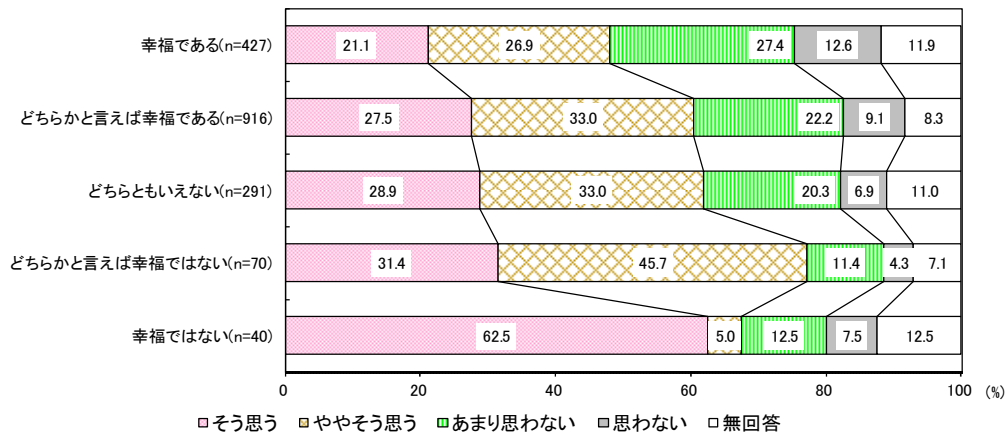


【図表4-1-2 主観的幸福感別 市の相談窓口に対する考え方（続き）】

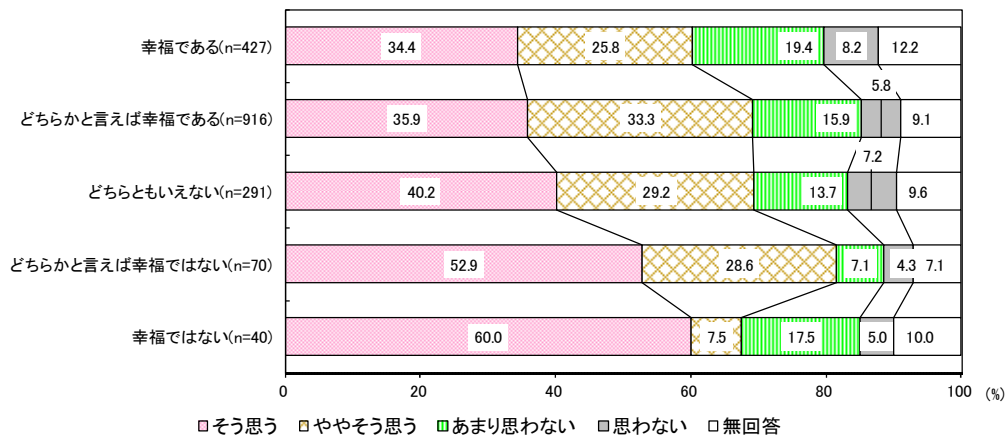
<ウ. 気軽に身近な場所に相談できる窓口がない>



<エ. 総合的な相談をできる窓口がない>

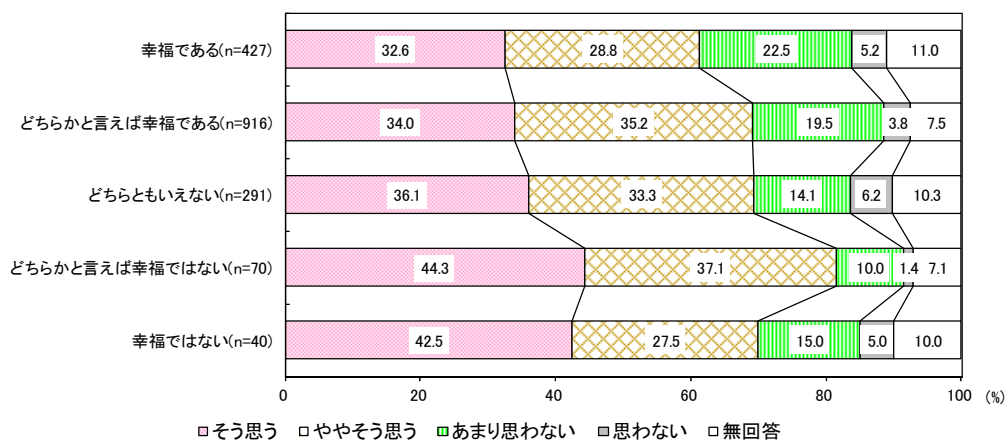


<オ. 休日や時間外に相談できる窓口がない>

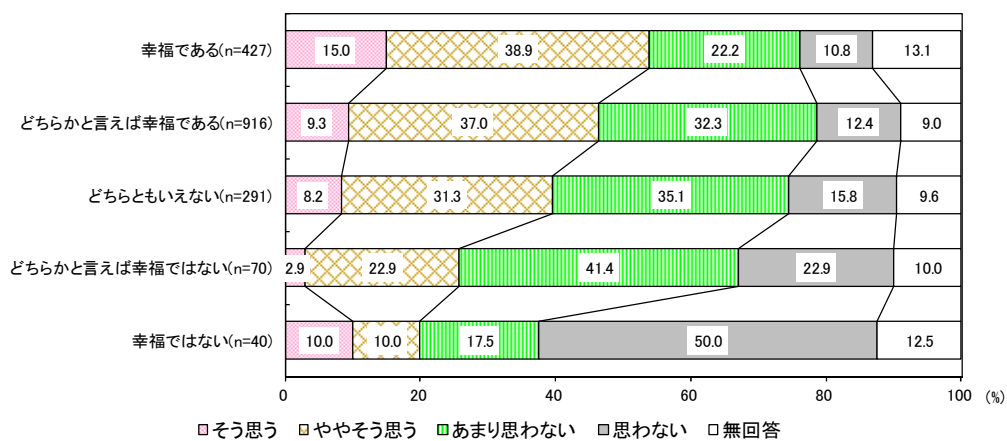


【図表4-1-2 主観的幸福感別 市の相談窓口に対する考え方（続き）】

<カ. 窓口スタッフと地域住民とのコミュニケーションが必要>



<キ. おおむね満足している>

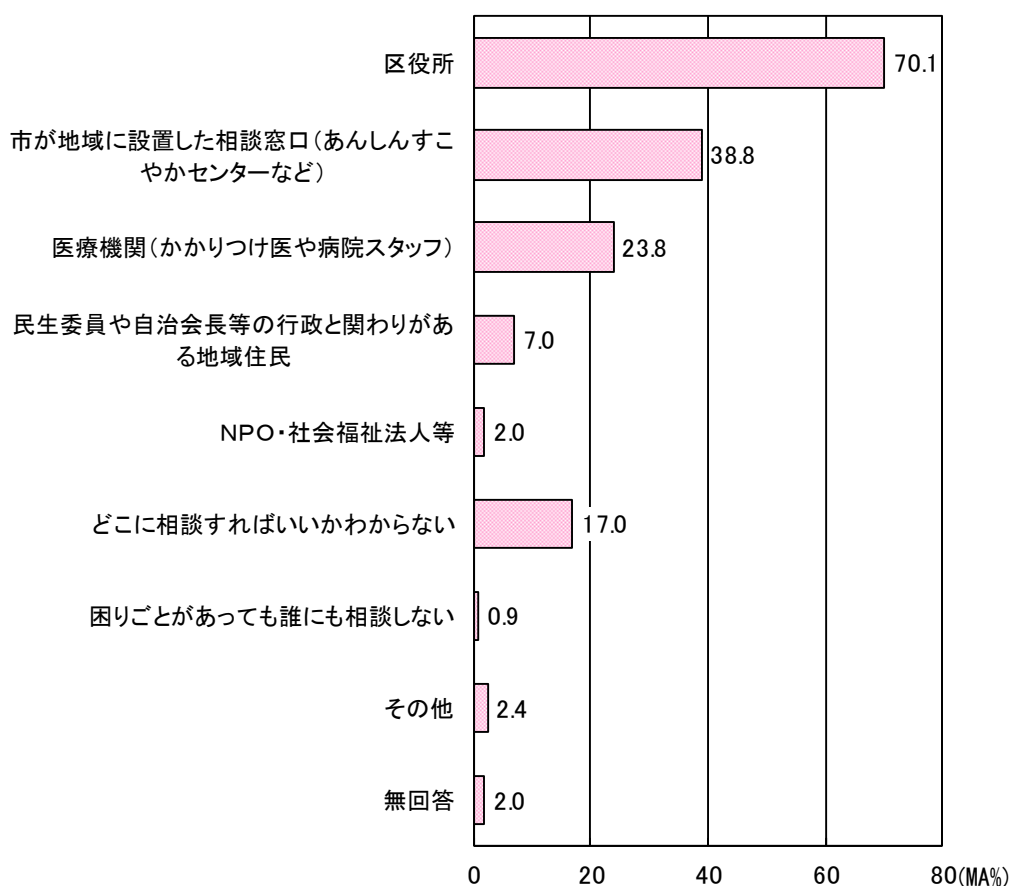


(2) 福祉に関する相談先

問15 福祉に関する相談はどこに行きますか。また、どこに行こうと思いますか。あてはまるものを全て選んで、○をつけてください。

【図表4-2 福祉に関する相談先】

(n=1,828)

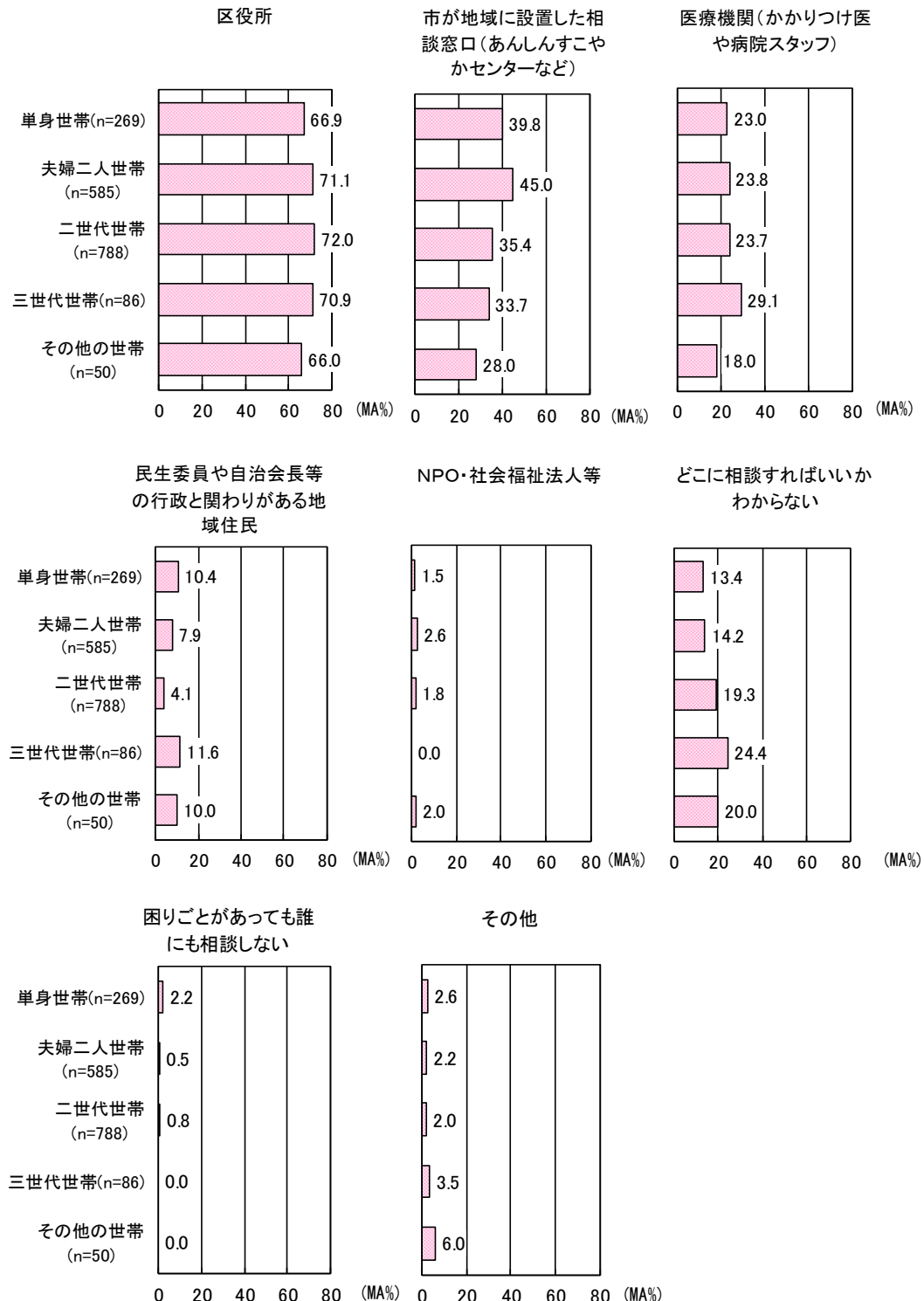


福祉に関する相談先では、「区役所」(70.1%)が最も多く、次いで「市が地域に設置した相談窓口(あんしんすこやかセンターなど)」(38.8%)、「医療機関(かかりつけ医や病院スタッフ)」(23.8%)と続いている。

一方、「どこに相談すればいいかわからない」が2割弱を占めている。(図表4-2)

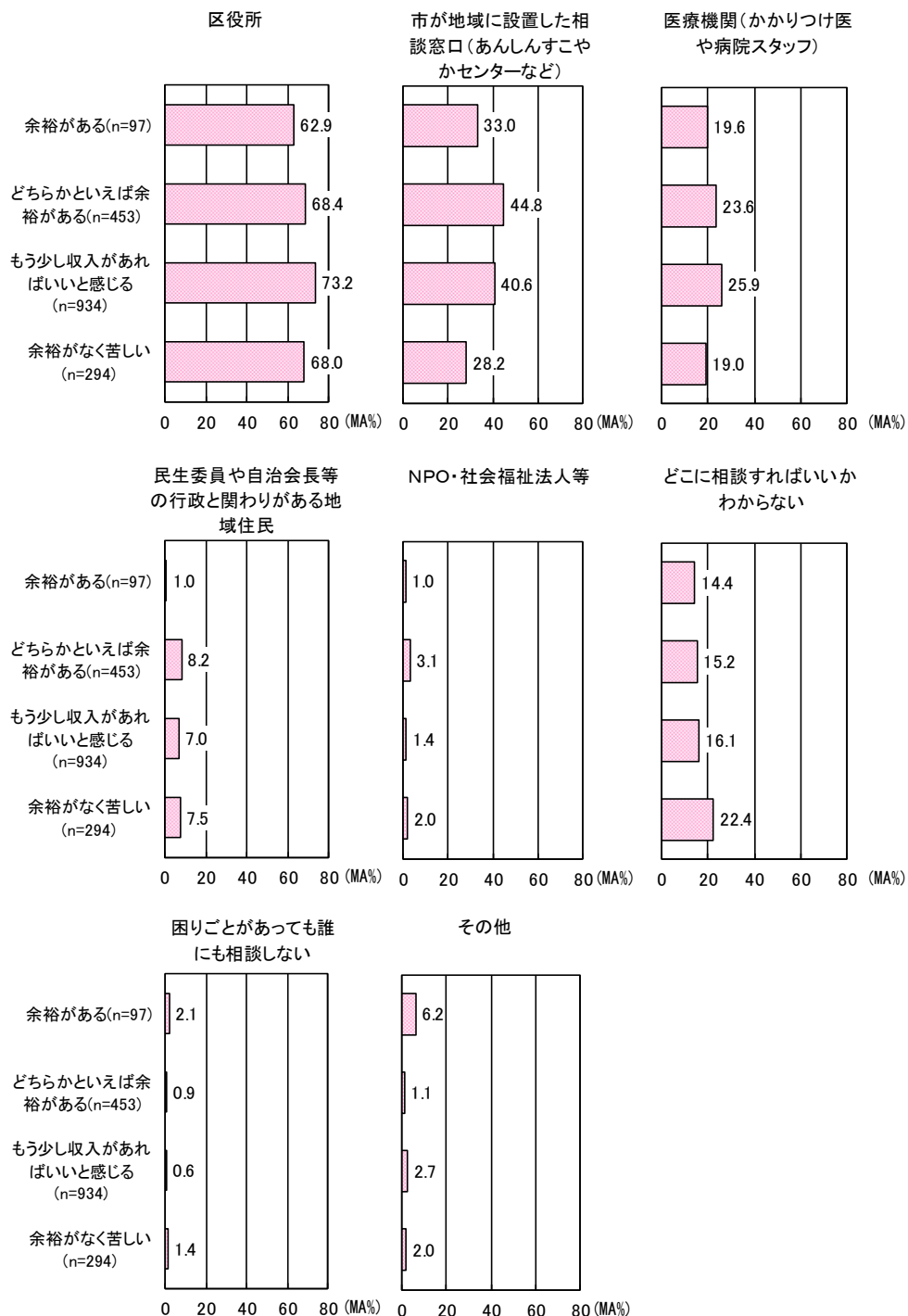
世帯構成別でみると、「区役所」は、全ての世帯で66%を超え、他の項目と比べて30ポイント以上高い割合となっている。「市が地域に設置した相談窓口（あんしんすこやかセンターなど）」は、夫婦二世帯（45.0%）が最も多く、その他の世帯（28.0%）が最も少ない。「医療機関（かかりつけ医や病院スタッフ）」、「民生委員や自治会長等の行政と関わりがある地域住民」、「どこに相談すればいいかわからない」は、[三世帯世帯]の割合が高い。「NPO・社会福祉法人等」、「困りごとがあっても誰にも相談しない」、「その他」は、全ての世帯で6%以下と低い割合になっている。（図表4-2-1）

【図表4-2-1 世帯構成別 福祉に関する相談先】



経済状況別でみると、「区役所」は、全ての経済状況で62%を超え、他の項目と比べて20ポイント以上高い割合となっている。「市が地域に設置した相談窓口（あんしんすこやかセンターなど）」は、どちらかといえば余裕がある（44.8%）が最も多く、余裕がなく苦しい（28.2%）が最も少ない。「医療機関（かかりつけ医や病院スタッフ）」は、もう少し収入があればいいと感じる（25.9%）が多いが、他の経済状況との割合の開きは小さい。「民生委員や自治会長等の行政と関わりがある地域住民」は、余裕がある（1.0%）が最も少なく、他の経済状況でも7.0～8.2%と割合は低い。「どこに相談すればいいかわからない」は、余裕がなく苦しい（24.2%）が最も多い。「NPO・社会福祉法人等」、「困りごとがあっても誰にも相談しない」、「その他」は、全ての経済状況で6.2%以下と低い割合になっている。（図表4-2-2）

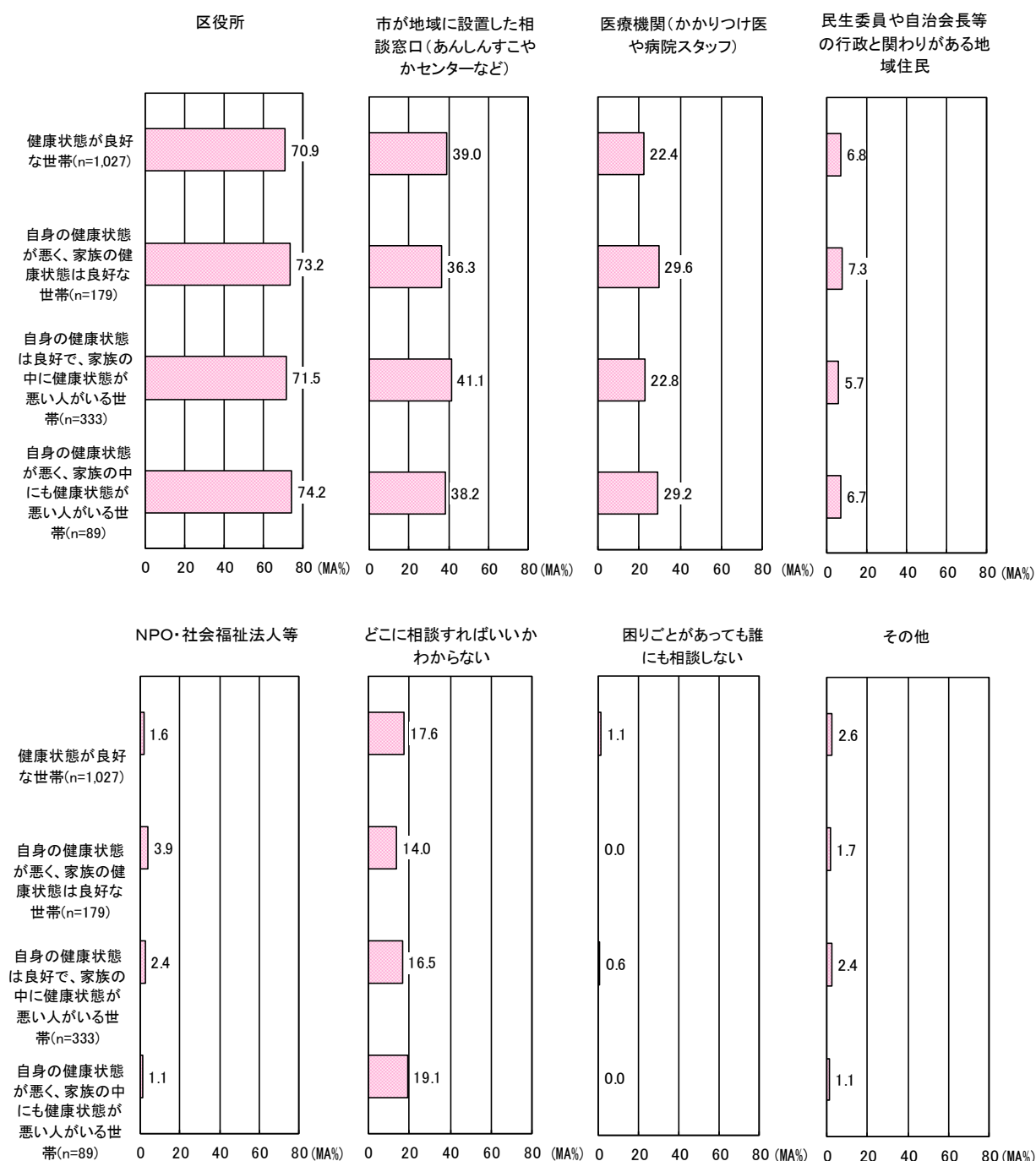
【図表4-2-2 経済状況別 福祉に関する相談先】



健康状態別でみると、「区役所」は、全ての健康状態で70%を超え、他の項目と比べて30ポイント以上高い割合となっている。「市が地域に設置した相談窓口（あんしんすこやかセンターなど）」は、全ての健康状態で40%前後となっている。「医療機関（かかりつけ医や病院スタッフ）」は、全ての健康状態で20%台となっている。「民生委員や自治会長等の行政と関わりがある地域住民」は、全ての健康状態で6%前後で、低い割合になっている。「どこに相談すればいいかわからない」は、全ての健康状態で17%前後となっている。「NPO・社会福祉法人等」、「困りごとがあっても誰にも相談しない」、「その他」は、全ての健康状態で3.9%以下と低い割合になっている。

全ての項目において、健康状態別での割合の開きは小さい。（図表4-2-3）

【図表4-2-3 健康状態別 福祉に関する相談先】

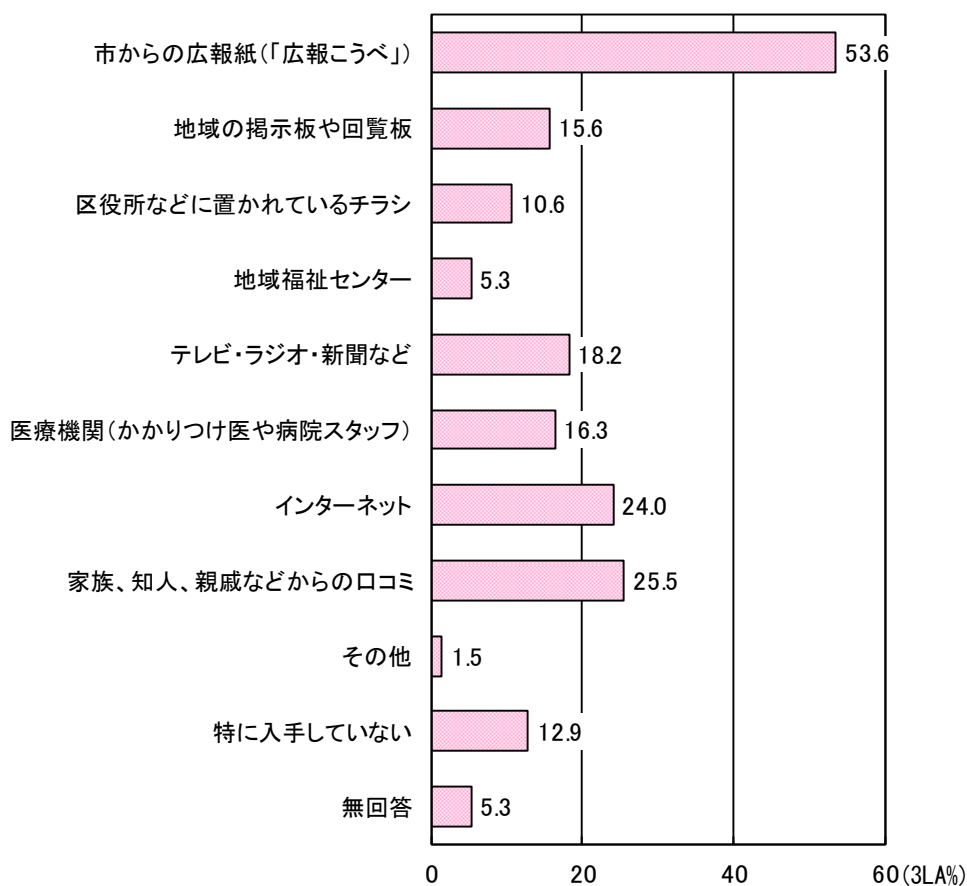


(3) 福祉の情報の入手方法

問16 福祉に関する情報はどのように入手していますか。主なものに3つまで○をつけてください。

【図表4-3 福祉の情報の入手方法】

(n=1,828)

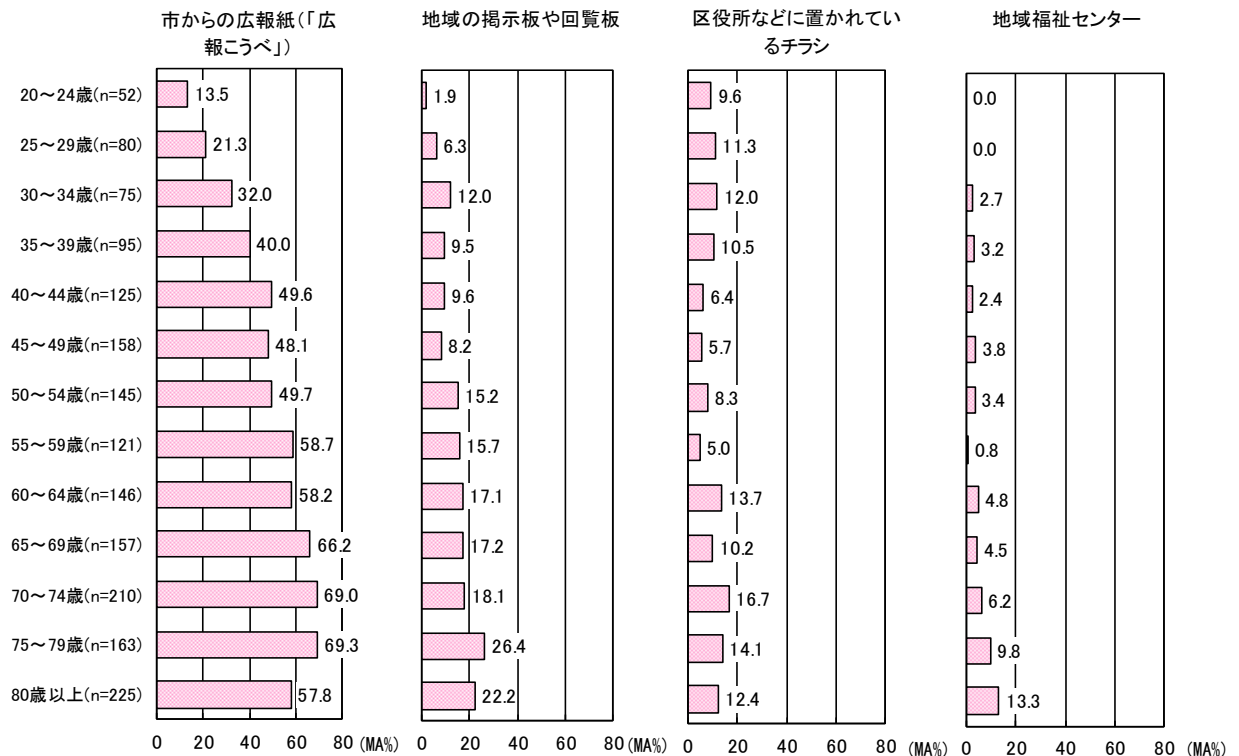


福祉の情報の入手方法では、「市からの広報誌(「広報こうべ」)」(53.6%)が最も多く、次いで「家族、知人、親戚などからの口コミ」(25.5%)、「インターネット」(24.0%)、「テレビ・ラジオ・新聞など」(18.2%)と続いている。(図表4-3)

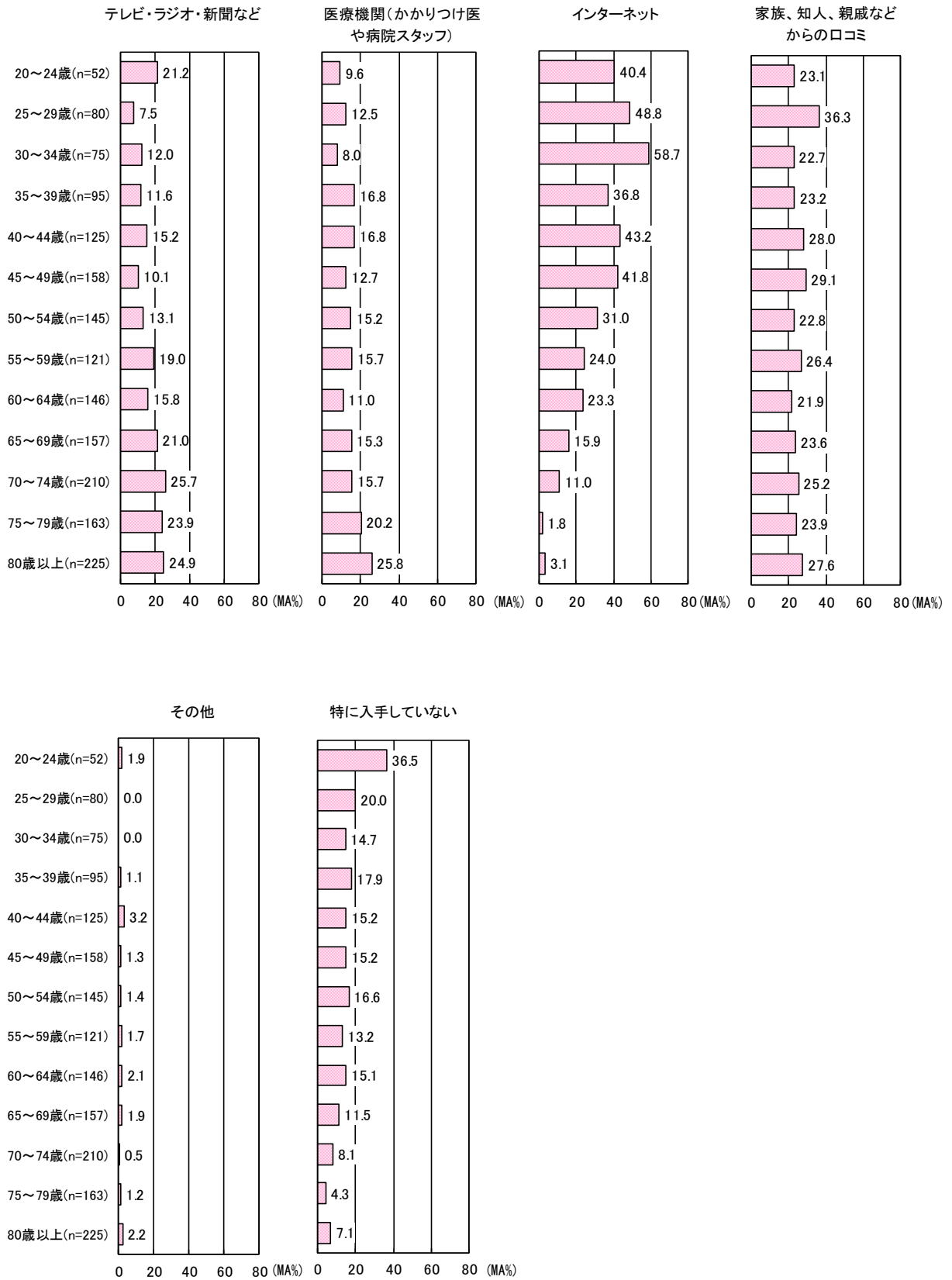
年代別でみると、「市からの広報紙（「広報こうべ）」は、55歳以上の年代層で57%を超えており、年代が上がるほど割合は高くなっている。「地域の掲示板や回覧板」は、50歳以上の年代層で15.2～26.4%となっており、20～24歳（1.9%）が低い。「区役所などに置かれているチラシ」は、25～39歳、60歳以上の年代層が10%台が多いが、割合の開きは小さい。「地域福祉センター」は、59歳以下の年代層が0～3.8%で低い割合になっている。「テレビ・ラジオ・新聞など」は、20～24歳、60歳以上の年代層が21～24.9%が多いが、割合の開きは小さい。「医療機関（かかりつけ医や病院スタッフ）」は、75歳以上の年代層が2割以上が多い。「インターネット」は、20～49歳の年代層が36%を超えており、年代が上がるほど割合は低くなる傾向にある。「家族、知人、親戚などからの口コミ」は、全ての年代層で20%を超えており、25～29歳（36.3%）が最も多い。「特に入手していない」は、20～24歳（36.5%）が最も多く、年代が上がるほど割合は低くなっている。

（図表4-3-1）

【図表4-3-1 年代別 福祉の情報の入手方法】



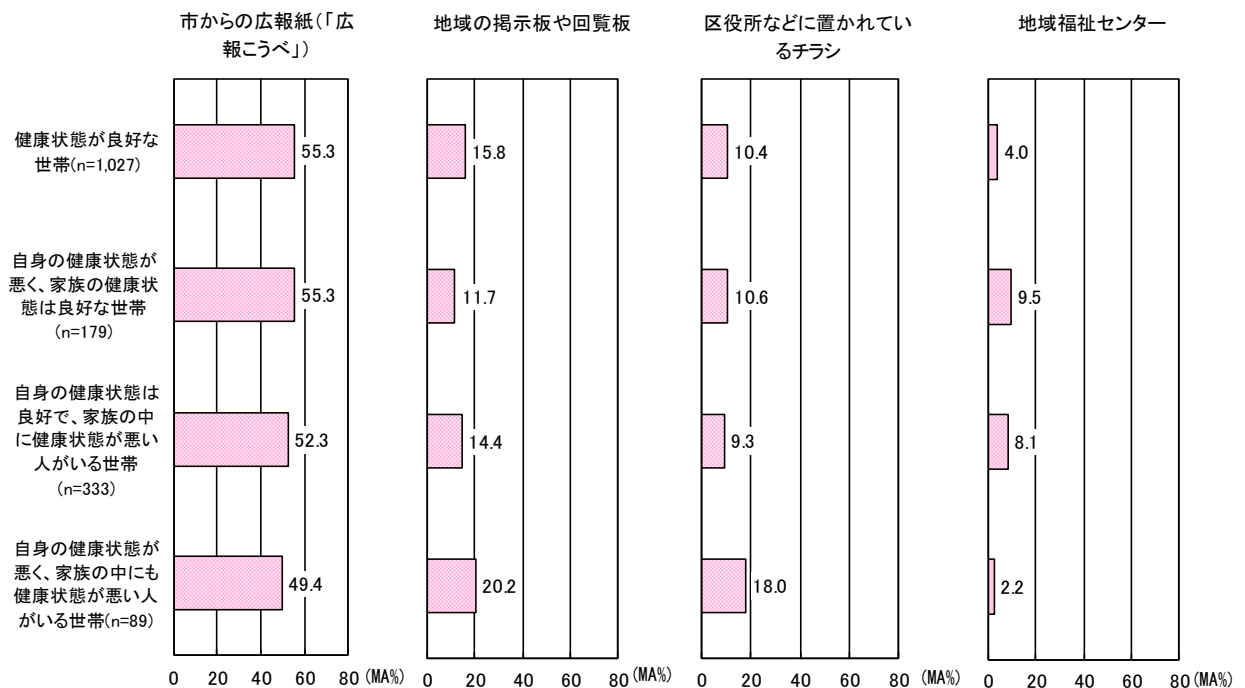
【図表4-3-1 年代別 福祉の情報の入手方法（続き）】



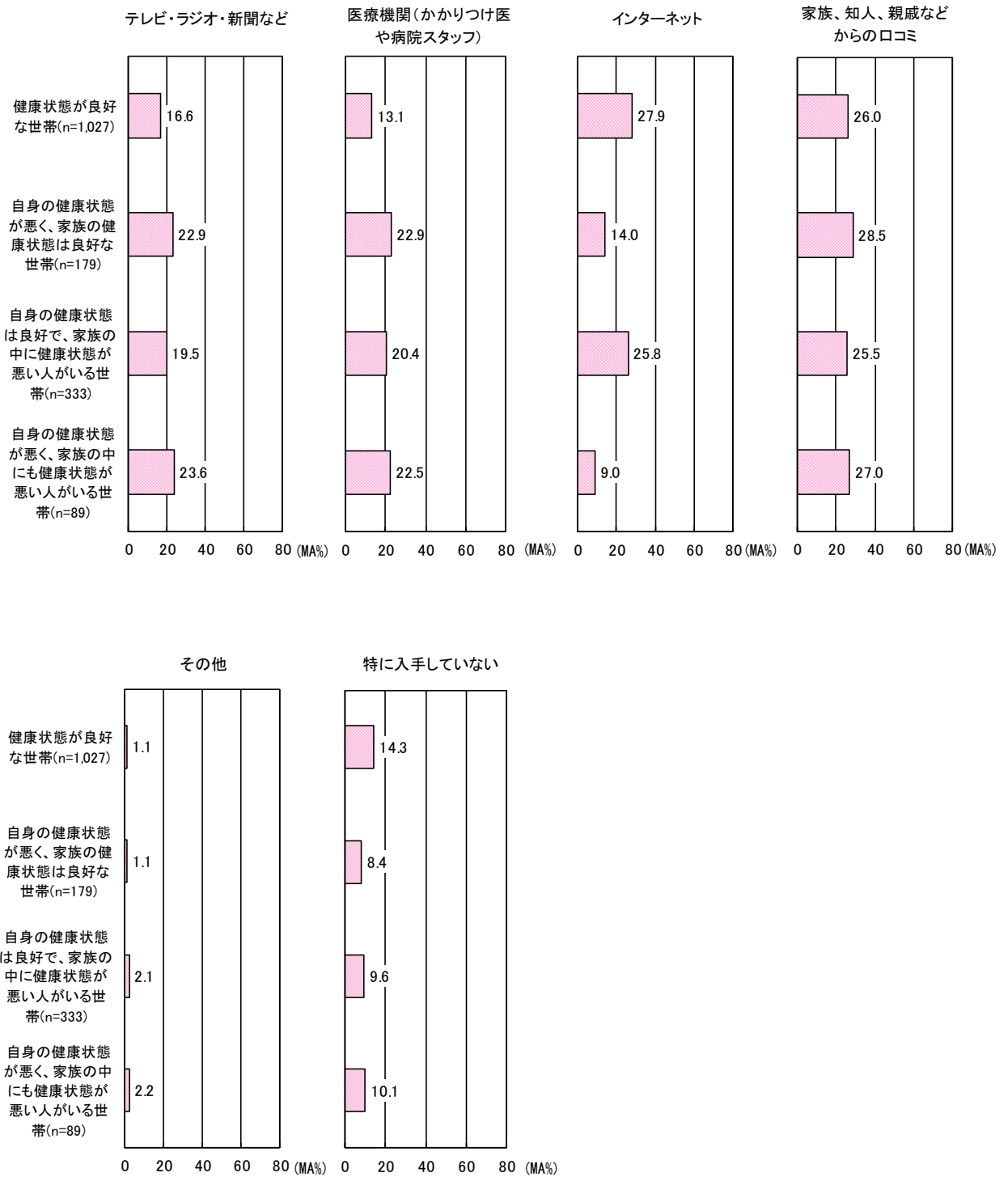
健康状態別でみると、「市からの広報紙（「広報こうべ）」は、全ての健康状態で49%を超え、他の項目と比べて25ポイント以上高い割合となっている。「地域の掲示板や回覧板」、「区役所などに置かれているチラシ」は、[自身の健康状態が悪く、家族の中にも健康状態が悪い人がいる世帯]が、それぞれ（20.2%）（18.0%）と最も多いが、割合の開きは小さい。「地域福祉センター」は、全ての状態で1割以下となっている。「テレビ・ラジオ・新聞など」、「医療機関（かかりつけ医や病院スタッフ）」は、[自身の健康状態が悪く、家族の健康状態は良好な世帯]（22.9%）、[自身の健康状態が悪く、家族の中にも健康状態が悪い人がいる世帯]（23.6%）が多くなっている。「インターネット」は、[健康状態が良好な世帯]（27.9%）が最も多く、次いで、[自身の健康状態は良好で、家族の中に健康状態が悪い人がいる世帯]（25.8%）が多い。「家族、知人、親戚などからの口コミ」は、全ての健康状態で25%以上となっている。「特に入手していない」は、健康状態が良好な世帯（14.3%）が最も多い。

健康状態別で全ての項目において、健康状態での割合の開きは小さい。（図表4-3-2）

【図表4-3-2 健康状態別 福祉の情報の入手方法】



【図表4-3-2 健康状態別 福祉の情報の入手方法（続き）】

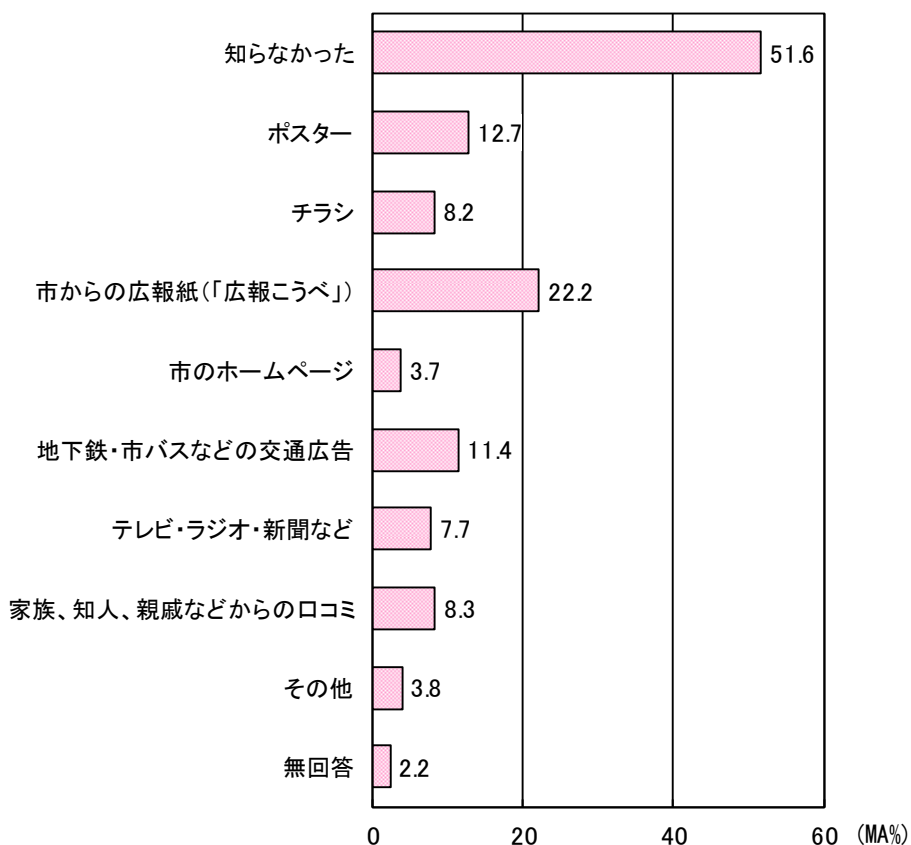


(4) 救急あんしんセンターこうべ「#7119」を知っていたか

- 問17 あなたは、救急安心センターこうべ「#7119」を以前からご存知でしたか。
- ・ ご存知でなかった場合、「1」に○をつけ、問18へ。
 - ・ ご存知の場合、「2~9」の中でどのように情報を入手されたかあてはまるもの全てに○をつけてください。

【図表4-4 救急あんしんセンターこうべ「#7119」を知っていたか】

(n=1,828)

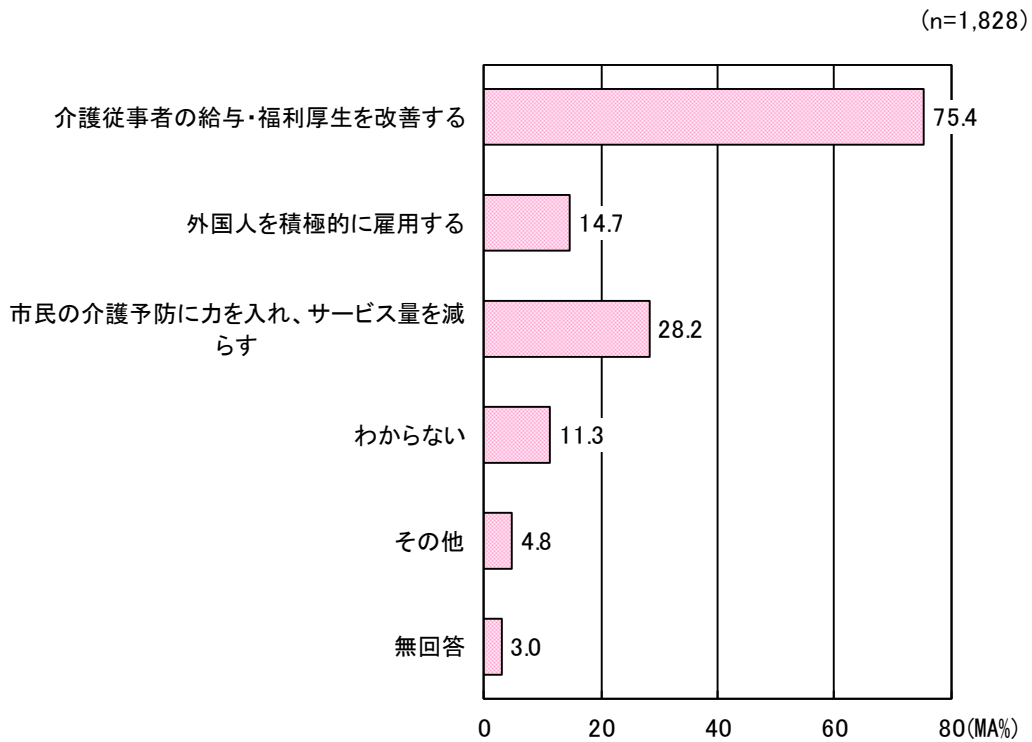


救急あんしんセンターこうべ「#7119」を知っていたかについては、「知らなかった」(51.6%)が最も高い。なお、知っている人の情報の入手先としては、「市からの広報誌(「広報こうべ」)」(22.2%)が最も高く、次いで、「ポスター」(12.7%)、「地下鉄・市バスなどの交通広告」(11.4%)と続いている。(図表4-4)

(5) 介護サービスを提供するための行政の対策

問18 あなたは、介護サービスを必要な人に 供給できるようにする為に、行政はどのような対策をするべきだと思いますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

【図表4-5 介護サービスを提供するための行政の対策】



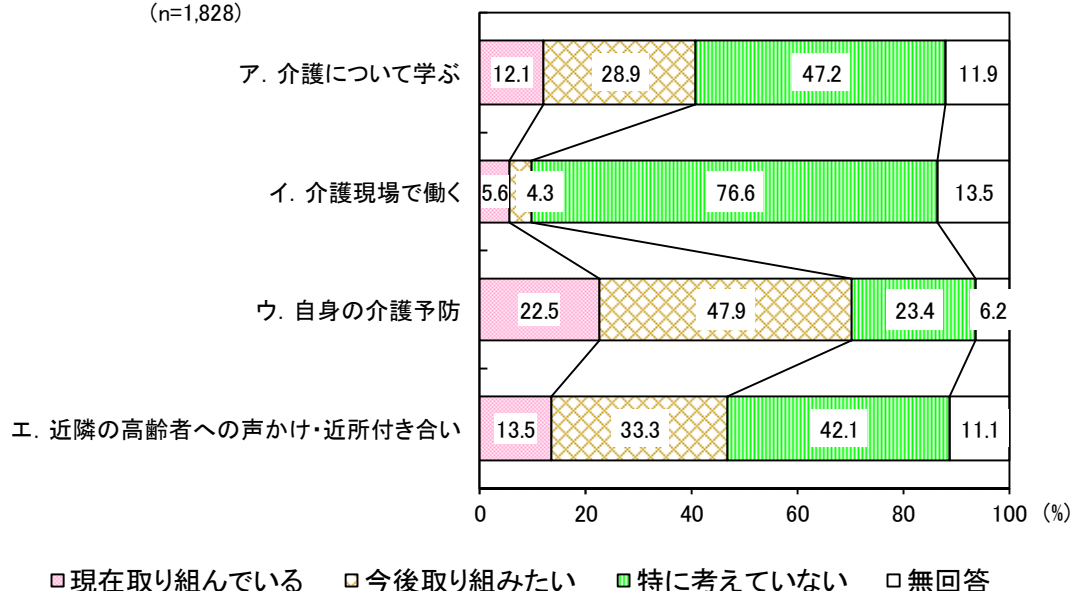
介護サービスを提供するための行政の対策については、「介護従事者の給与・福利厚生を改善する」(75.4%)が最も高く、次いで「市民の介護予防に力を入れ、サービス量を減らす」(28.2%)と続いている。(図表4-5)

(6) 介護について現在取り組んでいること・今後取り組みたいこと

問19 介護に関することについて、あなたが現在取り組んでいること、または、今後取り組みたいことはありますか。ア～オのそれぞれの項目について、あてはまるものを1つ選んで、番号に○をつけてください

【図表4-6 介護について現在取り組んでいること・今後取り組みたいこと】

(n=1,828)



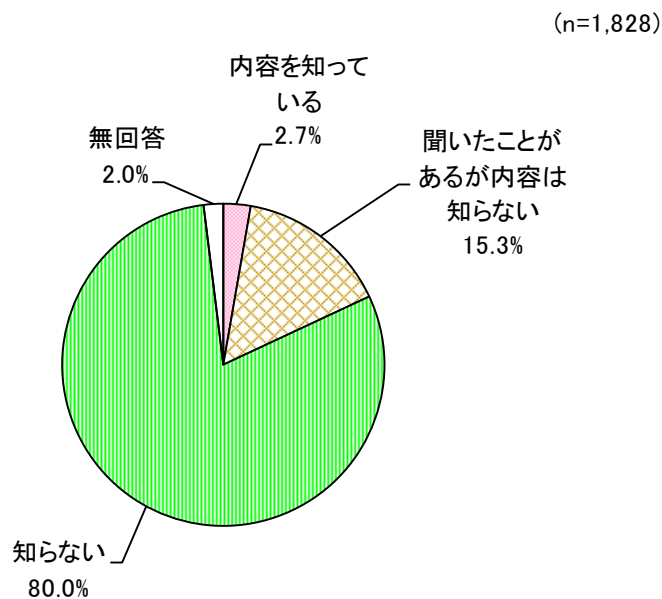
介護に関することについて「現在取り組んでいる」こととして最も高いのは、“ウ. 自身の介護予防” (22.5%) であり、「今後取り組みたい」ことも同様に、“ウ. 自身の介護予防” (47.9%) である。次に高いものとしては、“エ. 近隣の高齢者への声かけ・近所付き合い” (13.5%) であり、「今後取り組みたい」ことも同様に、“エ. 近隣の高齢者への声かけ・近所付き合い” (33.3%) である。一方、“イ. 介護現場で働く”は「現在取り組んでいる」「今後取り組みたい」を合わせても1割未満となっている。(図表4-6)

5. 災害時に備えた地域での助け合いについて

(1) 災害時の要援護者支援の手続きに関する周知度

問20 あなたは、平成25年4月に神戸市で制定された条例により、要援護者の支援に取り組む地域団体が、要援護者の個人情報を平常時から入手する際の手続きなどが定められたことをご存じですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

【図表5-1 災害時の要援護者支援の手続きに関する周知度】



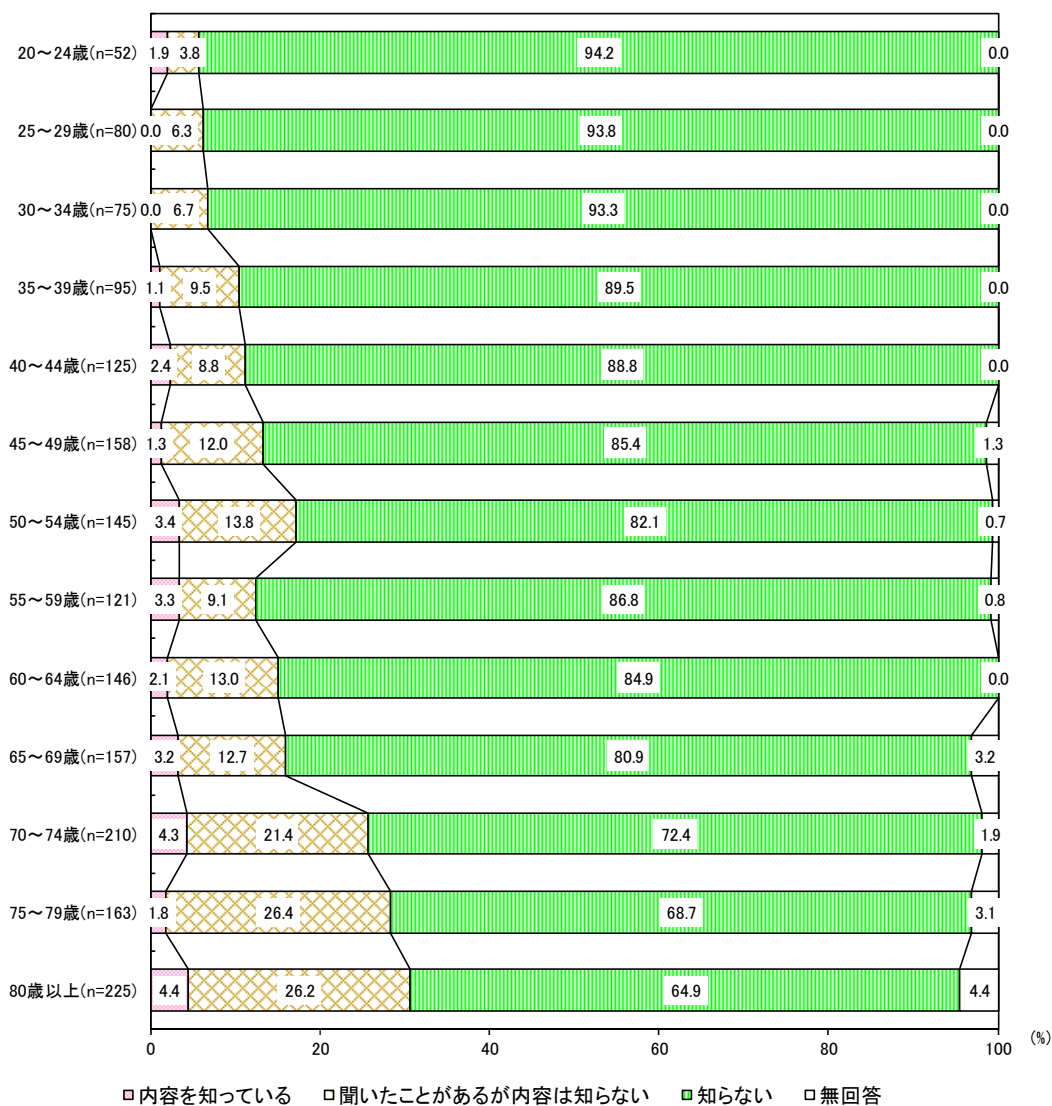
災害時の要援護者支援の手続きに関する周知度では、「知らない」(80.0%)が最も高い一方、「聞いたことがあるが内容は知らない」(15.3%)、「内容を知っている」(2.7%)を合わせても2割にも満たない。(図表5-1)

年代別でみると、「知らない」が、全ての年代層において、60%以上を占めており、20～24歳（94.2%）が最も多く、80歳以上（64.9%）が最も少ない。

「内容を知っている」は、25～34歳で0%となっており、全ての年代層においても5%以下で低い割合になっている。

「聞いたことがあるが内容は知らない」は、70歳以上で20%を超えており、若い年代層へ行くほど割合が低くなっている。（図表5-1-1）

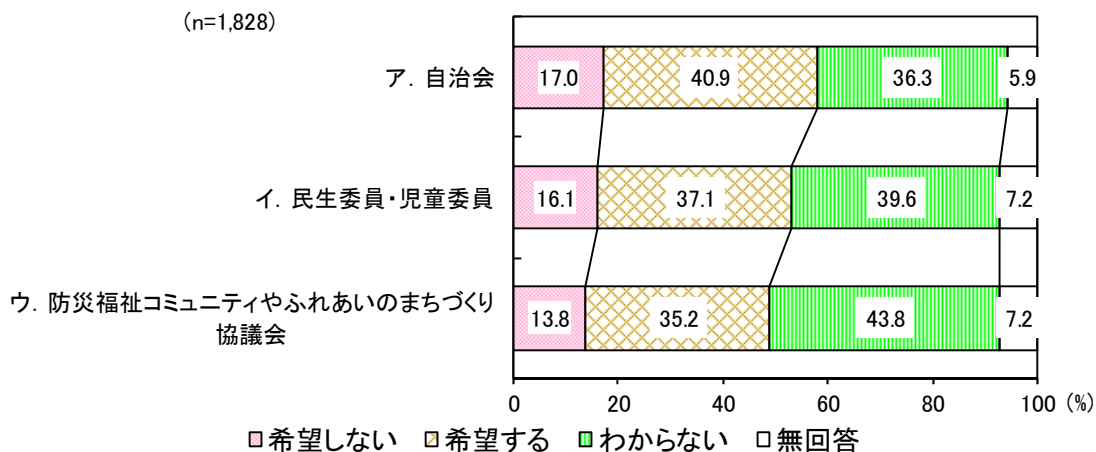
【図表5-1-1 年代別 災害時の要援護者支援の手続きに関する周知度】



(2) 災害時の家族情報の提供先

問21 災害時に地域の方から避難などの支援を受けるため、あなたやあなたのご家族の情報を、以下の団体に提供することをどの程度希望しますか。ア～ウのそれぞれの項目について、あてはまるものを1つずつ選んで、番号に○をつけてください。

【図表5-2 災害時の家族情報の提供先】



災害時の家族情報の提供先について、「希望する」は、“ア. 自治会” (40.9%) が最も高く、次いで“イ. 民生委員・児童委員” (37.1%)、“ウ. 防災福祉コミュニティやふれあいまちづくり協議会” (35.2%) となっている。一方、「希望しない」は、各項目で13～17%台となっている。(図表5-2)

年代別でみると、“ア.自治会”に提供を『希望する』と答えた方は、40～44歳(48.0%)、50～55歳(46.9%)、35～39歳(46.3%)が多いが、他の年代層も35%を超えており、全ての年代層で割合が高くなっている。

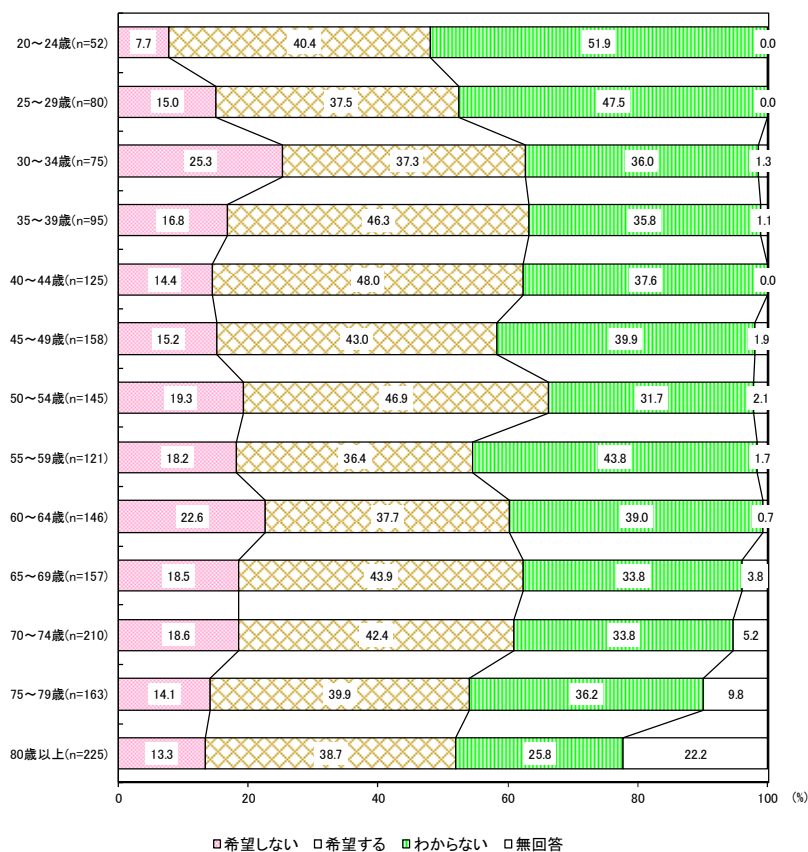
“イ.民生委員・児童委員”に提供を『希望する』と答えた方は、50～54歳(43.4%)、45～49歳(42.4%)、60～64歳(40.4%)が多く、25～29歳(25.0%)最も少ない。

“ウ.防災福祉コミュニティやふれあいまちづくり協議会”に提供を『希望する』と答えた方は、20～24歳(44.2%)、50～54歳(42.1%)、40～44歳(40.0%)が多く、共に4割以上となっている。

(図表5-2-1)

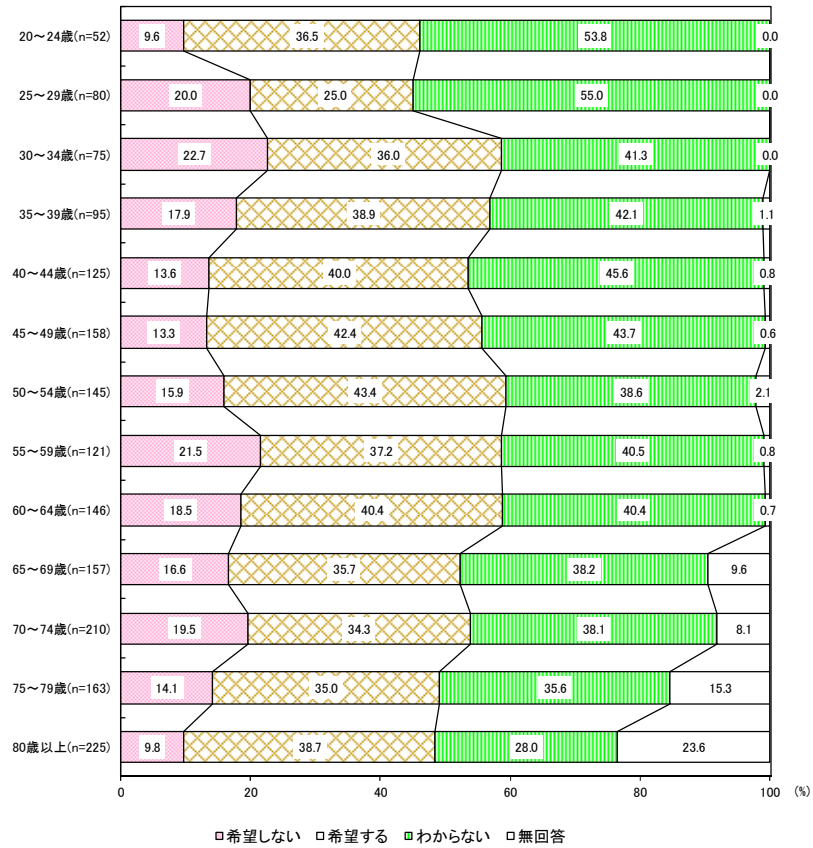
【図表5-2-1 年代別 災害時の家族情報の提供先】

<ア. 自治会>

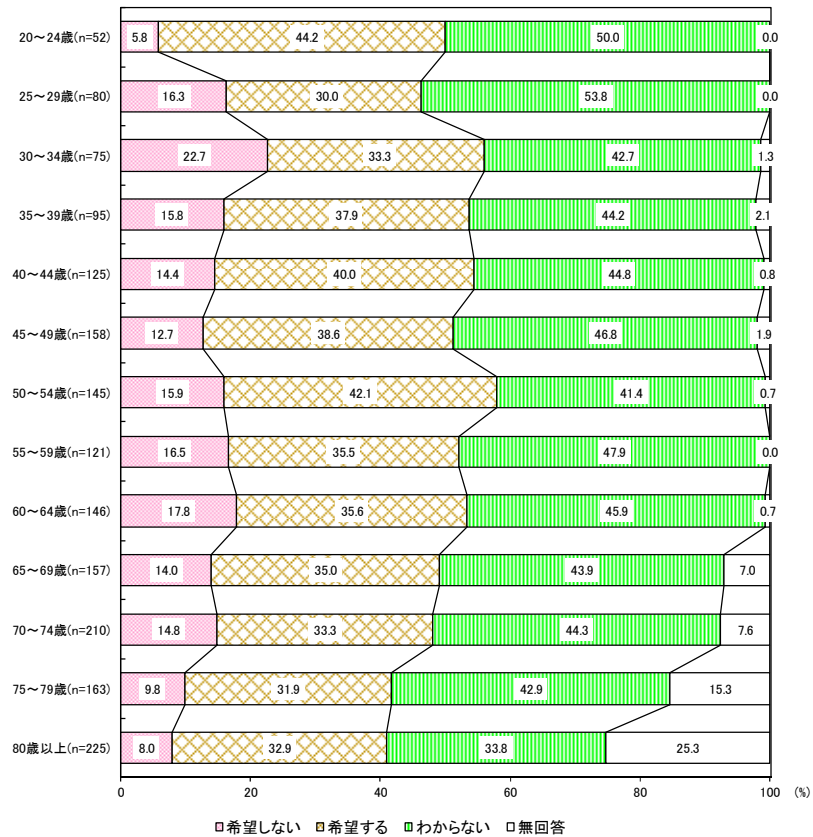


【図表5-2-1 年代別 災害時の家族情報の提供先（続き）】

<イ. 民生委員・児童委員>



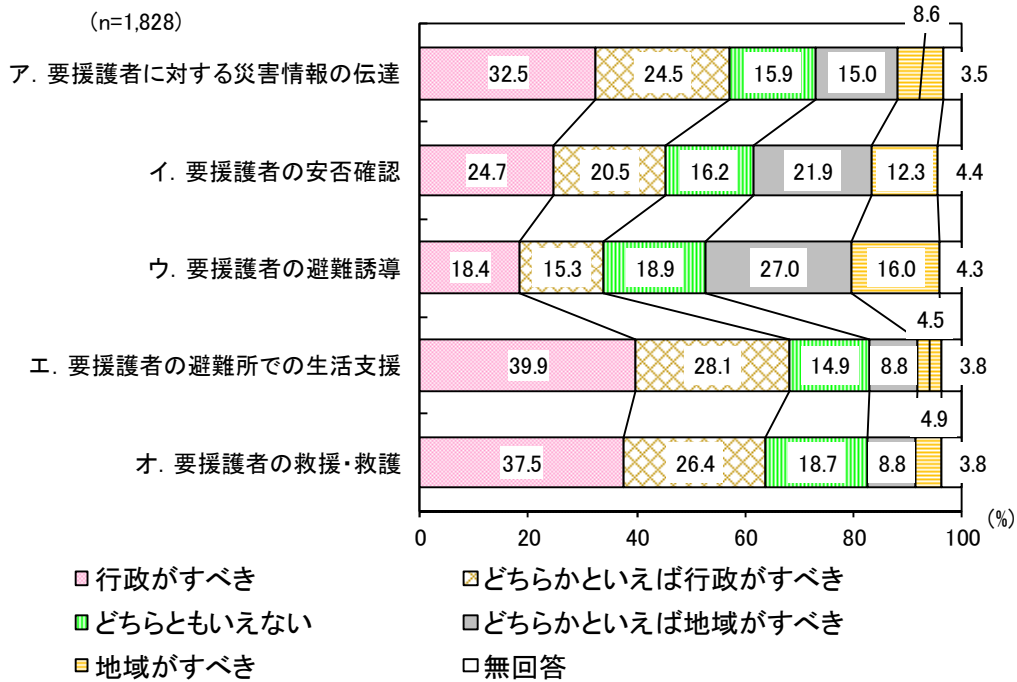
<ウ. 防災福祉コミュニティやふれあいのまちづくり協議会>



(3) 災害時の役割に対する考え方

問22 災害時に地域で活動する団体又は行政が主体的に担うべきことはどのような項目と考えますか。ア～オのそれぞれの項目について、あてはまるものを1つずつ選んで、番号に○をつけてください。

【図表5-3 災害時の役割に対する考え方】



災害時の役割に対する考え方について、「行政がすべき」と「どちらかといえば行政」を合わせた『行政がすべき』割合（以下、『行政がすべき』割合）と、「どちらかといえば地域」と「地域がすべき」を合わせた『地域がすべき』割合（以下、『地域がすべき』割合）を比較すると、『行政がすべき』割合のほうが高い項目は“ア. 要援護者に対する災害情報の伝達”（57.0%），“イ. 要援護者の安否確認”（45.2%），“エ. 要援護者の避難所での生活支援”（68.0%），“オ. 要援護者の救援・救護”（63.9%）となっており、なかでも“エ. 要援護者の避難所での生活支援”が最も高くなっている。一方、『地域がすべき』割合のほうが高い項目は“ウ. 要援護者の避難誘導”（43.0%）となっている。（図表5-3）

年代別でみると、“ア．要援護者に対する災害情報の伝達”では、『行政がすべき』割合は、25～29歳（71.3%）が最も多い。次いで、60～64歳（66.4%）が多い。また、全ての年代において『行政がすべき』割合が『地域がすべき』割合を上回っている。

“イ．要援護者の安否確認”では、『行政がすべき』割合は、25～29歳（55.0%）が最も多い。次いで、40～44歳（54.4%）が多い。ほとんどの年代で『行政がすべき』割合が『地域がすべき』割合を上回っているが、70～74歳、80歳以上では、『地域がすべき』割合のほうが多い。

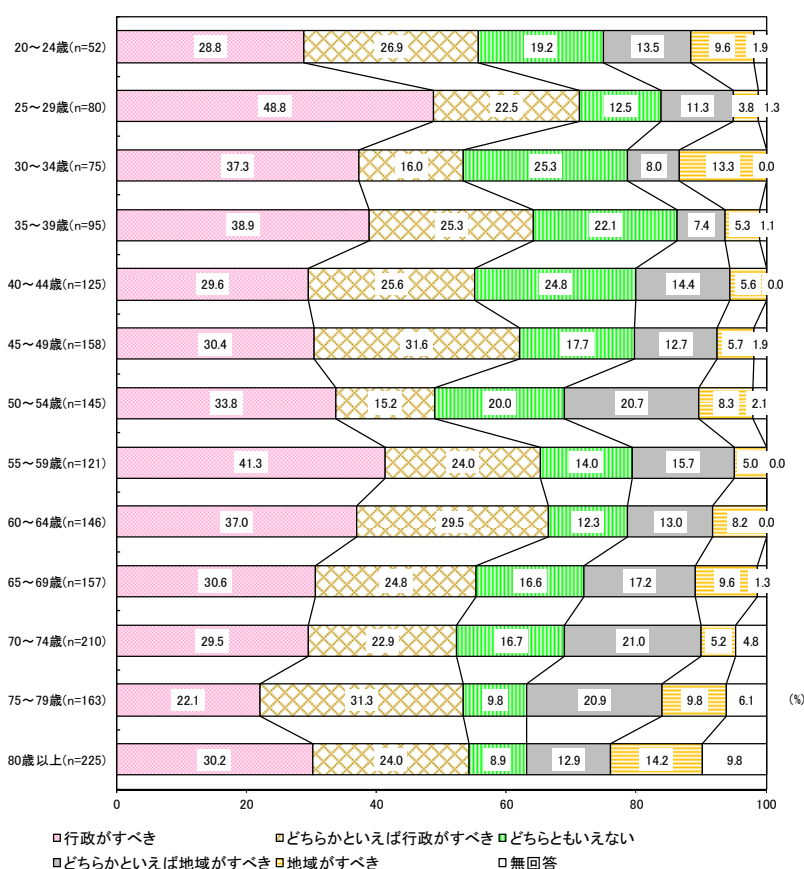
“ウ．要援護者の避難誘導”では、唯一、全体で『地域がすべき』割合が『行政がすべき』割合を上回っている項目で、80歳以上では『地域がすべき』（47.5%）『行政がすべき』（27.1%）と20.4ポイント『地域がすべき』割合が『行政がすべき』割合を上回っている。一方、25～29歳、40～44歳では、それぞれ、7.5ポイント、1.6ポイント『行政がすべき』割合のほうが多い。

“エ．要援護者の避難所での生活支援”では、全ての年代で『行政がすべき』割合が『地域がすべき』割合を上回っていて、特に、25～29歳では『行政がすべき』割合が80%と非常に多く、『地域がすべき』割合を73.8ポイントも上回っている。

“オ．要援護者の救援・救護”では、全ての年代で『行政がすべき』割合が『地域がすべき』割合を上回っていて、特に、60～64歳では『行政がすべき』割合が73.3%と多く、『地域がすべき』割合を60.3ポイント上回っている。（図表5-3-1）

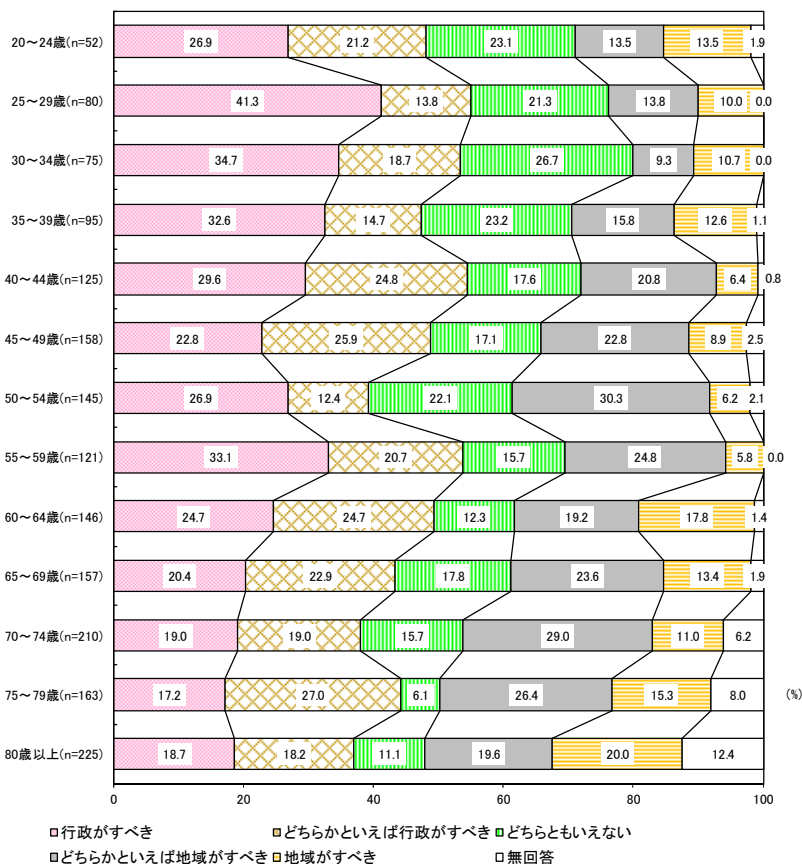
【図表5-3-1 年代別 災害時の役割に対する考え方】

<ア．要援護者に対する災害情報の伝達>

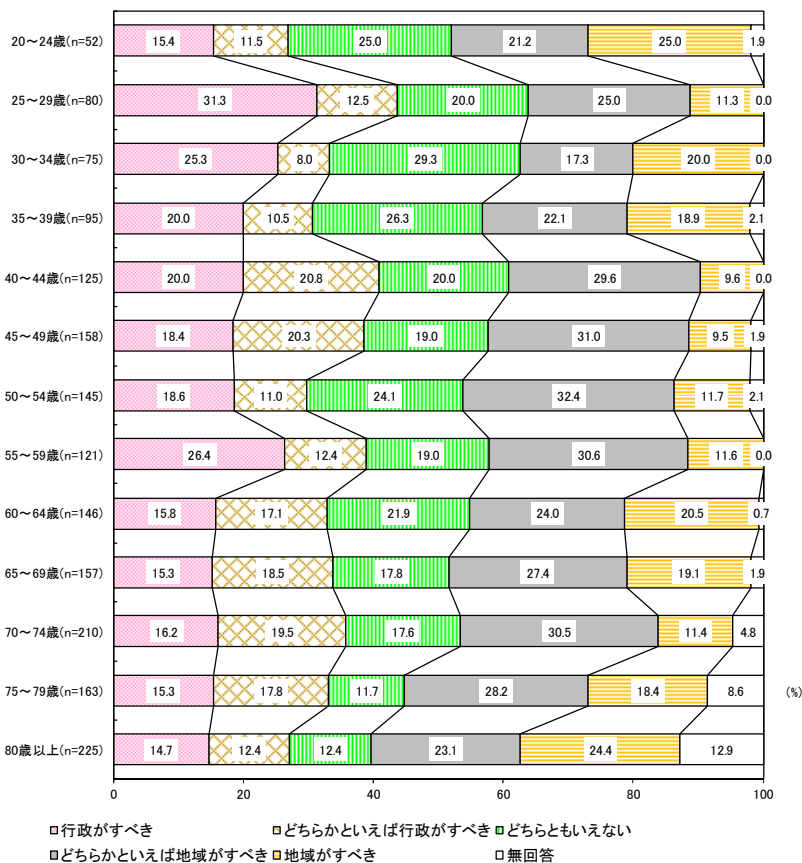


【図表5-3-1 年代別 災害時の役割に対する考え方（続き）】

<イ. 要援護者の安否確認>

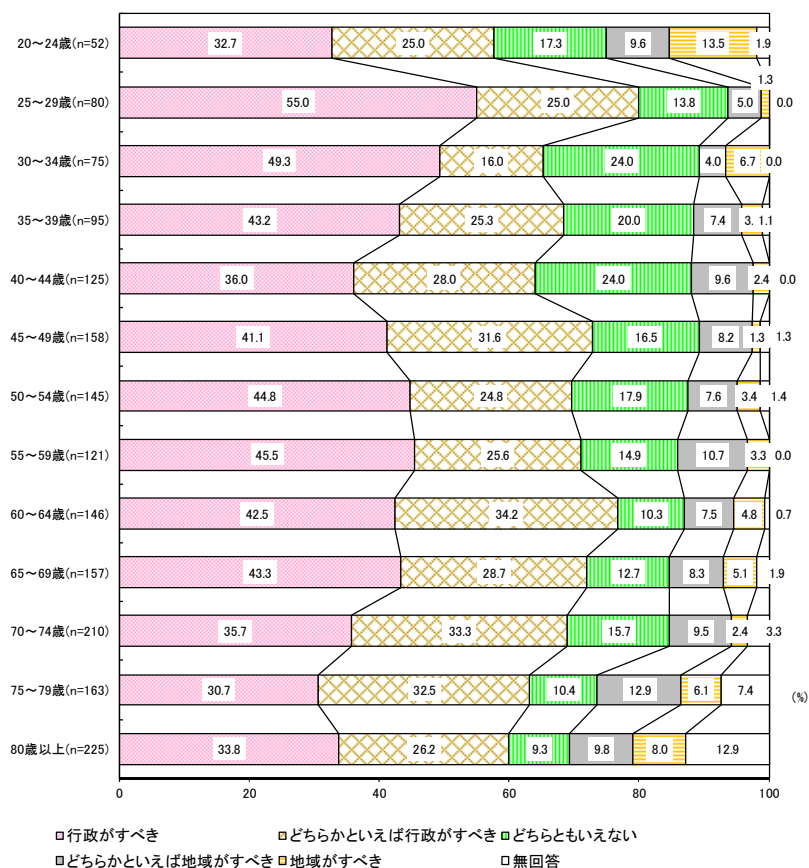


<ウ. 要援護者の避難誘導>

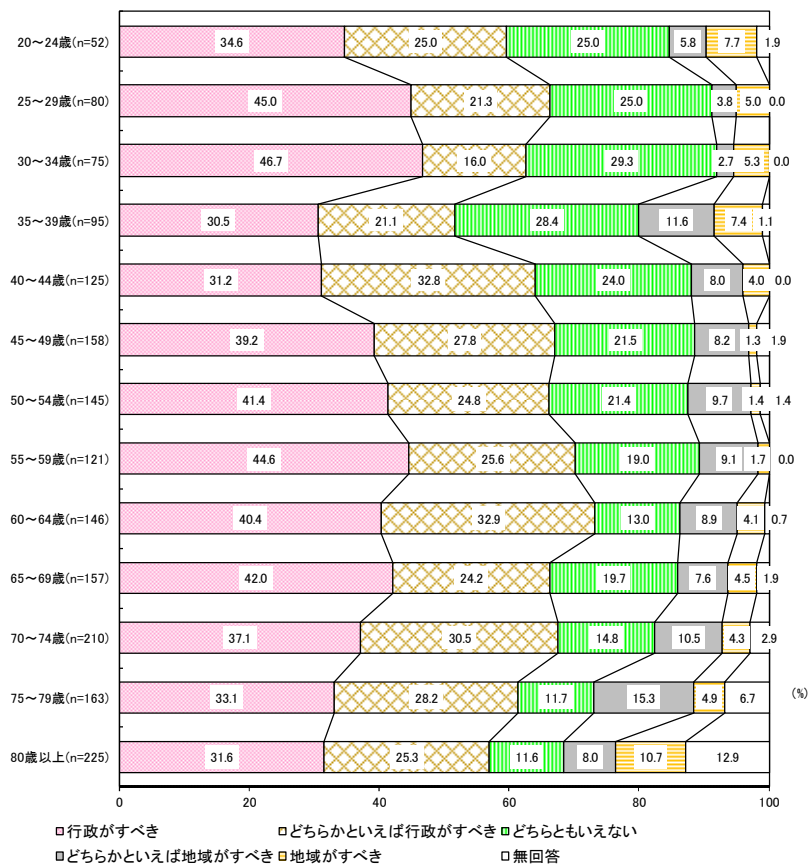


【図表5-3-1 年代別 災害時の役割に対する考え方（続き）】

<エ. 要援護者の避難所での生活支援>



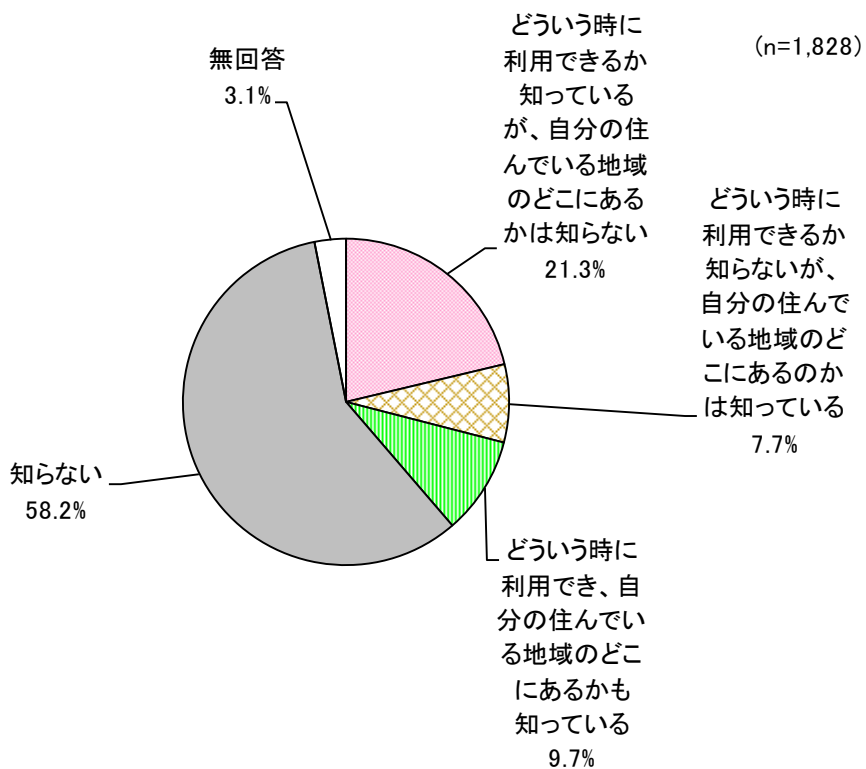
<オ. 要援護者の救援・救護>



(4) 福祉避難所の周知度

問23 福祉避難所についてご存知ですか。あてはまるもの1つ選んで、番号に○をつけてください。

【図表5-4 福祉避難所の周知度】



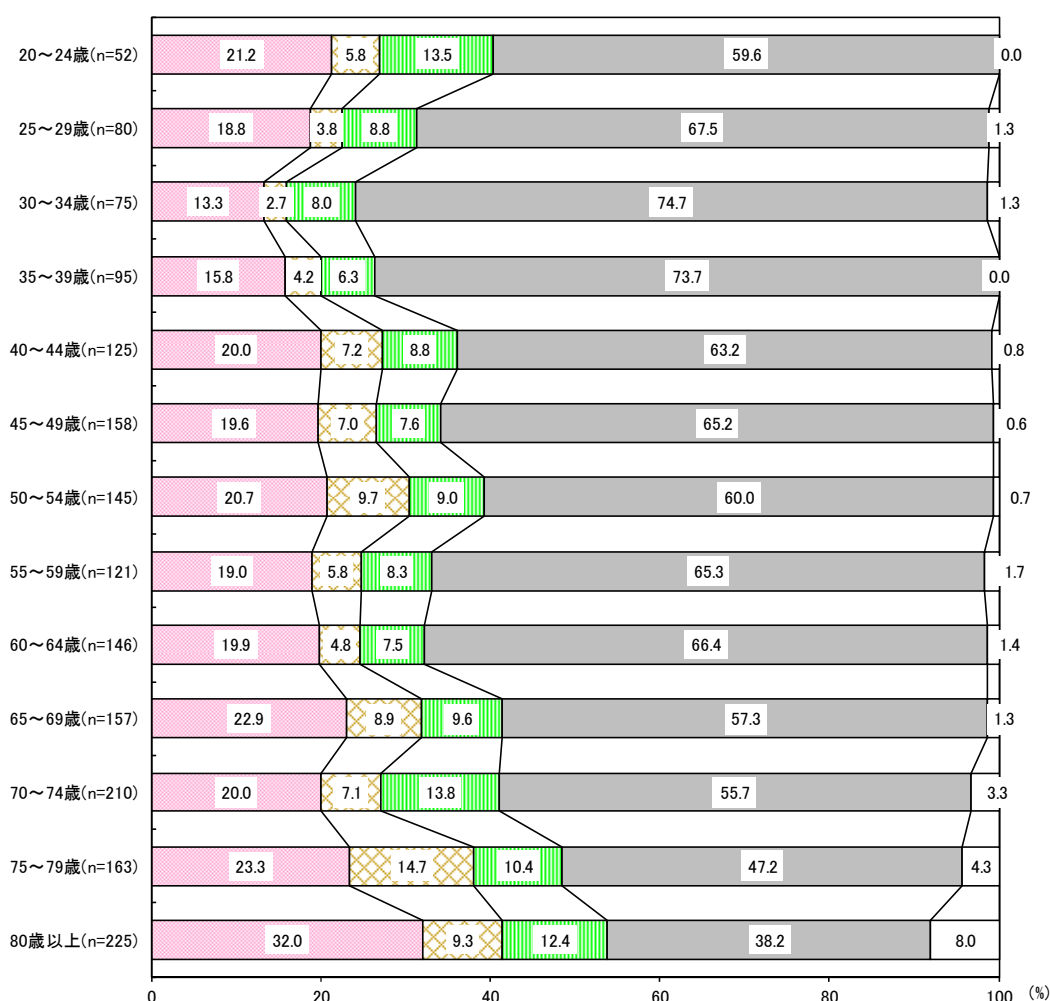
福祉避難所の周知度では、「どういう時に利用でき、自分の住んでいる地域のどこにあるかも知っている」は9.7%と1割にも満たない。また、「どういう時に利用できるか知っているが、自分の住んでいる地域のどこにあるかは知らない」は21.3%、「どういう時に利用できるか知らないが、自分の住んでいる地域のどこにあるのかは知っている」は7.7%となっており、どういう時に利用できるか知っている割合は31.0%、どこにあるか知っている割合は17.4%となっている。一方、「知らない」は58.2%と高くなっている。(図表5-4)

年代別でみると、「知らない」が、20～74歳の年代層において、50%以上を占めており、特に、30～34歳（74.7%）、35～39歳（73.7%）と30代の周知度が低い。

「どういう時に利用できるか知っているが、自分の住んでいる地域のどこにあるかは知らない」「どういう時に利用できるか知らないが、自分の住んでいる地域のどこにあるのかは知っている」「どういう時に利用でき、自分の住んでいる地域のどこにあるかも知っている」と存在を知っている方の割合では、65歳以上で全て40%を超えている。また、20～24歳でも40.5%と割合が高くなっている。

25～64歳の年代層の割合が若干低くなっている。（図表5-4-1）

【図表5-4-1 年代別 福祉避難所の周知度】



- どういう時に利用できるか知っているが、自分の住んでいる地域のどこにあるかは知らない
- どういう時に利用できるか知らないが、自分の住んでいる地域のどこにあるのかは知っている
- どういう時に利用でき、自分の住んでいる地域のどこにあるかも知っている
- 知らない
- 無回答

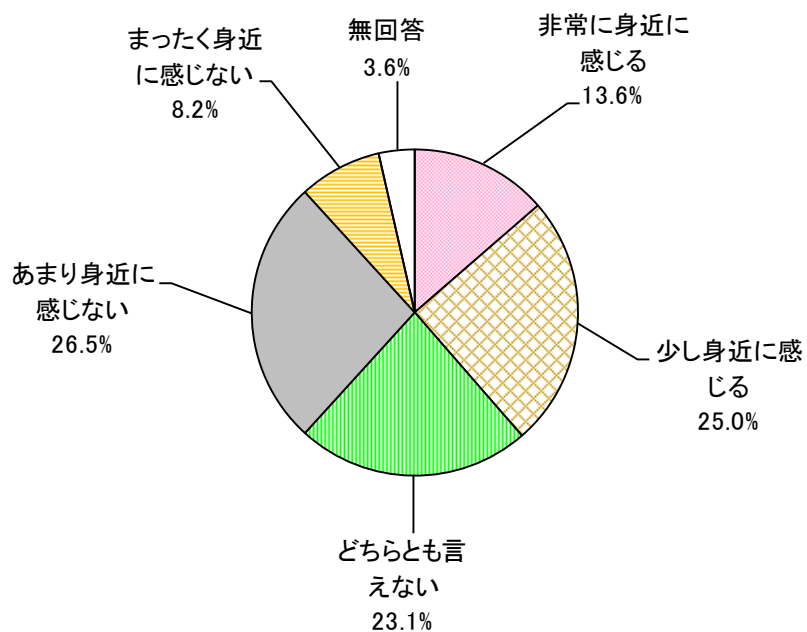
6. 人権問題について

(1) 人権を身近な問題として感じる程度

問24 あなたは「人権」をどの程度身近に感じていますか。あなたのお考えに一番近いもの1つに○をつけてください。

【図表6-1 人権を身近な問題として感じる程度】

(n=1,828)



人権を身近な問題として感じる程度では、「あまり身近に感じない」(26.5%)が最も多くなっている。これに次いで「少し身近に感じる」(25.0%)となっている。

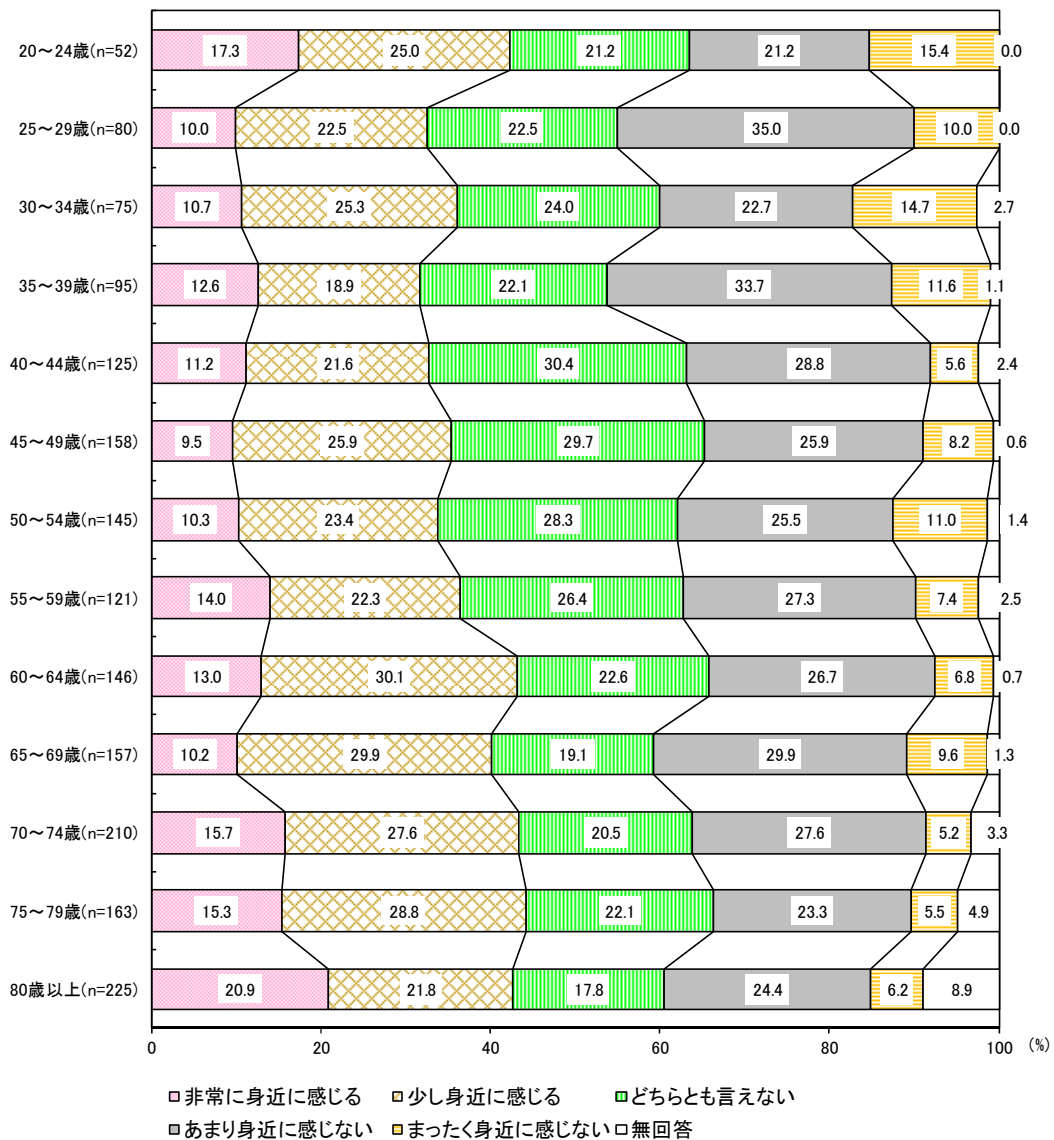
なお、「非常に身近に感じる」と「少し身近に感じる」を合わせた『身近に感じる』割合(以下、『身近に感じる』割合)は38.6%を占めている。一方、「あまり身近に感じない」と「まったく身近に感じない」を合わせた『身近に感じない』割合(以下、『身近に感じない』割合)は34.7%となっており、『身近に感じる』割合の方がわずかに高くなっている。また、「どちらとも言えない」(23.1%)も一定数いる。(図表6-1)

年代別でみると、55歳以上では全ての年代で、『身近に感じる』割合が『身近に感じない』割合を上回っている。また、20～24歳でも『身近に感じる』割合が5.8ポイント上回っている。

また、40歳代では、「どちらとも言えない」が約3割を占めている。

(図表6-1-1)

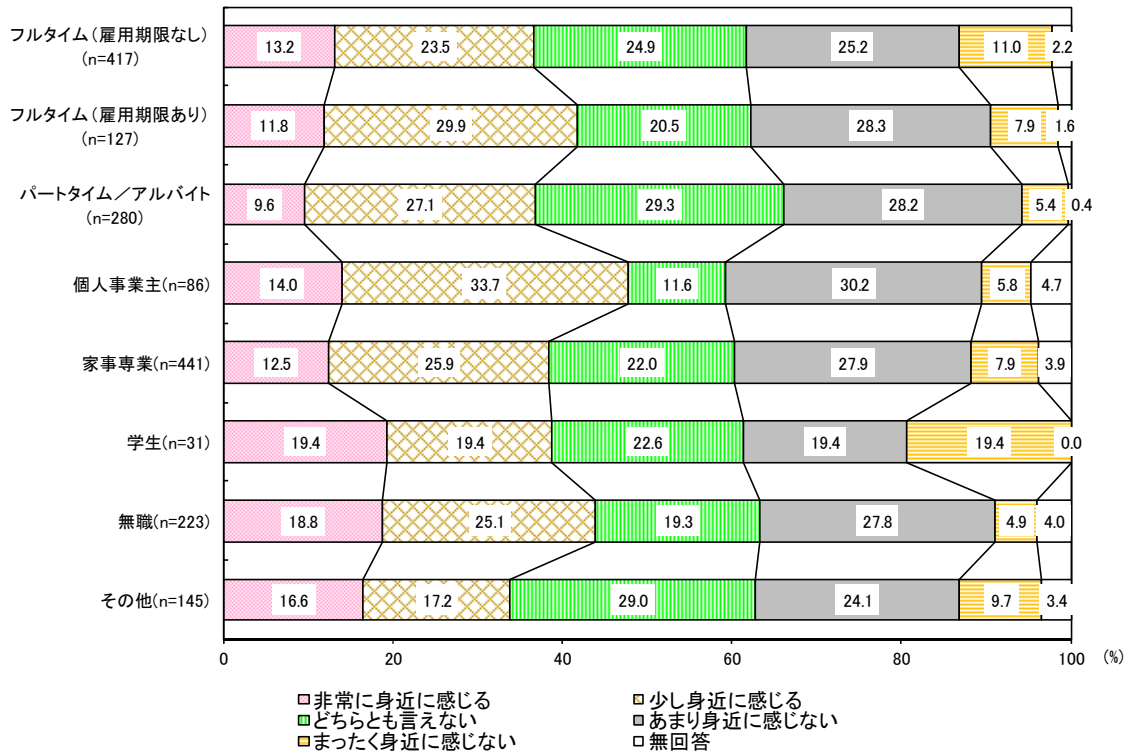
【図表6-1-1 年代別 人権を身近な問題として感じる程度】



職業別でみると、ほとんどの職種で、『身近に感じる』割合が『身近に感じない』割合を上回っているが、あまり差はない。

個人事業主では『身近に感じる』割合は47.7%で、『身近に感じない』割合を11.6ポイント上回っている。また、「どちらでもない」と答えた方も11.6%と他の職種に比べると少ない。(図表6-1-2)

【図表6-1-2 職業別 人権を身近な問題として感じる程度】

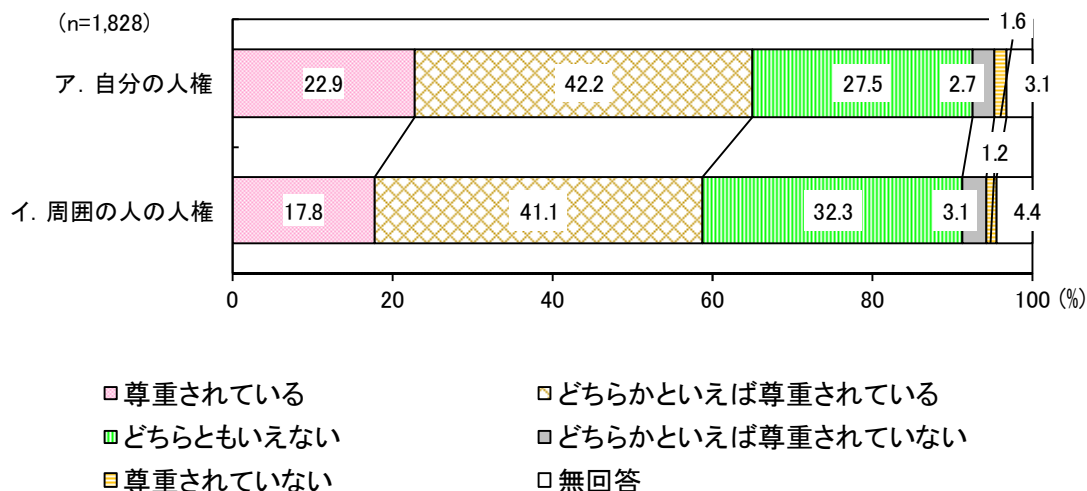


(2) 人権尊重の状況

問25 基本的人権は侵すことのできない永久の権利として、憲法で保障されています。あなたは、日常生活の中で自分や周囲の人の「人権」が尊重されていると思いますか。

ア～イのそれぞれの項目について、あなたのお考えに一番近いもの1つに○をつけてください。

【図表6-2 人権尊重の状況】



人権が尊重されているかについて、「尊重されている」と「どちらかといえば尊重されている」を合わせた『尊重されている』の割合（以下、『尊重されている』割合）と「どちらかといえば尊重されていない」と「尊重されていない」を合わせた『尊重されていない』の割合（以下、『尊重されていない』割合）を見たところ、“ア. 自分の人権”では、『尊重されている』割合が65.1%、『尊重されていない』割合が4.4%となっている。“イ. 周囲の人の人権”では、『尊重されている』割合が58.9%、『尊重されていない』割合が4.4%となっている。

また、「どちらとも言えない」が“ア. 自分の人権”“イ. 周囲の人の人権”どちらも約3割と一定数いる。（図表6-2）

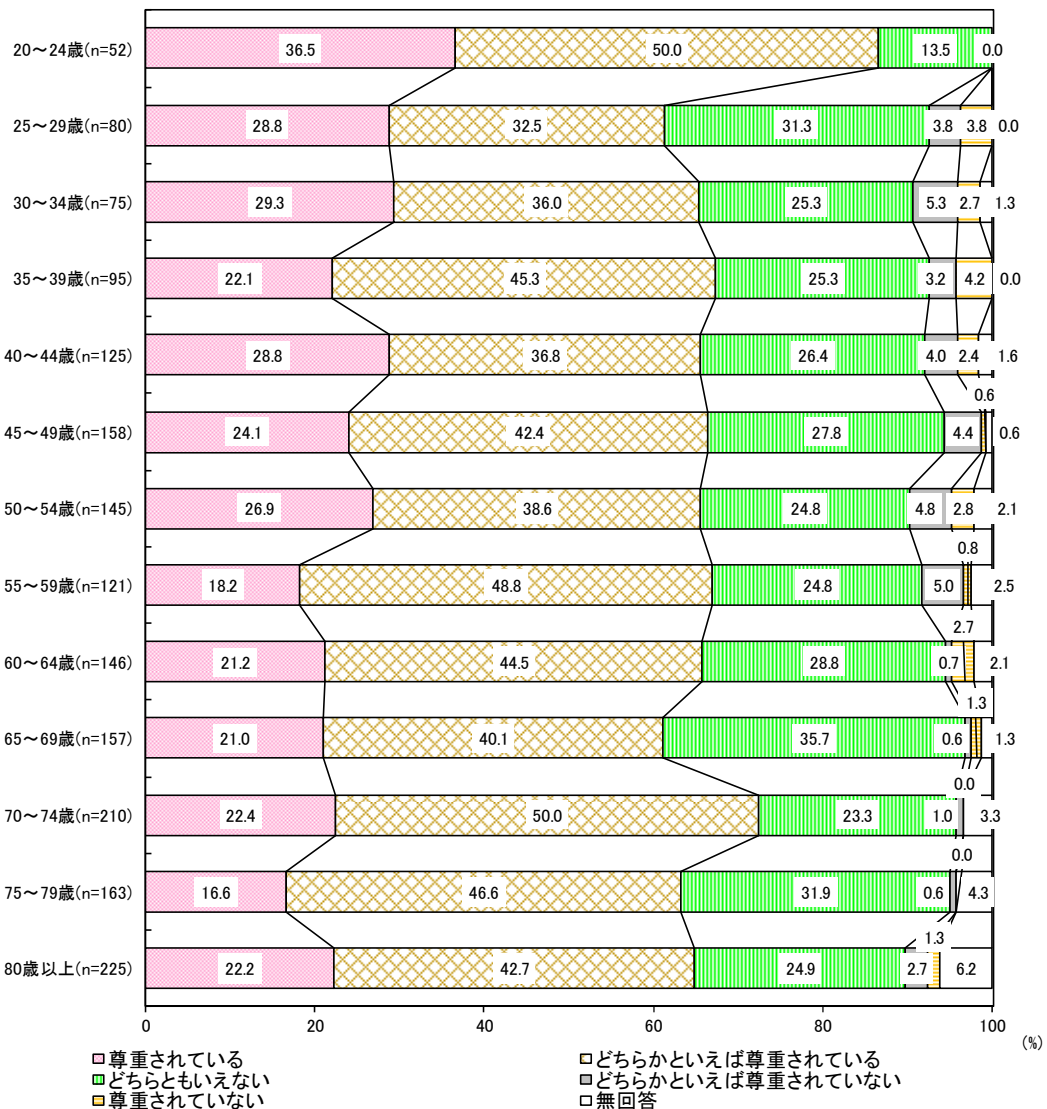
年代別でみると、「尊重されている」は、「ア. 自分の人権」で、20～24歳（36.5%）が最も多く、75～79歳（16.6%）が最も少ない。「イ. 周囲の人の人権」でも、20～24歳（34.6%）が最も多く、75～79歳（12.3%）が最も少なくなっており、共に年代層が高くなるほど、割合が低くなる傾向になっている。

「どちらかといえば尊重されている」は、「ア. 自分の人権」で、20～24歳（50.0%）、70～74歳（50.0%）が多く、25～29歳（32.5%）が最も少ない。「イ. 周囲の人の人権」は、55～59歳（47.1%）、35～39歳（45.3%）、60～64歳（45.2%）が多く、30～34歳（33.3%）が最も少ない。

『尊重されている』は、20～24歳が「ア. 自分の人権」（86.5%） 「イ. 周囲の人の人権」（88.8%）と最も多くなっていて、年齢が上がるほど少なくなっていく傾向がある。（図表6-2-1）

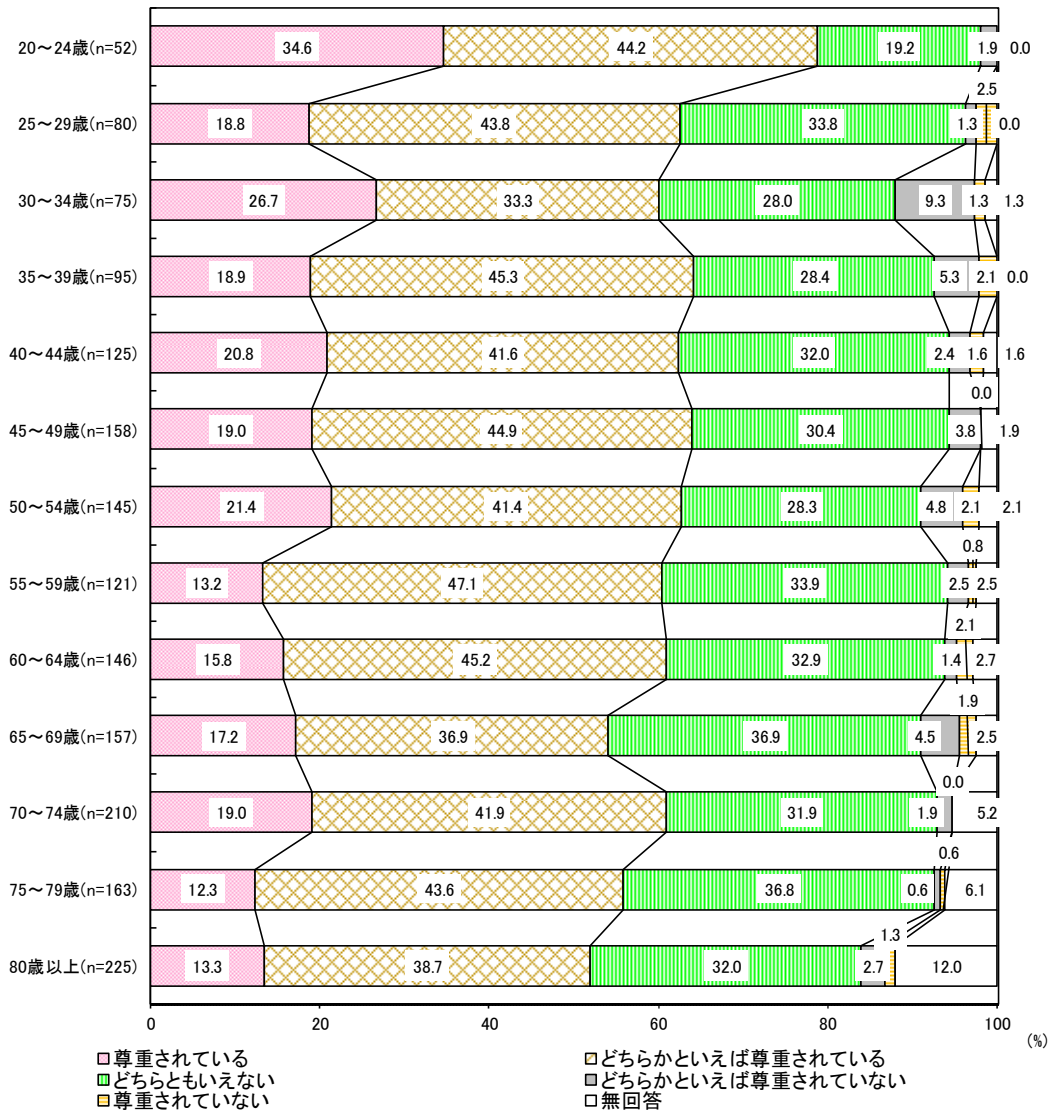
【図表6-2-1 年代別 人権尊重の状況】

<ア. 自分の人権>



【図表6-2-1 年代別 人権尊重の状況（続き）】

<イ. 周囲の人の人権>

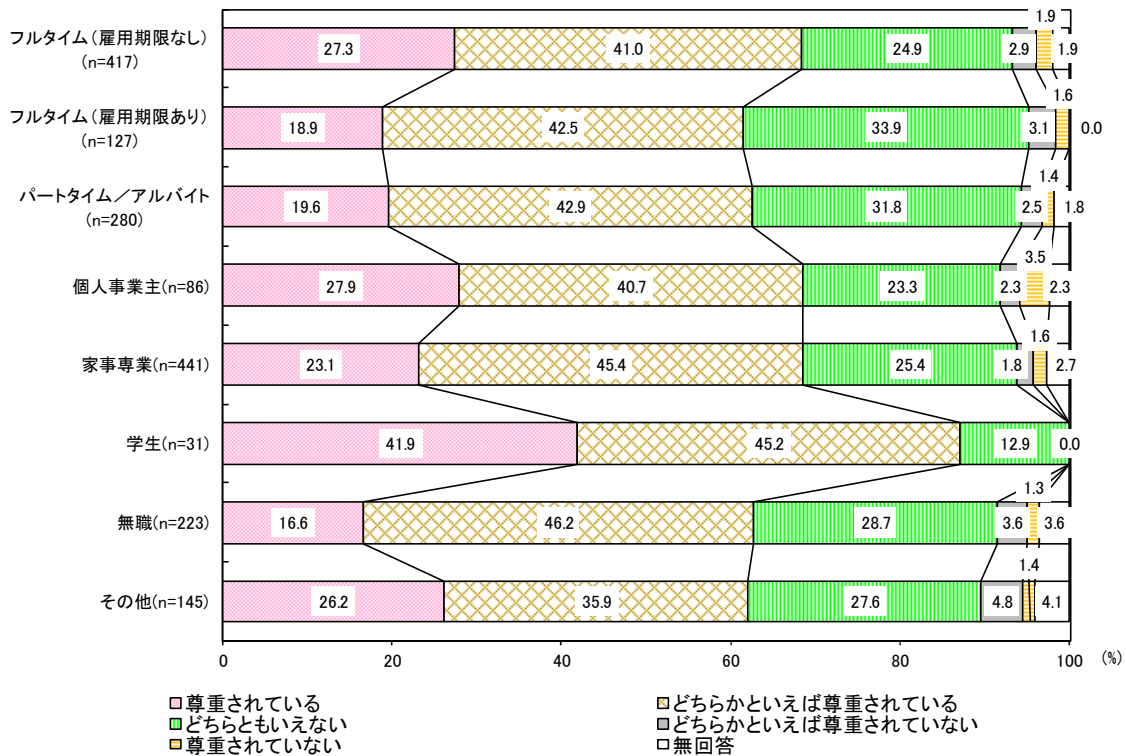


職業別でみると、「尊重されている」は、“ア. 自分の人権”で、学生（41.9%）が最も多く、無職（16.6%）が最も少ない。“イ. 周囲の人の人権”は、学生（35.5%）が最も多く、パートタイム／アルバイト（14.3%）が最も少ない。

『尊重されている』においても、学生が“ア. 自分の人権”（86.5%）“イ. 周囲の人の人権”（88.8%）と最も多くなっている。学生以外では、“ア. 自分の人権”でフルタイム（雇用制限なし）、個人事業主、家事専業が比較的多く、“イ. 周囲の人の人権”でフルタイム（雇用制限なし）、個人事業主が比較的多い。（図表6-2-2）

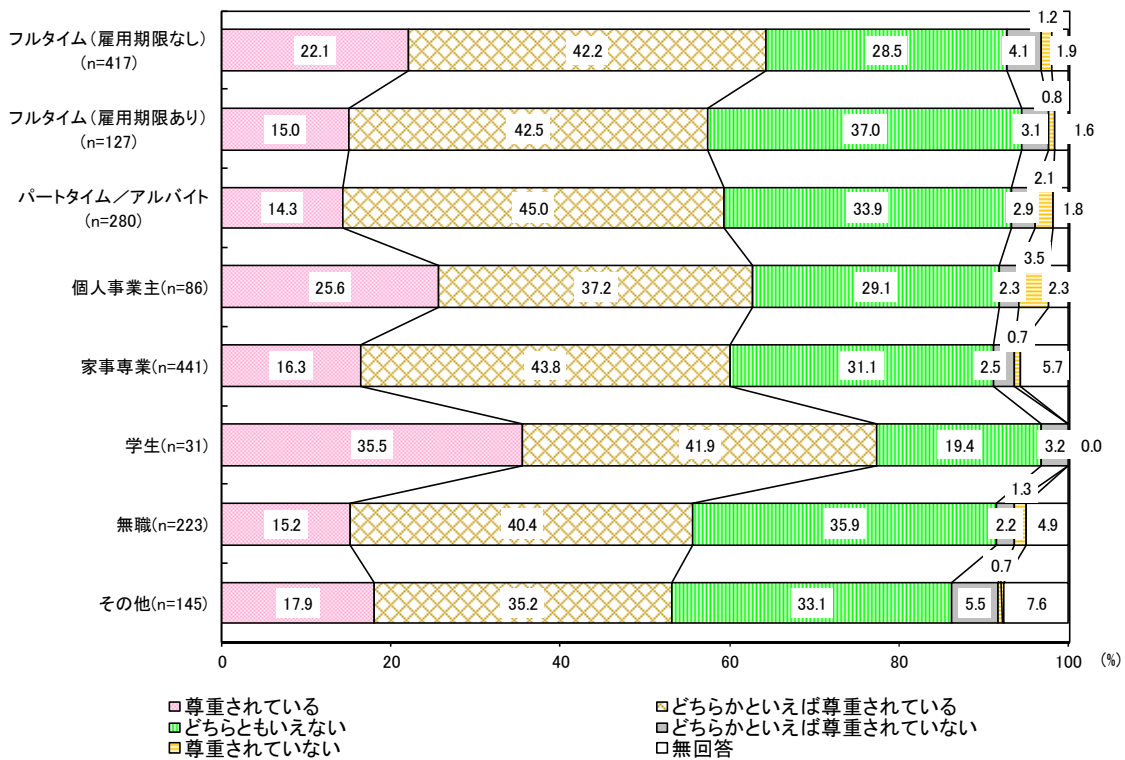
【図表6-2-2 職業別 人権尊重の状況】

<ア. 自分の人権>



【図表6-2-2 職業別 人権尊重の状況（続き）】

<イ. 周囲の人の人権>

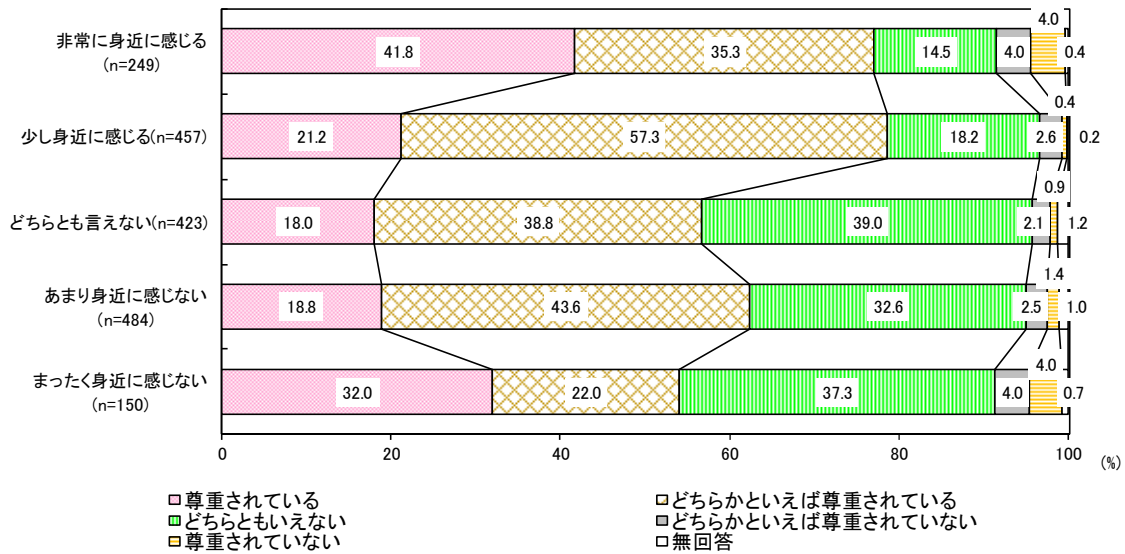


人権を身近な問題として感じる程度別でみると、「尊重されている」は、「ア. 自分の人権」で、[非常に身近に感じる] (41.8%)、[まったく身近に感じない] (32.0%)が多い。「イ. 周囲の人の人権」でも、[非常に身近に感じる] (31.3%)、[まったく身近に感じない] (27.3%)が多い。

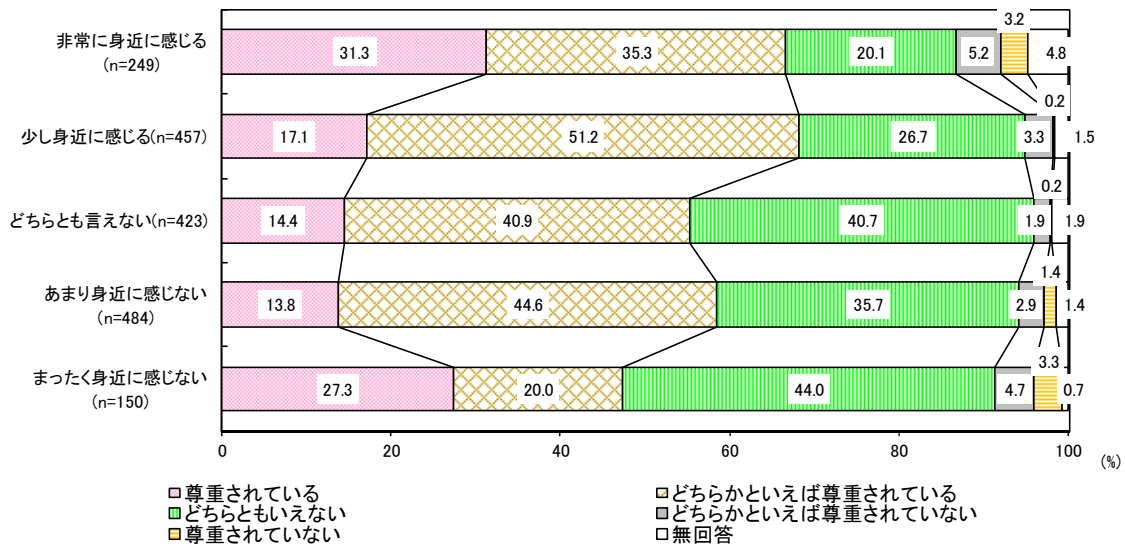
「尊重されている」と「どちらかといえば尊重されている」を合わせた割合では、「ア. 自分の人権」「イ. 周囲の人の人権」とともに、[非常に身近に感じる] [少し身近に感じる]が多い。また、「イ. 周囲の人の人権」では、[まったく身近に感じない]で「どちらともいえない」が44.0%と多い。(図表6-2-3)

【図表6-2-3 人権を身近な問題として感じる程度別 人権尊重の状況】

<ア. 自分の人権>



<イ. 周囲の人の人権>

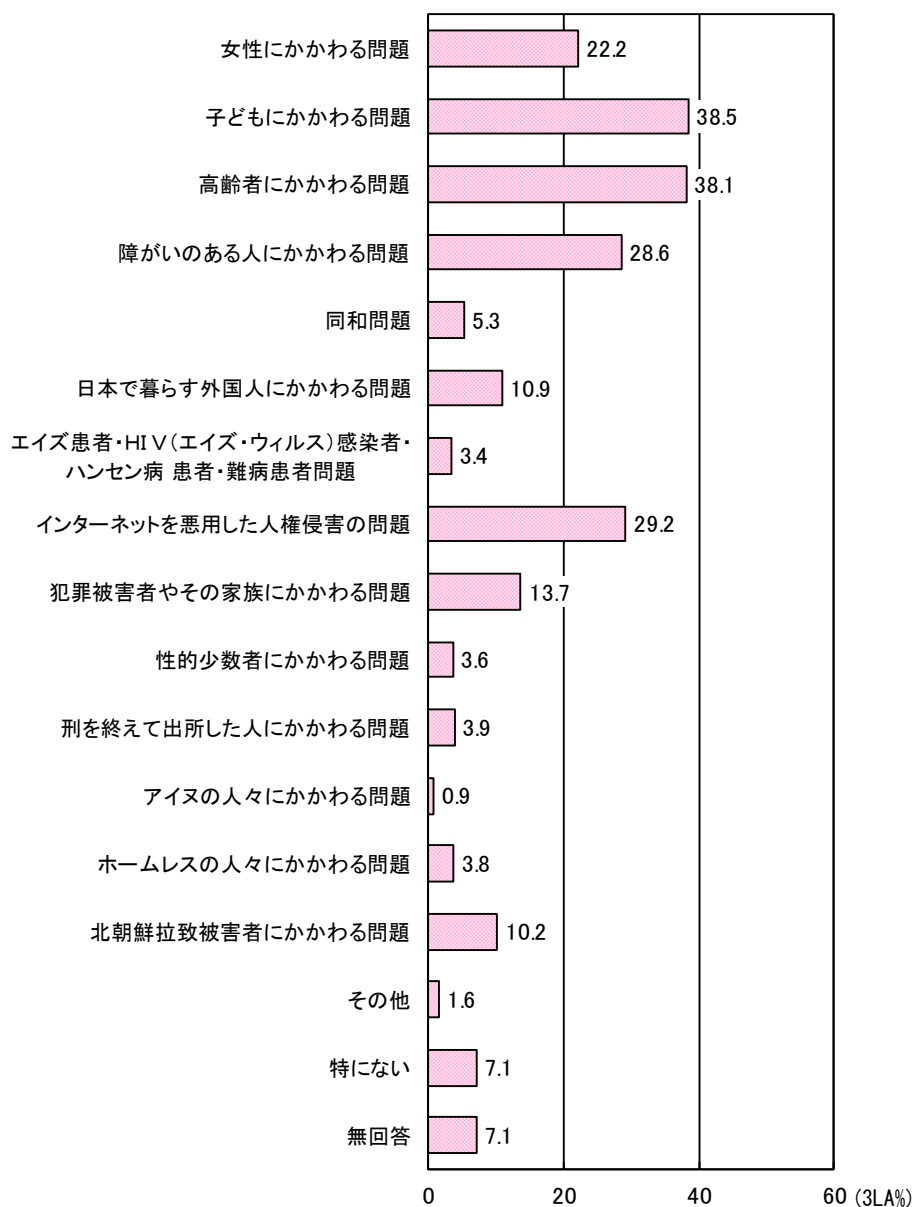


(3) 関心のある人権問題

問26 人権にかかわる様々な問題のうちで、あなたが特に関心をお持ちのものは何ですか。あてはまるものに3つまで○をつけてください。

【図表6-3 関心のある人権問題】

(n=1,828)



関心のある人権問題では、「子どもにかかわる問題」(38.5%)が最も多く、次いで「高齢者にかかわる問題」(38.1%)、「インターネットを悪用した人権侵害の問題」(29.2%)、「障がいのある人にかかわる問題」(28.6%)と続いている。(図表6-3)

年代別でみると、20～54歳で「子供にかかわる問題」、55～59歳で「障がいのある人にかかわる問題」、60歳以上で「高齢者にかかわる問題」がそれぞれ1位となっている。

「子供にかかわる問題」では、40～44歳（53.6%）が最も多く、「高齢者にかかわる問題」では、80歳以上（63.6%）が最も多い。20～34歳で「女性にかかわる問題」、35～54歳、60～64歳で「インターネットを悪用した人権侵害の問題」が2位となっている。54歳以下では、「子供にかかわる問題」、「女性にかかわる問題」、「インターネットを悪用した人権侵害の問題」が多く、55歳以上では、「高齢者にかかわる問題」、「子供にかかわる問題」、「障がいのある人にかかわる問題」が多くなっている。（図表6-3-1）

【図表6-3-1 年代別 関心のある人権問題（上位5項目）】

(3LA%)						
	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	
20～24歳 (n=52)	子どもにかかわる問題 42.3	女性にかかわる問題 40.4	障がいのある人にかかわる問題 28.8	インターネットを悪用した人権侵害の問題 25.0	高齢者にかかわる問題 17.3	日本で暮らす外国人にかかわる問題
25～29歳 (n=80)	子どもにかかわる問題 47.5	女性にかかわる問題 40.0	インターネットを悪用した人権侵害の問題 37.5	障がいのある人にかかわる問題 28.8	犯罪被害者やその家族にかかわる問題 18.8	
30～34歳 (n=75)	子どもにかかわる問題 50.7	女性にかかわる問題 33.3	インターネットを悪用した人権侵害の問題 26.7	障がいのある人にかかわる問題 18.7	日本で暮らす外国人にかかわる問題 16.0	
35～39歳 (n=95)	子どもにかかわる問題 49.5	インターネットを悪用した人権侵害の問題 38.9	女性にかかわる問題 28.4	高齢者にかかわる問題 26.3	障がいのある人にかかわる問題 22.1	
40～44歳 (n=125)	子どもにかかわる問題 53.6	インターネットを悪用した人権侵害の問題 32.8	女性にかかわる問題 31.2	障がいのある人にかかわる問題 28.0	高齢者にかかわる問題 20.0	
45～49歳 (n=158)	子どもにかかわる問題 46.8	インターネットを悪用した人権侵害の問題 31.0	女性にかかわる問題 27.8	障がいのある人にかかわる問題 26.6	高齢者にかかわる問題 25.3	
50～54歳 (n=145)	子どもにかかわる問題 44.1	インターネットを悪用した人権侵害の問題 36.6	女性にかかわる問題 30.3	高齢者にかかわる問題 29.0	障がいのある人にかかわる問題 24.1	
55～59歳 (n=121)	障がいのある人にかかわる問題 36.4	高齢者にかかわる問題 32.2	子どもにかかわる問題 28.1	インターネットを悪用した人権侵害の問題 28.1	女性にかかわる問題 21.5	
60～64歳 (n=146)	高齢者にかかわる問題 40.4	インターネットを悪用した人権侵害の問題 31.5	子どもにかかわる問題 29.5	障がいのある人にかかわる問題 29.5	女性にかかわる問題 19.2	
65～69歳 (n=157)	高齢者にかかわる問題 45.2	子どもにかかわる問題 38.2	インターネットを悪用した人権侵害の問題 28.7	障がいのある人にかかわる問題 26.8	女性にかかわる問題 17.8	
70～74歳 (n=210)	高齢者にかかわる問題 50.0	子どもにかかわる問題 33.3	障がいのある人にかかわる問題 33.3	インターネットを悪用した人権侵害の問題 29.5	犯罪被害者やその家族にかかわる問題 13.8	
75～79歳 (n=163)	高齢者にかかわる問題 58.9	障がいのある人にかかわる問題 38.0	子どもにかかわる問題 32.5	インターネットを悪用した人権侵害の問題 22.1	北朝鮮拉致被害者にかかわる問題 17.8	
80歳以上 (n=225)	高齢者にかかわる問題 63.6	子どもにかかわる問題 28.9	障がいのある人にかかわる問題 27.6	北朝鮮拉致被害者にかかわる問題 20.9	インターネットを悪用した人権侵害の問題 20.0	

職業別でみると、フルタイム（雇用期限なし・あり）、パートタイム／アルバイト、個人事業主、学生で「子供にかかわる問題」、フルタイム（雇用期限あり）、家事専業、無職、その他で「高齢者にかかわる問題」がそれぞれ1位となっている。

「子供にかかわる問題」では、パートタイム／アルバイト（43.9%）が最も多く、「高齢者にかかわる問題」では、無職（49.8%）が最も多い。

フルタイム（雇用期限なし）、個人事業主で「インターネットを悪用した人権侵害の問題」が2位となっている。

家事専業、学生、無職、その他で「障がいのある人にかかわる問題」の順位が高い。（図表6-3-2）

【図表6-3-2 職業別 関心のある人権問題（上位5項目）】

	(3LA%)				
	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
フルタイム (雇用期限なし) (n=417)	子どもにかかわる問題 43.6	インターネットを悪用した人権侵害の問題 34.8	女性にかかわる問題 28.1	障がいのある人にかかわる問題 25.9	高齢者にかかわる問題 22.1
フルタイム (雇用期限あり) (n=127)	子どもにかかわる問題 36.2	高齢者にかかわる問題 36.2	インターネットを悪用した人権侵害の問題 32.3	障がいのある人にかかわる問題 27.6	犯罪被害者やその家族にかかわる問題 17.3
パートタイム ／アルバイト (n=280)	子どもにかかわる問題 43.9	高齢者にかかわる問題 41.4	女性にかかわる問題 30.0	障がいのある人にかかわる問題 27.9	インターネットを悪用した人権侵害の問題 27.5
個人事業主 (n=86)	子どもにかかわる問題 38.4	インターネットを悪用した人権侵害の問題 33.7	高齢者にかかわる問題 27.9	障がいのある人にかかわる問題 25.6	女性にかかわる問題 19.8
家事専業 (n=441)	高齢者にかかわる問題 46.5	子どもにかかわる問題 38.1	障がいのある人にかかわる問題 30.8	インターネットを悪用した人権侵害の問題 29.3	女性にかかわる問題 20.9
学生 (n=31)	子どもにかかわる問題 35.5	女性にかかわる問題 32.3	障がいのある人にかかわる問題 29.0	インターネットを悪用した人権侵害の問題 22.6	犯罪被害者やその家族にかかわる問題 22.6
無職 (n=223)	高齢者にかかわる問題 49.8	子どもにかかわる問題 34.5	障がいのある人にかかわる問題 32.7	インターネットを悪用した人権侵害の問題 23.3	北朝鮮拉致被害者にかかわる問題 16.1
その他 (n=145)	高齢者にかかわる問題 49.7	障がいのある人にかかわる問題 33.1	子どもにかかわる問題 25.5	インターネットを悪用した人権侵害の問題 22.8	北朝鮮拉致被害者にかかわる問題 15.9

人権を身近な問題として感じる程度別でみると、[非常に身近に感じる]、[あまり身近に感じない]、[まったく身近に感じない]で「子供にかかわる問題」、[少し身近に感じる]、[どちらとも言えない]で「高齢者にかかわる問題」がそれぞれ1位となっている。

「子供にかかわる問題」では、少し身近に感じる（43.5%）が最も多く、「高齢者にかかわる問題」でも、少し身近に感じる（44.2%）が最も多い。

[まったく身近に感じない]で「インターネットを悪用した人権侵害の問題」が2位となっている。

[非常に身近に感じる]、[少し身近に感じる]で「障がいのある人にかかわる問題」の順位が高い。（図表6-3-3）

【図表6-3-3 人権を身近な問題として感じる程度別 関心のある人権問題（上位5項目）】

(3LA%)

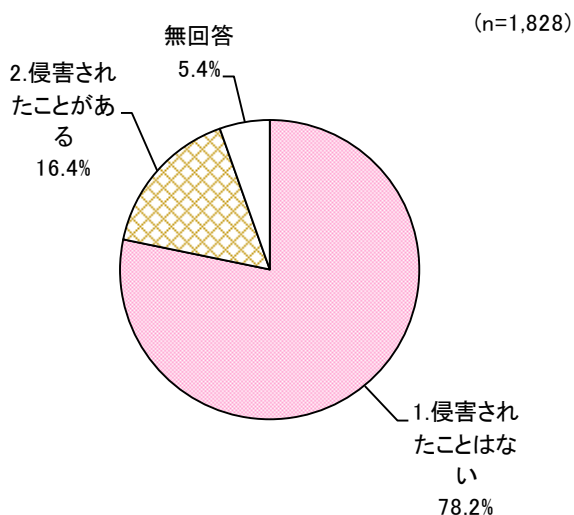
	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	
非常に身近に感じる (n=249)	子どもにかかわる問題 40.6	高齢者にかかわる問題 37.3	障がいのある人にかかわる問題 36.5	インターネットを悪用した人権侵害の問題 31.7	女性にかかわる問題	
少し身近に感じる (n=457)	高齢者にかかわる問題 44.2	子どもにかかわる問題 43.5	障がいのある人にかかわる問題 34.1	インターネットを悪用した人権侵害の問題 33.0	女性にかかわる問題	
どちらとも言えない (n=423)	高齢者にかかわる問題 40.4	子どもにかかわる問題 39.5	インターネットを悪用した人権侵害の問題 30.3	障がいのある人にかかわる問題 27.0	女性にかかわる問題	
あまり身近に感じない (n=484)	子どもにかかわる問題 37.8	高齢者にかかわる問題 37.2	インターネットを悪用した人権侵害の問題 28.1	障がいのある人にかかわる問題 26.4	女性にかかわる問題	
まったく身近に感じない (n=150)	子どもにかかわる問題 30.7	インターネットを悪用した人権侵害の問題 25.3	高齢者にかかわる問題 24.7	特にない 20.0	女性にかかわる問題	障がいのある人にかかわる問題 17.3

(4) 人権侵害の有無

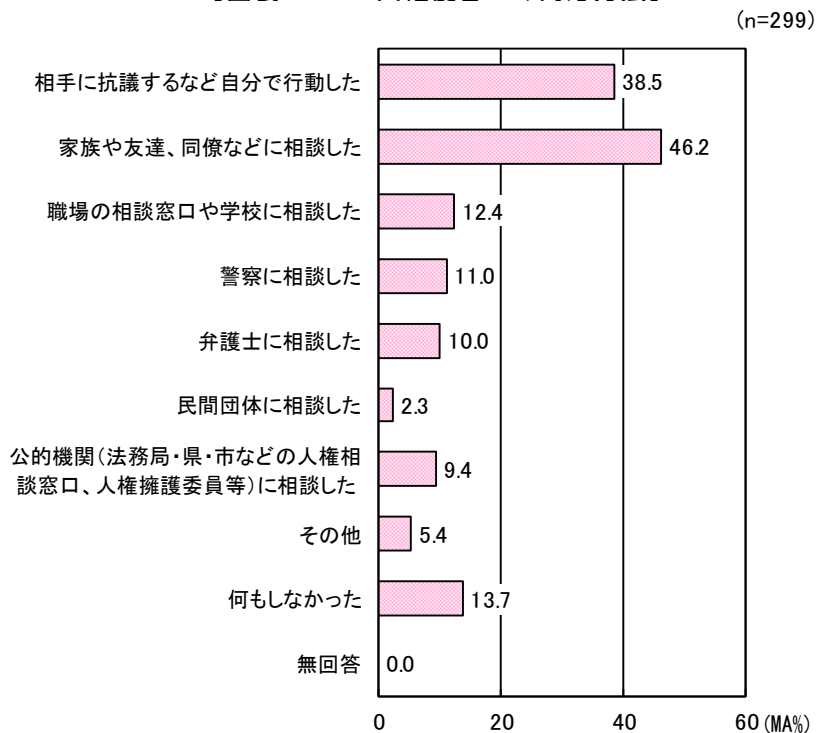
問27 あなたは、自分や周囲の人権が侵害されたときにどのように対応されましたか。

- ・ 侵害されたことがない場合、「1」に○をつけ問28 へ。
- ・ 侵害されたことがある場合、「2～10」の中でどのように対応されたかあてはまるもの全てに○をつけてください。

【図表6-4-1 人権侵害の有無】



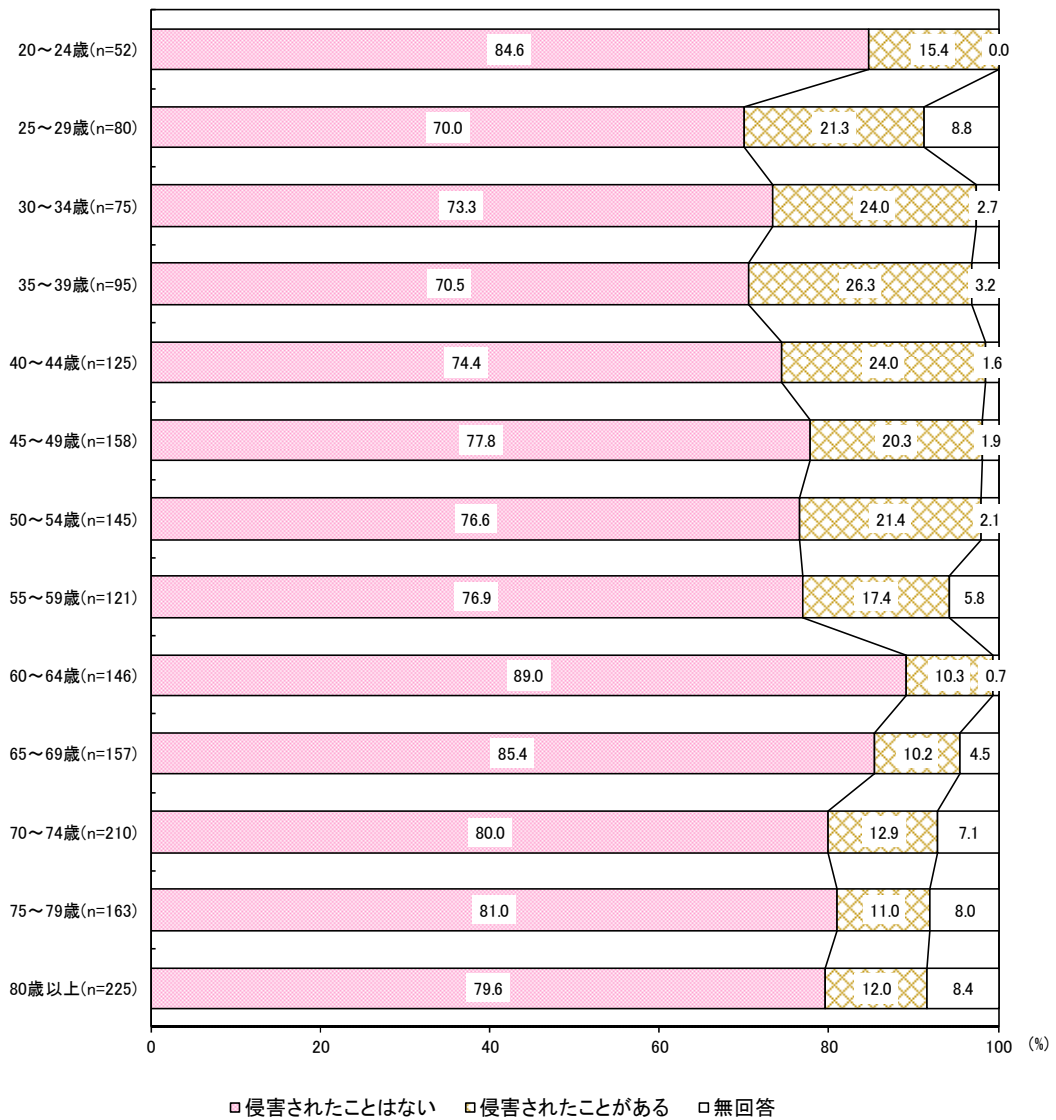
【図表6-4-2 人権侵害への対応方法】



「人権を侵害されたことはない」(78.2%)が最も高い。また、人権を侵害されたことがある場合の対応としては、「家族や友達、同僚などに相談した」(46.2%)が最も高く、次いで「相手に抗議するなど自分で行動した」(38.5%)と続いている。なお、「何もしなかった」と回答した人は13.7%あった。(図表6-4-1・図表6-4-2)

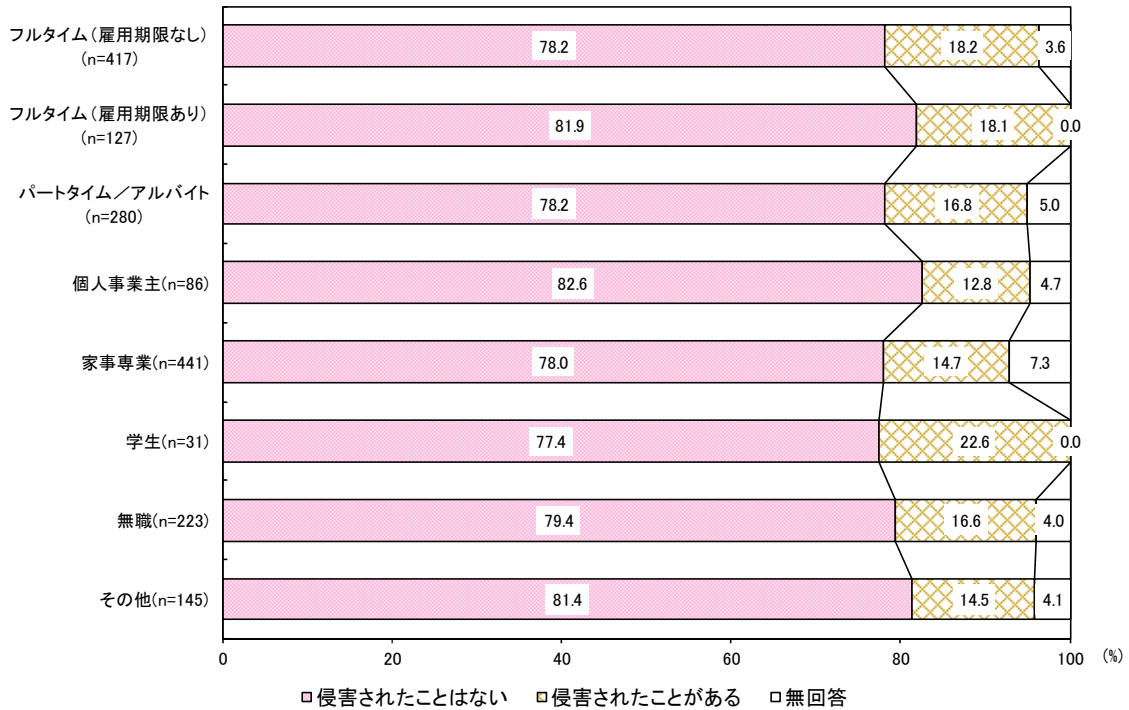
年代別でみると、「侵害されたことがある」は、25～59歳の割合が多く、特に、35～39歳（26.3%）が最も多い。（図表6-4-1-1）

【図表6-4-1-1 年代別 人権侵害の有無】



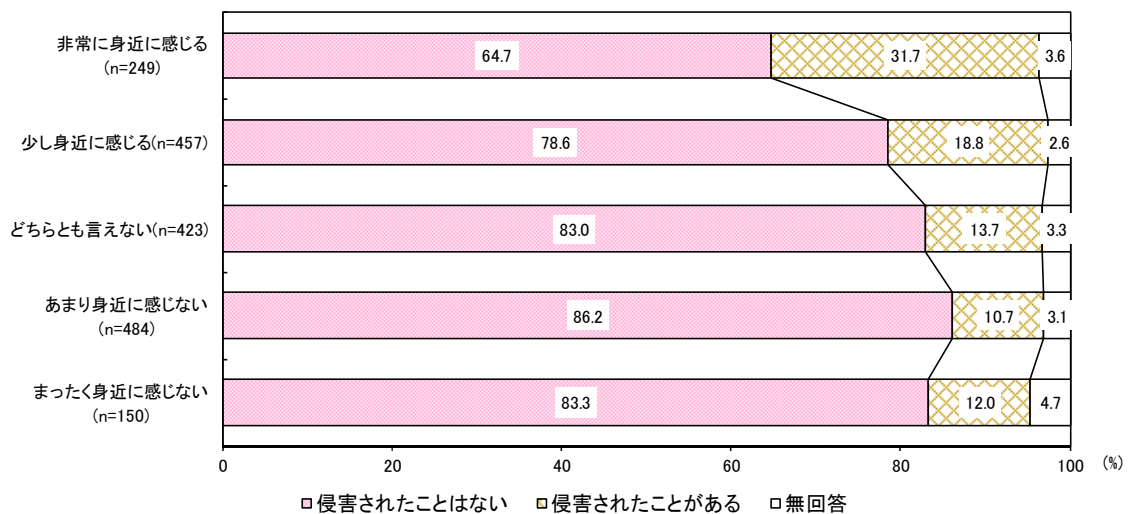
職業別でみると、「侵害されたことがある」は、学生（22.6%）、フルタイム（雇用期限なし）（18.2%）、フルタイム（雇用期限あり）（18.1%）が多く、個人事業主（12.8%）が最も少ない。（図表6-4-1-2）

【図表6-4-1-2 職業別 人権侵害の有無】



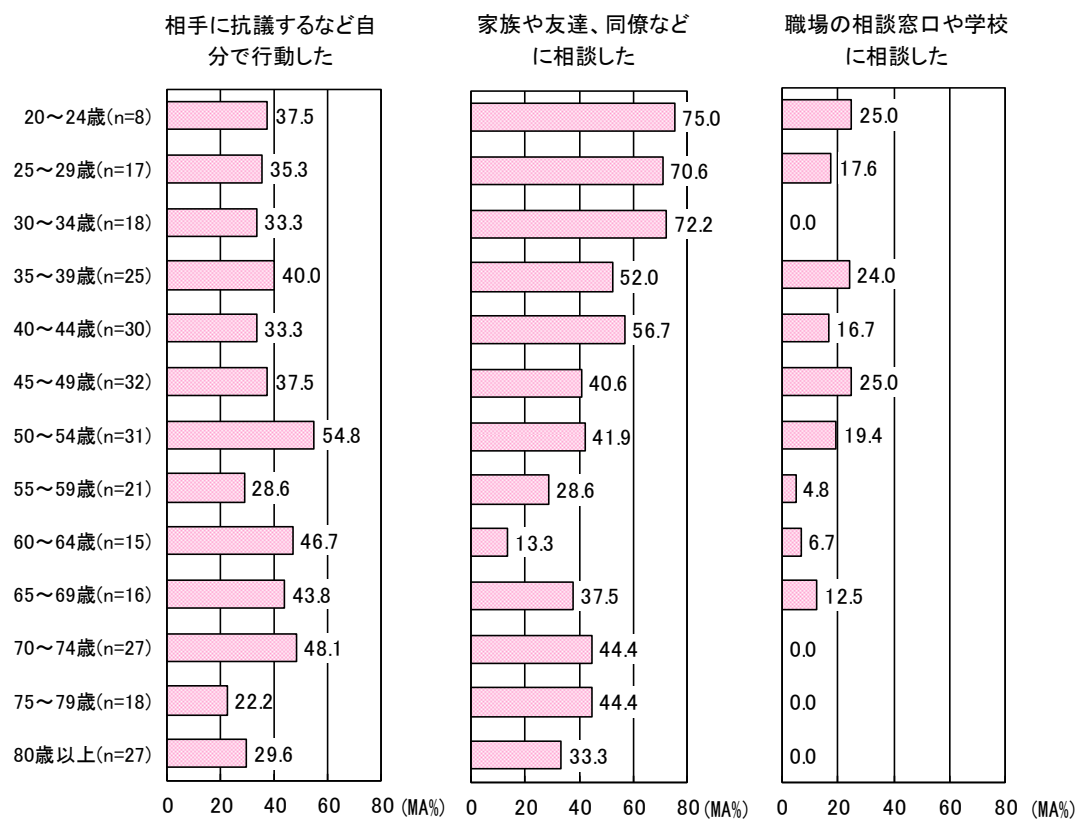
人権を身近な問題として感じる程度別でみると、「侵害されたことがある」は、非常に身近に感じる（31.7%）が最も多く、「侵害されたことがある」割合が多いほど、人権を身近に感じている。（図表6-4-1-3）

【図表6-4-1-3 人権を身近な問題として感じる程度別 人権侵害の有無】

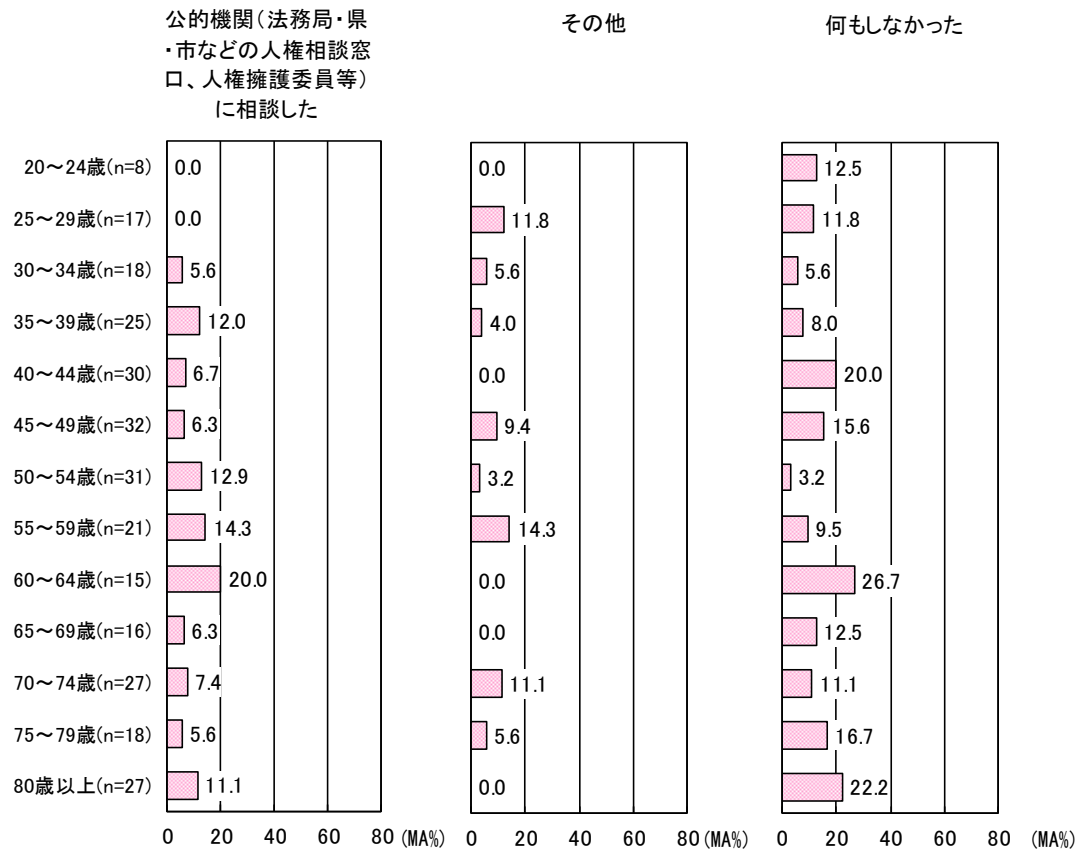
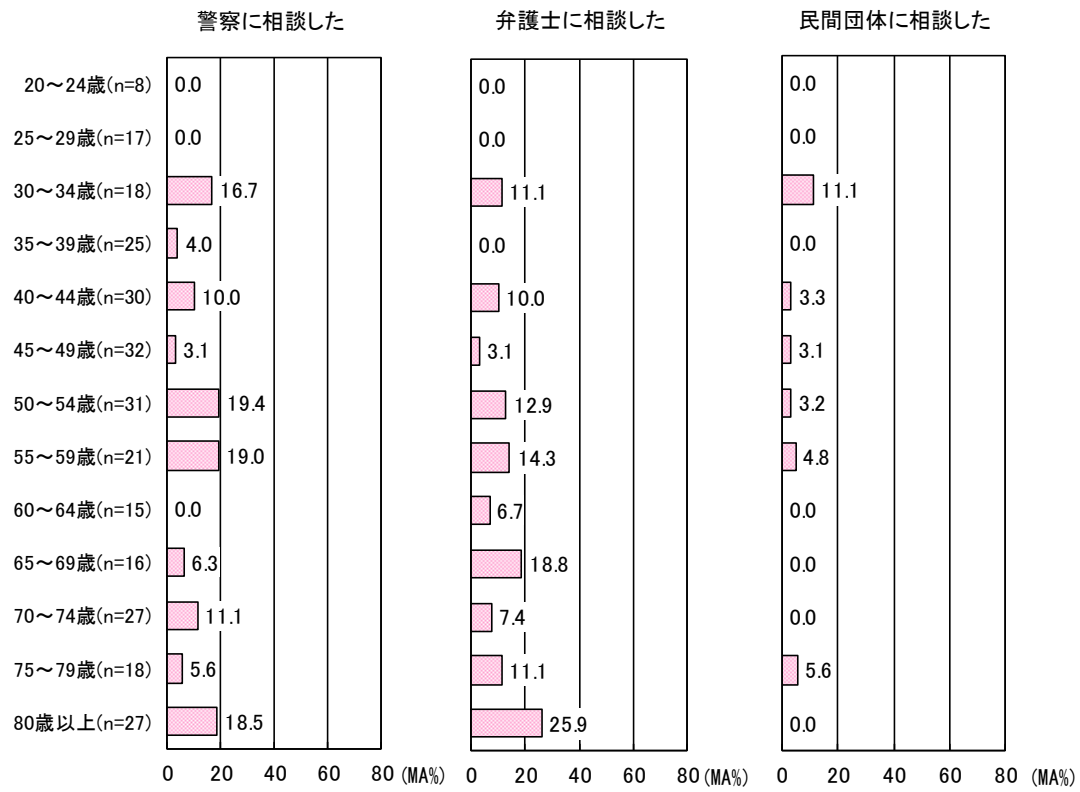


人権侵害されたことがある方の対応方法を年代別で見ると、「相手に抗議するなど自分で行動した」は、50～54歳（54.8%）が最も多く、75～79歳（22.2%）が最も少ない。「家族や友達、同僚などに相談した」は、20～34歳の年代層で70%以上と高い割合になっている。「職場の相談窓口や学校に相談した」では、20～29歳、35～54歳が20%前後で高くなっている。「警察に相談した」、「弁護士に相談した」、「民間団体に相談した」、「公的機関（法務局・県・市などの人権相談窓口、人権擁護委員等）に相談した」では、ほとんどの年代層で20%以下であるが、高い年代層ほど割合が高くなっている。「何もしなかった」は、40～49歳、60～64歳、80歳以上で割合が高くなっている。（図表6-4-2-1）

【図表6-4-2-1 年代別 人権侵害への対応方法】

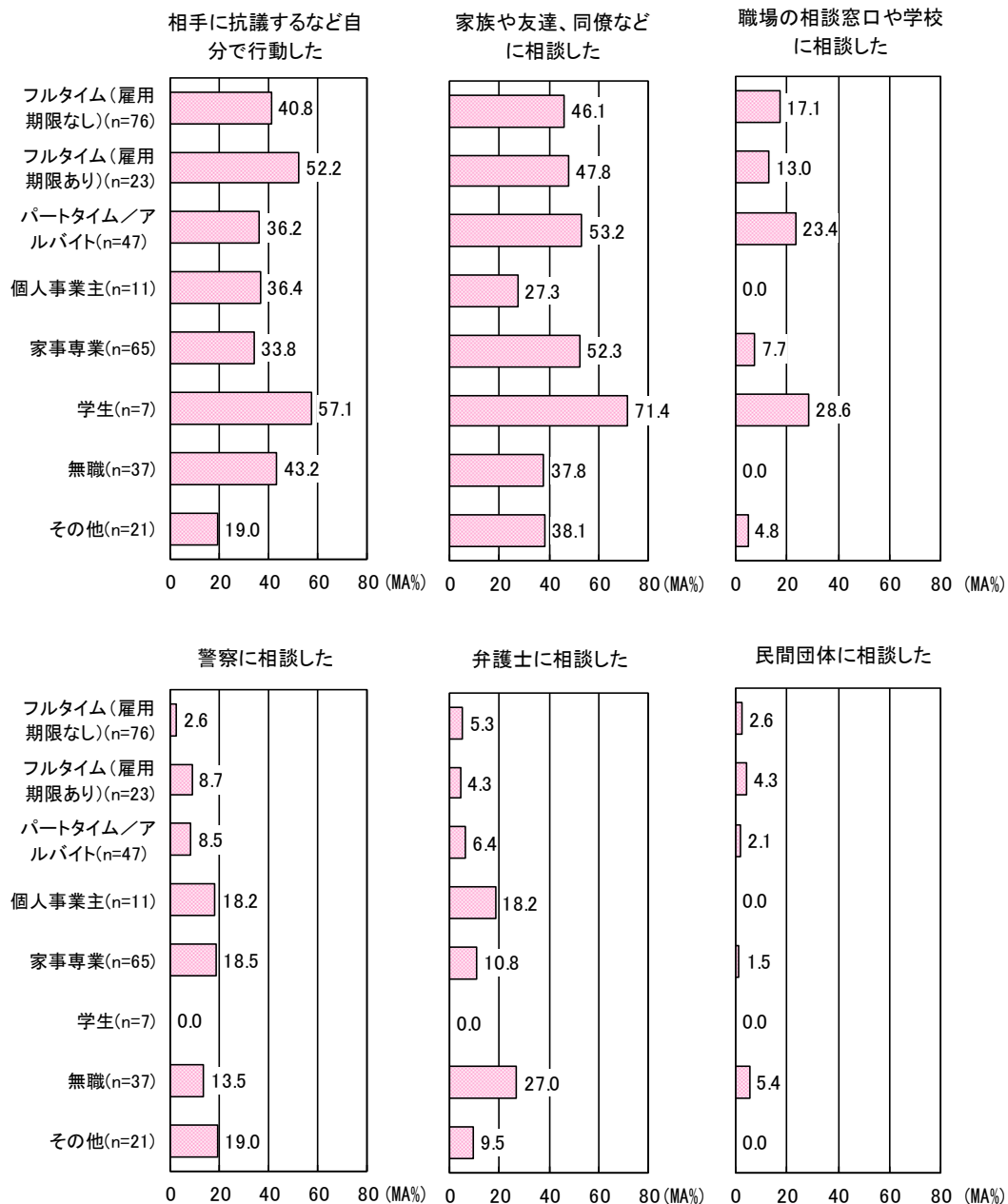


【図表6-4-2-1 年代別 人権侵害への対応方法（続き）】

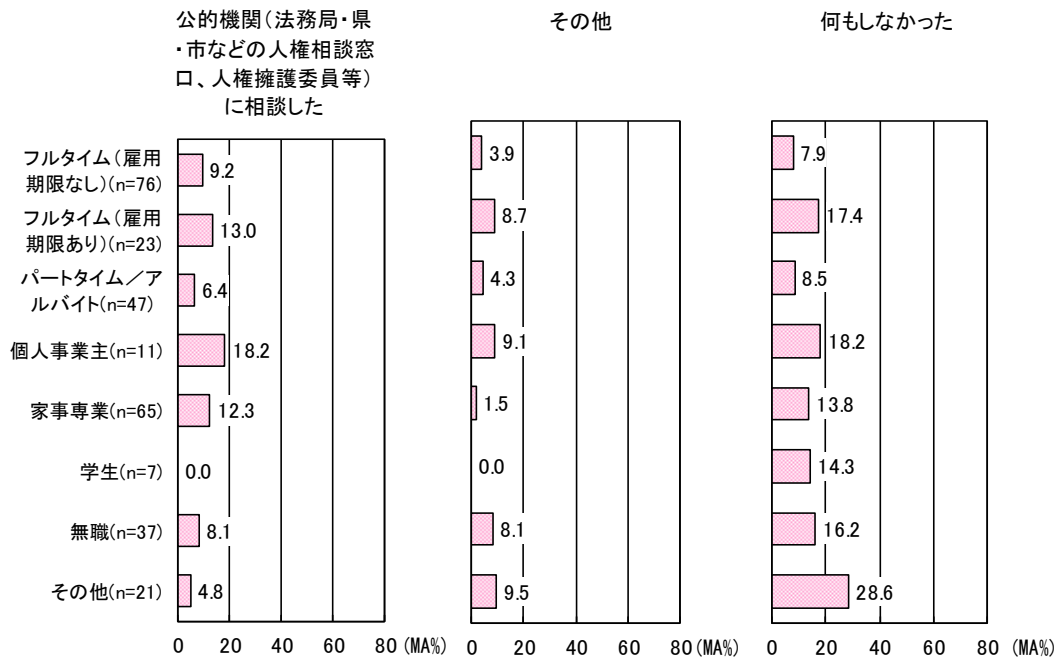


人権侵害されたことがある方の対応方法を職業別で見ると、「相手に抗議するなど自分で行動した」は、学生（57.1%）が最も多く、次いで、フルタイム（雇用期限あり）（52.2%）、無職（43.2%）が多い。「家族や友達、同僚などに相談した」は、学生（71.4%）が最も多く、パートタイム／アルバイト（53.2%）、家事専業（52.3%）、フルタイム（雇用期限あり）（47.8%）、フルタイム（雇用期限なし）（46.1%）が多い。「職場の相談窓口や学校に相談した」では、学生（28.6%）、パートタイム／アルバイト（23.4%）が多い。「警察に相談した」、「弁護士に相談した」では、個人事業主、家事専業、無職が多い。「民間団体に相談した」は、全ての職業で、6%を下回っている。「公的機関（法務局・県・市などの人権相談窓口、人権擁護委員等）に相談した」では、個人事業主（18.2%）が最も多い。「何もしなかった」は、その他（28.6%）が最も多く、フルタイム（雇用期限なし）（7.9%）が最も少ない。（図表6-4-2-2）

【図表6-4-2-2 職業別 人権侵害への対応方法】

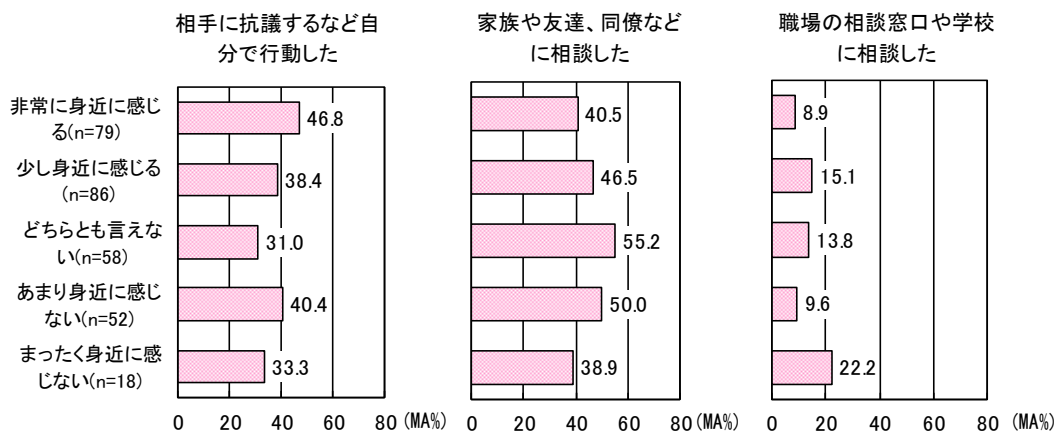


【図表6-4-2-2 職業別 人権侵害への対応方法（続き）】

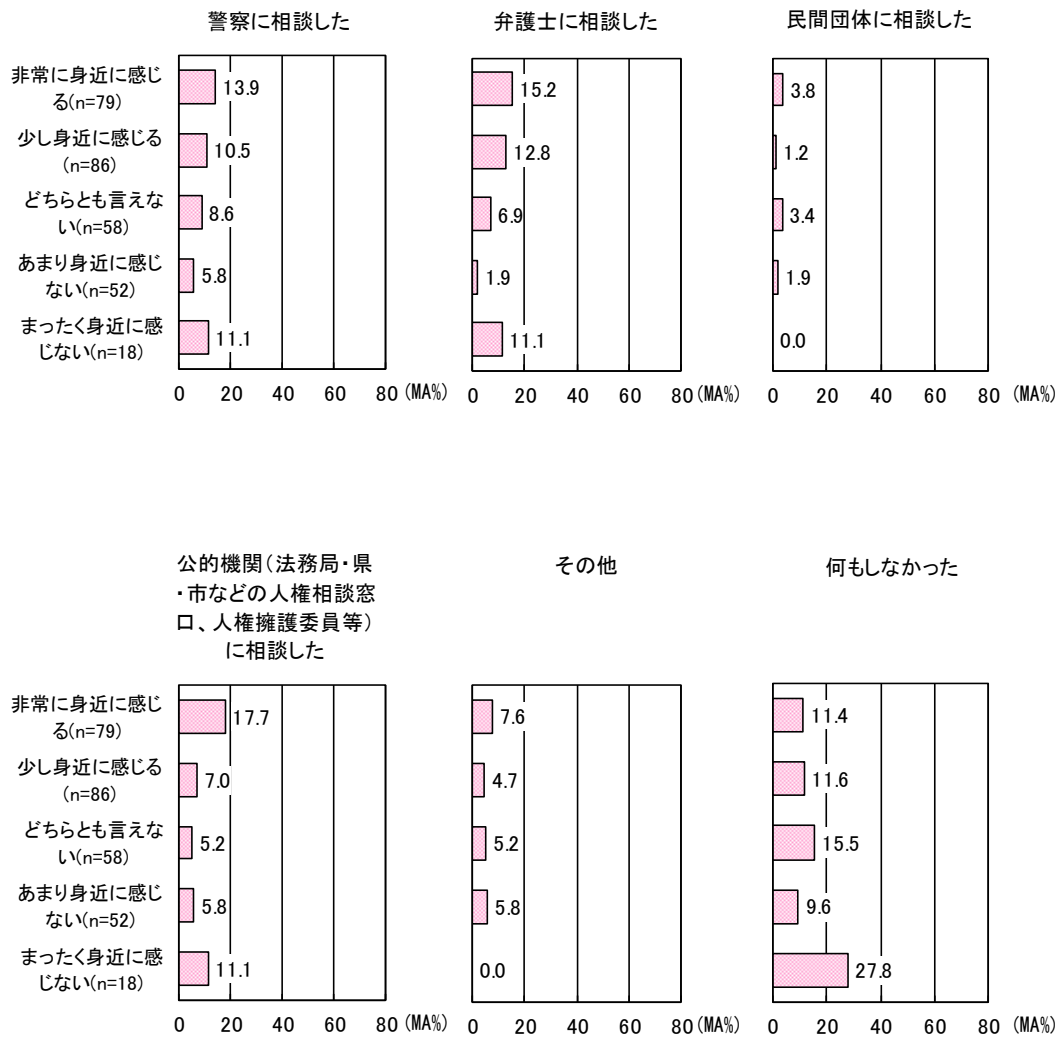


人権侵害されたことがある方の人権を身近な問題として感じる程度別でみると、「相手に抗議するなど自分で行動した」は、非常に身近に感じる（46.8%）が最も多く、次いで、あまり身近に感じない（40.4%）が多い。「家族や友達、同僚などに相談した」は、どちらともいえない（55.2%）が最も多く、あまり身近に感じない（50.0%）、少し身近に感じる（46.5%）が多い。「職場の相談窓口や学校に相談した」では、まったく身近に感じない（22.2%）が最も多い。「警察に相談した」、「弁護士に相談した」では、[非常に身近に感じる]が多い。「民間団体に相談した」は、全てで、4%を下回っている。「公的機関（法務局・県・市などの人権相談窓口、人権擁護委員等）に相談した」は、非常に身近に感じる（17.7%）が最も多い。「何もしなかった」は、まったく身近に感じない（27.8%）が最も多く、あまり身近に感じない（9.6%）が最も少ない。（図表6-4-2-3）

【図表6-4-2-3 人権を身近な問題として感じる程度別 人権侵害への対応方法】



【図表6-4-2-3 人権を身近な問題として感じる程度別 人権侵害への対応方法（続き）】

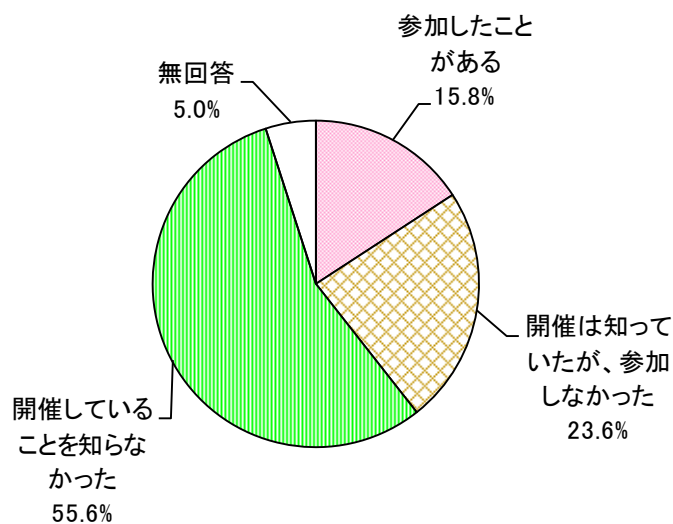


(5) 人権問題を学ぶ場への参加状況

問28 人権問題についての理解を深めるために、講演会・研修会・学習会・映画会などが様々な形で開催されていますが、あなたは参加したことがありますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

【図表6-5 人権問題を学ぶ場への参加状況】

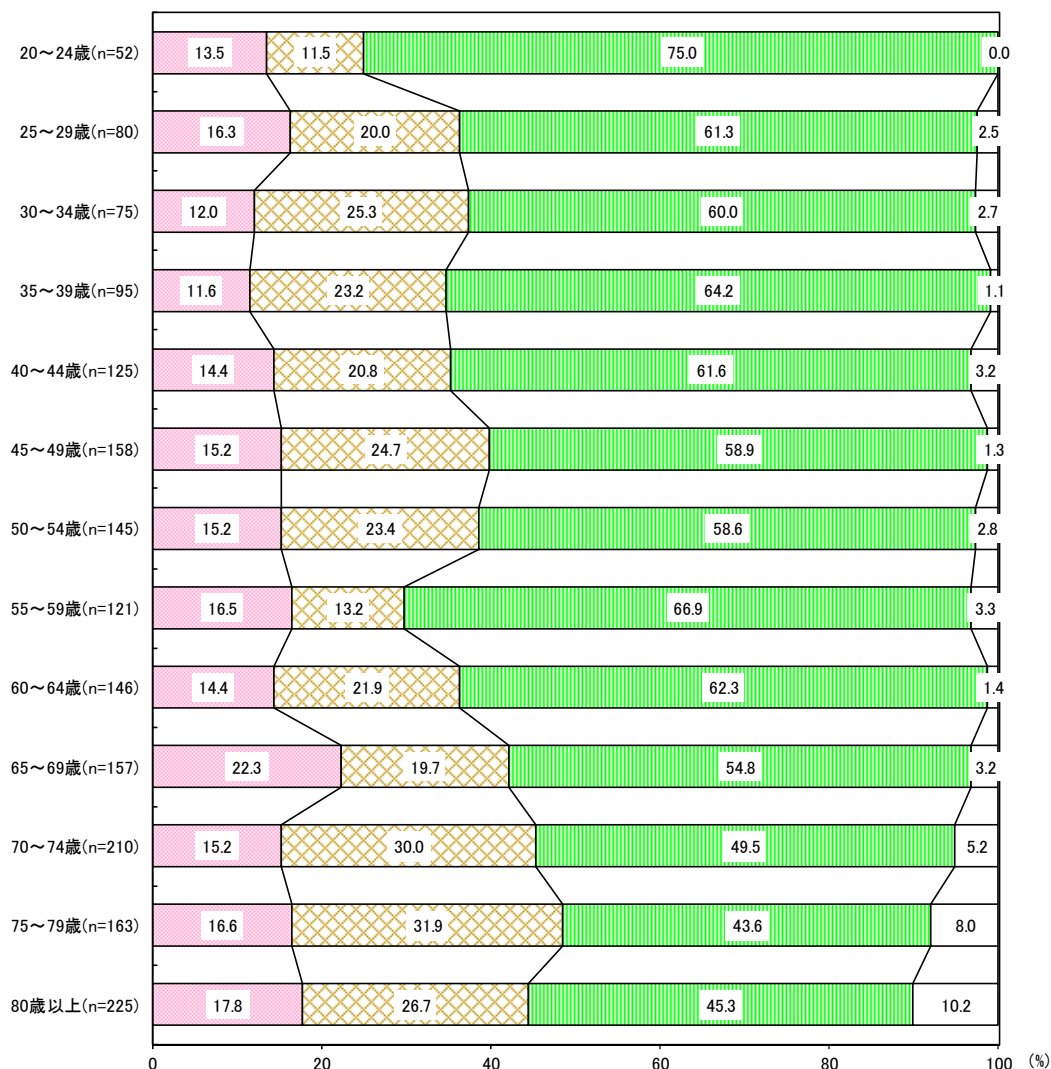
(n=1,828)



「開催していることを知らなかった」(55.6%)が最も高く、次いで、「開催は知っていたが、参加しなかった」(23.6%)、「参加したことがある」(15.8%)となっている。(図表6-5)

年代別でみると、「参加したことがある」は、65～69歳（22.3%）が最も多く、年代層が高くなるほど、割合が高くなる傾向になっている。

「参加したことがある」と「開催は知っていたが参加しなかった」を合わせた『開催の周知度』の割合（以下、『開催の周知度』）では、75～79歳（48.5%）が最も多く、年代層が高くなるほど、割合が高くなる傾向になっている。（図表6-5-1）

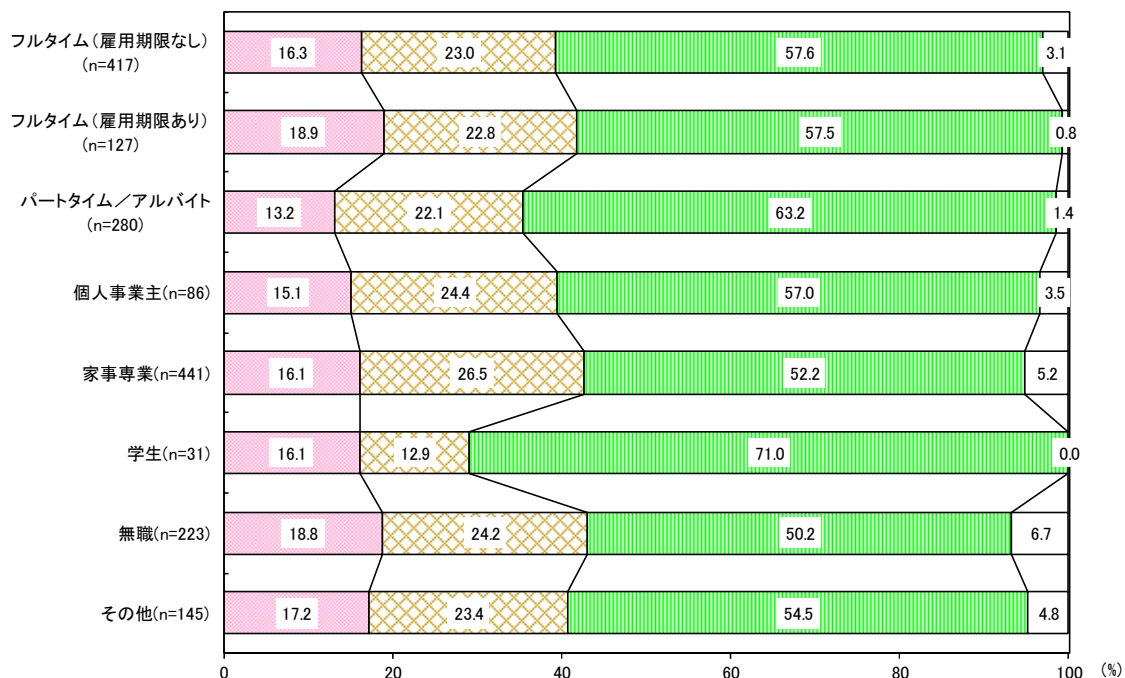


□参加したことがある □開催は知っていたが、参加しなかった □開催していることを知らなかった □無回答

職業別でみると、「参加したことがある」は、フルタイム（雇用期限あり）（18.9%）が最も多いが、職業ごとの特徴はあまりみられない。

『開催の周知度』は、学生（29.0%）が低い。（図表6-5-2）

【図表6-5-2 職業別 人権問題を学ぶ場への参加状況】

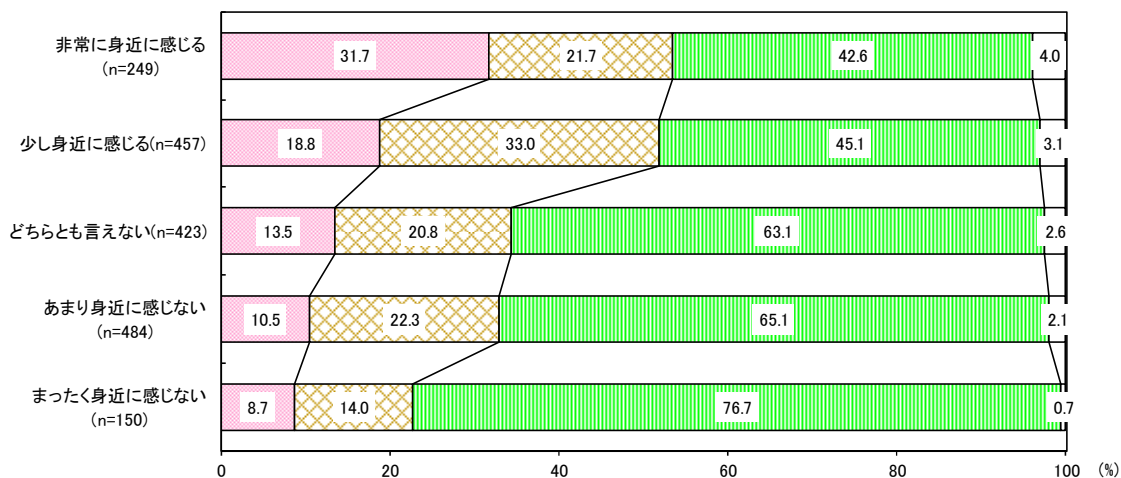


□参加したことがある □開催は知っていたが、参加しなかった ■開催していることを知らなかった □無回答

人権を身近な問題として感じる程度別でみると、「参加したことがある」は、非常に身近に感じる（31.7%）が最も多く、身近に感じるほど参加率は高い。

『開催の周知度』も、身近に感じるほど高く、[非常に身近に感じる]では53.4%となっている。（図表6-5-3）

【図表6-5-3 人権を身近な問題として感じる程度別 人権問題を学ぶ場への参加状況】



□参加したことがある □開催は知っていたが、参加しなかった ■開催していることを知らなかった □無回答

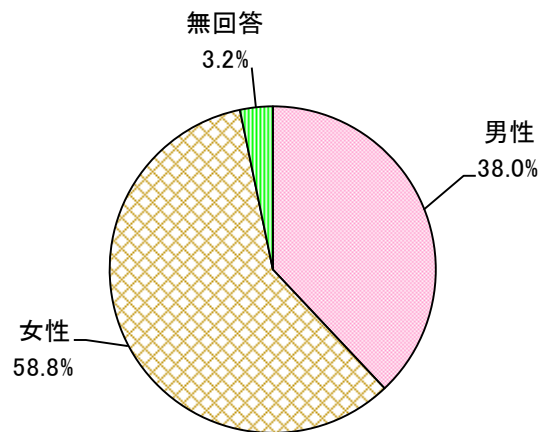
7. 回答者の属性

(1) 性別

問29 あなたの性別について、あてはまるものに○をつけてください。回答したくない場合は、ご記入いただく必要はありません。

【図表7-1 回答者の性別】

(n=1,828)



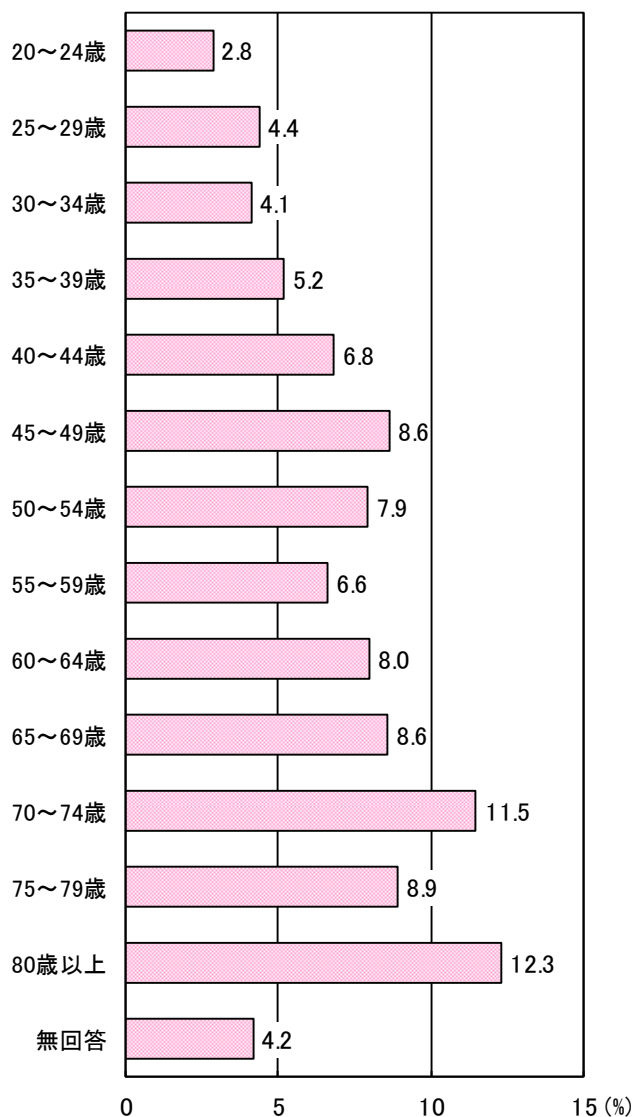
回答者の性別は、「男性」(38.0%)、「女性」(58.8%)となっており、女性の方が20.8ポイント高い。(図表7-1)

(2) 年齢

問30 あなたの年齢をご記入ください（令和元年11月1日現在）。

【図表7-2 回答者の年齢】

(n=1,828)



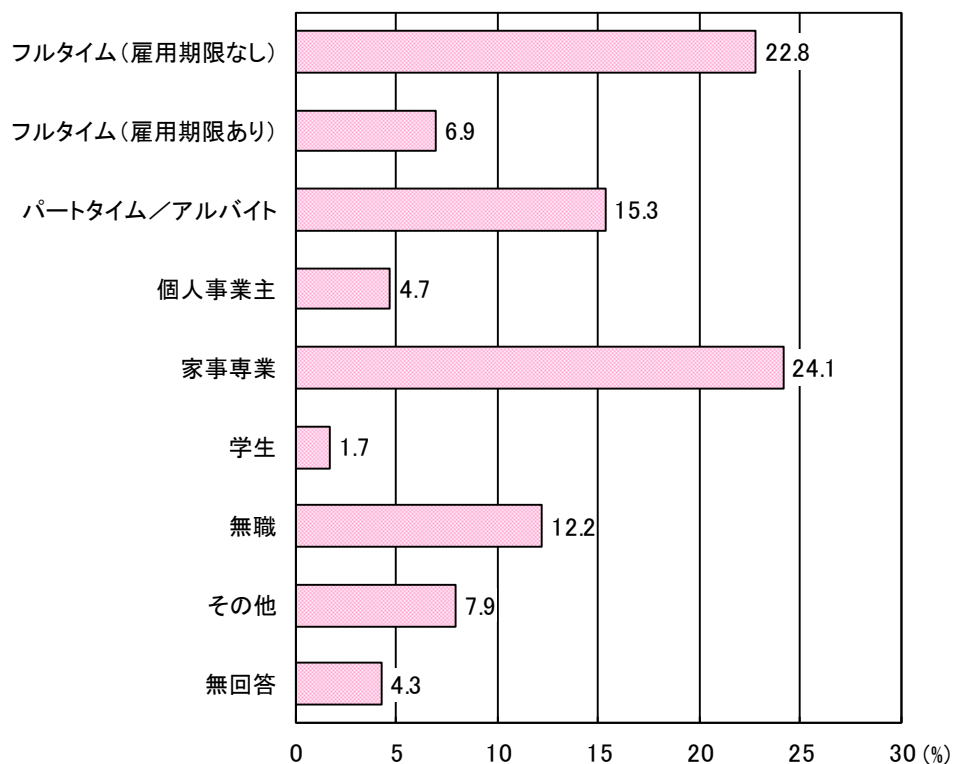
回答者の年齢は、「80歳以上」(12.3%)が最も多く、次いで「70～74歳」(11.5%)、「75～79歳」(8.9%)となっており、65歳以上の高齢者の割合が41.3%を占めている。(図表7-2)

(3) 職業

問31 あなたの職業は、次のうちどれにあてはまりますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

【図表7-3 回答者の職業】

(n=1,828)



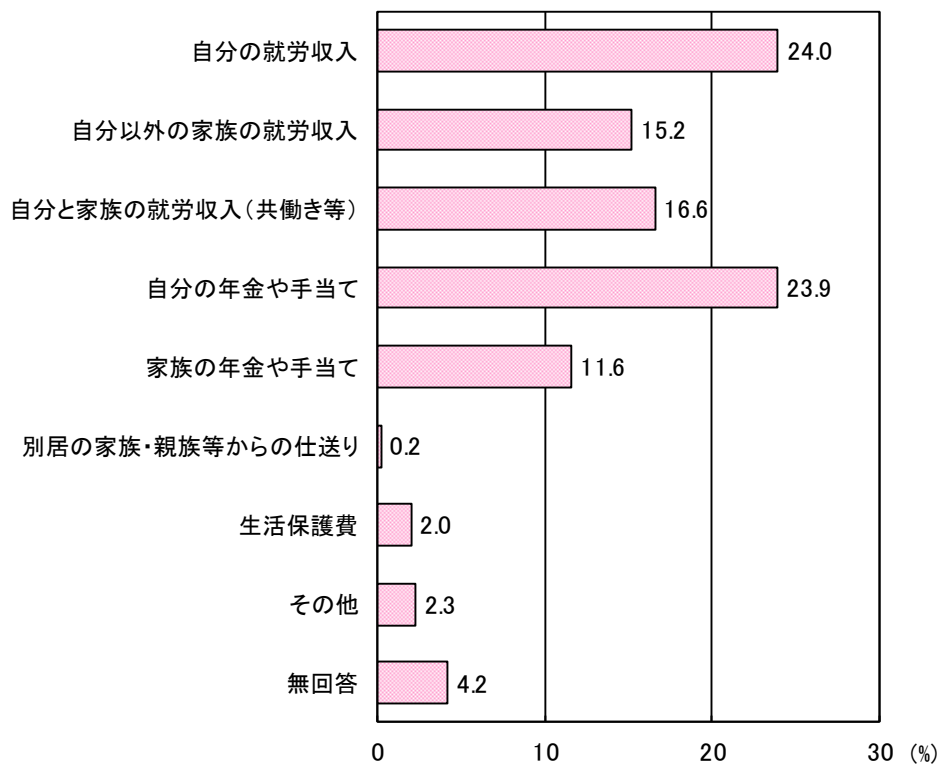
回答者の職業は、「家事専業」(24.1%)が最も多く、次いで「フルタイム(雇用期限なし)」(22.8%)、「パートタイム/アルバイト」(15.3%)と続いている。なお、「フルタイム(雇用期限なし)」と「フルタイム(雇用期限あり)」と「パートタイム/アルバイト」と「個人事業主」を合わせた就労者の割合は49.7%を占める。(図表7-3)

(4) 主な収入源

問32 あなたの生活費の主な収入源は次のうちいずれですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

【図表7-4 主な収入源】

(n=1,828)



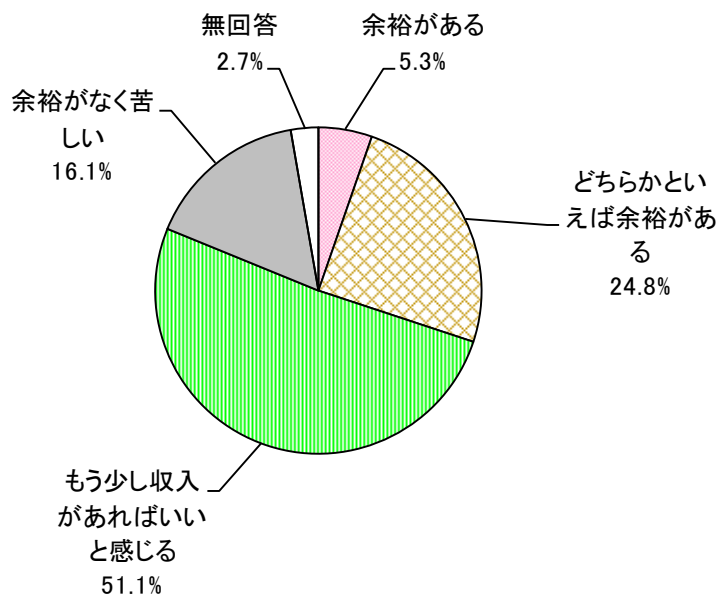
主な収入源は、「自分の就労収入」(24.0%)が最も多く、次いで「自分の年金や手当て」(23.9%)、「自分と家族の就労収入(共働き等)」(16.6%)、「自分以外の家族の就労収入」(15.2%)、「家族の年金や手当て」(11.6%)と続いている。(図表7-4)

(5) 経済状況

問33 あなたの現在の経済状況は次のうちいずれですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

【図表7-5 経済状況】

(n=1,828)



経済状況では、「もう少し収入があればいいと感じる」(51.1%)が最も多く、次いで「どちらかといえば余裕がある」(24.8%)、「余裕がなく苦しい」(16.1%)となっている。また、「余裕がある」(5.3%)と「どちらかといえば余裕がある」(24.8%)を合わせた『余裕がある』割合は30.1%となっている。(図表7-5)

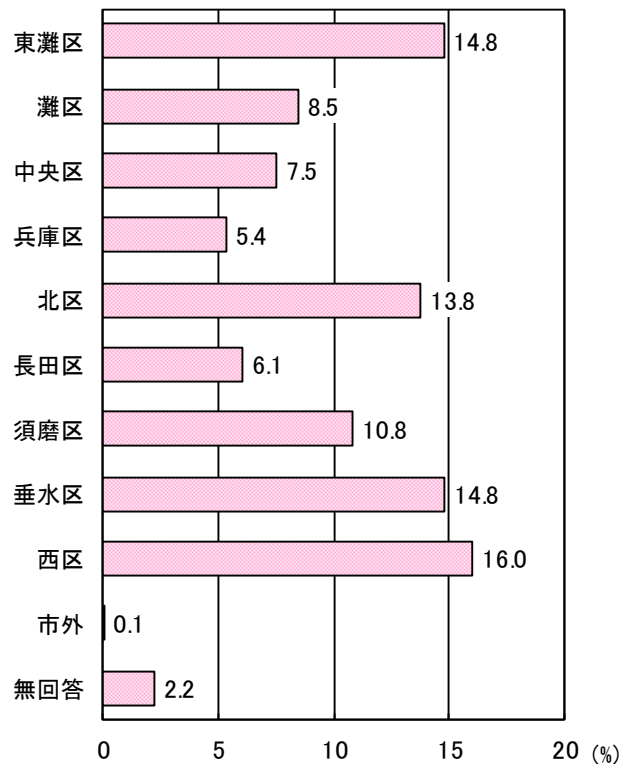
(6) 居住状況

問34 あなたのお住まいは、次のうちどれに当てはまりますか。ア～オのそれぞれの項目について、あてはまるもの1つに○をつけてください。

問34-ア. 居住区

【図表7-6 居住区】

(n=1,828)

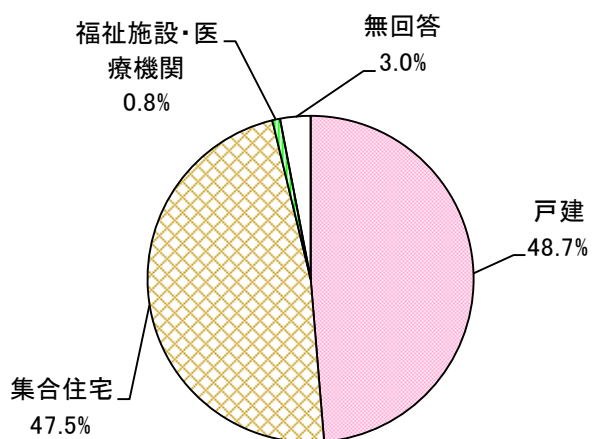


居住区は、「西区」(16.0%)が最も多く、次いで「東灘区」・「垂水区」(ともに14.8%)、「北区」(13.8%)と続いている。(図表7-6)

問34-イ. 住居の形態

【図表7-7 住居の形態】

(n=1,828)

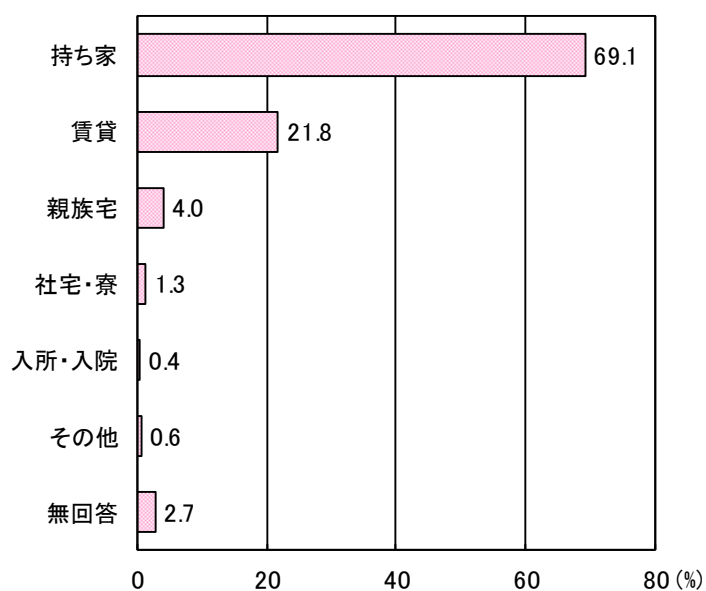


住居の形態は、「戸建」(48.7%)が最も多く、次いで「集合住宅」(47.5%)、「福祉施設・医療機関」(0.8%)となっている。(図表7-7)

問34-ウ. 住居の契約状況

【図表7-8 住居の契約状況】

(n=1,828)

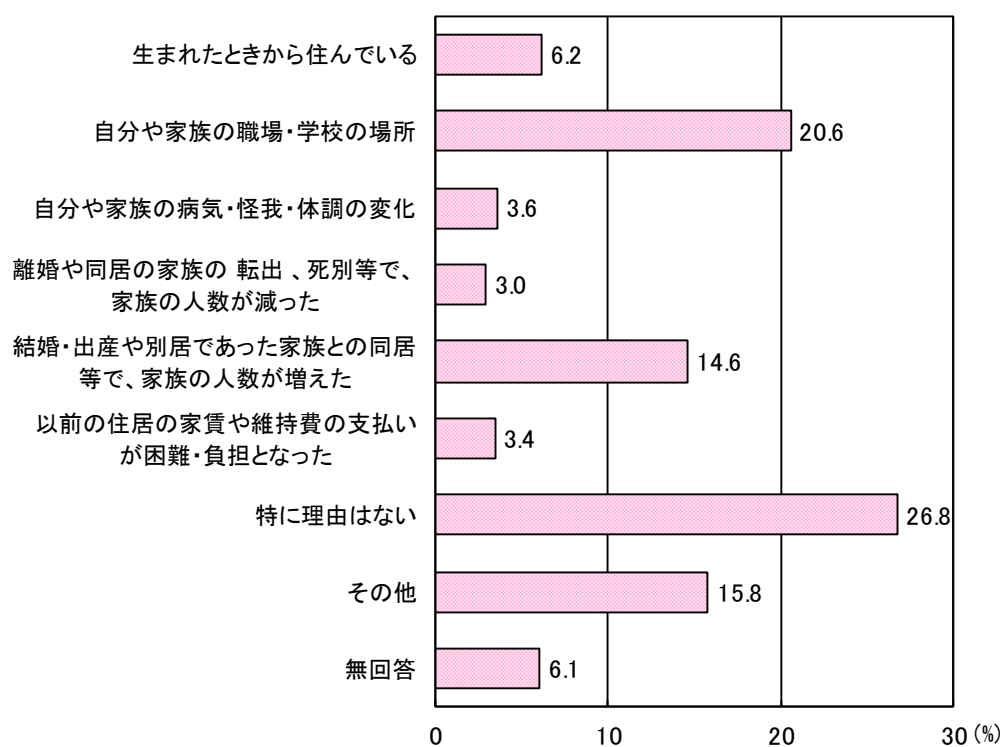


住居の形態は、「持ち家」(69.1%)が最も多く、次いで「賃貸」(21.8%)、親族宅(4.0%)と続いている。(図表7-8)

問34－エ．現在の住居に転入した主なきっかけ

【図表7-9 現在の住居に転入した主なきっかけ】

(n=1,828)

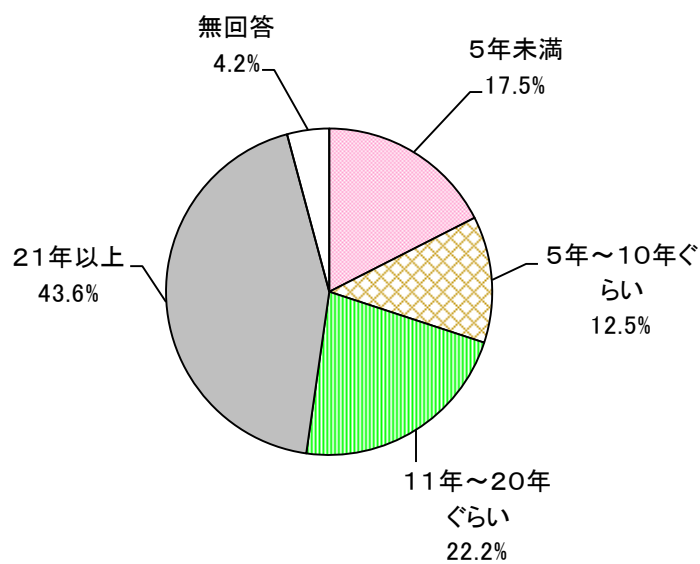


現在の住居に転入した主なきっかけは、「特に理由はない」(26.8%)が最も多く、次いで「自分や家族の職場・学校の場所」(20.6%)、「その他」(15.8%)、「結婚・出産や別居であった家族との同居等で、家族の人数が増えた」(14.6%)と続いている。(図表7-9)

問34-オ. 現在の住居にいらしている年数

【図表7-10 現在の住居にいらしている年数】

(n=1,828)



現在の住居にいらしている年数は、「21年以上」(43.6%)が最も多く、次いで「11年～20年ぐらい」(22.2%)、「5年未満」(17.5%)、「5年～10年ぐらい」(12.5%)の順となっている。(図表7-10)

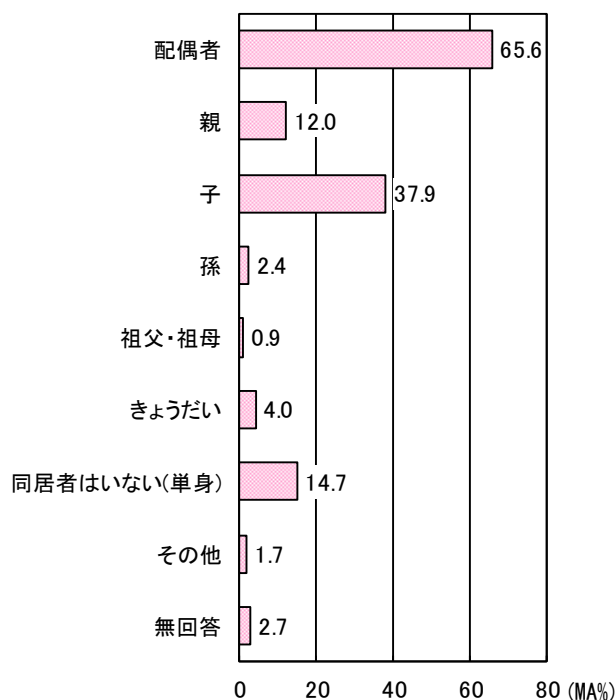
(7) 家族構成

問35 あなたと一緒に住まいの人は次のうちどれに当てはまりますか。ア～ウのそれぞれの項目について、あてはまるもの全てに○をつけてください。

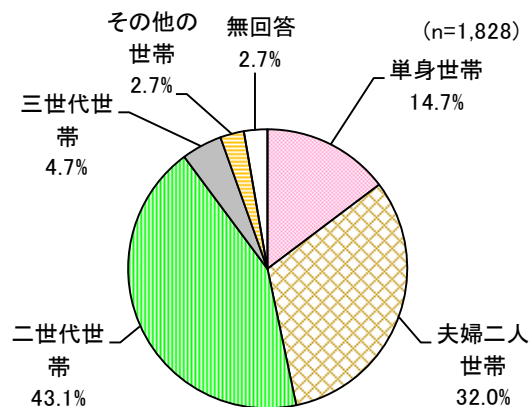
問35-ア. あなたと一緒に住まいの人の続柄(義理も含む)

【図表7-11 同居者の続柄】

(n=1,828)



【図表7-12 家族構成】



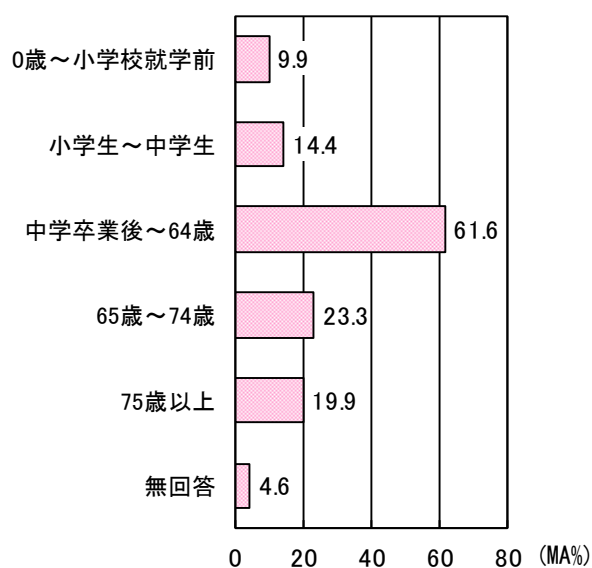
同居者の続柄は、「配偶者」(65.6%)が最も多く、次いで「子」(37.9%)、「親」(12.0%)となっている。一方、「同居者はいない(単身)」は14.7%を占めている。(図表7-11)

同居者を基に集計した家族構成では、「二世帯世帯」(43.1%)が最も多く、次いで「夫婦二人世帯」(32.0%)、「単身世帯」(14.7%)、「三世帯世帯」(4.7%)と続いている。(図表7-12)

問35-イ. あなたと一緒に住まいの人の年齢

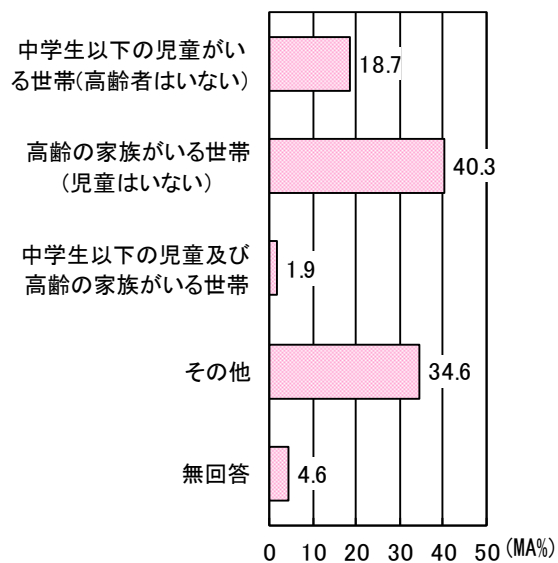
【図表7-13 同居者の年齢】

(n=1,559)



【図表7-14 世帯の年齢構成】

(n=1,559)



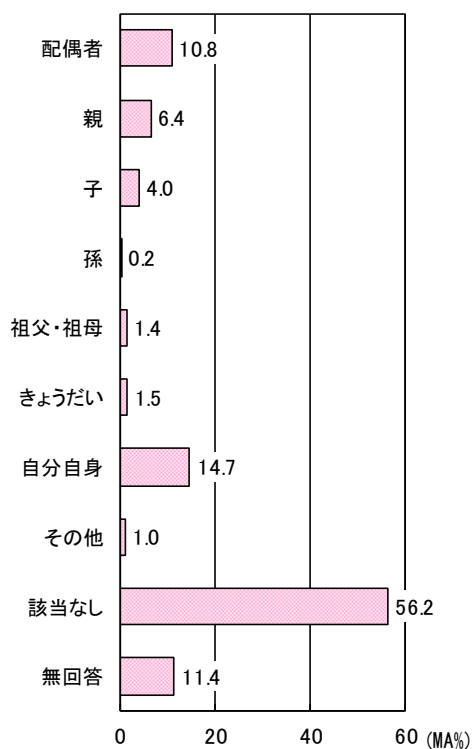
同居者の年齢は、「中学卒業後～64歳」(61.6%)が最も多く、次いで「65～74歳」(23.3%)、「75歳以上」(19.9%)と続いている。(図表7-13)

世帯の年齢構成では、「高齢の家族がいる世帯(児童はいない)」(40.3%)が最も多く、次いで「その他」(34.6%)、「中学生以下の児童がいる世帯(高齢者はいない)」(18.7%)と続いている。(図表7-14)

問35-ウ. こころや身体健康状態が悪い人（義理も含む）

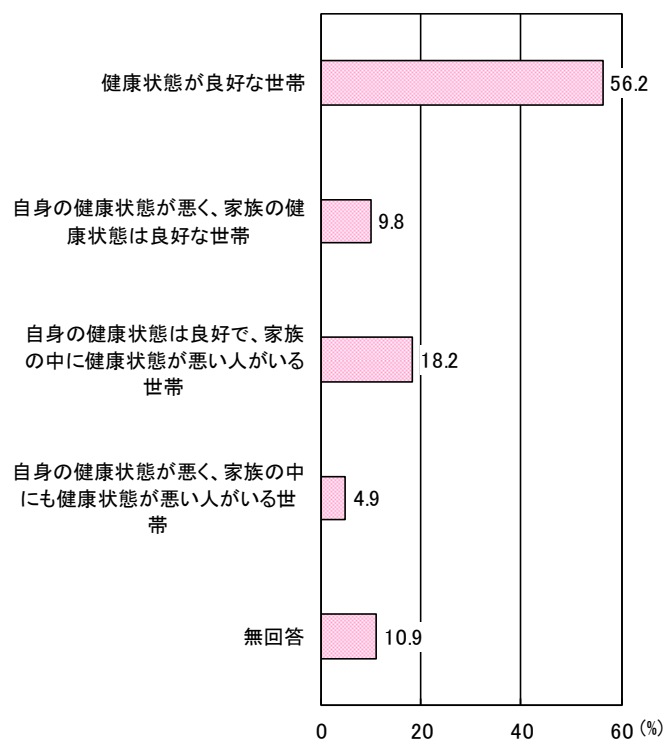
【図表7-15 こころや身体健康状態が悪い人】

(n=1,828)



【図表7-16 世帯の健康状態区分】

(n=1,828)



こころや身体健康状態が悪い人は、「該当なし」(56.2%)が最も多く、次いで「自分自身」(14.7%)、「配偶者」(10.8%)と続いている。(図表7-15)

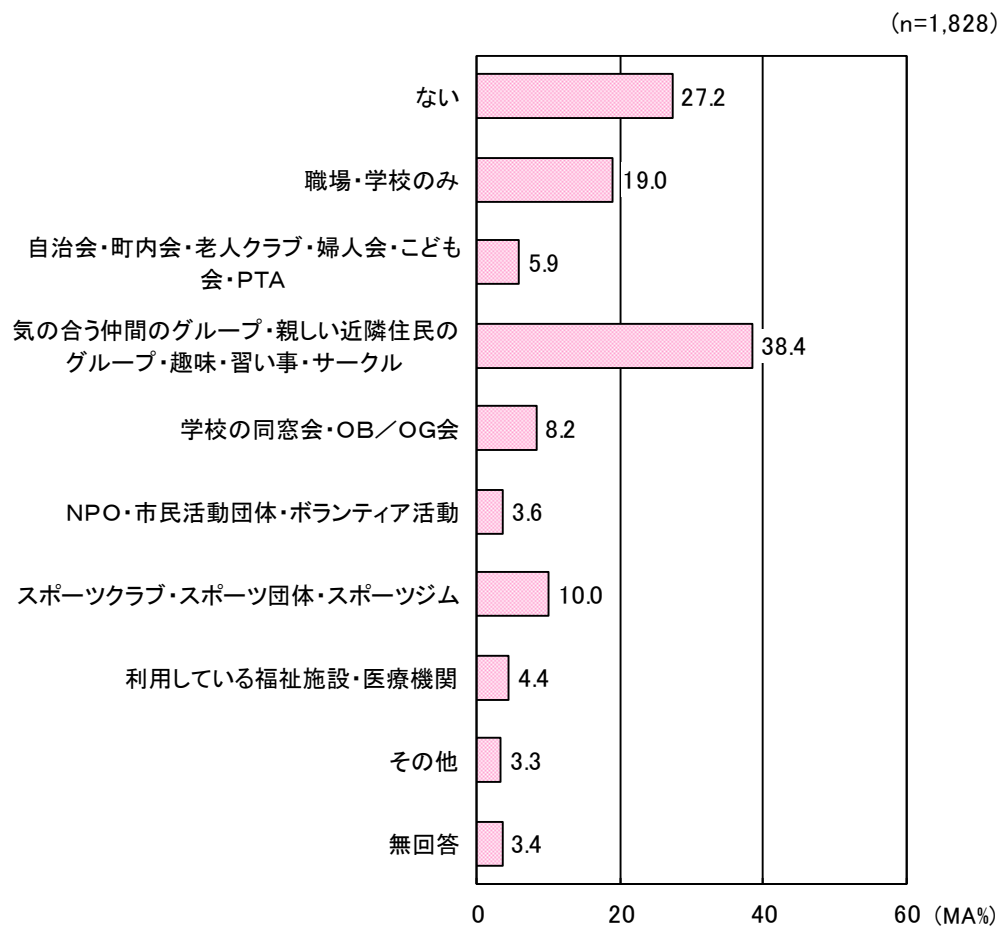
世帯の健康状態区分では、「健康状態が良好な世帯」(56.2%)が最も多く、次いで「自身の健康状態は良好で、家族の中に健康状態が悪い人がいる世帯」(18.2%)と続いている。(図表7-16)

(8) 自宅以外の居場所

問36 あなたは自宅以外にどのような居場所がありますか。

- ・ ない場合「1」に、職場や学校の場合「2」に○をつけ、問37へ。
- ・ 職場や学校以外にある場合「3～7」の中であてはまるもの全てに○をつけてください。

【図表7-17 自宅以外の居場所】

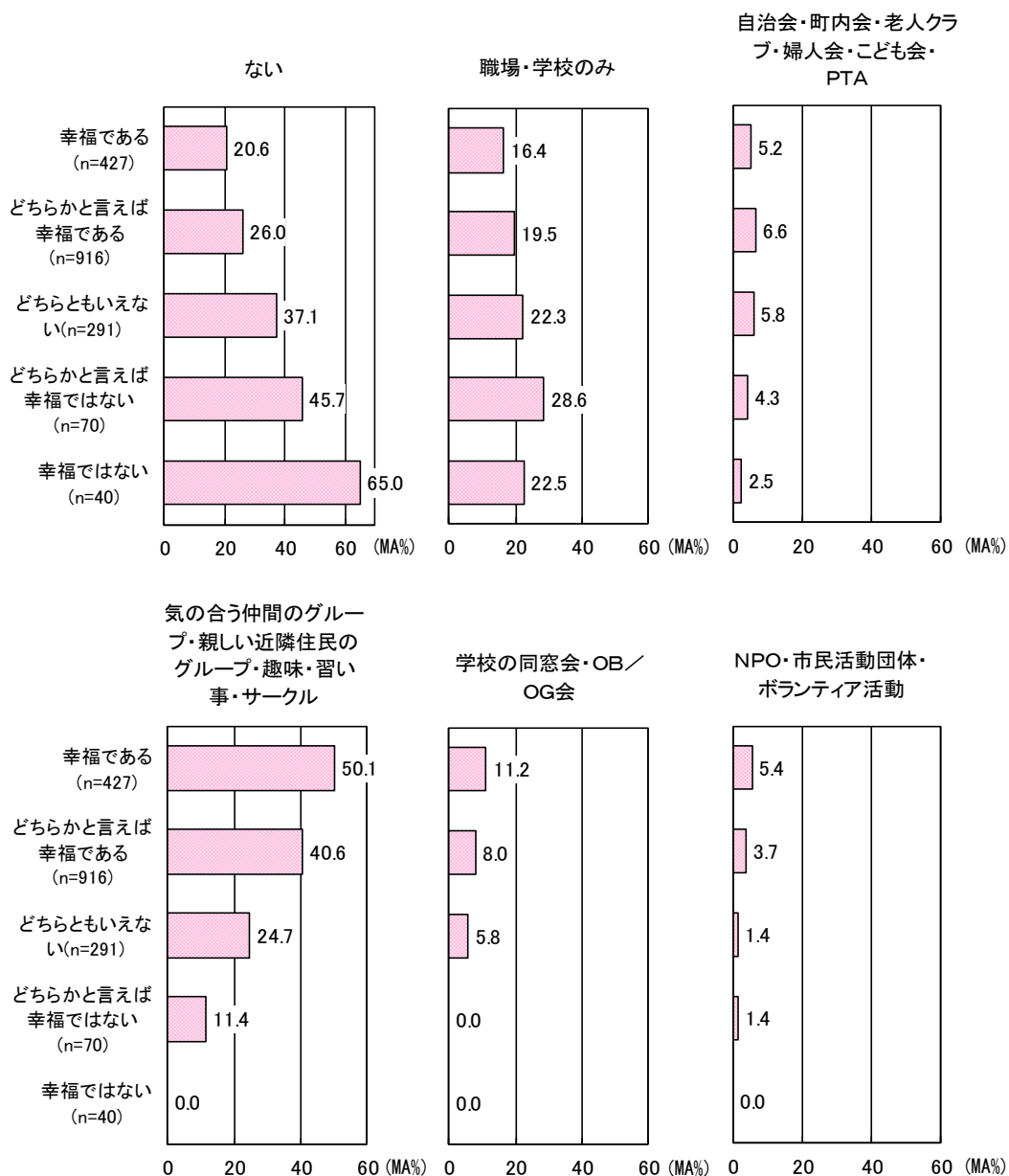


自宅以外の居場所は、「気の合う仲間のグループ・親しい近隣住民のグループ・趣味・習い事・サークル」(38.4%)が最も多く、次いで「職場・学校のみ」(19.0%)、「スポーツクラブ・スポーツ団体・スポーツジム」(10.0%)と続いている。

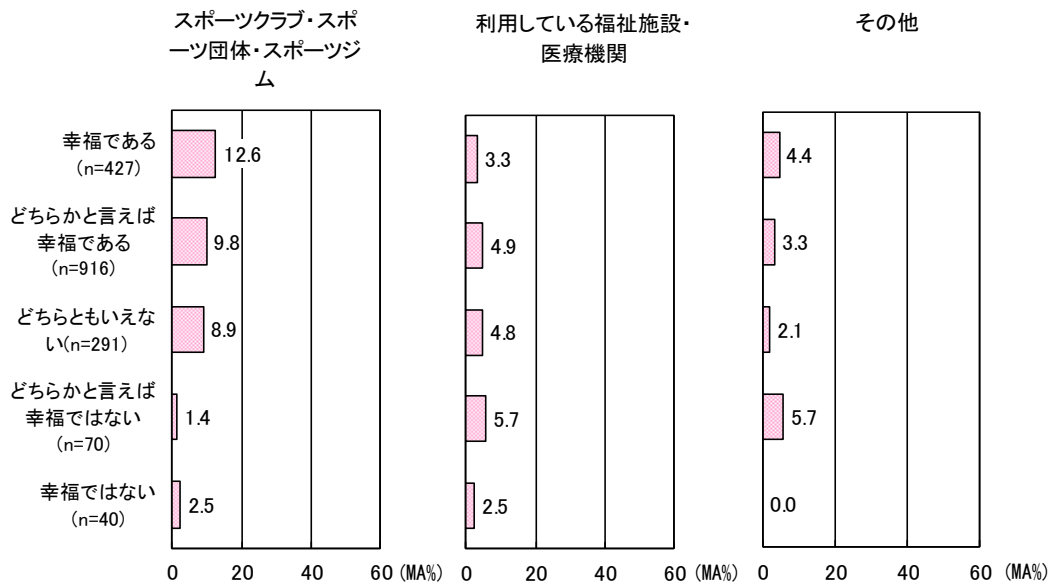
一方で、「ない」と回答した人は27.2%であった。(図表7-17)

主観的幸福感別でみると、「ない」は、幸福ではない（65.0%）が最も多く、幸福感の度合いが上がるほど割合が低くなっている。「職場・学校のみ」は、どちらかと言えば幸福ではない（28.6%）が最も多い。「自治会・町内会・老人クラブ・婦人会・子ども会・PTA」は、幸福感の度合いに関係なく7%以下となっている。「気の合う仲間のグループ・親しい近隣住民のグループ・趣味・習い事・サークル」は、幸福である（50.1%）が最も多く、幸福感の度合いが下がるほど割合が低くなっている。「学校の同窓会・OB／OG会」、「NPO・市民活動団体・ボランティア活動」、「スポーツクラブ・スポーツ団体・スポーツジム」は、幸福であるが最も多く、幸福感の度合いが下がるほど割合が低くなっている。「利用している福祉施設・医療機関」は、どちらかと言えば幸福ではない（5.7%）が最も多いが、割合の開きは小さい。（図表7-17-1）

【図表7-17-1 主観的幸福感別 自宅以外の居場所】

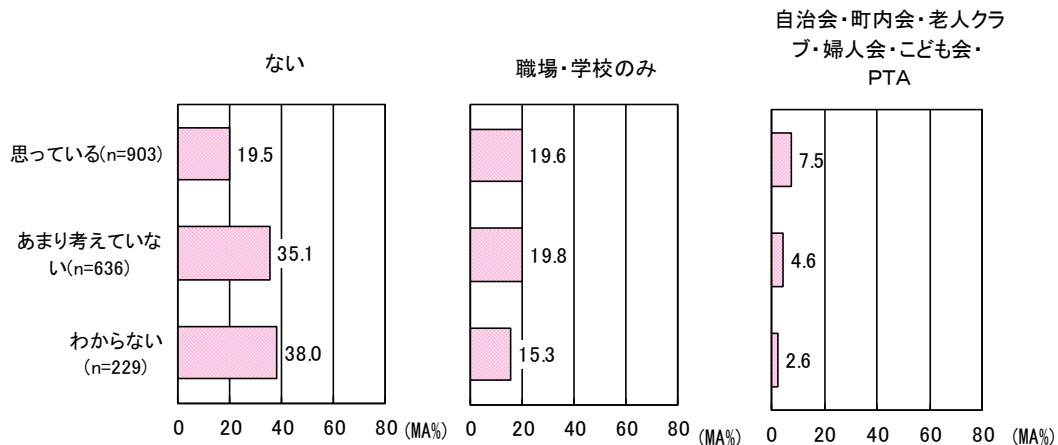


【図表7-17-1 主観的幸福感別 自宅以外の居場所（続き）】

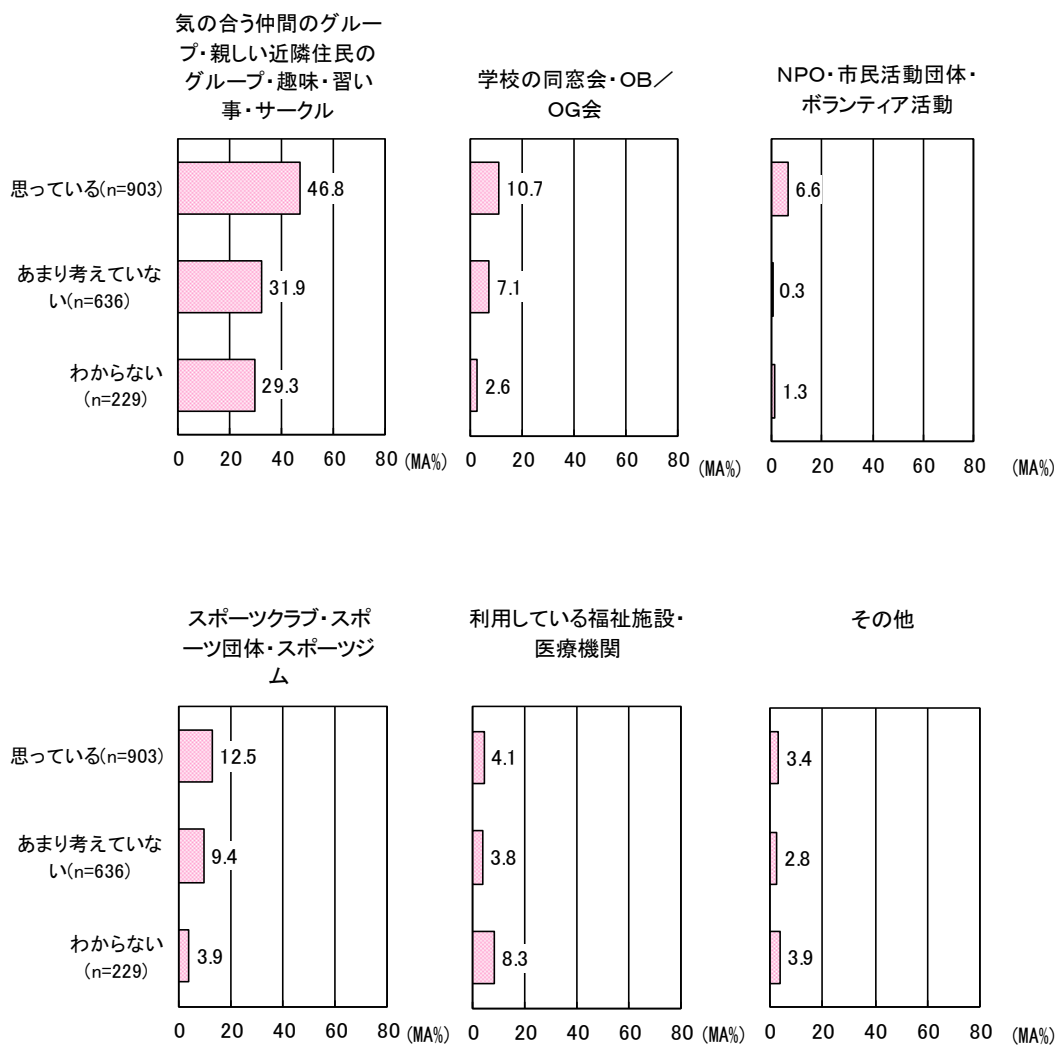


社会貢献に対する思い別でみると、「ない」は、わからない（38.0%）が最も多い。「職場・学校のみ」は、全ての貢献に対する思いで15.3～19.8%となっており、割合の開きは小さい。「自治会・町内会・老人クラブ・婦人会・子ども会・PTA」は、全ての貢献に対する思いで8%以下となっている。「気の合う仲間のグループ・親しい近隣住民のグループ・趣味・習い事・サークル」は、思っている（46.8%）が最も多い。「学校の同窓会・OB／OG会」、「NPO・市民活動団体・ボランティア活動」、「スポーツクラブ・スポーツ団体・スポーツジム」は、思っているが最も多い。「利用している福祉施設・医療機関」は、わからない（8.3%）が最も多いが、割合の開きは小さい。（図表7-17-2）

【図表7-17-2 社会貢献に対する思い別 自宅以外の居場所】



【図表7-17-2 社会貢献に対する思い別 自宅以外の居場所（続き）】

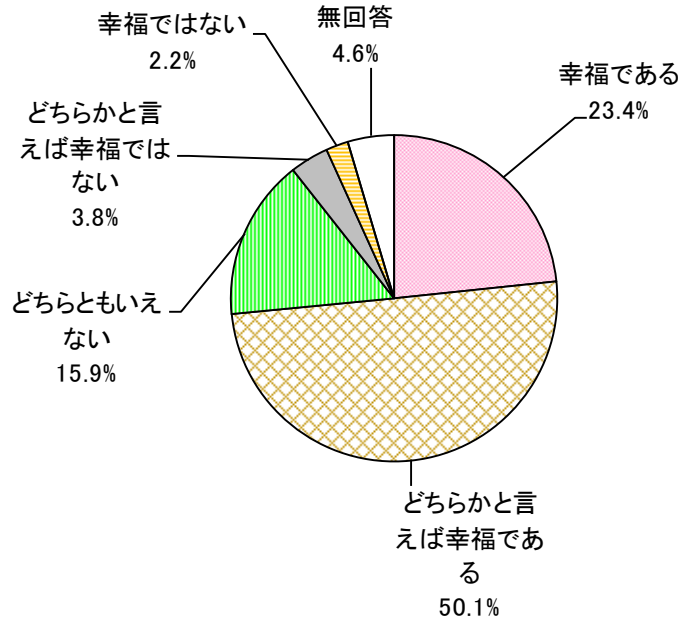


(9) 現在のくらしは幸福か

問37 あなたの現在のくらしは幸福ですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

【図表7-18 現在のくらしは幸福か】

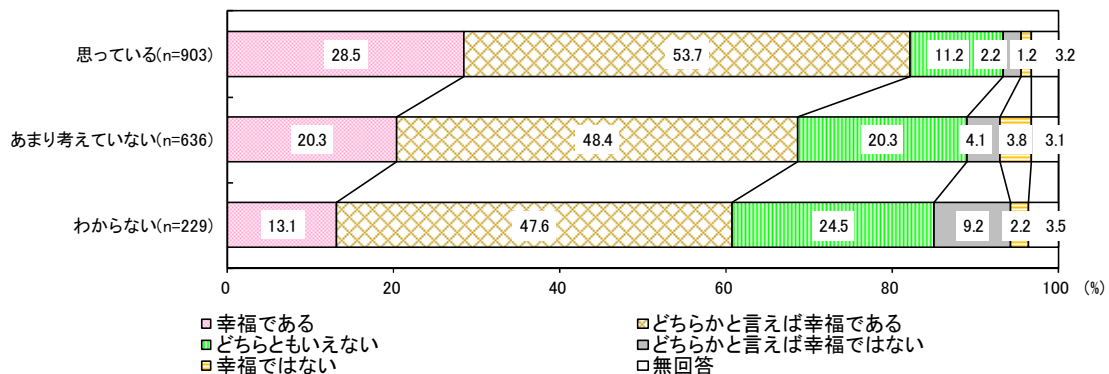
(n=1,828)



現在のくらしは幸福かについて、「幸福である」と「どちらかといえば幸福である」を合わせた『幸福である』割合は73.5%となっており、「どちらかといえば幸福ではない」と「幸福ではない」を合わせた『幸福ではない』割合は6.0%となっている。なお、「どちらかといえば幸福である」(50.1%)が最も高い。(図表7-18)

社会貢献に対する思い別でみると、「幸福である」は、思っている(28.5%)が最も多く、わからない(13.1%)が最も少ない。「どちらかといえば幸福である」は、思っている(53.7%)が多いが、割合の開きは小さい。「どちらともいえない」、「どちらかといえば幸福ではない」では、わからないが最も多くなっており、「幸福ではない」は、あまり考えていない(3.8%)が最も多い。(図表7-18-1)

【図表7-18-1 社会貢献に対する思い別 現在のくらしは幸福か】

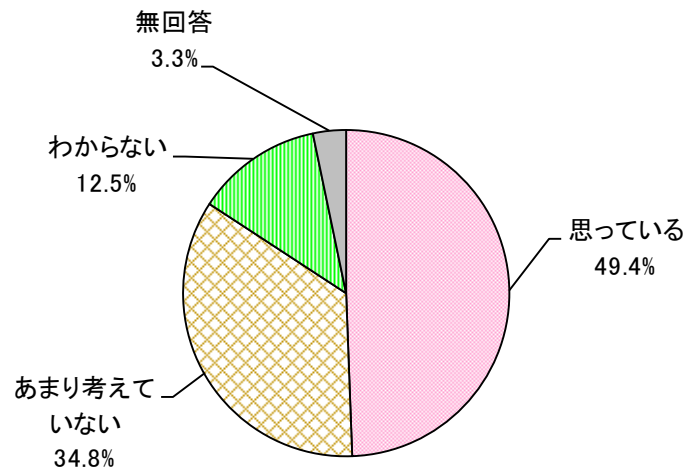


(10) 社会のために役立ちたいと思っているか

問38 あなたは日頃、社会の一員として、何か社会のために役立ちたいと思っていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

【図表7-19 社会のために役立ちたいと思っているか】

(n=1,828)



社会のために役立ちたいと思っているかについて、「思っている」(49.4%)が最も高く、次いで「あまり考えていない」(34.8%)、「わからない」(12.5%)となっている。(図表7-19)

8. 自由意見

最後に、神戸市に対して、地域福祉や保健福祉に関するご意見やご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

【図表8-1 日常生活の不安について(上位10項目)】

(n=66)		件数
1	子育て支援対策の重視（子どもを生み育てたいまちづくり）	29
2	子育てにかかる経済的負担の軽減（保育料、育児手当、医療費無料化など）	10
3	交通の便などに対する改善や地域格差の解消	6
4	医療費の負担軽減	4
	ゴミの問題	4
6	保育サービスの充実（乳幼児も預けられる施設の増設、保育利用時間の延長、入所基準の緩和など）	3
	低所得者の生活困窮の改善	3
	保育職員の待遇改善	3
9	保険料等の負担軽減（ローンを引いた金額で計算してほしい）	2
	子育て中の母親に対する支援や教育	2

【図表8-2 地域とのかかわりや地域での活動について(上位10項目)】

(n=56)		件数
1	地域住民間のつながりが希薄である（転勤や引越など出入りが多い地区など）	10
2	行政と地域に境界を引かず、協力することで福祉向上につながる	8
3	高齢者の外出を促進するために公共交通機関を無料化する（敬老優待乗車制度の継続など）	7
4	ボランティアやNPOなどの活動場所や具体的内容の周知	6
5	機会があれば地域活動等に参加する、地域交流を始める	5
	リタイアした人や高齢者に対する自己啓発の場の提供や体制づくり	5
	地域活動やNPO法人の設立支援や共助による推進	5
8	地域住民のマナーや道徳意識が低下している	3
	民生委員の対応が悪い、実態が不透明	3
10	高齢者のひとりぐらし等に対してコミュニケーションが取りやすい環境づくり（見守り活動の充実など）	2
	個人情報保護の関係で地域コミュニケーションに支障をきたしている	2

【図表8-3 福祉施策やサービスについて(上位10項目)】

(n=64)		件数
1	福祉の施設・サービス等の維持管理や体制等の充実	15
2	福祉施設やサービス、相談窓口の場所や具体的内容の周知 35	12
3	安価で入居できる施設・安心して老後を過ごせる施設の増設（団塊世代の高齢化対策）	11
4	福祉施設職員への待遇改善、女性登用の推進	10
5	弱者やその家族に対して行政側から働きかけをしてほしい	4
6	相談窓口の有能な職員の養成（気軽に利用できる窓口）	3
	税金の無駄遣いを止め、保健福祉に関する予算を増やすべき	3
	福祉サービスが本当に必要な人に行きわたるような管理体制	3
9	子どもや若年者への保健福祉についての周知	2
10	保健福祉について神戸市は昔に比べ良くなっている、よく頑張っている	1

【図表8-4 災害時に備えた地域での助け合いについて(上位3項目)】

(n=8)		件数
1	地域を主体とし、行政はサポートとしての連携が重要	4
2	福祉避難所の広報対策の充実	2
3	神戸市としての災害時の対策の周知	1
	20年前のように近所の人達で団結して助け合えたように、地域住民とのコミュニケーションが必要	1

【図表8-5 医療について(上位3項目)】

(n=6)		件数
1	各地区の公平な病院の配置	3
2	在宅医療の周知・推進	2
3	地域医院の活用促進と周知	1

【図表8-6 人権問題について(上位3項目)】

(n=6)		件数
1	障がい者の問題（公共交通機関の改善、理解されず孤独を感じる、就業機会の差別など）	2
	人権を守ることの意識向上の推進	2
3	講演会や説明会の参加し、他の人と話すことで理解を深め合いたい	1
	子育て中の母親の人権を尊重してほしい、男女不平等に感じる	1

【図表8-7 その他(上位10項目)】

(n=68)		件数
1	役所職員の態度が横柄、不適切な対応（公務員としての責任・使命を忘れないでほしい）	16
2	職員や市政への感謝・応援・激励	12
3	生活保護受給の査定の見直し（不適格な受給者の横行）	9
4	このアンケートについて	8
5	心身ともに健やかに生涯を過ごせる市政を期待する	7
6	将来について考えていかなければならない（老後の不安など）	6
7	高齢者にやさしくしてほしい（もっと優遇してほしい）	4
8	生活保護を平等に受けられるようにしてほしい、支援の方法をもっと考えてほしい	3
9	行政手続きなどの簡易化、休日対応、窓口の一体化など	2
10	自身で出来ることは自身ですべき、行政に頼るのは最低限でよい	1

しみんふくし かん こうどう いしきようさ
市民福祉に関する行動・意識調査
ちようさひよう
(調査票)

秘

令和元年 11月
神戸市保健福祉局
政策課 調査担当

この調査は、神戸市の今後の福祉施策に活かしていくため、市民福祉についての皆様の
お考えなどをお聞きするものです。お答えいただいた内容については、調査結果をまと
め、施策に活用させていただきます。使用いたしません。みなさまにご迷惑をおか
けずることは決してございませんので、ありのままのお気持ちをお答えください。

【調査票の記入について】

- この調査は、神戸市内にお住まいの20歳以上の方から無作為で約5千人の方を選ば
せていただいております。
- この調査の答えは、原則として、封筒のあて名の方がご記入ください。封筒のあて名
の方の事情により、代理の方がご記入いただく場合についても、回答を考慮していただ
くのは封筒のあて名の方にお願いたします。
- 回答にあたっては、あてはまる番号に○をつけてください。また、回答で「その他」
を選ばれた場合は、その内容をカッコ内にできるだけ具体的に書いてください。(この
調査票に直接ご記入ください)
- 問の中で、回答しにくかったり、回答したくないと思われるものは、ご記入いただ
く必要はありません。
- 調査票や返信用封筒にお名前やご住所をご記入いただく必要はありません。回答
された内容によって、個人が特定されることはありません。
- 記入が終わりまりましたら調査票は、同封の返信用封筒に入れて、12月19日(木曜)
までに、郵便ポストにご投函ください。切手は不要です。
- ご記入にあたって、分からないことがありましたら下記へお問い合わせください。

【お問い合わせ先】神戸市総合コールセンター

電話番号：(078) 333-3330、ファックス：(078) 333-3314
受付時間：年中無休 8時から21時まで

問1 「あなたがくらす地域」と言われたときに、次のうちどれを思い浮かべますか。
あてはまるもの1つに○をつけてください。

- | | | | | | |
|---|------------|---|------------|---|-------|
| 1 | 隣近所程度の狭い範囲 | 2 | 町内会・自治会の範囲 | 3 | 小学校区 |
| 4 | 中学校区 | 5 | 区 | 6 | 神戸市全域 |
| 7 | わからない | 8 | その他() | | |

問2 あなたがくらす地域について、あなたはどのくらい思っていますか。ア～ウのそれぞれの項目に
ついて、あてはまるものを1つずつ選んで○をつけてください。

項目	そう思う	やや そう思う	どちらとも いえない	あまり 思わない	思わな い
ア この地域の雰囲気が好きだ、この地域 での生活は楽しい	1	2	3	4	5
イ この地域の一員として、地域を盛り上 げたり、活性化するために努力したい	1	2	3	4	5
ウ この地域の一員として、地域の行事な どに参加することは当然の義務である	1	2	3	4	5

問3 あなたは現在、家族・親族、近隣住民とどのような人間関係を築いていると感じて
いますか。ア～ウのそれぞれの項目について、あてはまるものを1つずつ選んで番号に
○をつけてください。

項目	多くの人と 良好である	良好な人とそうで ない人が半分ずつ	多くの人と 良好でない	人間関係を 築いていない
ア 家族や親族	1	2	3	4
イ 近隣住民	1	2	3	4
ウ イ以外の知人	1	2	3	4

問4 あなたは現在、孤独であると感じますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

- | | | | | | |
|---|---------|---|----------|---|-----------|
| 1 | 常に感じる | 2 | ときどき感じる | 3 | どちらともいえない |
| 4 | あまり感じない | 5 | まったく感じない | | |

日常生活での不安についておたずねします。

項目	不安あり	どちらかと言えは不安あり	どちらかと言えは不安なし	不安なし	わからない
ア 取入や生活費についての不安	1	2	3	4	5
イ 借金があることへの不安	1	2	3	4	5
ウ 自分の身体や健康についての不安	1	2	3	4	5
エ 家族の身体や健康についての不安	1	2	3	4	5
オ 周囲の人との人間関係についての不安	1	2	3	4	5
カ 気軽に相談できる人がいないこと・いなくなることへの不安	1	2	3	4	5
キ 孤独なこと・孤独になることへの不安	1	2	3	4	5
ク 仕事についての不安	1	2	3	4	5
ケ 住まいについての不安	1	2	3	4	5
コ 年金や健康保険についての不安	1	2	3	4	5
サ 子育てや教育についての不安	1	2	3	4	5
シ 災害にあってことへの不安	1	2	3	4	5
ス 古い物やゴミ出し、管球の交換など、普段の生活におけるおちよとした用事や困り事を解決できないことへの不安	1	2	3	4	5

地域で活動する団体や地域の課題についておたずねします。

神戸市には以下のような「地域で活動する団体」(一例)があります。

- 自治会、町内会・婦人会・子ども会・老人会・PTA・地区民生委員・児童委員協議会消防団など
- NPO・・・営利を目的とせずに、自発的、継続的に社会的活動などを行う民間の組織団体
- 社会福祉協議会・・・様々な活動を通し、福祉のまちづくりに取り組む、社会福祉法に規定された団体
- 地域福祉センター・・・おおむね小学校区ごとに整備され、地域住民の自主組織であるふれあいのまちづくり協議会が運営する、地域福祉活動の拠点となる施設。
- 活動内容 > ふれあいサロン(喫茶)、ふれあい給食活動など
- ほっとかへんネット・・・地域住民が安心して暮らせるよう、地域の課題解決に取り組むため、社会福祉法人(保育園・高齢者施設・障がい者施設・児童施設・児童施設など)が集まった連絡協議会
- 活動内容 > 相談窓口の設置、居場所の運営、生活改善事業など

問6 あなたのくらす地域における福祉の問題は何だと思いますか。ア～クのそれぞれの項目について、あてはまるものを1つずつ選んで番号に○をつけてください。

項目	かなり問題があると思ふ	やや問題があると思ふ	どちらともいえない	あまり問題があると思わない	問題があるとは思わない
ア 地域住民のつきあいが減少している問題	1	2	3	4	5
イ 配慮を必要とする方への見守りや手助けなど援助が減っている問題	1	2	3	4	5
ウ 地域活動の担い手(活動する人)不足の問題(住民活動が継承されない)	1	2	3	4	5
エ 若者と高齢者といった違う世代どうしの交流がない・減っている問題	1	2	3	4	5
オ 住民の道徳意識が低下している問題	1	2	3	4	5
カ 災害時等いざというときにお互いを支え合える関係性が築けていない問題	1	2	3	4	5
キ 地域での住みやすさについての問題	1	2	3	4	5
ク 地域で活動する団体などの利用がづらい問題	1	2	3	4	5

問7 あなたは、今後、高齢化が進むなどの中で、地域の福祉活動を活発にするために、どのようなことが必要だと思いますか。ア～カのそれぞれの項目について、あてはまるものを1つずつ選んで番号に○をつけてください。

項目	必要だ	どちらとも言えない	わからない
ア 行政、地域で活動する団体、地域住民が、地域で開催する行事への参加を促進する	1	2	3
イ 行政が、地域を考える懇談会を開催する	1	2	3
ウ 地域住民が、近隣の声をかけなど付き合いを活発にするよう意識をもつ	1	2	3
エ 行政、地域で活動する団体、地域住民が、誰もが集まれる身近な場所づくりをする	1	2	3
オ 行政、地域で活動する団体、地域住民が、地域住民の中から新たな担い手（活動する人）を増やす取り組みをする	1	2	3
カ 地域で活動する団体が、ボランティアと連携した取り組みを実施する	1	2	3

問8 地域の福祉を充実させていく上で、地域住民・地域で活動する団体と行政（神戸市）はどのような関係であるべきだと思いますか。あてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。

- 1 できるだけ地域住民や地域で活動する団体などが主体となり取り組むべきだ
- 2 できるだけ行政が主体となり取り組むべきだ
- 3 「地域住民」「地域で活動する団体」「行政」が一体となり、ともに取り組むべきだ

神戸市には以下のような「市民の意見を行政に届ける仕組み」（一例）があります。

- ・市長への手紙・・・市政に対する、具体的な意見・提言を提出できる広聴事業
- ・対話フォーラム・・・市長と住民が直接対話をする広聴事業
- ・行政職員が参加する地域での懇談会・・・神戸市政懇談会、住民自治会連帯代表者との懇談会など
- ・パブリックコメント・・・政策を立案する過程等で、素案に対し、市民の意見を募集する仕組み
- ・他・・・神戸市ネットモニター、情報共有アプリ「KOBÉポスト（試験運用中）」など

これらの仕組み以外にも・・・署名活動や提案書の提出、インターネット上での運動 など

問9 あなたは、個人や所属する団体等から、行政や社会に対してくらしや福祉に関する提案・意見・要望を伝えることがありますか。ア～エのそれぞれの項目について、あてはまるものを1つずつ選んで番号に○をつけてください。

項目	伝えたことはない	伝えた箱裏、意見が反映された	伝えたが意見は反映されていない
ア 関連部署の窓口などの職員に直接	1	2	3
イ 行政の職員が参加する懇談会・対話フォーラムなどに出席して	1	2	3
ウ 市長への手紙・パブリックコメントなど、書面（インターネット含む）で	1	2	3
エ 署名活動や提案書を提出	1	2	3

問10 地域で活動する団体や、保健福祉サービスを提供する事業者（老人ホーム、障がい者施設、保育所など）に対して期待することは何ですか。ア～ケのそれぞれの項目について、あてはまるものを1つずつ選んで番号に○をつけてください。

項目	おおいに期待している	まあ期待している	期待していない	どちらでもない・わからない
ア 支援が必要な人への生活支援	1	2	3	4
イ 利益や知識の地域コミュニティへの還元	1	2	3	4
ウ 地域住民が行う活動への協力・協働	1	2	3	4
エ 地域住民の雇用など参加の機会の拡大	1	2	3	4
オ 質の高いサービスの提供	1	2	3	4
カ 保健福祉に関する知識や情報の地域への発信	1	2	3	4
キ 施設や設備（例えば体育館や会議室など）の地域への開放	1	2	3	4
ク 地域行事・地域活動への参加	1	2	3	4
ケ 地域での困りごとに積極的に関わること	1	2	3	4

問11 あなたは、定期的(ていじきてき)にどのようなボランティア活動(ぼんたにやりかつどう) (町内会(まちうちかい)などの地域活動(ちいきりかつどう)や、NPO等の
 テーマ型の活動(てまがたがひんがつどう)など)に参加(さんか)していますか。
 ※水害(みづがひ)などの災害(さいがい)が起こった現場(じょうばん)での復旧作業(ふくきゅうさぎょう)等のボランティア(ぼんたにやり)は除(はず)きます。
 ・参加(さんか)されていない方は「1」に○をつけ、問13へ。
 ・参加(さんか)されている方は「2～13」の中で活動(かつどう)内容(ないよう)にあてはまるもの全てに○をつけてください。

- 1 参加(さんか)していない → 問13へ
- 2 高齢者(こうれいしゃ)を対象(たいしょう)とした地域(ちいき)における見守り(みもり)などの福祉活動(ふくしかつどう)
- 3 障がい者(しょうがいしゃ)を対象(たいしょう)とした地域(ちいき)における見守り(みもり)などの福祉活動(ふくしかつどう)
- 4 子どもを対象(たいしょう)とした地域(ちいき)における活動(かつどう) (PTAや保護者(ほごしや)会(かい)等の活動(かつどう)も含む)
- 5 まちづくり全般(ぜんぱん)に関する活動(かつどう) 6 子どもを対象(たいしょう)とした教育活動(きょういくかつどう)
- 7 防災(ぼうさい)や防犯(ぼうはん)に関する活動(かつどう) 8 地域(ちいき)での文化(ぶんか)教養(きょうやう)の講座(こうざ)への参加(さんか)
- 9 健康(けんこう)づくりの活動(かつどう) 10 スポーツ・レクリエーション活動(れきりえーしょんかつどう) 11 環境(かんげい)美化(びか)活動(かつどう)
- 12 当事者(当事者)団体の活動(かつどう) (セルフヘルプグループ等) 13 その他(その他)

問12 【問11で「2～13」を選択(せんたく)された方(かた)におたずねします。】
 ボランティア活動(ぼんたにやりかつどう)の参加(さんか)にあたり、お感じ(おんじ)になっていることは何(なに)ですか、あなたのお考え(かんがえ)に一番(いちばん)近いもの1つに○をつけてください。

- 1 社会(しゃかい)・地域(ちいき)のために役立(やくだち)っていると思う(おもう)ため、続け(つづ)けていきたい
- 2 自分(じぶん)の生活(せいかつ) (自己啓発(じこきふつ)など)に役立(やくだち)っていると思う(おもう)ため、続け(つづ)けていきたい
- 3 体力的(たいりきてき)に負担(たいあん)のため、辞め(や)めたい
- 4 精神的(せいしんてき)に負担(たいあん)のため、辞め(や)めたい
- 5 その他(その他)

問13 【問11で「1.参加(さんか)していない」とお答え(こたえ)された方(かた)におたずねします。】
 どういう条件(じょうけん)を整え(ととの)えばボランティア活動(ぼんたにやりかつどう) (地域活動(ちいきりかつどう))に参加(さんか)されますか、あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 1 時間的(じかんてき)に参加(さんか)可能な内容(ないよう)である
- 2 体力的(たいりきてき)に参加(さんか)可能な内容(ないよう)である
- 3 自分の知識(ちしき)・技能(ぎぎ)が活か(き)せる
- 4 仲間(なかま)といっしょに参加(さんか)できる
- 5 自宅(じたく)から離れた地域(ちいき)での活動(かつどう)である
- 6 活動場所(かつどうばしょ)や内容(ないよう)などの情報(じょうほう)が示(し)されている
- 7 これまでの活動(かつどう)実績(じせき)の評価(ひやう)や参加者(さんかしゃ)からの感想(こうさう)といった情報(じょうほう)が開示(かいし)されている
- 8 自分(じぶん)の生活(せいかつ) (自己啓発(じこきふつ)など)に役立(やくだち)ることができる
- 9 少額(せうがく)でも報酬(ほうしゅう)やポイント還元(ぽんとくわん)などの優遇(ゆうぐ)を受けられる
- 10 活動(かつどう)の種類(しゆるい)や内容(ないよう)などについて研習(けんぎゅう)や講義(こうぎ)により学(まな)ぶ機会(きかい)がある
- 11 職場(じやば)でボランティア(ぼんたにやり)休暇(きゅうか)制度(せいど)が利用(りよう)できる
- 12 今後(こんご)も参加(さんか)するつもりはない
- 13 その他(その他)

福祉(ふくし)施策(じさく)やサービス・相談(さうだん)窓口(まぐち)についておたずねします。

神戸市(かふべ)には以下(いげ)のような「福祉(ふくし)社(しゃ)に関する相談(さうだん)窓口(まぐち)」(一例(いれい))が設置(ていし)されています。
 ・高齢者(こうれいしゃ)に関する相談(さうだん)窓口(まぐち)
 各区役所(くさくやくしよ)保健福祉部(へんきふくしぶ) 健康福祉課(けんこうふくしか) 健康福祉社(けんこうふくししゃ)
 あんしんすこやかセンター (市内14ヶ所、介護(かいご)の相談(さうだん)や保健福祉(へんきふくし)サービスの手続き(てつづき)ができる総合窓口(そうごうさうだんまぐち)等)
 ・障がい者(しょうがいしゃ)に関する相談(さうだん)窓口(まぐち)
 各区役所(くさくやくしよ)保健福祉部(へんきふくしぶ) 健康福祉課(けんこうふくしか) 健康福祉社(けんこうふくししゃ)
 ・障害者(しょうがいしゃ)地域生活(ちいきせいかつ)支援センター (市内14ヶ所、地域(ちいき)で生活(せいかつ)するための相談(さうだん)窓口(まぐち)等)
 ・子育て(こども)に関する相談(さうだん)窓口(まぐち)
 各区役所(くさくやくしよ)保健福祉部(へんきふくしぶ) こども家庭文書課(こどもかていぶんしょか) 家庭福祉社(かていふくししゃ)
 こども家庭センター (市内1ヶ所、こどもの問題(もんだい)に関する相談(さうだん)窓口(まぐち)等)
 ・地域(ちいき)での生活(せいかつ)における身近(みよこ)な相談(さうだん)や語りごと相談(かたりごとさうだん)窓口(まぐち)
 地域福祉センター (概ね小(お)中学校区(ちゅうがっこうがく)に1ヶ所)
 各区社会福祉協議会(くさくしゃかいふくしぎぎかい) ・ 各区(くさく)くらし支援窓口(しえんまぐち) 等

問14 神戸市(かふべ)では、高齢者(こうれいしゃ)や障がい者(しょうがいしゃ)、子育て(こども)など各種(さかづか)の福祉(ふくし)社(しゃ)に関する相談(さうだん)窓口(まぐち)を設置(ていし)していますが、あなたは現在(げんざい)の相談(さうだん)窓口(まぐち)についてどう思いますか。ア～キのそれぞれの項目(こうむく)について、あてはまるものを1つ選んで、番号(ばんごう)に○をつけてください。

項目(こうむく)	そう思う(そうおもう)	やや(やや)	そう思う(そうおもう)	あまり(あまり)	思わない(おもわな)
ア 地域(ちいき)の中で相談(さうだん)できるのは良いことだ	1	2	3	4	
イ どこへ相談(さうだん)に行けばいいかわからない	1	2	3	4	
ウ 気持(きもち)で身近(みよこ)な場所(ばしょ)に相談(さうだん)できる窓口(まぐち)がない	1	2	3	4	
エ 総合的(そうごうてき)な相談(さうだん)できる窓口(まぐち)がない	1	2	3	4	
オ 休日(きゅうじつ)や時間外(じかんがい)に相談(さうだん)できる窓口(まぐち)がない	1	2	3	4	
カ 窓口(まぐち)スタッフと地域(ちいき)住民(じゆうみん)とのコミュニケーション(コミュニケーション)が必要(ひつやく)	1	2	3	4	
キ おおむね満足(まんぞく)している	1	2	3	4	

問15 福祉に関する相談はどこに行きますか。または、どこに行こうと思えますか。あてはまるものを全て選んで、○をつけてください。

- 1 区役所
- 2 市が地域に設置した相談窓口（あんしんすこやかセンターなど）
- 3 医療機関（かかりつけ医や病院スタッフ）
- 4 民生委員や自治会長等の行政と関わりがある地域住民
- 5 NPO・社会福祉法人等
- 6 どこに相談すればいいかわからない
- 7 困りごとがあっても誰にも相談しない
- 8 その他（ ）

問16 福祉に関する情報はどのように入手していますか。主なものに3つまで○をつけてください。

- 1 市からの広報紙（「広報こうべ」）
- 2 地域の指示板や回覧板
- 3 区役所などに置かれているチラシ
- 4 地域福祉センター
- 5 テレビ・ラジオ・新聞など
- 6 医療機関（かかりつけ医や病院スタッフ）
- 7 インターネット
- 8 家族、知人、親戚などからの口コミ
- 9 その他（ ）
- 10 待てない

神戸市には、救急車を呼ぼうか悩んだ時や、緊急できる病院がわからない時などに、24時間365日相談を受け付ける救急相談ダイヤル、救急安心センターこうべ「#7119」があります。

問17 あなたは、救急安心センターこうべ「#7119」を以前からご存知でしたか。ご存知でなかった場合、「1」に○をつけ、問18へ。
ご存知の場合、「2～9」の中でどのように情報を入手されたかあてはまるもの全てに○をつけてください。

- 1 知らなかった → 問18へ
- 2 ポスター
- 3 チラシ
- 4 市からの広報紙（「広報こうべ」）
- 5 市のホームページ
- 6 テレビ・ラジオ・新聞など
- 7 地下鉄・市バスなどの交通広告
- 8 家族、知人、親戚などからの口コミ
- 9 その他（ ）

問18 あなたは、介護サービスが必要な人に供給できるようにするために、行政はどのような対策をすべきだと思いますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

- 1 介護従事者の給与・福利厚生を改善する
- 2 外国人を積極的に雇用する
- 3 介護予防に力を入れ、サービス量を減らす
- 4 わからない
- 5 その他（ ）

問19 介護に関することについて、あなたが現在取り組んでいること、または、今後取り組むたいことはありますか。A～オのそれぞれの項目について、あてはまるものを1つ選んで、番号に○をつけてください

項目	現在取り組んでいる	今後取り組みたい	特に考えていない
A 介護について学ぶ	1	2	3
I 介護現場で働く	1	2	3
U 自身の介護予防	1	2	3
E 近隣の高齢者への声かけ・近所付き合い	1	2	3
オ その他（右の空欄にご記入ください）			

災害時に構えた地域での助け合いについておたずねします。
私たちのまわりには、災害が発生した場合に、安全な場所に避難したり、避難場所での生活において困難が生じて、まわりの人の助けを必要とする方（以下「要援護者」という。）がおられます。

問20 あなたは、平成25年4月に神戸市で制定された条例により、要援護者の支援に取り組む地域団体が、要援護者の個人情報や平常時から入手する際の手続きなどが定められたことをご存知ですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

- 1 内容を知っている
- 2 聞いたことがあるが内容は知らない
- 3 知らない

問21 災害時に地域の方から避難などの支援を受けるため、あなたやあなたのご家族の中に支援が必要なお方がおられた場合、あなたの家族の情報を、以下の団体に提供するのを希望しますか。ア～ウのそれぞれの項目について、あてはまるものを1つずつ選んで、番号に○をつけてください。

項目	希望しない	希望する	わからない
ア 自治会	1	2	3
イ 民生委員・児童委員	1	2	3
ウ (※)防災福祉コミュニティやふれあいのまちづくり協議会	1	2	3

※ 防災福祉コミュニティ、ふれあいのまちづくり協議会とは…地域の自治会や婦人会、老人クラブ、民生委員・児童委員、消防団などにより、備わった校区単位で組織され、地域の防災活動や福祉活動の連携を通じて、日頃から助け合いの精神や絆の見える関係づくりにより、いざという時に支援活動を行う組織。

問23 (※)福祉避難所についてご存知ですか。あてはまるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。

※福祉避難所とは…高齢者や障がい者など、小・中学校などの指定避難所では生活に支障があり、特別な配慮を必要とする人が支援を受けられるように開設する施設として、市が指定した施設。

- 1 どういう時に利用できるか知っているが、自分の住んでいる地域のどこにあるかは知らない
- 2 どういう時に利用できるか知らないが、自分の住んでいる地域のどこにあるのかは知っている
- 3 どういう時に利用できる、自分の住んでいる地域のどこにあるかも知っている
- 4 知らない

人権問題についてお答えください。

日本国憲法は、個人の尊重、生命・自由・幸福追求の権利、法の下の平等などを保障しています。以下でお答えする「人権」はこれらをさしています。

問24 あなたは「人権」をどの程度身近に感じていますか。あなたのお考えに一番近いもの1つに○をつけてください。

- 1 非常に身近に感じる
- 2 少し身近に感じる
- 3 どちらとも言えない
- 4 あまり身近に感じない
- 5 まったく身近に感じない

問25 基本的な人権は尊重することのできない永久の権利として、憲法で保障されています。あなたは、日常生活の中で自分や周囲の人の「人権」が尊重されていると思いますか。ア～イのそれぞれの項目について、あなたのお考えに一番近いもの1つに○をつけてください。

項目	尊重されている	どちらかといえば尊重されている	どちらともいえません	どちらかといえば尊重されていない	尊重されていない
ア 自分の人権	1	2	3	4	5
イ 周囲の人の人権	1	2	3	4	5

問22 災害時に地域で活動する団体又は行政が主体的に担うべきことはどのような項目と考えますか。ア～オのそれぞれの項目について、あてはまるものを1つずつ選んで、番号に○をつけてください。

項目	行政がすべき	どちらかといえば行政がすべき	どちらともいえません	どちらかといえば地域がすべき	地域がすべき
ア 要保護者に対する災害情報の伝達	1	2	3	4	5
イ 要保護者の安否確認	1	2	3	4	5
ウ 要保護者の避難誘導	1	2	3	4	5
エ 要保護者の避難所での生活支援	1	2	3	4	5
オ 要保護者の救援・救護	1	2	3	4	5

問26 人権にかかわる様々な問題のうちで、あなたが特に関心をお持ちのものは何ですか。
あてはまるものに3 つまで○をつけてください。

- 1 女性にかかわる問題
- 2 子どもにかかわる問題
- 3 高齢者にかかわる問題
- 4 障がいのある人にかかわる問題
- 5 同和問題
- 6 日本で暮らす外国人にかかわる問題
- 7 エイズ患者・H I V (エイズ・ウィルス) 感染者・ハンセン病患者・難病患者等にかかわる問題
- 8 インターネットを悪用した人権侵害の問題
- 9 犯罪被害者やその家族にかかわる問題
- 10 性的少数者にかかわる問題
- 11 刑を終えて出所した人にかかわる問題
- 12 アイスの人々にかかわる問題
- 13 ホームレスの人々にかかわる問題
- 14 北朝鮮拉致被害者にかかわる問題
- 15 その他 ()
- 16 特になし

問27 あなたは、自分や周囲の人権が侵害されたときどのようなように対応されましたか。
・侵害されたことがない場合、「1」に○をつけ問28へ。
・侵害されたことがある場合、「2～10」の中でどのように対応されたかあてはまるもの全てに○をつけてください。

- 1 侵害されたことはない → 問28へ
- 2 相手に抗議するなど自分で行動した
- 3 家族や友達、同僚などに相談した
- 4 職場の相談窓口や学校に相談した
- 5 警察に相談した
- 6 弁護士に相談した
- 7 民間団体に相談した
- 8 公的機関(法務局・県・市などの人権相談窓口、人権擁護委員等)に相談した
- 9 その他 ()
- 10 何もなかった(理由:)

問28 人権問題についての理解を深めるために、講演会・研修会・学習会・映画会などが様々な形で開催されていますが、あなたは参加したことがありますか。あてはまるものの1 つに○をつけてください。

- 1 参加したことがある
- 2 開催は知っていたが、参加しなかった
- 3 開催していることを知らなかった

最後に、ご回答を統計的に分析するために、あなたご自身のことについておたずねします。

問29 あなたの性別について、あてはまるものに○をつけてください。回答しなくない場合は、ご記入いただく必要はありません。

- 1 男性
- 2 女性

問30 あなたの年齢をご記入ください(令和元年11月1日現在)。

() 歳

問31 あなたの職業は、次のうちどれにあてはまりますか。あてはまるもの1 つに○をつけてください。

- 1 フルタイム(雇用期限なし)
- 2 フルタイム(雇用期限あり)
- 3 パートタイム/アルバイト
- 4 個人事業主
- 5 家事専業
- 6 学生
- 7 無職
- 8 その他 ()

問32 あなたの生活費の主な収入源は次のうちいずれですか。あてはまるもの1 つに○をつけてください。

- 1 自分の就労収入
- 2 自分以外の家族の就労収入
- 3 自分と家族の就労収入(共働き等)
- 4 自分の年金や手当て
- 5 家族の年金や手当て
- 6 別居の家族・親族等からの仕送り
- 7 生活保護費
- 8 その他 ()

問33 あなたの現在の経済状況は次のうちいずれですか。あてはまるもの1 つに○をつけてください。

- 1 余裕がある
- 2 どちらかといえば余裕がある
- 3 もう少し収入があればいいと感じる
- 4 余裕がなく苦しい

問34 あなたのお住まいは、次のうちどれに当てはまりますか。ア～オのそれぞれの項目について、あてはまるもの1つに○をつけてください。

項目	1	2	3	4	5	6
ア 居住区	1 東灘区	2 灘区	3 中央区	4 兵庫区	5 北区	6 長田区
イ 住居の形態	1 戸建	2 集合住宅	3 福祉施設・医療機関			
ウ 住居の契約状況	1 持ち家	2 賃貸	3 親族宅	4 社宅・寮		
	5 入所・入院	6 その他 ()				
エ 現在の住居に転入された主なきっかけ	1 生まれたときから住んでいる	2 自分や家族の職場・学校の場所	3 自分や家族の病気・怪我・体調の変化	4 結婚や同居の家族の転出・死別等で、家族の人数が増えた	5 結婚・出産や別居であった家族との同居等で、家族の人数が増えた	6 以前の住居の家賃や維持費の支払いが困難・負担となった
オ 現在の住居にくらしている年数	1 5年未満	2 5年～10年ぐらい	3 11年～20年ぐらい	4 21年以上		
	7 料に理由はない	8 その他 ()				

問35 あなたと一緒に住まいは次の人は次のうちどれに当てはまりますか。ア～ウのそれぞれの項目について、あてはまるもの全てに○をつけてください。

項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9
ア あなたと一緒に住まいの人の続柄(義理も含む)	1 配偶者	2 親	3 子	4 孫	5 祖父・祖母	6 きょうだい	7 同居者はいない(単身)	8 その他 ()	
イ あなたと一緒に住まいの人の年齢	1 0歳～小学校就学前	2 小学生～中学生	3 中学卒業後～64歳	4 65歳～74歳	5 75歳以上				
ウ ころろや身体が健康状態が悪い人	1 配偶者	2 親	3 子	4 孫	5 祖父・祖母	6 きょうだい	7 自分自身	8 その他 ()	9 該当なし

問36 あなたは自宅以外にどのような居場所がありますか。
・ない場合「1」に、職場や学校のみの場合「2」に○をつけ、問37へ。
・職場や学校以外にある場合「3～7」の中であてはまるもの全てに○をつけてください。

1 ない	問37へ	2 職場・学校のみ	→問37へ
3 自治会・町内会・老人クラブ・婦人会・こども会・PTA			
4 気の合う仲間のグループ・親しい近隣住民のグループ・趣味・習い事・サークル			
5 学校の同窓会・OB/OG会		6 NPO・市民活動団体・ボランティア活動	
7 地域のスポーツクラブ・スポーツ団体・スポーツジム			
8 利用している福祉施設		9 その他 ()	

問37 あなたの現在のくらしは幸福ですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1 幸福である	2 どちらかと言えば幸福である	3 どちらともいえない
4 どちらかと言えば幸福ではない	5 幸福ではない	

問38 あなたは日頃、社会の一員として、何か社会のために役立ちたいと思っておりますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1 思っている	2 あまり考えていない	3 わからない
---------	-------------	---------

最後に、神戸市に対して、地域福祉や保健福祉に関するご意見やご要望がありましたら、ご自由にお書きください。今後の参考とさせていただきます。

.....

.....

.....

.....

調査にご協力いただき、ありがとうございます。
お手数ですが、調査票は同封の封筒に入れて、切手を貼らずに投函してください。

神戸市 市民福祉に関する行動・意識調査報告書

令和2年2月

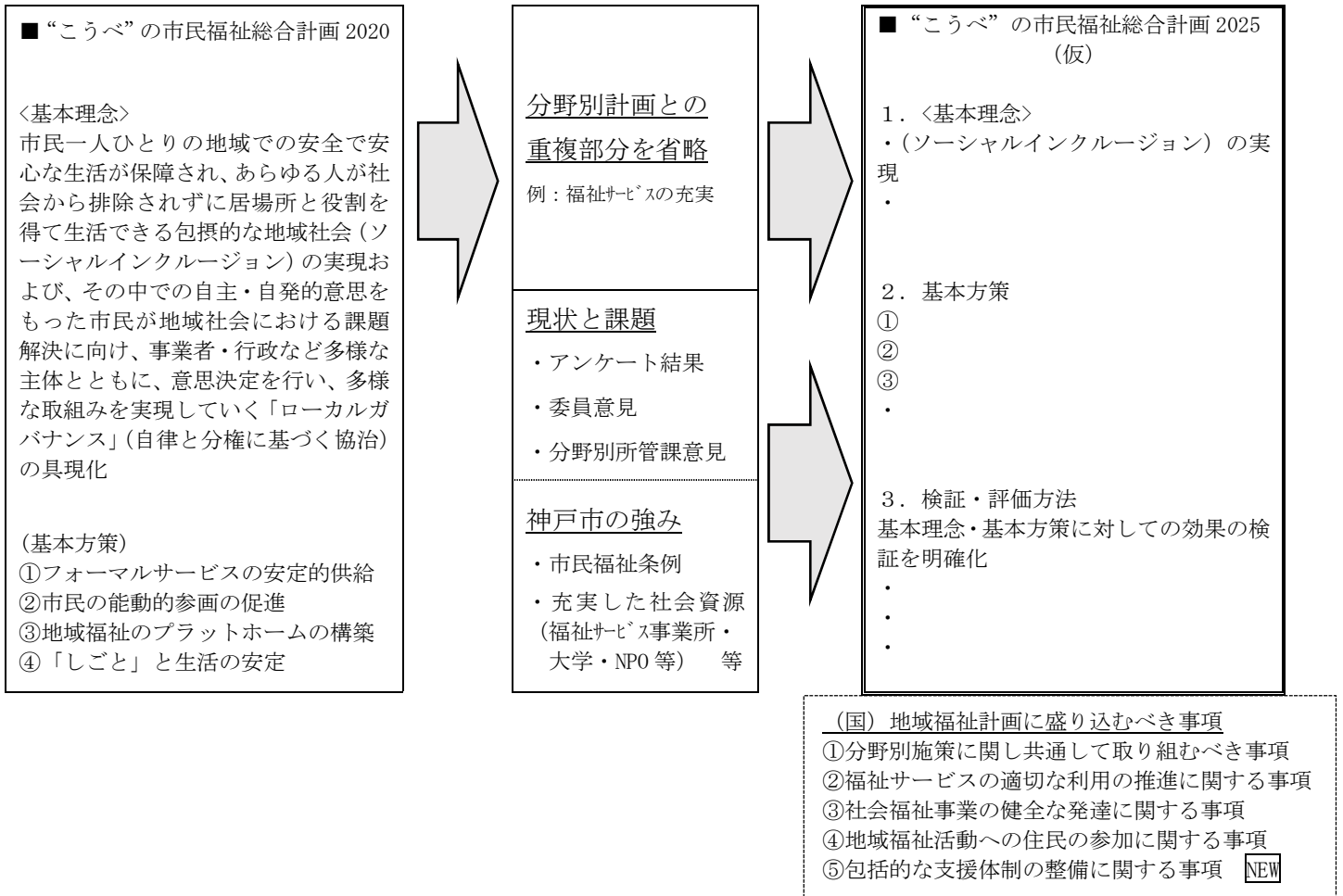
発行 神戸市 保健福祉局 政策課

〒650-8570 神戸市中央区加納町6-5-1

電話番号 : (078) 322-5198

ファックス : (078) 322-5529

“こうべ”の市民福祉総合計画 2025（仮称）骨子作成スキーム（案）



1. 〈基本理念〉の検討

2015 共に支え合う地域福祉を維持・（再）構築することにより、あらゆる人を重層的に包容する社会（ソーシャルインクルージョン）の実現

2020 市民一人ひとりの地域での安全で安心な生活が保障され、あらゆる人が社会から排除されずに居場所と役割を得て生活できる包摂的な地域社会（ソーシャルインクルージョン）の実現と、自主・自発的意思をもった市民が地域社会における課題解決に向け、事業者・行政など多様な主体とともに、意思決定を行い、多様な取組みを実現していく「ローカルガバナンス」（自律と分権に基づく協治）の具現化

2025

第1回WGより

- ・市民への伝わりやすい表現
- ・若者が手に取りたくなるような表現（「持続可能な」取組みの検討）

事務局より

- ・「ソーシャルインクルージョンの実現」の考え方は引き続き基本理念となるか

2. 基本方策（柱建て）の検討

2015

- ①ワンストップサービス機能の充実を中心とする相談対応の総合化
- ②コーディネーターの配置をはじめとする地域の多様な支援者間の連携を支援
- ③コミュニティビジネスの取組支援など地域福祉の今日的課題への対応

2020

- ①フォーマルサービスの安定的供給
- ②市民の能動的参画の促進
- ③地域福祉のプラットフォームの構築
- ④「しごと」と生活の安定

2025

- ①
- ②
- ③
- ・
- ・

第1回 WG より

- ・市民への伝わりやすい表現
- ・福祉サービスが必要な人だけでなく、社会のために役立ちたいが手段がわからず実行できないというような人にも届くものを

事務局より

- ・2020 基本方策④「しごと」については、①～③に溶け込ませてもよいのでは
- ・この基本方策が評価軸にもなっていく

3. 検証・評価方法の検討

2015

各施策・事業所管部局が作成した※検証・評価シートを基に、計画策定・検証会議で評価を実施

2020

※H30 検証・評価シート（一部抜粋）・・・P3-6

2025

事務局より

- ・基本理念や基本方策に対してどのような効果があったか検証する手段（例えば実際の制度利用者数名にヒアリングを行う等）により検証。手段については各課より提案。
- ・計画策定・検証会議では、全項目の評価ではなく、トピックを取り上げ検証・評価を行う。

“こうべ”の市民福祉総合計画 2020 検証・評価シート（平成 30 年度まで）【抜粋】

計画 P28

大項目：1. 市民が安全に安心してくらすための確かな土壌～フォーマルサービスの安定的供給～

中項目：(1) 福祉サービスの充実と包括的な供給

小項目：② 包括的な相談支援体制の整備

所管課：くらし支援課・障害者支援課

ア. 個別目標

◇「くらし支援窓口」や地域福祉ネットワークを中心とした庁内、区役所内、関係機関や民生委員、社会福祉法人、事業者との連携により、切れ目のない相談体制と、様々な福祉課題に対応できる仕組みを構築していく。

◇地域福祉ネットワークは日常的に地域に出向き、地域住民と協働して様々な生活課題を発見し、専門機関へつなぎ、支援に結びつける。

イ. 主な取組みの実施状況

①包括的な相談支援体制の整備

本市では複合的な課題を抱える方への包括的な相談支援体制の構築を、平成 27 年度の生活困窮者自立支援法の施行により各区に設置した「くらし支援窓口」と社会福祉協議会の「地域福祉ネットワーク」を中心に進めている。

(1)くらし支援窓口

生活困窮者自立支援法の施行に伴い、27 年 4 月に各区福祉事務所に「くらし支援窓口」を設置した。生活困窮者からの相談を広く受けるとともに、個別のニーズに応えるため、法に基づいた各種支援を実施している。

	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度
実施状況	—	2,183 件	2,635 件	3,410 件	2,657 件

※生活困窮者自立相談支援の実績（相談案件数）

(2)地域福祉ネットワークの配置によるアウトリーチ機能

23 年度より各区社会福祉協議会に「地域福祉ネットワーク」を順次配置し、27 年度には全区配置が完了した。関係機関間のネットワーク構築に取り組んでおり、具体的には、「認知症高齢者や家族を地域で支えるための仕組みづくり」、「地域住民から排除を求められる方に対する支援」、「ふれあいのまちづくり協議会を単位とした福祉を考える場づくり」、「絆サポーター事業の推進」、「引きこもり中高年の自立に向けた支援」、「ちょっとした困りごとを地域で助け合う仕組みづくり」などに取り組んだ。

28 年度より「くらし支援窓口」のアウトリーチ・地域づくりを専門に担う地域福祉ネットワークを増員し、継続して支援に取り組んだ。

30 年度は、くらし支援窓口と合同の事業推進会議を開催し、連携・協働の強化を図った。

	26 年度	27 年度	28 年度以降
地域福祉ネットワーク配置数	7 人	9 人	20 人

②障害者地域生活支援センターのアウトリーチ機能

障害者地域生活支援センターまで相談に来ることが難しい重度の障がい者に対し、区や関係機関からの情報提供や訪問依頼を受けて、訪問・面接を行い、障害福祉サービスの利用調整など必要な支援を行った。

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
訪問数	10,595件	10,957件	11,531件	11,659件	11,899件

ウ. 関連する事業費

事業名	H30 予算額	H30 決算額
自立相談支援事業	102,376千円	100,397千円
地域福祉ネットワーク事業	147,032千円	156,124千円
障害者地域生活支援センター	426,769千円	420,769千円

エ. 課題（現在取組が進んでいない点、今後必要とされる取組み等を具体的に）

- ・平成27年度の「くらし支援窓口」設置以降、年々相談件数は増えてきていたが、30年度は前年度と比較すると新規件数は減少している。相談内容が複雑化多様化しており、今後、更なる関係機関等との連携が課題となっている。
- ・相談者の状況から、既存の制度では対応できない場合も増えている。地域福祉ネットワークは、制度の狭間にある相談者への支援を行うが、支援の延長にある生きがいづくりを含めた「出口づくり」が必要となっている。
また、本人と会えない、本人の問題意識がない、援助を受け入れるタイミングなど、時間がかかるケースが増えている。
- ・障害者地域生活支援センターでアウトリーチが可能であることを知ってもらうために、広報活動等を行っていく必要がある。

オ. 評価＜所管部局による自己評価＞

A：順調に進んでいる B：概ね順調だが、不十分な点もある C：推進できている部分もあるが不十分な点も多い D：未着手も含め、今後改善が必要である

【総合評価 B】

- ・地域福祉ネットワークが各区において取り組んでいる分野は様々であるが、いずれの取組みも、既存の仕組みでは対応できていない地域課題や制度の狭間・複合的な生活課題を抱える要援護者に対する支援などのニーズを汲み上げ、その課題解決を契機に従来つながっていなかった関係機関のネットワーク化を実現している。また、地域共通の課題について普遍化し情報共有することで、他の地域への波及に努めている。
- ・障害者地域生活支援センターの訪問件数は年々増加している。また、相談者からのニーズに応えられるように訪問だけでなく来所者への面談、電話相談、同行支援等を行っている。

カ. 今後の方向性・新たな取組み

- ・27年4月、各区福祉事務所に「くらし支援窓口」が設置され、生活困窮者からの相談を受けている。28年度からは、地域福祉ネットワークがくらし支援窓口のアウトリーチ機能を担い、両者が協力連携して、地域の生活困窮者に関する支援を行っている。今後も、引き続きくらし支援窓口と地域福祉ネットワークが連携して相談者へ支援を行うことに加え、生活困窮者が身近な地域で活動できる「居場所づくり」「しごとづくり」を推進するなど、相談者の状況や特性に応じた支援の充実を図る。
- ・障害者の重度化・高齢化等が進んでおり、障害者支援センターとも連携して、障害者が地域で安心して生活できる体制を整えていく。

キ. 委員の意見

大項目：2. 市民が地域福祉の主役になるために～市民の能動的参画の促進～

中項目：(3) 市民の活動が定着するための方策

小項目：① ボランティア・NPO団体等への支援と協働の促進

所管課：市民参画推進局市民協働課

ア. 個別目標

- ◇既存の団体等の事業内容が支援を必要としている人々に適切に結びつくよう情報提供などについて工夫していく。
- ◇また、長期間ボランティア活動をされている人の取組みを評価するイベントの充実など、活動が継続できる支援を行っていく。
- ◇NPO等と行政の協働を進めるため、協働の意義や事例周知など庁内研修を充実していく。
- ◇NPO等が提供している良質なサービスがより広がるように、また市民が受けたいと思うサービスをより増やせるように、NPO等と協働による取組みを進める。
- ◇庁内で連携して、NPOを地域団体に紹介する取組みを行う。
- ◇地域団体とNPOとの協働事例の紹介等を行うとともに、地域団体とボランティアの連携を検討していく。
- ◇法人格を持たない草の根的な団体についての実態把握や支援策を検討していく

イ. 主な取組みの実施状況

①「協働と参画」推進助成（旧：パートナーシップ活動助成）

市民が自ら企画・提案し、実施するよりよい地域づくりのための活動及び阪神・淡路大震災の教訓を活かした被災地・被災者支援活動を支援した。

【助成対象活動】

- (1) 一般助成：地域課題を市と協働で解決するための初動期の活動で、かつその目的が複数の区にまたがる活動。
- (2) テーマ別助成：市が提示するテーマに沿って、市と協働で取り組む活動。
- (3) 被災地等支援助成：阪神・淡路大震災の教訓を活かした被災地・被災者支援活動。
- (4) 認定NPO等支援助成：神戸市「協働と参画」推進寄附金（団体支援寄附）対象団体登録要領に基づく登録団体が行う社会課題を解決するための活動。

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
一般助成	11 申請中 4 団体採択	8 申請中 5 団体採択	17 申請中 5 団体採択	6 申請中 3 団体採択	4 申請中 3 団体採択
テーマ別助成	—	7 申請中 5 団体採択	8 申請中 7 団体採択	9 申請中 5 団体採択	3 申請中 3 団体採択
被災地等支援助成	15 申請中 7 団体採択	9 申請中 8 団体採択	9 申請中 7 団体採択	14 申請中 12 団体採択	10 申請中 8 団体採択
認定NPO等支援助成	1 申請中 1 団体採択	申請なし	1 申請中 1 団体採択	2 申請中 2 団体採択	1 申請中 1 団体採択

②NPO法人設立・運営への支援

NPO法人に関する専門的な知識を有している中間支援団体（特定非営利活動法人コミュニティ・サポートセンター神戸、特定非営利活動法人しゃらく）に、法人設立や運営について必要な情報の提供や助言を行う相談窓口の設置、及び説明会の開催を委託し、NPOの設立支援、及び円滑な法人運営

への支援を協働で行った。

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
相談件数 (団体)	642件 (209団体)	463件 (190団体)	308件 (159団体)	454件 (187団体)	530件 (249団体)
説明会 参加者数	4回 53人	5回 75人	4回 73人	4回 82人	4回 83人

(参考) NPO法人設立認証件数

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
認証件数	55件	29件	34件	34件	36件

③メールマガジン「こうべNPOメールマガジン」・face book「神戸市NPO情報」の配信

NPO法人向けのメールマガジンを配信し、市民活動を行う上で役立つ情報の提供を行っている。

また、市内NPOの活動を紹介するfaceboocにて、市民活動に興味のある人々への情報発信を行っている。

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
メールマガジン	—	—	1～16号	17～35号	36～44号

※ 令和元年6/5時点登録者数 492名

○facebook (令和元年6/5時点) フォロワー数 264名

ウ. 関連する事業費

事業名	H30 予算額	H30 決算額
パートナーシップ活動助成	12,130千円	717千円
NPO法人設立・運営相談窓口事業	6,533千円	6,533千円

エ. 課題 (現在取組が進んでいない点、今後必要とされる取組み等を具体的に)

オ. 評価<所管部局による自己評価>

A: 順調に進んでいる B: 概ね順調だが、不十分な点もある C: 推進できている部分もあるが不十分な点も多い D: 未着手も含め、今後改善が必要である

【総合評価 A】

・平成27年度から、「単年度では自立が難しい場合があり、少額でも複数年度助成してほしい」とニーズに対応するため、一般助成について新たに複数年度コースを設け、制度の充実を図った。

カ. 今後の方向性・新たな取組み

・メールマガジン登録者数、facebook フォロワー数をさらに増やしていきたい。

キ. 委員の意見

○「協働と参画」推進助成は、団体への補助が目的ではなく、事業の成果に対する補助であるという原則を確認すべきである。そのため、団体の活動にどのような成果を期待するのかを明確化し、その成果を行政がモニタリングして評価できる仕組みを構築することが重要である。

令和元年度第1回神戸市市民福祉調査委員会
計画策定・検証会議ワーキンググループ議事要旨

1. 日 時 令和2年2月6日（木）午前10時00分～午前11時55分
2. 場 所 神戸市役所1号館8階中会議室
3. 議 題 （1）次期市民福祉総合計画策定に向けて

開 会

座 長 選 任

（西垣委員を座長として選任。）

議 題（1）次期市民福祉総合計画策定に向けて

（事務局より資料2・3の説明）

○計画策定の進め方について

（委員）

- ・実質このワーキングで出た意見を計画策定・検証会議にあげていくことになる。
- ・現計画策定のときは各課所管の分野別計画について担当者から説明いただいたが今回はどうするか。

（委員）

- ・各施策の強みと弱みについてはしっかり把握しておきたい。
- ・他都市との比較なども含めた神戸市の現状なども把握しておきたい。
- ・市民福祉総合計画の目指しているものに対して、この3年間の成果も把握したい。

（委員）

- ・検証シートは作成されていたが、あれだけでは理解できない。
- ・各計画や各施策の成果と課題について教えていただく機会があればいい。

○アンケート調査について

（委員）

・垂水区でも、ほっとかへんネットで地域アンケートを実施しており、500件ほど返ってくる。そこでもやはり不安感（特に単身高齢者など）は高い傾向の結果が出るので、市民アンケートもどのような結果になるか楽しみである。

（委員）

・過去の反省として、アンケート結果の反映が十分にできていなかったことが挙がる。市民が回答しているアンケートなので、これを基礎とした計画ができれば、市民にも納得してもらえ、次のアンケート

の回答率の向上にもつながるので、結果の分析はしっかりと行いたい。

○計画の広報について

(委員)

- ・この計画をどうやって広めるかが大事。
- ・現計画の基本理念にもある「ローカルガバナンスの具現化」がどこまで浸透しているかという点、微妙なところ。ことば自体がわかりにくいことも原因がある。
- ・計画書に難しい言葉を出すのはいいが、市民への伝え方を考えたい。それが神戸に住むきっかけになるような。ぜひアイデアを出していただければ。
- ・「支援」と使うとどうしても困っている人のための計画に見える。誰をもを含む計画であることを伝えたい。

(委員)

- ・基本理念をすべての市民に届けるためには、解釈を共有することが大事。
- ・「地域ってなに」と考えたときに、ひとりひとりの「生活の場」であり「活躍できる場」であることを伝えるためには、やはり言葉を変えていく必要がある。
- ・市民福祉総合計画は「市民」「事業者」「行政」をつなげる計画。つなぐためには誰もが理解できる言葉に変えていく必要がある。
- ・「参画」とか「協働」を考えると、みんなが自分たちに関係するものなのだと思うものに。

(委員)

- ・どうしても、メリットがないと当事者意識はもちづらい。
- ・計画の中身について、凸凹の凹を支える視点は記載しているが、それだけではすべての人の目はむかない。凸の部分強調して「誇らしくなれる計画」にすることで、みんなに伝わる。そうするとみんながつながる。
- ・若者は「自分になにかできないか」と思っているものだが、方法がわからない。そこで、SDGsなどが、若者を引き寄せるパワーワードとなる。
- ・企業を巻き込むことも重要。企業もなにかしたがるがやり方がわかっていない。わかっていないから児童養護施設にはケーキが集まる。そうではなく、施設退所後の就職先の方が必要であることを伝える必要がある。
- ・それらを伝えることで、みんなの計画となる。

(委員)

- ・厚生労働省白書については、割と優しい感じがでていいる。前半がその年のテーマ、後半が定例的なものに加えてコラム。そういう載せ方もありだと思う。

(委員)

- ・この計画の視聴率を上げたい。人口150万人のうちどれだけがみているか。

- ・例えば概要版なんかはもっとポップに作ってもよい。
- ・計画の HP の閲覧数がわかれば（視聴率がわかる）周知度を PDCA でチェックできる。

○次期計画策定に向けての意見について

（委員）

- ・現計画同様に、「ソーシャルインクルージョン」はやはり外せない。
- ・根底の市民福祉条例については、先駆けて「市民意識」に着目し、「神戸に住んでよかった」というまちづくりを、神戸市民みんなでやっという動機付けとなる条例。法令上の「地域福祉計画」とは少し異なる点もある。それは、市民としての意識をどれだけ作れるかということ。長短関係なく、神戸市に住んでいる人が、「神戸に住んでよかった」と思える大切な計画になることを忘れず策定したい。

（委員）

- ・「市民福祉」とはなんだと考えたときに、やはりシンプルに「神戸に行きたくなる」「神戸で生活したくなる」と思える人が増えたら「市民福祉が充実している」ということになる。一方で、財政にも限りがあることを考えると、やはり市民が当事者意識をもって、どう生きやすくしていくかを考えられるようになることが、次期計画期間（2025年まで）の目標に挙げる必要がある。
- ・さらに、これから考えていかなければならないのは、テクノロジーがこれだけ進んでいる現代なので、市としても活用していく方向性が示せばいい。

（委員）

- ・他都市の地域福祉計画の策定状況を調べると、やはりどの地域も人口減少が課題であり、その中で地域福祉を推進していくうえでは、プレイヤーをどうするかが議題となる。地域福祉計画とは、すべての市民が参画できる計画であり、すべての市民が参画するためにはどうするかを考えねばならない。
- ・社協の活動計画と市の総合計画と連動していくなれば共通の言語化をしていく作業に各都市関心を寄せている。たとえばSDGsをどう盛り込んで、どうやってプレイヤーを増やしていくのかということが議論されている。神戸市は、市民福祉条例の文言でそれを実施できるのではないか。例えば介護保険事業計画などは、どちらかというと専門家向けの計画であり、それを翻訳するものが地域福祉計画になるかと感じている。

（委員）

- ・人口の増減をみると、20代前半が増えているのは、大学生の転入のしてくることも当然あるが、他にも外国人を受け入れる体制が進んでいるからでもあると思う。
- ・「外国人のための福祉」というよりは、「神戸市民の福祉のために、外国人とどう共生していくか」が重要になる。

（委員）

- ・普段ひきこもりや発達障害のかたと接していると、特に本人が若年であるほど、家族が疲弊している。
- ・発達障害児の親などは近所の人に話せなかったり。そういった話ができる場が近所であればいい。

- ・「ひとりじゃないんだな」と感じてもらえるようアプローチを考えたい。

(委員)

- ・学生支援をしてもいろいろな問題がみえる。
- ・これまでは学生＝健康な人の前提で接していたが、大学に来なくなる学生の背景は、やはり家族の問題が多いことがわかってきた。さらに、どの支援機関にもつながっていない人が多い。
- ・家族のひとりがひきこもりで他の家族が支えているような状態。また、家族もそのことをあきらめている。死ぬまでこれでいくしか仕方ないと思っている。
- ・支援機関へのアクセス方法が伝わっていないということである。計画の課題はどう必要なひとにどうアクセスするかを伝えること。
- ・公衆衛生で予防の観点に置き換えてみると、一次予防が教育啓発、二次予防が早期発見・対応（公衆衛生でいうと治療）、三次予防が社会復帰もしくは現状維持。そう考えると整理しやすいと思う。
- ・特に三次予防（＝悪化させないこと）にポイントを置く。
- ・個別対応でどこにもつながらず終わっていたら意味がないため、それらを集約して二次予防（早期発見）につなぐことが必要。さらに一次予防を行い、これからそうなる人に向けて発信していくことも必要。
- ・認知症「神戸モデル」はうまく市民に伝えられたから、二次予防（早期発見）につながっている。次は一次予防（認知症にならないように予防しようという意識啓発）という風が変わっていく。
- ・これを福祉課題に広げて整理していければいいのではないか。アンケート結果をみて重点を置くところを決めて。

(事務局)

- ・市民福祉総合計画を一次予防にしつつ、視聴率を上げる視点を加えると、成功した施策（認知症「神戸モデル」）をなぜ成功したのか最初に読み物として加え、この観点で福祉施策を見直すところなるという書き方もありかと思う。

(委員)

- ・失敗例も出せばいい。

(委員)

- ・特に社会保障分野というのは予算が莫大となっていく中で、予算を抑えるために、質を下げるのではなく、「早期発見」に取り組むべきかと思う。
- ・認知症「神戸モデル」についても、財政上どう効果があるのか出ればわかりやすい。
- ・長期視点・短期視点どちらかも効果をみるのが大事。

(事務局)

- ・だれも病気になりたくないし、不幸になりたくない、ひとりぼっちになりたくないはず。でもずるずる放置しているとそうになってしまう。
- ・おっしゃるように本来社会保障施策というのは長期視点をもって効果を考えなければならない。

(委員)

- ・高齢者の医療受診状況には格差があり、お金のある人は不安になった段階で受診するが、お金のない人は医療と食費が節約の対象となる。そして重症になってから受診し、結局多額の医療費がかかる。この格差をせばめていくのが大事。
- ・定期受診は一回あたりの負担は安い積み重ねとなる。重症になってからの高度医療は一回あたり多額の医療費となる。社会保障費を抑えるというよりは、高度医療費がかかる期間(=その人にとって大変な時期)を短くするための取り組みを考えることが大事。
- ・神戸市の要介護等認定者のうち、要支援者が多いのは誇れることだと私は思う。要介護5を減らすというよりは、要介護5の期間(=大変な期間)をせばめることが大事。その点で、要支援者が多いことは、そこで維持できていると考える。

(委員)

- ・そもそも私が活動を始めた当初、精神障害の方で、40～50歳代の生活保護の方が多かった。彼らの背景を探ると、大学に行って、あわない仕事について、ストレスで精神障害となり、生活保護となるとうパターンが多い。
- ・彼らと大学時代に会えていれば、精神障害や生活保護にならなかったのではと感じ、今活動に取り組んでいる。
- ・大変な状態でスタートになると、支援者の労力も何倍にもなる。そういった点で、長期的な視点を持ち活動に取り組むと必ずプラスになる。
- ・神戸市の10年後をよくするために、取り組むということが大事。愛がある計画を。

(事務局)

- ・早期予防の視点についてだが、福祉になるとどうしても短期視点になりがち。
- ・保健の領域の、例えば糖尿病にならないようにすれば、莫大な透析の医療費おさえられると同じ理論で、福祉の分野でもアプローチできれば。
- ・要支援者の割合が多いのも、長期的なビジョンでみると、いいところであると打ち出せばいい。

(委員)

- ・経済効果は大事。仮説を立ててやっていくのもあり。

(事務局)

- ・要支援の多さについては、市民福祉や地域福祉を支えるパーツのひとつとして考える。
- ・どうしても福祉=マイノリティに目を向けがち、財政も目の前の困っている人に充てがちで、それまでは自助で頑張れとなってしまいがち。

(委員)

- ・今までも福祉の力点が置かれてきたのは、目の前の困っている人を助けることにおかれている。もちろん大切なことだが、そこから何をどうするのがなかなかできていなかった。

・なぜ困ったかをしっかりと把握することで、一番大きな原因のところにアプローチできるようになって、計画も動いていければいいと思う。

・認知症対策についてもまさにそうで、ヘルパー事業所がどんどん増えることを目標にするのではなく、早くわかれば（認知症を）遅らせることができるという仮説のもと、「神戸モデル」が取り組んでいる。

（委員）

・今回、バックデータの人口状況を資料につけたが、他にも必要なデータがあれば。

（委員）

・国民健康保険料をだれが支払っているのかを知りたい。仮説としてはひきこもりの人のうち8－9割が親に払ってもらっているのではないか。

・また、ひきこもるタイミングは20代が多いと感じる。特に大学を休学してそのままのパターン。退学してからの後追いがどこもできていない。関学なんかは進路不明者をなくしていきたいと考えている。

・進路不明を後追いする仕組みがあれば、一次予防、二次予防につながっていく。いずれ生活保護になる可能性も高いことを考えると、履歴書に空白が増えていく前に働けるように支援したい。

（委員）

・国の調査ではH26の時点で3.6%退学者がいるという数字で出ている。そのうちのほとんどが早い段階で進路不明者となっている。

・神戸の大学の定員から考えると、何千人規模で退学者がいることになる。そんな人数がいるのに、何も手立てできていないのが現状。市としてそこになにかしていくことが必要。

（委員）

・企業は若者を欲している。そのミスマッチをどうにかしたい。

（委員）

・神戸の大学生は卒業後、神戸に定着しないことが数字として如実に出ている。

・しかし彼らの進路を把握することが極めて難しい。大学ですら把握できていない。個別にアプローチするしかないが、難しい。

（委員）

・企業と学生、1：1ではなかなか難しいだろう。マッチングする人がいれば。

（委員）

・私の大学でもマニュアルを作成し、教員に配布。学生が3回休んだら連絡することとした。それでもアプローチできない場合は学生の未来センターへつないでもらい、センターから親御さんへ連絡する。

・これがうまくいけば実態把握まではできるのではと思っている。くらし支援課にも協力してもらっているが、関係機関につないでいければ、ほっとかない仕組みはつくれるかと思う。まだ成果は出せていな

いが、退学者を丁寧にフォローしていけるかと思う。

- ・小さい私立大学は退学者も多い。協力して発信していきたい。
- ・それが、若者を大事にする神戸としてのアピールポイントになればいい。

(委員)

- ・人口が増えていくことにもつながる。それこそ先行投資になるが。

(事務局)

- ・分野別計画について、個人意見だが、高齢者福祉領域において、地域包括支援センターの強さ（中学校区に1つ）があまり市民に共有されていない。神戸のよさとして認識されていない。
- ・障害福祉領域においても、B型事業所が多いとかの良さは計画に載っていない。
- ・個別計画の強み弱みを総合計画で見えるようにしていくことが必要。

(委員)

- ・企業も自社の強みを知らない社員が多い。
- ・良さというのはやはり外部比較をしないとなかなか気づけない。「あたりまえ」になっている為。
- ・例えばわたしも、神戸市はハローワークもよく動いてくれていることを、他府県の人と話して気づいたことがある。
- ・つまり、市民が誇らしく思えるようにするには他都市比較が必要かもしれない。どうしても悪いところに目がいくので。

(委員)

- ・意識の部分の話になるが、障害者手帳取得が増えているというのは、一定の意識の浸透によることが大きいという解釈がある。つまり表現の仕方だと思う。
- ・要支援者が多いのも早い段階でアプローチできているという説明の仕方ができる。

(委員)

- ・やはり見せ方を考えたときに、神戸市の強みを記載すると、どんどんブラッシュアップされていく。

(委員)

- ・分野ごとに凸凹が見えるような感じ。
- ・次期計画も、神戸市のということがよくて、維持を目指すなどであれば打ち出しやすい。

(委員)

- ・レーダーチャートとか画像のほうがわかりやすい。
- ・神戸市はここが強みだと打ち出す。そうすれば住みたくなるまちにもつながる。

閉 会

令和元年度 福祉政策会議

～市民福祉のインフラストラクチャーの再構築に向けて～

1. 長期的人口動態の変化に基づいたまちづくりの視点
 - ・コンパクトシティ
 - ・地域参画の促進など
2. ソーシャル・キャピタルの強化
 - ・市民への社会教育
 - ・市民福祉施策への参画促進
3. SDGs への貢献と PPP (Public Private Partnership) の促進
 - ・民間資金の活用も含めた産学官民の連携
4. 全人口、全年齢へのアプローチ
 - ・高齢者にも子供にもやさしいまちづくり (Age friendly city)
 - ・社会的弱者の包摂
5. Monitoring and evaluation
 - ・施策の評価基準の設定とそれに基づく情報収集
 - ・定期的評価とそれに基づく改善の実施
6. 施策の可視化 (みえる化) と科学的根拠に基づく施策立案
 - ・背景の分析など、科学的根拠に基づく施策立案
7. 市民やその他の関係者のかかわり方の多様化
 - ・共働き世帯など、個人の状況に合わせたかかわり方
8. 経済等の長期的発展の戦略を福祉の施策の長期戦略にも反映
 - ・将来世代に残せる「持続可能な」取組みの検討